Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

マイクロフィルム版

国立国会図書館所蔵

明治期翻訳文学書全集　目録（Ⅰ）

——明治5年～明治38年

ナダ書房

収録書目録

凡例

一、明治五年から明治三十八年までに刊行された国立国会図書館所蔵の翻訳文学書を、イギリス文学・アメリカ文学・フランス文学・ドイツ文学・ロシア文学・その他に分類する。第一期はイギリス文学編とする。

二、本全集に収録する作品は、小説を中心とするが、戯曲・詩・評論等も含めた。ただし、明治二十年代に多く刊行された探偵小説類の収録は一部にとどめた。黒岩涙香、丸亭素人、採菊散人、不知火、一二三子の訳本の多くは省いた。

三、国会図書館に未所蔵のものも、その書誌を掲げ、閲覧可能な所蔵先を示しておいた。

四、収録書の配列は、刊行年代順とした。

五、書誌事項中〈　〉内の引用は原則として、本文の冒頭をもってした。(引用文中、変体仮名は現代表記に改め、ルビは大半省略した。)末尾の記号は上が国会図書館請求番号、下がマイクロフィルム版の収録リール並びに齣番号である。番号の下に(左)とあるは、左開きの本であることを示す。

六、索引は、翻訳者索引、出版人・発行人索引、原著者及び原著索引の三種を付し、書誌を補うものとした。

【明治5年】

① **魯敏孫全傳**　巻之一　嶇嵧須著　斎藤了庵訳　高田義甫校　（春題辞）鉄線書屋蔵版（東京　香芸堂発兌）

乾坤二冊　木版和装23㎝　題辞4＋緒言3＋和蘭訳者自序2＋31丁、坤24丁

＜我祖父ノ名ヲ魯敏孫（ロビンソン）ト云、其名ヲ以テ氏トス、我／先考、貴家ノ胄（スエ）ナレトモ、本此土ノ人ニ非ス＞

見返し標題に角書「英国」あり　特55-614　R1-143（リール－コマナンバー）

【明治8年】

② **開巻驚奇暴夜（あらびや）物語**　永峰秀樹訳　㈠二月、㈡五月官許）　東京　山城屋政吉（奎章閣）発兌

二冊　木版和装23㎝　40丁、㈡46丁　銅板画4葉

＜昔シ佐々爾安（サッサニアン）ノ朝ニ一人ノ英主アリ此帝生レ／ナガラ智仁勇ヲ兼備シ＞

次編近刻とあり　特40-143　R1-70 116

③ **通俗伊蘇普物語**　無盡蔵書斎主人訳述　（一一月版権免許）東京　渡辺温蔵版

六冊　木版和装　序・口絵・肖像4＋小伝・例言4＋目録3＋32丁、㈡目録2＋27丁、㈢目録3＋39丁、㈣目録2＋27丁、㈤目録2＋29丁、㈥目録2＋28丁　篁村・暁斎挿絵

＜或日孤葡萄園にはいり。赤く熟せし葡萄の高き架より披飜（すずなり）に／さがりたるを見て。是は甘さうじゃと。鼓舌をして賞揚て。幾度と／なく躍上り踊上りたれどもとどかず＞　特40-137　R1-168 214 247 292 326 360

【明治9年】

④ **漢訳伊蘇普譚**　阿部弘国訓点　（一〇月）東京　青山清吉出版（香港英華書院原刻）

木版和装23㎝　序2＋伊蘇普小伝1＋目次2＋30丁

〈盤古ノ初メ鳥獣皆ナ能ク言フ、一日豺興レ羊同シテ澗ヲ飲ム水ヲ、豺欲ス害セント二／其羊一ヲ〉　4－157　R 1－393

【明治10年】

⑤ **回世美談**　デホー著　山田正隆訳述・出版（十一月板権免許、㈡一一年一月、㈢一一年三月、㈣一〇年一一月板権免許）
四冊　活版和装16cm・19cm　凡例1＋8丁、㈡11丁、㈢6丁、㈣5丁
〈鉄士ノ思能ク金石ヲ透スト宜ナル哉玆ニ英国貴族ノ一子ナル「ロビンソン、狗兒僧」ト〉　特43－819　R 1－434 446 460 470
凡例にて六〇冊予告。㈡は杏華園刊行

【明治11年】

⑥ **龍動新繁昌記**　ジョン・マレイ著　丹羽純一郎訳述　服部誠一校閲　（四月）東京　高橋源吾郎出版
二冊　木版和装　序（服部）5＋目次1＋図1＋42丁、㈡目次1＋図1葉＋44丁
〈国ノ本ハ民ニ在リ民ニアツテ而シテ後チ国始メ／テ立チ政始メテ行ハル〉　特70－79　R 1－479 534
題箋に角書「英国」あり

⑦ **欧洲奇事 花柳春話**　リトン著　丹羽純一郎訳　服部誠一校閲　（一〇月、㈣一二年一月、附録四月）高橋源吾郎出版
五冊　15cm　題言4＋目録3＋92P、㈡目録3＋138P、㈢目録4＋130P、㈣目録4＋111P、附録緒言2＋目録3＋77P　特13－594　R 2－1 61 145 226 299
〈爰ニ説キ起ス話柄ハ市井ヲ距ルコト凡ソ四里許ニシテ一ツ／ノ荒原アリ〉

【明治12年】

⑧ **欧洲奇話 奇想春史**　リトン著　丹羽純一郎訳　服部誠一校閲　（六月、㈢一三年三月）高橋源吾郎出版
三冊　18cm　凡例4＋目録3＋116P　㈡欠　㈢目録2＋116P＋跋語（リトン）3P　挿画12葉

〈盆伯(ボンベイ)ノ地、山水明娟、地トシテ遊ブ可カラザルナク花舞柳歌、日トシテ酔フ可カラサルナシ〉
破損のため、初編の一部を国立国語研究所本にて補充。　特22-346　R2-462 543

⑨
西洋列女伝　スターリング著　宮崎嘉国訳　片山淳吉閲　(一一月)東京　石川治兵衛(錦森堂)出版
上下二冊　木版和装22cm　緒言・目録4＋口絵(銅版)1＋47丁、(下)目録2＋46丁
〈夫れ天の人を降すや、必ず之に賦するに父母／を愛敬するの心を以てせざるハなし〉
見返しに角書「婦女必読」あり　特32-5　R2-354 410

【明治13年】

⑩
春風情話　スコット著　橘顕三(坪内逍遙)訳述　(四月)東京　中島精一出版　〈未所蔵〉
早稲田大学演劇博物館所蔵本を雄松堂にて昭和五三年復刻。明治文化全集第二十二巻に翻刻。
〈聞道、往昔「蘇格蘭」州の東、「魯西安」の山陰なる、要衝の地に、「烏林(レベンスウード)」と云ふ一箇の堅城あり〉　早稲田大学演劇博物館所蔵

⑪
絵本鷲璈嚇児回島記(ガリバルスしまめぐり)　初編巻之一　小人国之部　斯維弗的著　片山平三郎口訳　九岐晰筆記　(八月)東京　稲田佐吉(薔薇樓)出版
18cm　題詞2P＋口絵(彩色)一葉＋序7＋凡例6＋223P
〈小生の父はノッチンハムといふ土地に僅かの家屋宅地を有てる者に／て五個の男子あり〉
広告に「第二大人国之部」の予告あり　33-17　R3-1

⑫
開巻驚奇龍動奇談(ロンドンキダン)　リットン著　井上勤訳述　(一一月)徳島　世渡谷丈吉出版(大阪　前川善兵衛発行)
18cm　序(井上不鳴)2＋169P
〈玆ニ説起ス一場ノ怪談アリ余(ワレ)ニ一人ノ親シキ／竹馬ノ友アリケルガ頗ル博学多識ニシテ就中／理論ノ学ニ通ジ平生ニ天地間ノ理ヲ説クコト／詳ラカナレバ〉　35-155　R3-143

【明治14年】

⑬ **沿革奇談 英艸紙**（はなぶさそうし） マーセット編　中尾氏就訳述・出版　永坂秀親校正　（三月）東京　丸屋善七発兌
18cm　自序2＋例言1＋目録2＋67P　特20-341　R3-234
〈玆に英吉利国ロンドン府の傍に「ソヒイ」と云へる幼き娘あ／り〉

⑭ **情供証拠誤判録** フィリップス著　高橋健三訳　（八月）司法省蔵版
17cm　例言2＋目次3＋叙言84＋222P　21-181イ　R3-460
〈距今凡ソ百年前仏蘭西ノ首府巴倫セインド、ミカエル街ノ近傍ニ住シ／テ商廛ヲ設ケシ老嫗アリケルカ曾テヨリ幾多ノ金円ヲ貯蓄シ頗ル富豪ノ聞ヘアリ〉

⑮ **天路歴程意訳** 〔バニヤン著〕　佐藤喜峰訳　（八月）東京　中田道之助出版
木版和装23cm　題辞（小川義綏、中村敬宇）4＋序1＋173丁　7-80　R3-276
〈我此世の曠野を行不計一ツの穴あるところにいたり其処に偃臥て／睡りしかバ一ツの夢をみたり〉　一二年一一月初版。村上俊吉訳の加筆本。

【明治15年】

⑯ **西洋夫妻事情** ヂッキンス著　加勢鶴太郎訳　（五月）東京　兎屋誠出版
17cm　38P　（目次——相惚夫妻、懶惰夫妻、野合夫妻、貧乏夫妻、いさかひ夫婦）　23-137　R4-1
〈世に相惚の夫婦といふものあり是ハいかなるものぞといハんに相惚とハ此名の如く夫／ハ其妻を愛し婦は其夫を敬して互に愛恋するの意なり〉

⑰ **印度顚覆史** 上巻　マコーレー著　山田良作訳・出板　（五月板権免許）博聞社蔵版
20cm　序（小幡篤次郎）2＋訳者序14＋地図1枚＋凡例1＋118P＋誤植訂正2P　明治新聞雑誌文庫所蔵
〈余今グレーグ氏編纂ノヘスチングス伝記ヲ得テ其ノ人物ヲ批評スルニ当り〉

【明治16年】

⑱ **通俗泰西自来也** （原名ポール、クリッフールド） リットン著 （七月）東京 鈴木徳輔編輯・出版
23cm 凡例1＋10丁 尾形月耕挿絵
〈水ハ方円の器に従ひ、人ハ善悪の友に由ると、昔の人の云／ひけんも、亦強ちに、誣ひがたかるハ、爰に説く、一條の長譚／を見ても、知るに足らん〉
広告に「第二巻近刻」とあり
特67-414 R4-63

⑲ **西洋珍説 人肉質入裁判** 西基斯比耶著 井上勤訳述 （一〇月）東京 長島永豊出版
18cm 76P 芳宗挿絵
〈話説す伊太利亜国の「ベニス」といへる所に其名を「サイロク」／と呼る高利の金貸あり〉
本書の異版多く一九年八月高橋種(鶴鳴堂)翻刻版の序に「此書の原版者版権を所有せざるより人々競ふて之を翻刻する既に数次に及べり」とあり。
31-281 R4-423

⑳ **英国魯敏孫島物語** 嶇嶁須著 斎藤了庵訳 高田義甫校 （一〇月）東京 川越屋松次郎出板
木版和装23cm 題辞1＋和蘭訳者自叙2＋31丁＋24丁
①魯敏孫全伝の改題本
特40-140 未収録

㉑ **通俗花柳春話** 牢度李敦著 織田純一郎訳述 （一一月、㈣一七年九月）東京 阪上半七出版
四冊19cm 叙4＋目録3＋龍動略説1＋挿図2＋人名1＋136P、㈡目録3＋緒言(藤西真之)1＋挿図2＋人名1＋142P、㈢目録3＋緒言・挿図・人名4＋158P、㈣目録4＋190P
〈都なす街巷を距ること四里許り最と広漠なる荒野あり〉
特13-623 R4-75 154 233 321

㉒ **絶世奇談 魯敏孫漂流記** ヅーフヲー著 井上勤訳 坂部訓正校訂 （一二月序）神戸 長尾景弼(長尾商店)出版(博聞社蔵版)

20㎝　正誤1葉＋序(依田百川)10＋382P＋漂流記著者ノ伝28P＋挿図14葉
〈予ハ紀元一千六百三十二年ヲ以テ英吉利国ヨーク府ニ生レタリ然レド元ト／本国ノ人種ニハアラズ〉
特70-521　R5-1

【明治17年】

㉓
泰西活劇 **春窓綺話**　服部誠一纂述　出版　(一月)東京　阪上半七発兌
二冊18㎝　自序3＋口絵2＋目次2(乱丁)＋230P、(下)目次2＋284P　村田良知挿絵
〈世人ヨ世人ハ淡靄山ヲ罩メテ翠黛笑フガ如ク軽風水ヲ払／テ緑波媚ビント欲シ〉
原訳者は高田早苗、坪内逍遙、天野為之(柳田泉による)
特13-576　R5-334 458

㉔
一滴千金 **憂世の涕涙**　エドワードキング著　宮崎夢柳演義　(三月出版御届)神奈川県府中　渡辺壽彦(成文舎)編輯・出版
三冊　活版和装23㎝　はしがき2＋21丁、(二)21丁、(三)29丁
〈此処ハ仏蘭西伊太利の。中に挟まる瑞西国。インターレークンと呼び倣せる。〉　特40-139　R5-231 268 302

㉕
政党余談 **春鶯囀**　ビーコンスフキールド著　関直彦訳述　福地桜癡閲　(三月、(二)四月、(三)六月、(四)九月)東京　関直彦(橘村書屋)・阪上半七出版　村田良知挿画
四冊18㎝　自序5＋ジスレイリ略伝10＋凡例2＋題画4＋目録3＋259P、(二)序1＋画4＋目録4＋235P、(三)序1＋人名1＋画4＋目録5＋243P、(四)序2＋画2＋目録3＋250P、挿画7葉
〈今ハ早や十二年の昔となりぬ五月雨の天晴渡る朝の間の／程になん聖ゼイムスの傍なる兎ある邸の待客室に誘ハれ／つゝ約ある人の今や出で来んと待居たる一個の少年あり〉　特13-608　R6-1 149 277 415

㉖
該撒奇談 **自由太刀余波鋭鋒**(じゆうのたちなごりのきれあじ)　沙比阿著　坪内雄蔵訳・出版　(五月)東京・東洋館書店発兌
19㎝　題言(小野梓)3＋塞撒奇談序(依田百川)6＋附言2＋目次2＋304P＋題該撒奇談3P　挿

画（渡辺省亭）7葉
〈政、自由なれば、国民和し、国民和すれば国治る、一人国を私し／て、文を舞し、権を弄する時んバ、国立地に乱るてふ〉
特13-579 R7-1

【明治18年】

㉗ 開巻悲憤 慨世士伝（初編） リットン著 坪内雄蔵翻訳 （二月）東京 成島国任・間野秀俊（晩青堂）出版
19cm 叙（山田奠南）4＋はしがき19＋目次3＋379P
〈徒にすぎし往古ぞ忍バるゝ。羅馬ハ都の名のみにて。隊姿河／ハ今も尚。溶々として舊のごとく。都城に沿ふて流るれども。往て還らぬ河水の。世の盛衰の不可思議なる〉
広告に「開巻悲憤 慨世士伝 一名莉園自偉業伝 下巻近刻」とあり。
24-8 R7-181

㉘ 印度征略史 原名クライブ公伝 マコーレー著 末広重恭訳述 （九月）東京 石川貴知（桃林堂）・加藤鎮吉（開新堂）・亀井忠一（三省堂）・大平俊章（日進堂）出版
18cm 186P（9～14、17～24、31～38、59～102P欠）
〈嗚呼東洋印度ニ於テ一大帝国ヲ開キタルハ何人ゾ〉
特20-309 R7-398

㉙ 英国名士 回天綺談 加藤政之助纂訳補述・出版 （一〇月）大阪 岡島真七発兌
二冊18cm 序（藤田鳴鶴、尾崎行雄、箕浦勝人）10＋自序6＋目録4＋ジョン王肖像一枚＋154＋大法典41P、（後）序（栗本鋤雲、矢野文雄）9＋目録4＋212P＋批辞（狷堂野史）2＋書回天綺談後（思軒埜客）4P 石版挿画10葉（広告では12葉）
〈方今領地ハ五大洲中に蔓延して管内日輪の没する時なく政治風俗善／を尽し美を尽し学術工芸百般の事、精を極め妙を極めて宇内万邦に超／絶し〉
33-28 R8-1-30

㉚ 全世界一大奇書 原名アラビアンナイト 井上勤訳 渡辺義方校正 （一一月別製）東京 大野堯運

出版
18cm　序5＋614P（187188P破損）　挿画3葉
〈古き世の事とかや玆に比耳斯亜（ベルシヤ）の国は世々の国王其の威権を振ひ四／隣を蠶食して〉　33-16　R8-256

㉛
諷世嘲俗　繫思談　李頓著　尾崎庸夫訳　藤田茂吉佐訳纂評　（一二月）東京　藤田茂吉（報知社）出版
二冊18cm　序（一六居士）6＋叙（藤田鳴鶴）23＋リットン肖像1葉＋小伝（藤田鳴鶴）7＋小伝名称備考4＋例言4＋目録7＋513P＋正誤2P、ビゴー挿画8葉、㈡中篇叙（鳴鶴）18＋目録6＋465P＋後序（森田文蔵）3P、挿画4葉
〈英国エキスマンダム邑にてサー、ピーター、チリングリーといへるはバ／ロ子ットの爵を有し勅撰学士会員幷に考古学会の会員にて相当の土地／をも有し〉　33-85　R9-1302

扉に「聞天樓叢書」。鼇頭に藤田鳴鶴、依田学海の評。柳田説では朝比奈知泉原訳。

【明治19年】

㉜
寿其徳（すこつと）奇談　スコット著　横山鉾呂久抄訳　デニング校閲　（一月再版、初版一八年一一月）東京　内田彌八出版
18cm　題辞2＋序（藤田鳴鶴、デニング、海雲漁翁）7＋自序8＋凡例4＋目録10＋211P＋日本西洋諺言比較17＋跋8＋正誤1P　挿画3葉
〈嗚呼夫レ世トシテ盛衰栄枯アラザルナク時トシテ変遷隆／汚アラザルナク国トシテ治乱興亡アラザルナシ〉　特13-520　R10-1

㉝
趣向ハ沙士比阿の肉一斤　文章は柳亭種彦の正本製　何桜彼桜銭世中（さくらどきぜにのよのなか）　雨の家狸遊編　宇田川文海閲　（一月）中村善兵衛編輯　東京・和田庄蔵（文宝堂）出版
18cm　自序1＋口絵5＋180P（139～148頁欠番）　旭亭芳峯挿絵

〈何桜彼桜銭の世なりけり何時はあれども就中て貴銭老若甲も乙も丙(うち)には居れぬ桜花時／節春の心のうかうかと長閑けからぬハ人のみか狂ふ蝴蝶に揚雲雀虱でさへも上這の〉　特10-921　R10-149

㉞ **王子羅世拉斯伝記**　〔草野宜隆〕訳・出版　(三月)〔東京・野口愛(奎文堂)売捌〕(明治文庫所蔵による)　18cm　76P(扉・本文77～110P・奥付欠)

〈凡そ人として漫に虚望を抱き逸想自ら楽み芳年の志願ハ歳月に随ひ／て必す成就す〉　特51-851　R10-241

㉟ **伊曽保物語**　香雲散人記　大久保常吉編輯　(二月)東京・和田篤太郎(春陽堂)出版　19cm　序詞2＋111P　弘才挿絵

〈ある川のほとりに。牛一ぴきここかしこへ。えじきを求めありき侍りし／に。蛙これを見て心に／おもふやう〉　特10-420　R10-275

㊱ **春情浮世之夢**(しゅんじやうきよのゆめ)　欧洲戯曲ロミヨージュリーの劇　沙士比阿著　河島敬蔵翻訳　滝本誠一校訂　(五月)和歌山　赤城友次郎(耕文舎)出版　19cm　扉1枚＋題辞(菅沼政経)3＋序(倉田績)3＋緒言2＋総目録3＋役者総人員2＋277P　挿画8葉

〈実にや浮世ハ夢の夢親睦すぎて仇敵となり仇敵極りて友／善なる有為転変の世の譬〉　特13-545　R11-1

㊲ **婦人地球週遊記**　ブラセー著　内田彌八訳述・出版　(六月)東京　上田屋発兌　18cm　緒言4＋163P

〈旭影輝やく旗ハ英吉利の章を風に飜がへす船ハ千艘二千艘／陸にハ夥多の豪商大估甍を幷べ軒を連らね軌る車の轄／と轄行き通ふ人の肩と肩と肩を幷ぶる繁栄は〉　34-124　R11-170

㊳ **泰西奇談　冬物語・因果物語**　シエーキスヒーヤ原著　仁田桂次郎訳・出版　(八月)静岡仁田村　18cm　序(藤田信、尾崎行雄)5＋序7＋凡例1＋70P

(冬)〈往昔思史利(シシリー)国ニ列恩的(レヲンテス)斯王ト云ヘル君アリ其ノ后ハ名ヲ辺兒密温(ヘルミヲン)ト／呼ベリ〉
(因)〈昔シ墺斯篤利亜国ノ都城維也奈ニ寛仁大度ノ君侯政ヲ活メタリシカ〉　特29-377　R11-260

㊴ 沙吉比亜戯曲 **羅馬盛衰鑑**　河島敬蔵・小宮山天香戯訳　上田捨吉編輯　(九月)大阪　大淵浪(駸々堂本店)出版
19cm　題字(河津祐之、土居通豫)4＋羅馬公園之図(銅版)2枚＋序(草間時福)3＋入略該撒の劇例言(天香)4＋目次2＋人名2＋165P　挿画(銅版)2枚
〈弗蘭比亜斯(フラビアス)「こりや汝惰漢輩(そちなまけものどもと)疾く此処を立去らずや汝ハ今日を祭日／なりと思うや〉　特13-783　R11-309

㊵ 三英双美 **政海の情波**　ビーコンスフヰルド(俾君斯裨徳)著　渡辺治訳述・発行　市東謙吉筆記・校　(一〇月、㈡一二月、㈢二〇年三月、㈣九月)東京　(発兌　丸善書店、博聞社)
四冊19cm　肖像2＋訳例2＋人物案内4＋自叙11＋筆記の体裁1＋人物伝34＋目録4＋288P＋正誤1P、㈡人物案内4＋目録4＋346P＋書評6P、㈢第三巻の批評(渡辺)3＋人物案内4＋目録3＋349P、㈣人物案内4＋目録(とら)3＋353P〔本文頁付は通し〕
〈折りしも夏の夕なり甍瓦を鑠す真日中の炎威は消えて尚蒸熱く夜風／を迎ふる頃しもあれ。一紳士正服に上衣着けセント。ジェームス街頭の／倶楽部館より出来り〉　26-52　R12-1184　R13-1189
第四巻の出版人は小柳津要人。

㊶ 小説 **草葉の露**　ブレドン女史原著　ブラック口述　市東謙吉筆記・出版　(十二月)東京　日就社発兌
18cm　序(饗庭篁村、春の舎朧)6＋自序2＋例言2＋目録2＋109P(前)123P(後)　挿画7葉(大蘇芳年)
〈頃しも弥生の初めつかた只ある園生に傍徨つゝ思案を胸に奥深きい／とも風雅の離れ家にまだうら若き美婦人がピアノを奏づるあざやかなる声音を余念もなげに聞惚たる紳士あり〉　26-263　R14-1

㊷ **シェキスピーヤ筋書**　一名西洋歌舞伎種本　第一冊　シェキスピーヤ原著　チャーレス・ラム翻案　竹内余所次郎反訳・出版　（一二月）東京　博聞社、辻岡文助発兌　18㎝　凡例2＋39P　特52-200　R14-136

〈英国王リヤーといへるに三人の女あり長ハゴ子リルとてアルバニー公の内室次ハレガンとてコルンウォール公の内室なりしが其次ハコルデリヤと名つけ年尚ほ若く未た処女にてありしかバ〉広告に、第二冊（マクベス）第三冊（アゼンスノチモン）第四冊（ロミョー及ビヂュリエット）第五冊（ハムレット）第六冊（オセルロ）の予告あり。

㊸ **セキスピヤ物語**　チャールス・ラム著　品田太吉訳・出版　（一二月）東京　18㎝　序（依田学海）6＋例言2＋伝記16＋目次1＋201P　挿画（月耕、国泰）6葉　26-270　R14-163

〈デンマーク国の王妃ガルトルードは国王ハムレットの暴（にわか）に崩御ありしに因りて〉右「ハムレット太子復讐の事」のほか「リーア王の事」「ベロナ二才子の事」「マクベス簒位の事」「シムベリン王の事」「ベニス商人の事」収む。

㊹ **政治小説　梅蕾余薫（ばいらいよくん）**　蘇骨士著　牛山良助意訳　跡部素山校閲　（一二月、後編二〇年二月）東京　和田篤太郎（春陽堂出版）　23-9　R14-286 455

前後二冊18㎝　春陽堂検印1＋序（服部撫松）6＋自序2＋目録4＋281P＋正誤3P（後）検印1＋目次4＋301P＋書後（素山）2P　挿画（岡村政子）9葉

㊹b **天路歴程**　バンヤン著　ホワイト訳　（出版月不記）倫敦聖教書類会社出版　19㎝　332P　挿図12葉

〈大布列顛（グレイトブリテン）の一洲ハ英、蘇、愛、威の四島より成り立ちたる一箇の帝国にし／て国域甚はだ広からずと雖ども庶政文物秩然として整のひ人民太は／だ多からずと雖ども〉

〈我れ現世の曠野を辿り行き、只ある洞穴の邊に憩ひぬる間／に、眠気催ほしつ、打臥せし、仮寝の夢に、一箇の人、身に襤褸を／纏ひ、手に一巻の書を携へ、背に重荷を負ひ、己が家宅を背け／て佇立を見る〉　明治新聞雑誌文庫所蔵

なお、同書第三版も同文庫に所蔵。左に掲ぐ。

（二六年一二月）東京　基督教書類会社出版

19cm　序（リチャード、バッバード）4＋序（高橋五郎）4＋肖像1葉＋目次4＋342P＋基督教書類会社書目28＋Terms, Grants　2P　挿画（孤芳）14葉

内容は初版と変らぬと思われるが、本文注が頭注となる（定価総金巾（クロス）50銭、紙表紙（ペーパー）40銭）

【明治20年】

㊺ **仇結奇乃赤縄　西洋娘節用**　シエクスヒーア著　木下新三郎訳　依田百川閲　（一月）東京　伊藤岩次郎（誠之堂）出版

18cm　序（依田百川、春の屋朧）8＋跋（花月情史）6＋90P　挿画（銅版）1葉

〈昔時伊太利国部侶那（ぺろな）の都にて不布烈（かぶれつき）及び紋多具（もんたぐ）／といへるハ誰知らぬものなき門閥（いえがら）のものにして／土地の二大豪族とよばれけるがいかなることの／間違にや〉　25-263　R15-1

㊻ **文学小説　連理談**　リットン著　服部撫松纂述　（二月）東京　小林喜右衛門（仙鶴堂）出版

18cm　序（矢野文雄）3＋緒言3＋目次2＋口絵2枚＋161P　挿画1枚

〈凡そ人の一生には苦みあれば楽みあり悲みもあれば憾みもあり万事／意の如くならざるは浮世の常なれども佳人才子の間に障碍の遮るあ／りて遇ひ難きほと憾みの大なるものは〉

尾題に「文学小説連理談上篇終」とあり　33-210　R15-61

㊼ **日耳曼政略史**　一名弗勒徳力大王論　麻侯礼著　横川文之助訳述　（二月）東京　白井練一（共益商

社）出版
18cm　序（小野宰）2＋凡例3＋284P＋正誤1P
＜トーマスカムベル氏ハ曩ニロチル及ビホーヘンリンデント題／スル詩篇ヲ作リ次イテ弗勒徳力大王及其時世ト名クル一書／ヲ著シ之ヲ世ニ公ニス＞　特20-103　R15-159

㊽ 波斯新説 **烈女之名誉**　矢野龍溪訳　村上真助（文泉堂）抜萃・出版　（三月）東京
18cm　文泉堂主人あいさつ（表紙裏）＋序言1＋口絵3＋61P　挿画1枚
＜昔し波斯に亜利抜と云へる者あり其家極めて貧しく僅か／に近傍の山に分け入りて＞　特51-466　R15-292
撮影技術上、判読困難な個所――43P1ℓ＜宿もなし若し如何なる場所にても一夜の宿りを貸し玉ふ＞、45P1ℓ＜下婢孟慈那を呼び寄せ「我れ明朝ハ湯屋に赴き帰宅セバ牛＞

㊾ 新訳 **魯敏遜漂流記**　デフオー著　牛山良助訳編　跡部正道校補　（三月）東京　和田篤太郎出版
18cm　検印（春陽書楼）1葉＋序4＋178P
＜話説す魯敏遜克爾騒ハ紀元一千六百三十二年を以て英国ヨークの町／に生れたるが氏の父ハ固とブレミン（日耳曼）の者にして＞　33-259　R15-332

㊿ **雙鸞春話**　ビーコンスフヒールド著　牛山良助意訳　跡部正道校補　（三月序）東京　和田氏
18cm　検印（春陽堂）1葉＋題辞3＋序（鷹城居士）3＋自序4＋224P
＜亜民家の英虞蘭土に入り込みたるそが起因を尋ぬるに能満泥の侯維爾／理安兵を起して英虞蘭土に入るや拉爾布土亜民なる者侯の旗官とな／り師に従がふて此の洲に入りたるを＞　33-263　R16-1

(51) 軍人必読 **納耳遜伝**　羅北隻梯原撰　内田成道・岡千仭共訳　（四月）東京　内田成道
19cm　告白（正誤表）1葉＋題辞（熾仁）2＋序（肝付兼行）2＋序（岡）2＋引（内田）2＋凡例2＋目次4＋210P（3～14、205 206P破損）

⑫

〈納耳遜（ルソン）。名何刺堤俄（ホラチヲ）。紀元一千七百五十八年九月廿九日。生ニ於〉

サクソン王の名残　ハロールド　リトン著　磯野徳三郎訳　大和田建樹校閲　(四月)東京　井上蘇吉・酒井清蔵出版　23-4　R 16-122

18cm　口絵1葉＋英文1葉＋序(末松謙澄、大和田建樹)6＋225P

〈頃ハ紀元後一千五百五十二年の事かとよ。年毎の習ひといひながらいと面／白き五月ありけり。この面白月の一日にハ、閨に寝忘るゝ少女もなく、門／に出後るゝ子もなきまでに〉

⑬

恋慕と嫉妬　第一篇　蘭陀兒、昆扶兒士（コンフヲルト）著　井上勤訳　(四月)東京　広野仲助(広知社)出版　26-128　R 16-238

18cm　目録1＋68P　挿画2葉

〈最早（もう）歩けぬア－歩けぬ少し休せてと風が伝る呻声／頃しも秋の末方山毛欅（ぶな）の古木の茂みより斜に照す夕日影／落る木葉に映じつゝ恰錦を敷が如し〉

⑭

才子佳人艶話　欧洲美談　ホワード著　島崎湊訳　(五月)大阪　花井卯助(積善館)・柏原政次郎出版　特13-607　R 16-363

18cm　序(菊地三渓)6＋凡例4＋口絵1葉＋総目録2＋257P

〈佳人薄命に志て多くは野夫に伴はれ才子多愁にして却て／醜婦を娶る〉

⑮

鮮血日本刀　〔フォーセット著〕　本多孫四郎訳述　(五月)東京　原亮三郎(金港堂)出版　33-240　R 17-1

18cm(合本)　緒言2＋第一篇166＋第二編141P　挿画3葉

〈処は仏国巴里の都に一人をジラール、ラウールと云ひ／一人をマルサル、ポールといふ二人の朋友ありけり〉

⑯

世界事実奇談　キング著　第一冊　渡辺修二郎訳　(六月)東京　中島勝義(賛育社)出版　26-167　R 17-145

19cm　原序4＋例言2＋目次10＋137P

〈往時最も英国に行ハれたる刑罰の器具ハ三種にして臨水椅子と云／鉗口器と云引廻し車と云ふ〉

例言に「原著の紙数頗る多く……之を十冊に分ちて斬次に刊行し」とあり　26-186　R17-311

(57) 批評の鏡　弥児頓論　麻鴻礼著　吉田直太郎訳　(六月)東京　小野英之助出版
18cm　序3＋128P
〈絶(ママ)元千八百二十三年の末に方り国書保存委員レモン氏其官省に／於て印刷物の挿入を捜査するの際偶まラテン文の草稿を得たり〉　26-110　R17-336

(58) 哀別奇遇　誠之鏡　塞格斯比亜著　赤司新三郎纂訳　(七月)東京　品田太吉出版
18cm　序2＋80P　挿画(銅版)2葉
〈むかし希臘国の政を志ろしめしたる君にアンチオカス／と呼ばれ給ひたる皇帝おわしけるが此帝心性よろしか／らず〉　25-341　R18-1
広告に「両鴛鴦春話(英国塞翁原著依田百川序悠人散人訳)全一冊小本　近刻」とあり

(59) 訐隠発秘　一読三嘆　マックスヲーレル　尾崎行雄・尾崎行隆抄訳　(七月)東京　原亮三郎(金港堂)出版
19cm(上中下合本)　目次9＋(上)116＋(中)99＋(下)97P　挿画3葉
〈英国ハ比類稀れなる大地面持にて其手ハ甚だ強く其足ハ長／く広く而かも重し〉　22-57　R18-50 120 171

(60) 政治小説　妻の嘆(なげき)　維兒機胡林斯(ウイルキー・コリンス)著　井上勤訳　(八月)東京　望月誠(兎屋書店)出版
18cm　第二十版序(英文・和文)2＋259P　挿画(吟光)1葉
〈説き起す今を去ること三十五六年前のことゝかや一日英国愛蘭土の／陀布林(ダブリン)港に一隻の巨艦纜綱をときて将さに印度に向ひ発せんとす〉　22-88　R18-223

(61) 欧洲佳劇　断腸花　スタッフォード著　宇田川文海訳述　関徳・久松定憲評　(八月)大阪　岡島真七(宝文館)出版
18cm　序(菊地三渓)6＋自序4＋例言2＋口絵1葉＋人物挿絵4＋210P　挿画4葉

＜二個（ふたり）の貴紳（あてびと）あり五彩の玻璃窓の裡なる銀燭の下に相対し／紫檀の卓を隔てゝ談話せり是なん貴族羅々（ララ）侯が客房にて／侯が客人純賀羅斯（ドンガラス）と談話するなりけり＞　22-101　R18-365

(62) **新案奇想英和小説　新世帯（しんじよたい）**　一名恋娘　ギルバート著　本多金十郎訳述　天涯逸史妄評　（一〇月）東京　小林新兵衛出版

19cm　書中の美人ギセピナの序3＋自序3＋凡例2＋目次4＋口絵1葉＋128P　挿画2葉

＜今までは満天一片の雲もなく晴れ渡り居たるに忽ち墨を流せし如／き空の色アレアレアノ雲は……オー何んだか気味の悪い様に／暗くなッて来たと人々天を仰ぐ折しもあれ＞　25-417　R18-491

(63) **繡衣錦袍　戦場之花**　グラント著　前田太郎・喜多川金吾纂訳　（一一月）東京　和田篤太郎（春陽堂）出版

19cm（上下合本）　題辞4＋序詩（春亭九花）4＋凡例3＋総目録7＋161＋（下）192P　挿画4葉

＜余は「カンタバリー」の官舎に在りて。「ソッケレー」詩集をば。読居る処へ＞　26-131　R19-196

(64) **南洋漂流　大人国旅行**　〔デフォー著〕　大久保常吉纂訳　服部誠一校閲　（一一月序）東京〔新古堂〕

18cm　序3＋目次6＋226P　挿画5葉

＜凡て天地の間に於る森羅万像何事にあれ何物にあれ人の心の感しよりして好みもし悪みも／するハ自然の勢いなるにより一人が好みしとて百人これを好むものにあらず＞　22-136　R19-195

(65) **可憐嬢**　坪内雄蔵述著　（一二月）東京　内田喜三郎（吟松堂）、前田金之丞（麑城堂）出版

18cm　はしがき4＋130P

＜年の比三十七八の細君蝙蝠傘をさしかざして「モシモシそこへ被為住（いらつしやい）／ますハ小杜（こもり）さんの奥さまでハございませんか」＞

『女学雑誌』一九年六月～二〇年三月号に『巣守の妻』と題して連載。ドリウムの訳？　特11-21　R19-323

【明治21年】

⑥⑥ **クライヴ伝直訳** 上巻 マコーレー氏著 遠藤速太直訳 (一月)東京 中村昌生(錦光堂)発行
19cm 凡例2+96P
〈亜米利加ニ 於テ「スパニシュ」帝国 之 歴史ガ 欧羅巴 之 惣テノ 国民 迄 左様ニ 親シク 知ラレテ 有ル ノニ〉〔一二点に従って構成〕 特27-581 未収録

⑥⑦ **谷間の姫百合** クレー著 末松謙澄・二宮熊二郎共訳 (二月、㈡一二月、㈢二二年一二月、㈣二三年九月)東京 原亮三郎(金港堂)発行
四冊18cm 凡例3+201P、㈡例言3+第一巻再版例言4+192P、㈢214P、㈣呈辞5+例言3+235P 挿画(尾形月耕、水乃孤芳ほか)25葉
〈有洲(ありす)伯は辞を和らげ/つまらない事をすると自分許りではない外のものまで災/難だマー篤と考へて見ヨ万一其方が後先見ずに左様云ふ/不了見なことをすると〉 22-182 R20-1 114 226 342

⑥⑧ **政治小説 小人国発見録** ジョルジ著 鳥尾岩太郎訳 (二月)東京 松下軍治発行
19cm 目次4+132P
〈余が父ハノッチンガム郡に僅かの土地を所有せる者にして子五人/を挙ぐ余は其の第三子なり年十四の時父余をしてケンブリッヂのエマニューエル中学校に遊ハしむ〉 25-235 R19-396

⑥⑨ **自由之答 恩愛の泄 豪傑一世鏡(ごうけついっせかがみ)** 塞士比亜(しえくすぴーあ)著 板倉興太郎訳述 小野友次郎校閲 (三月)東京 斯波二郎発行
18cm 序(市川園洲、原竹外)4+小伝3+凡例4+役名2+目録3+196P 挿画7葉
〈。皆之衆。暫らく足を留めて。己の言ふこと聴かつしやれ/(一同)なんだ/〉。早く話なつしやれ/。言ふまで毛なく。お前方は餓て死ぬよりは。潔よく命を捨て/よふと。〉 21-32 R19-469

⑦⓪ **みなれざを** しえきすぴや著 和田万吉戯訳・発行 呉秀三・三好蘇江評 (三月)東京 聴雨堂梓
18cm 熟水棹序(呉)4+はしがき6+目次1+74P+題熟水棹後(三好)2+後叙(塞江)4P 挿

画(銅版)2葉　(「終りよければすべてよし」の訳)
〈むかし何時の頃にか有りけむ、仏蘭西国、るうぜよん州／の大守にべるとらむと呼びなす人ありけり、父伯の身／去りし後そが一跡を継ぎて新に叙爵し〉　25-256　R 19-589

⑦1
千代の礎(いしづえ)　ウヲルトン著　三浦徹訳・発行　(三月)東京　〔米国日曜学校教会出板〕
19cm　題辞4＋緒言3＋目録2＋115P　挿画1葉
〈満天雲横りて墨を流すが如く汀渚浪高くして白煙を吐くに似たり〉　23-135　R 21-1
緒言にウォルトン著『世に渡るたつき風琴』*Christie and his Old Organ.*（香雨女史訳）の記述あり。天路歴程第三版の「書目」によると『千代の礎』出版は基督教書類会社

⑦2
英国奇聞　**政党情話**　ブライト著　八木半治訳補　(三月)東京　斯波二郎発行
18cm　序(田中秀)2＋緒言3＋180P＋跋(任天学人)2＋小説論18P　挿画6葉
〈結構壮厳、装飾美観なる一堂の中に打集ひて宴を張り何事をか／相議するの人あり〉　17-117　R 21-71

⑦3
激浪濯血　**金鉄腸**　一名英国水師提督公爵子ルソン之伝　サウセイ著　城慶度訳述　(三月)東京　内藤加我発行(金桜堂蔵版)
18cm　自序3＋目録2＋(上)78＋(下)85P(合本)　挿画2葉
〈子ルソン名ハホラチオ西暦千七百五十八年九月廿九日を以て英国のノーフォク県のバーハ／ム、トオプ村に生る父ハ同村の支配人にて講／談の家に住す〉　特13-566　未収録

⑦4
寓意勧懲　**伊蘇普物語**　英国都運箋士直訳　田中達三郎訳　若菜蝴蝶園校正　(四月)東京　木村多喜発行
19cm　題辞4＋序(土居通豫)4＋例言2＋伊蘇普の伝6＋目録16＋213P
〈快よく午睡して居た獅子の顔の上を。鼠がなに心なくチョロ〳〵駈あ／るくと。獅子が目を醒し。大に怒りて一潰しに踏み殺そうとすると。鼠が／慇然に願ていふ様〉　特12-73　R 21-179

⑮ **奸雄の末路** 笠頓著 吉田熹六訳述 (五月)東京 赤坂亀次郎(集成社)発行
18cm 口絵1葉+凡例4+195P 17-111 R 21-310
〈妓に説起す一場の物語りは古昔より小説の国として其名の高き西班/牙国費立扶(フイリップ)第三世の朝に当り偶然起りたる最と哀れにも亦た奇異な/る一活劇なり〉

⑯ **鏡花水月** シエクスピーヤ正本 渡辺治訳 (五月)東京 赤坂亀次郎(集成社)発行
18cm 読者に告ぐ8+本書の書名に就き一言す2+目次2+狂言役名2+193P 21-119 R 21-425
〈商人イージオン 御国主さまへ、申し上げたう存じます/るハ余の儀でハござりませぬ御覧の通り果敢ない命のあれバこそ斯くさま〴〵の憂目にも逢ひますもの〉

⑰ **泰西奇談 女房持虎の巻** ラム抄録 仁田桂次郎訳・出版 (五月)伊豆国仁田村
18cm 自序2+目録1+31P 特52-193 R 21-540
〈往昔(パヂュア)と云ふ国に富める一紳士あり其の名を馬布(バプチスタ)/と云ひ其の長女を佳絶(カゼライン)と云ふ〉
広告「泰西奇談ハ尚ホ智孟物語、佳人の薄命、十二夜日記等篇ヲ逐テ出版スベシ」

⑱ **マコーレー氏評論 クライブ伝詳解** 関藤成緒編 辰巳小二郎閲 (六月)東京 今村金治郎(鴻盟社)発行
19cm 序(辰巳小次郎)1+凡例2+127P 特20-971 R 22-72(左)
〈The East 此処ニ頭字ニテ書セルハ東洋ヲ云ヒ一般ニ方向ヲ指スト異ナレバナリ此書ニテハ印度ノ事ナリ〉

⑲ **一輪の牡丹花** セキスピーヤ著 丸山平次郎筆記編 (七月)大阪 森ミツ(当籤堂)発行
18cm 序(東酬居士)2+はしがき5+58P+正誤1P
〈一斤の肉、一輪の花能ク其義理と人情とを辨へ、朋友の/信義、小人の苛虐、情郎の誠意愛恋、

婦女の貞烈智識等所／有情海の大波瀾を僅かに一小冊子の中に収縮し〉　特13-534　R22-73

⑧0 **クライヴ伝直訳**　マコーレー著　栗野忠雄訳述・発行　(七月)東京　日新館蔵版
19cm　114P
〈亜米利加ニ於テ西班牙帝国ノ歴史カ欧羅巴ノ総テノ国民ニ迄左様ニ親シク知ラルゝノニ／東部ニ於テ我等自身ノ国民ノ大ナル行為ガ我等自身ノ内ニサヘモ〉　特27-580　R22-112

⑧1 **印度奇観**　麻侯礼著　前橋孝義訳述　(八月、初版四月)東京　加藤鎮吉(開新堂)、土田宗助発行
18cm　再版序(天野淞村)4＋例言2＋東印度略図1葉＋289P
〈「虞れーぐ」氏が「兵すちんぐ」伝ヲ編纂スルヤ一方ニテハ「瓦ーれん兵す／ちんぐす」ノ親戚朋友ガ伝ノ材料ヲ供セン而シテ一方ニテハ「虞れーぐ」／氏が讃辞ヲ供セン〉　17-29　R22-172

⑧2 **泰西奇談　嵐之巻**　ラム抄録　仁田桂次郎訳・発行　(八月)伊豆国仁田村
18cm　目録1＋28P
〈茫々たる大洋中に一孤島あり此に住へる者は布路斯(プロスペロー)と云へる老人と／其の娘なる美蘭陀(ミランダ)姫と二人のみなり〉　特52-193　R22-331
広告「泰西奇談ハ篇ヲ逐テ出版シ二拾篇ニ及デ全尾トナルベシ」

⑧3 **泰西奇談　智孟物語(ちもんものがたり)**　ラム抄録　仁田桂次郎訳補　(一一月)東京　西原喜一発行
18cm　自叙2＋目録2＋77P
〈在昔希臘の国アゼンに一奇人あり名を智孟と云ふ其の富は王公に過ぎ其ノ仁ハ聖賢に勝り／常に恩を施して厭くことなく其の財産は殆ど無量無極とも称すべき程にして〉　特52-193　R22-351

⑧4 **文明奇談　幽霊と対話**　西基斯比亜著　ラム抄録　井上勤訳　(一二月)東京　久野木信善発行
18cm　挿絵1葉＋序(浮浪人)4＋53P

〈諺に曰く美人の眉は斧よりも鋭しとかや実に恐るべきは婦人なり玆／に「デンマーク」国に「ハムレット」と云へる国王在して王妃を「ガルトルー／ド」と称し〉　19-120　R 22-397
明治新聞雑誌文庫所蔵、二十三年一月再版の扉・内題はともに「幽霊」、著者は「セキスピアー」と表記される。（定価五十銭）

⑧⑤
優勝劣敗 **猿乃裁判**　倶礼著　井上勤訳　（一二月）東京　西村富次郎、福田栄造発行
18cm　原序4＋285P　挿画2葉
〈「ダーウィン」氏に対し人間の名誉を回復する訴訟の事件に付き人間は／恰ら発狂の如く公判日の両三日以前より悉く職業を休み商人は商人／連車夫は連夫連〉　特21-974　R 23-1

⑧⑥
世界 **第一之美人**　ブライト著　八木半治訳補　（一二月）東京　石渡賢八郎（イーグル書房）発行
⑫『政党情話（英国奇談）』の改題本。「小説論」なし　特13-565　未収録

⑧⑥b
昆太利（コンタリニー）物語　ビーコンスフキールド著　福地源一郎・塚原靖訳述　（上十一月、中二二年四月、下二三年一一月）東京　深谷知恂（蔵玉堂）・下のみ小林新兵衛（嵩山房）発行
三冊18cm　はしがき6＋口絵1葉＋目次2＋144P＋正誤2P、（中）目次2＋163P、（下）目次3＋237P　挿画7葉
〈予は姓名を昆太利（コンタリニー）、布令民（フレミング）といふ予が父は巴倫（バロン）（男）の爵にて姓を布令民／と呼る、予が家は原来撒遜（サクソン）の貴族中最も旧家の聞えある家柄なりしが〉

【明治22年】

⑧⑦
印度開国紀事　摩厚礼著　高田寅二郎訳　（一月）京都　河合卯之助、松田駒次郎発行
18cm　緒言3＋177P＋印度大莫臥帝ノ系図（佐久間信恭撰）2P　41～48P乱丁
〈吾人が常ニ奇異ノ念ニ堪ヘザルハ亜米利加ニ於ケル西班牙帝国ノ歴史ガ／欧洲各国ニ熟知セラ

ルヽニモ拘ラズ東洋ニ於ケル我英国人ノ大事業ハ〉　25-617　R23-156

(88) 悲風惨雨 **倫敦塔**　エインスウオルス著　三木愛花意訳　(二月)東京　千葉茂三郎(共隆社)発行
18cm　序6＋目録2＋286P　挿画6葉
〈ヅドン〳〵と轟くハ諾撒伯爾蘭土(ノルサンベルランド)、戎(ジヤン)、達土列(ダットレー)が邸宅ダルハムハウスより起／りし会図の砲声なり〉　特13-561　R23-376

(89) **曼府(マンチエスター)の叛乱**　エーンゾルス著　塚原蓼州訳　(六月)東京　和田篤太郎発行
21cm　221P　挿画(稲野孝之)7葉
〈今爰に説出す曼府の叛乱と云ふハ英吉利の皇戎日(ジヨージ)第二世の御宇に英吉蘭、蘇格蘭の両国に起りたる争乱の始末にして〉　特11-274　R23-250

(90) 標注 **華連平斯丁(ウハレンヘスチングス)伝直訳**　マコーレイ著　鈴木玄龍訳・発行　(八月)東京　山本新吉発行
「小説萃錦」の組版に通し頁を付した合綴本
18cm　序2＋337P
〈我等ガ若シモ精細ニ此ノ書ヲ吟味スルコトノ代リニ我等ガ必用ニ急速／ナル而シテ不十分ナル方法ニ於テ「ヘスチング」公ノ伝及ビ品行ニ就イ／テ我等自己ノ見解ヲ与ユ可ク〉　特28-475　R24-1

(91) 家庭教育 **園之咲分(そののさきわけ)**　ゴールドスミス著　植木貞次郎訳述　(八月、後編二三年五月)東京　加藤鎮吉(開新堂)発行
前後二冊18cm　序4＋緒言2＋目次3＋122P、(後)緒言2＋目次2＋236P
〈予は少壮の頃常に以為らく世の忠誠なる人々が其国に尽すべきの義／務は早く結婚して多くの子孫を国に出すに上越す功はあらじ〉　特21-328　R24-175 247

(92) **いさ子**　ウード女史著　織田純一郎訳　(一〇月、(二)二三年一月、(三)六月、(四)(五)(六)合本二六年五月)

東京　阪上半七発行
六冊合本上下19cm　叙3＋例言3＋人名3＋目録2＋242P、(二)叙6＋目録2＋253P、(三)序2＋目録2＋209P、(四)目録1＋229P、(五)目録1＋234P、(六)目録1＋220P　挿画(武内桂舟)36葉
〈美麗なれども華美ならず華美ならざれども書斎の／裡に腰打掛けたるは伯爵の君山の井少将なり〉
叙に「倫敦の書賈曰く」として、発行後僅か三ヵ月で十万部を過ぐとあり。
26-194　R25-1 150 296　R26-2 138 273

【明治23年】

㉓ マコーレー氏 克来貌伝註釈　斎藤恒太郎述　(三月訂正再版)東京　白井練一(共益商社)発行
18cm　例言4＋233P
〈英国陸軍少将 Sir John Malcolm ハ曾テ東印度ニ在リテ Bombay ノ／大守タリ〉　103-4　R27-124(左)

㉔ 亜微志尼亜ノ王子 刺世拉斯伝　如温遜著　田村左衛士訳　(四月)京都　松田駒次郎、田中治兵衛発行
19cm　ジョンソン肖像1葉＋凡例2＋348P
〈軽々しく妄想の耳語に耳を欹て熱心に希望の虚影を捉へんとし、或ハ年／歯自ら芳年の志願を成就すべく今日足らさる所は明日之を充すを得べ／しと期する者は〉　21-85　R27-125

㉕ 亜細亜(あじあ)の光輝(ひかり)　アーノルド著　中川太郎訳　赤松連城校閲　(五月)京都　神代洞通(興教書院)発行
19cm　題字(鳥尾小弥太)2＋肖像1葉＋略伝7＋原序8＋緒言2＋83P
〈天の頂その下は　世界の支配つかさどる／四天王の住めるなり〉　47-299　R27-254

㉖ 挿註 弗勒徳力大王論　一名日耳曼政略史　麻侯礼著　横川文之助訳述　珍田捨己閲　(六月訂正再版、二〇年二月初版㊼)東京　白井練一(共益商社)発行
18cm　凡例3＋194P

〈此書ハ(訳者曰ク玆ニ此書ト云ヘルハ一千八百四十二年詩人トーマス、カメル氏ノ／序言ヲ以テ出版セラレタル弗勒徳力大王及ヒ其時勢ト称スル書ニシテ即チ麻氏ガ／本書ニ於テ批評ヲ下セルモノナリ)〉　21-29　R 27-314

⑨⑦ **弥爾敦論**　麻侯礼著　平井広五郎訳　(七月)京都　河井卯之助(文港堂)発行
19cm　序2＋124P
〈紀元千八百二十三年ノ将ニ晩レントスル官書保存委員レモン君ハ其／官衙ニ蔵スル印刷物ヲ捜索セル際羅甸文ノ一大手書ヲ発見シマタ之／ト共ニ弥爾敦氏ガ書記官タリシ日ニ〉　特22-238　R 28-1

⑨⑧ **印度開国征略史**　一名クライヴ伝註釈　マコーレー著　渡辺松茂訳述　中尾氏就校閲　(七月)大阪　石田忠兵衛発行〔⑩⓪の広告に⑨④⑨⑧⑩⓪を「積善館最近発行書目」とする〕
19cm　120P
〈往時いすぱにあ帝国ノあめりか所領ヲ開キタル顚末ハ欧洲諸国人民ノ普ク詳知／スル所ナルニモ拘ハラス我邦人ノ東洋ノ偉功ヲ奏シタル事跡ニ於ケル〉　18-178　R 28-70

⑨⑨ **羅世良斯**　巻上　福井有直訳　(一二月)津　豊住謹次郎発行
17cm　凡例4＋自序(守愚山人)2＋86P
〈容易ク信ズルコトヲ以テ想像ノ私語ニマテ耳欹テ而シテ熱心ヲ以テ望ミノ幻像ヲ追／フ所ノ汝等老年ハ少年ノ期望ヲ做遂グルデアラフコトヤ〉　特50-303　R 28-134

⑩⓪ **瓦連兵須珍虞斯伝**　マコーレー著　渡辺松茂訳述　中尾氏就校閲　(一二月)大坂　石田忠兵衛発行
19cm　172P
〈今ヤ余輩ハヘすちんくすノ伝ヲ考究スルヤ其詳晰ヲ欠クモ寧ロ軽卒ト不十全ノ嫌ヒア／ルニモ拘ハラス余輩自身ノ意志ヲ以テ氏ノ履歴ト性質ヲ論センニハ却テ〉　25-320　R 28-186

⑩① **亜弗利加探検　近世偉業**　前編　前野芳造纂訳　（一二月）東京　千葉胤矩（千葉三英堂）発行
19cm　スタンレー肖像1葉＋題字（三島常）2＋叙5＋凡例1＋目次5＋164P
〈須丹零氏ノ剛勇一タビヱミン、パシヤ（Emin Pasha）救助ノ遠征ニ顕ハレテヨ／リ覆載ノ間探検未ダ悉サズ〉　25-348　R28-279

⑩② **三人令嬢**（さんにんむすめ）〔シェイクスピア原案〕　採菊散人著　（一二月）東京　鈴木金輔編輯・発行
18cm　序（永昌）2＋口絵14＋273P　挿画（山本刀画）9葉
〈婚姻は男女一代の大礼にして苟くも之れを挙行すべからず平素至孝／なる令郎令嬢も一度婚姻を為すや其良夫其夫人の行状に依り不孝の／子となる者なしとせず〉　特10-739　R28-375

【明治24年】

⑩③ **父子奇遇　白浪艶話**（しらなみえんわ）　リットン著　小川漁史訳　（九月）東京　足立庚吉編輯・発行
18cm　序1＋口絵3＋117P
〈斜雨窓戸を叩き酸風檐端を払って街頭明滅夜の更るに従がひ道往く人漸く絶たり〉　特52-505　R29-337

⑩④ **人肉質入裁判法庭之場　講義録**　磯辺弥一郎講述・発行　井上十吉校閲　（一〇月）東京　国民英学会文学会蔵版
19cm　緒言2＋序（ディクソン、チェンバレン）2＋全篇之大意2＋原文12＋講義12＋注釈5P
〈（Duke 云ク）何ト。Antonio ハ此所ニ居ル乎（Antonio 云ク）ハア。控ヘ／テ居リ升（Duke 云ク）其方ニハ頑石ノ如キ無情ノ敵。測隠ノ心ヲ発スル能／ハザル〉（第四幕）　26-419　R29-25（左）

⑩⑤ **伊太利の囚人**　（『第二国民小説』所収）　ディケンス著　森田思軒訳　草野茂松編輯　（一〇月）東京　垣田純朗（民友社）発行
19cm　目録1＋370P（伊太利の囚人＝18P）
『第二国民小説』目次――〇伊太利の囚人　R29-26　〇夢現境（嵯峨の舎主人）37　〇空蟬（同）53

○罔両(南翠外史)69○あいびき(ツルゲネーフ、二葉亭四迷訳)84 ○航海小説羅、武烈号(驚濤生訳)93○懺悔(フハージオン、賣薪生訳)107○曇天(抱一庵主人)114 ○石美人(白水居士翻案)131○落武者(湖処子)143○空屋(西邱隠士)155 ○悪因縁(クライスト、鷗外訳)168 ○地震(クライスト、鷗外訳)190○うきよの波(ステルン、鷗外訳)200

〈伊太利の国民か其の言ふ可らざる積弊の下より起りたちたること伊太利の美しき邦土を久〳〵しく闇黒にせる圧制の長〳〵し夜始めて過逝きての昼の光徐ろに開け来れることは〉 17-281 R29-26

【明治25年】

⑯ 人肉質入裁判法庭之場 講義録 磯辺弥一郎講述・発行 井上十吉校閲 (二月訂正)東京 三省堂発行 19cm 再版緒言3+緒言2+序(ディクソン、チェンバレン)2+全篇之大意3+原文24+講義16+註釈7P

〈Duke〕何ト。Antonio ハ控ヘ居ル乎。〈Antonio〉ハッ恐レ乍ラ差控ヘマシテ御座リ升。〈Duke〕其方ニハ頑石ノ如キ無情ノ敵。惻隠ノ心ヲ発スル能ハザル〉 26-419 R29-248(左)

⑰ フレデリック大王論 麻侯礼著 河田泰之助訳述 (四月)京都 河合卯之助(文港堂)発行 19cm はしがき3+160P

〈夫ノ著名ナル詩篇「ロチール」及ビ「ホヘンリンデン」ノ作者ニシテ夙ニ第十九〳世紀ノ文壇ニ芳名アルトーマス、カムプベル(Thomas Campbell)氏の緒論ヲ〉 68-212 R29-249

⑱ 泰西情話 想夫恋 沙翁原案 竹葉散人著 (五月)大阪 中村芳松発行 19cm 口絵1葉+136P 挿画2葉

〈小説を以て美術と唱へ。真理を発見する能力ありとは、泰西著作家の見識にて。政治〳にまれ、法律にまれ、経済にまれ。宗教にまれ、一科専門の学を基礎とし〉 特10-518 R29-1

⑩⑨ **新訳伊蘇普物語**　鈴木常松訳・発行　（五月）大阪　積善館発兌
19cm（上下合本）　目次22＋123＋（下）134P　挿画16葉　特12-72
〈或る亜剌比亜人が自分の飼て居る駱駝に貨物を載けてサア是から出／立と云ふ所〉　R29-77

⑩⑩ **幻影（まぼろし）**〔シェイクスピア作品翻案〕　宮崎湖処子著　（六月）東京　和田篤太郎（春陽堂）発行
23cm　127P
〈三百の楼台半は高く青雲に入れり。三十六個聯なる峯は自然の屏風を開きたる／ものゝ如く祇園坊を擁して立てり〉　特9-86　R30-261

⑩⑪ **亜弗利加内地蘇丹令探検実記**　藤田軌達纂訳　（八月）大阪　梅原忠蔵（図書出版会社）発行
19cm　スタンレー肖像1葉＋序（志賀重昂）2＋自序4＋凡例2＋291P　挿画5葉
〈蓋世の殊勲を立て絶代の偉業を成して名声の宇内に赫々／たる人物相踵て輩出せる未だ十九世紀の盛なるが如きは／あらず〉　68-305　R30-328

⑩⑫ **非小説**〔コリンズ著〕　黒岩涙香訳述　（八月）東京　町田宗七（扶桑堂）発行
18cm　序（愛松道人）2＋口絵14＋484P
〈昼間より降居たる雨も日暮に至りて風と変じ。夜の更るに従ひて益々吹荒／むのみなれば。忙がしき倫敦の町人も十時頃より戸を鎖し真夜半近くに及／びては〉　特13-588　R31-

⑩⑬ **ジユリアス、シーザー講義**　大倉本澄講述　ウェルス校閲　（一二月）東京　加藤鎮吉（開新堂書店）発行　（⑩⑬⑫①の広告には「沙翁志ーざー講義」とあり）
19cm　緒言3＋伝記3＋役名2＋130P
〈Flav　此処ヲ去レ。帰レ、爾等懶惰者共、帰宅セヨ。今日ハ休日ト思居／ルヤ。コリヤ！　職人ナレバ平日其職業ノ徽章ヲ携ヘズシテ出行クベキ筈／ニアラザルコトヲ知ラサルヤ〉

⑭ **闇黒亜弗利加** スタンレー著　矢部新作意訳　(三月、㈡四月、㈢㈣五月、㈤七月、㈥八月)東京大橋新太郎(博文館)発行
六巻三冊合本22cm　口絵1葉＋緒言2＋目次3＋178P、㈡口絵1葉＋目次3＋153P、㈢口絵1葉＋目次4＋164P、㈣口絵2葉＋目次3＋158P、㈤口絵1葉＋目次4＋173P、㈥地図1葉＋目次4＋148P　挿画16葉
〈独りカーライルが彼れが壮年種熟の時に於て彼の恐るべき仏国革命の苦脳を写せしの筆を以てして始／めて能く久しく歳月の間英国と埃及との関係より生出したる頽廃の状況を推想し得べし〉
二九年一一月に『スタンレー探険実記　一名闇黒亜弗利加』と改題　19-337　R 31-329(左)

⑮ **具雷武伝釈義** 直訳付　麻侯礼著　河田清彦訳述　(三月)京都　河合卯之助(文港堂)発行
上下二冊19cm　自叙2＋123P、(下)134P　43-241　R 32-1 103 191 286 380 477
〈抑モ亜米利加大陸ニ於ケル西班牙帝国創建ノ顚末タルヤ普ク欧洲各国民ノ熟知スル所ナル／ニモ拘ハラズ英国人ガ東洋ニ樹テタル大功業ニ関シテハ〉

⑯ **ヘスティング釈義** 直訳付　麻侯礼著　河田清彦訳　(四月)京都　河合卯之助(文港堂)発行
上下二冊19cm　はしがき2＋171P、(下)192P　特20-573　R 33-1 70
〈爰ニ本書ノ記述ヲ起スニ方リ予ハヘスティング君終世ノ経歴ト其性状ノ如何トニ対シ／テ見解ヲ下サムトスルニ精細緻密ナル考覈ヲ用キムヨリモ軽躁且不完全ナル方法ニ〉　特20-972　R 33-145 238

⑰ **黒頭巾** ディケンズ著　**明日**(みょうにち)　エッヂウオルス著　内田貢訳述　(九月)東京　福永文之助(警醒社書店)

21cm　凡例2＋目次2＋170P
〈(黒頭巾)千八百年の末、或は其頃一二年の内恰も冬の夜の事、近頃開業した年若な医／者が、雨滴をバタ〳〵窓に敲き附け、物凄く烟突に吹込む風の音を聞きながら〉　44-57　R33-398
〈(明日)余が自身の歴史を書かんと思立ちし事既に久しく今日改めて〉　44-57　R33-407
右二編は『鳥留好語』に所収。目次——極楽郷(アンデルセン)R33-348 ○雪の女王(アンデルセン)359 ○黒猫(ポー)380 ○狐屋(ひとつや)(プレット、ハート)388 ○黒頭巾○明日

⑱
大氷海　マルクハム著　幸田露伴訳　(九月)東京　大橋新太郎(博文館)発行
22cm　大氷海に題す2＋凡例1＋目次2＋164P
〈一千八百七十五年の四月五日二ヶ月間ポーツマスの造船所は光景常に異りていと忙しげなり此は時／の政府の許可を得て前人嘗て踏まざる極北の氷海に到らむとする〉　43-241　R34-1

⑲
夜と朝　リットン著　益田克徳訳述　若林玵蔵速記　(一〇月訂正再版、一二年九月初版)東京　大橋新太郎(博文館)発行
22cm　彩色口絵1葉＋叙(森田思軒)2＋序4＋目次3＋290P
〈英国の都会倫敦に程遠からぬ或村のお寺に迦霊(カレブ)といふ坊さんが居りました。勿論村のことですから別に／たいした御宗旨の学問のある人が入用といふこともなし、又知識和尚(えらい)さんが住職になる訳もありません〉　44-114　R34-92

⑳
英雄崇拝論　カアライル著　大屋八十八郎・石田羊一郎共訳　(一一月)東京　小柳津要人発行
19cm　引(石田)13＋翻訳に就て3＋目次2＋191P＋箋註13P
〈聊か玆に偉人の事を講述せん、其人間界に出てし状、世界史に現は／れし態、世人の之に対する観念、偉人の為せる事業等を——即英雄／のことを〉　70-214　R34-255

⑫① ジョンソン氏 **ラセラス伝註釈** 大島国千代著 （一二月）東京 大島三郎発行
19cm 117P
〈徒ラニ空想ニ耽酔シタリ（道理ニ基ズカズ架空ニ現レ妄想ノ告示）幽霊／ノ如ク捕ヘ追フベカラザル希望ヲバ熱心に追ヒカケル人タチ〉 82-189 R34-428(左)

【明治27年】

⑫② 今様長歌 **湖上の美人** スコット著 塩井正男訳述 （三月）東京 加藤鎮告（開新堂書店）発行
19cm 自序8＋ことわりがき4＋スコット氏の伝4＋394P
〈モナンの小川 風さえて 光りいざよふ 夕月夜／かげのながるゝ 谷水を のみてあきたるさをしかの／床はかなたの 森の蔭 志げるはしばみ その下に〉 72-37 R35-1

⑫④ **千人会** エッヂウオース著 森田思軒訳 （四月）東京 垣田純朗（民友社）発行
19cm 目次2＋280P（千人会＝60P）
〈ダービーの邑の左ダーレー林に至る途上に一軒の板屋あり舊とモーリスロビンソンなる者／の栖みし所と云ふ〉 17-281 R35-212
『第四国民小説』所収。目次――千人会○何処に？（嵯峨のや主人）R35-246 ○籬の菊（小中村義象）259 ○七株松（落合直文）266 ○末期の言（驚濤生訳）274 ○不二の高根（麗水生）281 ○懺悔（秋風閣主人）286 ○家妻（アービング著、湖処子訳）296 ○白薔薇（オリーヴ、シュライ子ル著、画湖仙史訳）302 ○夏休（嵯峨のや主人）305 ○田家新年（麗水生）318 ○物語の物語（秋山生訳）323 ○千島大尉（弦斎居士）334 ○盲新婦（槐夢南柯）349

⑫④ **大宝窟** ハッガード著 宮井安吉抄訳 （五月、二九年一一月合本）東京 大橋新太郎（博文館）発行
上下合本22cm 目次2＋136＋（下）155P

〈この小説の舞台は、雲の迷ふてふ亜非利加の大荒漠、主役は斯くいふ予(おのれ)アラン、クオーターメーンと、／士爵ヘンリー、カーチス、及び海軍の尉官グードの三人にて〉　特8-104　R35-371

⑫⑤ **嬢一代**(むすめいちだい)(情仇新伝)　〔クレイ著〕　黒岩涙香訳　(六月)東京　町田宗七(扶桑堂)発行
22cm　序4＋口絵1葉＋前置2＋301P
〈孰(いずれ)の世、孰の時代にも、其時代第一の豪傑あると同く又其時代第一の美人あ／り〉　特8-88　R36-1

⑫⑥ **詩人的英雄**　カーライル著　蘭山居士訳述　(九月)大阪　吉岡平助(吉岡書店)発行
15cm　緒言4＋89P
〈夫れ神又は予言者としての英雄は上古草莽の世に現るべきものに／て近古開進の世に復た出づべきに非ず〉　71-253　R36-159

⑫⑦ **祝ひ歌**　ヂッケンズ著　若松賤子訳　(一二月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
19cm　85P
〈十二月の廿五日といふ日は欧米(せいよう)では大切な日で、老少とも此日を待詫／びることは、恰度日本人が正月をまつと同じことでムリ升(ござ)〉　特10-363　R36-210

⑫⑧ **子ルソン将軍伝直訳註釈**　大島国千代訳述　(三月、(下)五月)東京　金刺源次(金刺芳流堂)発行
上下二冊19cm　198P、(下)206P
〈エドマンド及ビカサリン子ルソンノ息子ナルホレシヨハ其レニ付テ彼レノ父ガ教僧デアリ／シ処ノルフオーク州ニ於テノ一村ナルバーンハムソープノ僧宅ニ於テ〉　特27-587　R36-257-371

⑫⑨ **フレデリック大王論直訳註釈**　麻著　大島国千代訳述　(八月、(下)三〇年六月)東京　金刺源次(金刺芳流堂)発行
上下二冊19cm　124P、(下)112P

△「ロヒエル」及ビ「ホーヘンリデン」詩集ノ著者ニ因テ世上ニ迄紹介セラレアル処／ノ高キ名誉ヲ有ツ処ノ此ノ書籍ハ左様ニ有名ナル緒論ニ就キ全ク価値ナシニアラヌ△　特27-588　R36-490 569

【明治30年】

⑬⓪ **子ルソン提督伝直訳註解**　松尾豊文訳述　（七月、㊥三一年六月、㊦一〇月）東京　金刺源次発行
上中下三冊19cm　265P、（中）167P、（下）185P
△エドマンド及ビカサリン子ルソンノ息子ナルホレショハ、其レニ付テ彼レノ父ガ教／僧デアリシ処ノルフオーク州ニ於テノ一村ナルバーンハム、ソープノ僧宅ニ於テ△　特27-586　R37-1 141 237

⑬① **ロビンソン クルーソー絶島漂流記**　高橋雄峰訳述　（一〇月再版、一七年初版）東京　大橋新太郎（博文館）発行
上中下合本23cm　口絵1葉＋例言2＋目次8＋180＋170＋140P
△余は千六百三十二年ヨーク町に生れたるもの。父は素とブレメンの産にして、始めにヒユルに殖民した／る外国人なりしも、現にヨークに移住して△　77-53　R37-334

【明治31年】

⑬② **マコーレー氏 ヘスチングス伝註釈**　佐藤鐘太郎著・発行　（一月）静岡
18cm　緒言1＋188P
△We shall best meet the wishes of our readers——最モ読者ノ希望ニ適スルナラント△　129-84　R38-99（左）

⑬③ **子ルソン提督伝**　上巻（翻訳全書第四編）〔サーゼイ著〕　新宮寸鉄訳述　新井清彦校閲　（三月）京都　河井卯之助（文港堂）発行
19cm　緒言9＋126P
△エドマンド、エンド及カザリン、子ルソンノ子ホレーシオハ千七百五十八年／九月十七日ノー

フォルク州ノ一村バーハム、ソーフノ牧師ノ住宅ニ生レシガ〉
広告に「子ルソン提督伝　下一冊　印刷中」とあり。
76-135　R 38-100

⑭ **英雄論**　カーライル著　土井林吉訳　(五月)東京　和田篤太郎(春陽堂)発行
22cm　序1＋例言2＋目録1＋304P＋略註7＋小伝4＋正誤2P
〈偉人世上に出現の状如何、其世界史上に於ける形跡如何、人彼に関して何をか思へ／る、彼果して何の功績を挙げたる〉
79-62　R 38-179

⑮ **ロビンソンクルーソー伝直訳註釈**　松尾豊文訳述　(七月)金刺源次(金刺芳流堂)発行
19cm　223P
〈余ハ一千六百三十二年「ヨーク」市ニ生レシ、家族ノ第三子デ而シテ何ノ職業ニモ／教養セラレサルハ余ハ頭脳ハ頗ル早ク漫遊ノ思想ヲ以テ充タサルベク始メシ〉
特27-589　R 38-344

【明治32年】

⑯ **劔侠**　ホープ著　森皚峰訳・発行　(一一月)東京
小説劔侠　後編　ホープ著　森皚峰訳　(三四年一〇月)東京　綾部喜久二発行
23cm　序2＋口絵1葉＋337P、(後)口絵1葉＋原著者の書簡1＋前篇の梗概4＋240P　年峰画
〈『子ー次郎さん、貴郎も何か斯う、定まつたお仕事を遊ばす様に為すつては、／如何で御座いますと。』／『ナニ僕ですか、別に為なくつても可いですナ〉
広告に「小説劔侠　続編　近刊(印刷中)」とあり。
86-49　R 39-1-179

【明治33年】

⑰ **英雄崇拝論**　カーライル著　住谷天来訳述　(一〇月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
19cm　自序4＋言志一束5＋目録2＋387P

〈余輩は敢て玆に少しく偉人の事を論及し、其人間界に現はれし状、其世界史に呈せし態、／世人の之に対する観念、及其成果せる功業――等を講述する所あらんとす〉

88-30 R 39-313

【明治34年】

(138) 奇中奇談 **幽霊塔** ベンヂスン著　野田良吉訳　黒岩涙香閲　(一月、後五月、続九月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行
三冊22cm　前置(ベンヂスン夫人)2＋序2＋口絵1葉＋240P、(後編)口絵1葉＋226P、(続編)口絵1葉＋229P　永洗画
〈『有名な幽霊塔が売物に出たぜ、新聞の広告にも見えて居る』と、未だ／多くの人が噂せぬ中に、直に買取る気を起したのは、検事総長を辞して／閑散に世を送て居る叔父〉　90-19　R 40-1 133 262

(139) **白梅嬢** (英文学研究第一冊)　サッカレー著　山県五十雄訳註　(九月)東京　内田正義(言文社)、山県操(内外出版協会)発行
19cm　はしがき2＋39P＋(左開)肖像1葉＋英文28P＋小伝6＋註釈18P
〈『ではお前、ストラスブルグへ上つて学問修業を積むがよい神様はたしかに此騒がしい／時に当つてお前に牧師の任を授けられたのであつて、私の良友シュナイデルが〉　139-294　R 40-384

【明治35年】

(140) 小説 **雪崩と百合**　(エリオットの『ロモラ』の梗概)　富永蕃江稿　(五月)東京　渡辺為蔵(民友社)発行
19cm　緒言9＋目次3＋194P
〈伊太利の芙郎蓮西(フローレンス)にて、今は漫遊者もあまり立ち寄らぬ辺り、バデアの／背後せまき街道の迷路の中、古芙郎蓮西の中心に、セルテの開舎立てり〉　96-57　R 41-1

(141) 註頭 **クリスマスカロル**　ヂッケンス著　草野柴二訳　(六月)仙台　佐野養治(尚文館)発行

19cm　肖像1葉＋小伝3＋自序2＋附言1＋正誤表2＋目次1＋198P

〈偖て先づ、マアレエは死んでおつた。それは毛頭疑ひないことで、寺の／牧師も、書記も、葬具屋も、喪主も衆ンな其の死亡届に調印した。そ／れに斯固陋爺（スクルージ）が調印した〉

96-10　R41-127

⑭② **ろびんそんくるーそー**　第一編　鈴木虎市郎編　（八月）東京　石川栄司（育成会）発行

22cm　作者紹介1＋目次1＋序（佐々木吉三郎）4＋はしがき3＋39P

〈いつのころでありましたのか知りませんが、英吉利のヨークと云ふ所に、ロビン／ソン、クルーソー、といふ人が在りました〉

特52-688　R41-238

⑭③ **漂流者と野蛮人**　デフォー著　河島敬蔵註釈　（九月）大阪　浜本伊三郎（浜本明昇堂）発行

19cm　緒言2＋英文55＋註釈44P

〈註釈　five canoes.　五艘の独木舟（ウッホブ子）大樹の樹を穿ち／取つたる舟野蛮人などの海上を往来するときに用／ゆるものなり〉

139-149　R41-335（左）

⑭④ **三人令嬢　附夏の夜の夢**　ラム著　河島敬蔵註訳　（九月）大阪　浜本伊三郎発行

19cm　緒言1＋三人令嬢の大意6＋夏の夜の夢大意5＋英文36＋註釈43P

〈（三人）英国の王リアに三人の娘あり長をゴネリルと曰ひ次をレガンと曰ひ末をゴルデリアと曰へり王は齢ひ八旬を越へ政治に倦み〉

〈（夏の）昔時アデンス国に一の厳法あり女子にして父が定めたる男子に嫁する／ことを拒む者を死刑に処する法これなり〉

⑭⑤ **英国の義士　猶太の烈女**　スコット著　河島敬蔵註釈　（一一月）大阪　浜本伊三郎発行

19cm　緒言2＋英文69＋註釈49P

139-149　R41-390（左）

〈此大切なる物語りの残りを読者に了解せしむるには／ある重要な事件を知らすため二三ページ

の余地を割／て後に溯らざるを得ず＞　139-149　R41-456(左)

⑭⑥ 捧腹絶倒 **富村邸(とむそんてい)の基督降誕祭(クリスマス)**　トロヽープ著　深沢由次郎訳　(一二月)東京　長井庄吉(太平洋館)発行
20cm　目次1＋凡例1＋125P
＜千八百七十……年の基督降誕祭日の寒かったのは誰しも覚えて居ら／う＞　81-738　R41-457

【明治36年】

⑭⑦ **失楽園物語**　(通俗世界文学第一編)　繁野天来編　坪内逍遙閲　(二月)東京　冨山房発行
22cm　口絵1葉＋序(坪内)2＋挿画につきて・目次2＋大魔王(詩)6＋124P　挿画7葉
＜太古、日月未だ形を成さゞりし前、天国の主たる造化の大神俄に思／ひ立たしゝ一大事ありて、八百萬の天使達をば、天津高御座の御前に／呼び集めさせ給ふ＞　41-109　R42-1

⑭⑧ **沙翁物語　マクベス外二篇**　(通俗世界文学第二編)　杉谷代水編　坪内逍遙閲　(三月)東京　坂本嘉治馬(冨山房)発行
23cm　目次2＋シエークスピヤの像1葉＋113P＋はしがき2＋挿絵について5P　挿画7葉
＜(マクベス)英吉利国の北部蘇格蘭の聯邦を統治するダンカン王の親族に／マクベスといふ＞
＜(あらし)四面渺々として見渡す限り雲も濤との連れる大海原の離／れ小島に、白髪白鬚髯＞
＜(第十二夜)小亜細亜サイプラス島なるメツサリヤの一良家に男女の／双生児が＞　41-109　R42-81

⑭⑧b **聖人か盗賊か**　リットン著　原余三郎著述　(七月四版、初版三月)東京　龍川民治郎(今古堂)出版
22cm　口絵・献辞2＋アージン阿羅図(安藤仲大郎)1葉＋序40＋緒言6＋目次2＋208P＋批評8P
(下)本書後篇発梓の折に2＋口絵1葉＋序30＋緒言6＋目次2＋185P＋跋4＋批評12P
＜渠(かれ)！／渠は齢の頃三十六七歳にもや、軀は繊く姿は嫋かなり、然れも四肢恰好／せり＞
序執筆者――矢野龍渓、森林太郎、学海居士、寧斎主人、徳富蘇峰、竹越与三郎、黒岩涙香、佐

々醒雪、饗庭篁村、須藤南翠、右田寅彦、巌谷小波、大町桂月、後藤宙之助、泉鏡花、菊地幽芳、長谷川天渓、蟠湖、角田桜顚、正木照蔵、遅塚麗水。

鷗外記念本郷図書館・三康図書館

⑭⑨ **みさを物語** ラム著　田中酉熊訳註　(九月)田村奈良吉発行(英学新誌社蔵版)
19cm　はしがき6＋150P(みさを物語＝28P)、(左)英文(み)13＋(雪)26＋(旅)36P　96-333　R42-161
〈時は亭午(まひる)、一日中の暑さ盛りであつた。賤しからぬ素性とみえし一／人の老媼が、家の戸に近き涼亭(あつまや)の中で糸を紡いでゐた〉
併録作品目次——みさを物語○雪人形(ホーソルン)R42-181○旅役者(ヂョーヂ、サンド)204

⑮⓪ **英文訳註 世捨人** スティヴンソン作　戸川秋骨訳　(四月)東京　田村奈良吉(英学新誌社)発行
19cm　はしがき2＋小伝7＋(世)72＋(一)54P(左)英文(世)41＋(一)32P　139-262　R42-293
〈(世捨人)ウイルが其養父母と共に住へりし水車場は松の森と大山との間の下／り坂になれる谷間にありき〉
〈(一夜の宿り)千四百五十六年十一月の末の事なりき雪は小やみなく烈しく降りし／きりて巴里の町を覆ひ、或は時に吹きくる一陣の風に吹雪と散り〉

⑮① **婿選び** (英文学研究第五冊)　ヂッケンス著　山県五十雄訳註　(五月)東京　山県操(内外出版協会)、内田正義(言文社)発行
19cm　読者諸君へ2＋33P、(左)肖像1葉＋英文24＋小伝7＋註訳16P　139-262　R42-336
〈『真実に良人(あなた)彼の人は此前の集会の晩にそれはそれはお照の／機嫌を取つたのですよ』と丸田の内君(おくさん)は、一日働いて／帰つてから、今しも頭の上に絹の手巾を被せ〉

⑮② **二人女王** ハッガード著　菊地幽芳訳述　(五月)東京　菊地むめ(春陽堂)発行
22cm　はしがき1P＋口絵(彩色)2葉＋323P　139-294　R42-410

〈わが愛児を失ひてより二週間後の事なりき、余は総て此世の望みを奪ひ去られ、なす事も無くして、一夕居屋に煙草を喫し居たるに、折しも舊友加治遠里氏と宇土大尉と訪ずれ〉　74-299　R 43-1

⑮③ **ゼ、マーチヤント、オブ、ヴエニス**　シエーキスピヤ著　土肥春曙訳述　(六月)東京　服部国太郎(服部書店)発行　(川上一座上演)
18cm　はしがき1＋登場人物1＋41P
〈公爵　アントニオは出頭し居るか。／アント　出頭致して居ります。／公爵　コレ、アントニオ、慈悲憐愍などといふ考へは兎の毛程も有ぬ、－非情の木石、－人非人の悪魔〉　97-17　R 43-172

⑮④ **ヴィカー、ヲブ、ウェークフィールド**　ゴールドスミス著　浅野和三郎訳　(七月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行
19cm　評伝12＋人物1＋目次3＋464P
〈妻を迎へ、子女夥多生ませ、それを立派に育てあげる勤直家は、あ／の独身生活をして、人口の増殖を如何にせん、などゝ歎息して居る／人間よりは、ずッと国家への奉ロになる〉　96-379　R 43-200

⑮⑤ **沙翁物語　ハムレット及エニスの商人**　(世界通俗文学第六編)　中島孤島編　坪内逍遙閲　(八月)東京　坂本嘉治馬(冨山房)発行
23cm　ハムレット像1葉＋序2＋目次2＋120P＋シェークスピヤの生涯12P　挿画6葉
〈(ハ)月は氷の如く冴え渡つて、水のやうな空の色、寒さは泌み〳〵と／肌に迫る〉　41-109　R 43-445
〈(ヱ)伊太利エニスの港が、世界の商権を一手に握つて、殷富の名／天下に轟きわたつた頃、此の土地でも有名な高利貸の一人に、／シャイロックといふ猶太人があつた〉　41-109　R 43-490

⑮⑥ 沙翁悲劇 **ハムレット**　土肥春曙・山岸荷葉著　(一〇月)東京　冨山房発行(川上音次郎興業権所有)
23cm　写真1葉＋緒言(荷葉)4＋場割の異同2＋146P

〈鷲瀬　大層お待せして失礼しました。さて過日は故従二位様の御会葬、またこの度／は、お上の御婚儀に就きましても再度までも〉　45-300　R44-1

⑮⑦

ゴールドスミス　寒村行　（外国語研究叢書）　久保天随・天野淡翠共訳　（一〇月）大阪　福岡元治郎（鐘美堂本店）、東京　中村芳松（鐘美堂支店）発行
17cm　緒言9＋原著者書簡3＋77P＋ノート15P
〈あはれゆかしきオーバンの／野中の村を恋ひくれば／思い出おほきわが身かな〉　139-387　R44-159(左)

【明治37年】

⑮⑧

スコット湖上之美人詳解　下巻（英文学註釈第一巻）　岡村愛蔵訳述・発行　（三月）東京　三省堂
19cm　緒言2＋113P（第四編以降）
〈恐怖の中より一条の冀望が湧き出るときは所謂対比に由りて非常の愉快を感ずるものなり〉
緒言に「昨年十二月を以て本書上巻を発行するや」とあり　139-408　R44-223(左)

⑮⑨

アラビヤンナイト物語　第一編　深沢由次郎訳　（四月）東京　長井庄吉（英語世界社）発行
22cm　128P
〈ササニア王朝（こは古代の波斯王にして大陸及び諸島嶼は更にも云はず、ガンジス河／を超え、殆ど支那に至る迄も其版図を拡張せしものなり）の歴史に依れば〉　78-47　R44-224

⑯⓪

沙翁物語集　ラム著　小松武治訳　（六月）東京　日高藤兵衛（日高有隣堂）発行
19cm　自序4＋原序6＋序4＋序（上田敏）3＋小羊物語に題す十句（漱石）4＋目次2＋366P＋解題15＋重要性格一般18＋ラム小伝9＋シェークスピーヤ小伝14P
〈（リーア王物語）昔不列顛の王リーアに三人の娘ありけり〉　98-10　R44-301
〈（オセロ物語）以太利国ヴェロナ市の富裕なる元老議官ブラバンシオの娘にデスデモナと呼ぶ令

嬢ありけり〉 R44-333
〈(ロメオ ジュリエット恋物語)昔以太利の国ヴェロナ市に、キャピュレットとモンタギューとの二豪／族ありけり〉 R44-351
〈(マクベス物語)温和なるダンカン王の蘇格蘭に君臨し給ひける時、諸公の中にマク／ベス公と呼べる人あり〉 R44-372
〈(ハムレット物語)丁末の女王ガートルートは、ハムレット王遽かに崩御し給ひしによりて〉 R44-387
〈(御意の儘物語)仏蘭西がまだ封建時代で数多の諸侯が各地に割據し〉 R44-404
〈(十二夜物語)セバスティアンと其の妹ヴァイオラとはメッサリナ生れの双生児の〉 R44-427
〈(暴風雨物語)曾て或る離れ小島が沖中にぽっちり一つありまして、プロスペロと／云ふ老人と、ミランダと云ふ大層綺麗な小娘と〉 R44-446
〈(威尼斯商人物語)昔猶太人のシャイロックと呼ぶ高利貸がヴェニスに住んでいて〉 R44-462
〈(冬物語)昔シヽリー王レオンティーズと容色美はしく淑徳人に優れて居る后〉 R44-482

⑯① **カーライル英雄論詳解** 本田増次郎編 (一二月)東京 山県操(内外出版協会)発行
19cm 解説4＋62P

〈"Prophet". One who speaks for another の意で、天命／を承けて之を人に告ぐる社会の警醒者をいふ。予言者と訳すれども卜筮家が身／の上を占ふのと違って、〉 特27-984 R45-39(左)

⑯② **天路歴程** バンヤン著 池亨吉訳 (一二月、続四二年二月)東京 ジョージ、ブレスウェート(基督教書類会社)発行
正続二冊19cm 目次2＋挿絵目次2＋由来並緒言8＋374P＋自跋3P、(続)緒言2＋目次2＋挿絵目次1＋281P 挿画13葉(1葉欠)

〈浮世の曠野を渡り行きて、唯或る洞穴の辺りに休らひ、暫し身を／横たへて眠る程に、一とつの夢を夢見たり〉 98-55 R45-40249

【明治38年】

(163) 註訳 **失楽園** 第一巻 ミルトン著 内村達三郎訳 (六月)東京 田中源三郎(有楽社)発行
19cm 総説11＋附言片々2＋101P＋Vocabulary(A～Y)48＋英文26P
〈謳へ天の詩神よ人類最初に天の命に背きしことを／又は神に禁ぜられたるあの樹の菓実のことを〉 97-279 R46-103(左)

(164) **王子羅世刺斯伝** ジォンソン著 芝野六助訳述 上田敏校閲 (六月)東京 宮川保全(大日本図書株式会社)発行
19cm 序詞(上田)9＋自序4＋目次5＋224P
〈空想の私語に軽信して耳を傾け、浮望の幻影を熱中して追求し、／幼年の約束は必ず老後に成る可く、今日の不足は必ず明日に与へら／る可しと予期する者は〉 98-137 R46-104

(165) **ウォルヅヲォスの詩** 浦瀬白雨訳 (七月)東京 平山勝熊(隆文館)発行
18cm 序(夏目金之助)2＋はしがき2＋小伝7＋目次3＋156P
〈(とはの命)牧場、森影、清流の／世の物皆は幻と／天国の美を装ひつつ／彩りし日もありけるを／今日老いの瀬に顧みれば／物象とはに栄もなう／そのかみの香は失せにしか〉 98-151 R46-233

(166) **テニソンの詩** 片上天絃訳 (一〇月)東京 平山勝熊(隆文館)発行
18cm 書簡(坪内逍遙)2＋目次2＋はしがき2＋略伝8＋166P
〈(無為の島)山なす浪はたちまちに／舟を岸辺に近づけん／つとめやよ」とユリウスは／陸をさしてぞ叫びける〉 98-201 R46-327

あとがき

水は方円の器に従うという。このことは、祭礼や儀式のように、形式がその本質を示す場合もある。明治期日本人の精神領域を見定めるために、「明治期翻訳文学書全集」という器を用意してみた。この器がどれほど明治期日本人の精神の形を見定めるのに役立つかは利用者の力量にかかわっている。本企画は精神という形而上的なものを見定めるために一つの形を与え、それの精細さに努力した。書誌とはそのような行為のことをいうのではなかろうか。識者に尋ねるところである。

*

書誌作業をしつつ感じたことの一つは、当時の翻訳者がこれら作品の何に共鳴し、訳述の業に携わったのか、ということであった。そして、これら訳出し出版された作品の何に読者は共鳴したのであろうか。シェイクスピア、デフォー、スフィフト、ディケンズの作品などは今日もなお古典として読みつがれている。マコーレー、カーライル、ディズレーリ、リットンはヴィクトリア朝興隆期の文芸をリードしていった文学者であり、思想家、政治家たちである。エッヂワース、ウード、ウオルトンらの作品は今日読者を失ってしまったが、当時評判を得た作家たちである。要するヴィクトリア朝の同時代文学をまるごと輸入していたのが、イギリス文学に関する翻訳の現状であった。一つ一つの作品への共鳴より先に大英帝国が代表した西欧文明への傾倒がまずあったことは、誰もが認めうるところである。

今日の出版状況では、作品そのものへの共鳴などなくとも、興味本位で一過性のものであれ、販売上有望となれば依頼されて翻訳することはいくらでもある。黒岩涙香の翻訳に、新聞経営の必要上、多少その傾向があった

かもしれないが、明治期翻訳文学の大方はそれとほど遠い。節度ある出版活動が行なわれたと思われる。なぜなら、当時の出版界にとり、翻訳文学書の読者はまだ熟成しておらず、作品そのものが新しい読者を創出していった時代だからである。

しかもなお、結果として、翻訳者はヴィクトリア朝の同時代文学を（それも当時評価をかちえた作品が中心であろうが）まるごと翻訳してしまった。そのように赴いていった日本人の西欧文明観、価値の基準の移行は、その後の日本の歩みの中でどのように固定化し、あるいは変容していったのか。

ヴィクトリア朝の同時代文学がまるごと輸入されたからといって、日本人が十九世紀のイギリス文学を十分に理解しえたのではなかったことは、当然のことである。徳川幕藩体制の秩序の下で思惟してきた日本人にとり、西欧市民社会が培ってきた秩序とその思惟を、たとえ普遍的なものが双方に存したとしても、一朝一夕に転移することは容易でない。翻訳者は未知なる西欧社会と人間との関係を（たとえイギリスの土地に一時滞在した翻訳者であろうと）日本の社会と人間との関係から読み直し、時には原作と異なる作品世界を創造してしまった。

読者は、それら作品を西欧の文学として理解し、時には西欧の現実と理解していった。日本の近代文学、いや日本の近代社会そのものが、そうした錯誤の修正をくり返しつつ形成されていったことに思いを致せば、現在の地点からそれらは錯誤とか原作の意図を忠実に反映していないといって、捨て去ることはできない。しかも、それらは今日のわれわれを形成してきた（さまざまな矛盾を露呈しはじめている）日本近代社会の形成期に遭遇した精神領域の問題なのである。翻案文学時代とも呼ぶべき明治五年から三十七八年までの明治期翻訳文学を一区切りに概括した理由もここある。

しかしながら、西欧社会とその文学への理解が次第に深まり、英文学等への専門研究が進展する過程で、日本の文学世界でもない西欧の文学世界でもない明治期翻案文学に知識人たちは当惑し、それらを文化の後進性と理

解していくことになる。あたかも泉鏡花の世界が、大正期の文壇で否定されていったように。その選択は、西欧近代社会を創出していった近代合理主義思想の一つの帰結ともいえる。そして、その後の日本文学は西欧を内蔵させてしまうことにより、自らの文学世界を確立しようと努めてきた。明治期翻訳文学は、文学を成立せしめる社会的成熟をまだ獲得していない時代の、近代化過程において日本人の内的世界の分裂を生んだにもかかわらず、厳しい自己認識の道を開いた文学空間ではなかったろうか。翻訳者たちのこれら作品への共鳴も、その辺にあったのではなかったろうか。そのために、イギリスの同時代文学で評判になっていた作品を遍歴しつづけたのではなかったかと考える。

*

文学の範疇をどのように定めるかによって翻訳文学書の枠も移動する。スマイルスの『西国立志編』、トーマス・モアの『良政府談』、ミルの『自由之理』、ベンサムの『自由論』、ルソーの『非開化論』も文学として評価することができる。ただ、本全集からは外した。理由は、小社から近く社会科学系の翻訳書集成のマイクロフィルム版を刊行し、そこでほぼそれらを収録するからである。

そのようなものを除き、一般に翻訳文学書として認められているものは、国会図書館に所蔵されていなくとも、すべて目録化することをめざした。しかし、力量の不足と時間の制約により、イギリス文学編では、左に掲げる十五点の訳書について、調査ができなかった。

1　世に渡るたつき風琴　香雨女史訳　明治一五年序（ウォルトン、⑦1の項参照）
2　仏国某州領主麻吉侯情話（マキシムこうじょうわ）　藤田鳴鶴訳述　明治一六年七月御届　春夢楼印行（ラム「お気に召すまま」）
3　克来貌公小伝　田原徹訳　明治二二年六月　顔玉堂刊（マコーレー「クライヴ伝」）

4 弥爾頓論註釈（マコーレー氏） 渋江保訳 明治二三年刊（マコーレー「ミルトン論」）
5 刺西拉斯経歴史（亜比斯尼亜国王子） 渡辺松茂訳 明治二三年一〇月 積善館刊（ジョンソン「ラセラス伝」）
6 天路歴程（啓蒙） 佐藤喜峰訳 明治二四年五月 十字屋刊（バニヤン「天路歴程」）
7 大探険 菊地幽芳訳 明治三〇年二月 駿々堂刊（ハッガード）
8 クリスマスカロル 浅野和三郎訳 明治三五年四月 大日本図書刊（ディケンズ）
9 質素倹約の話 加藤眠柳訳 明治三六年一月 内外出版協会刊（ゴールドスミス「ウィークフィールドの牧師」）
10 忘れかた美 若松賤子 明治三六年二月 文武堂刊（ミス・プロクター「船乗り少年」）
11 英国士道物語 加藤眠柳訳 明治三六年四月 内外出版協会刊（クレータ「ジョン・ハリファクス・ジェントルマン」）
12 御婦人殿下 山田美妙訳 明治三六年四月 内外出版協会刊（マックス・オレル）
13 海賊 木村鷹太郎訳 明治三八年一月 尚友館刊（バイロン）
14 テニソンの詩 入江花錦訳 明治三八年六月 文学同志会刊
15 キイツの詩 田山花袋訳 明治三八年九月 隆文館刊

すでに凡例でことわったが、黒岩涙香、九亭素人、採菊散人、不知火、一二三子の翻訳・翻案ものの多くは省いた。その多くは、いわゆる探偵小説と呼ばれている一類である。理由は量的な問題（約八十点を確認）と調査不足のためである。

以上のほかにも、明治五年から明治三十八年までに刊行されたイギリス文学の翻訳書はまだあるかもしれない。ご教示賜われば幸甚である。

*

本企画を刊行にこぎつけるまでには、多くの方々のご指導・ご協力を賜わった。企画の発端はすでに十年以上前になるが、木村毅、本間久雄両先生に明治期翻訳文学への手引をしていただいたことから始まる。当時、私はある出版社に勤務し、翻訳文学の復刻版を企画し、木村先生に解題を、本間先生に推せんを依頼し、不明な点につきしばしば両先生の書斎を訪ね、教えを乞うた。そのときうけた知識とメモと集めた資料が今回の編集にどれほど役立ったことか。

本企画はただちに明治期翻訳文学全集に赴いたのではなかった。明治期の英学全体の翻刻と註釈書と翻訳書の目録作成から始まり、その厖大な量ととりとめのなさに途方に暮れた末に、辿りついた仕事である。その過程で、高梨健吉、惣郷正明両先生から暖かいご教示を賜わったことに感謝する。本目録に直訳・注釈書が加わったのは、そのような経緯によるところが大きい。

書誌の作業をすすめていくについて、直接間接役立った書物は多い。それらは数えあげたらきりがない。ただ、グギ・ワ・ジオンゴ著『精神の非植民地化』（宮本正興、楠瀬佳子共訳）の読後感を記しておきたい。「イギリス文学とイギリス文化の優先的地位を拒否」したケニア人にとっての英学と、日本人が接してきた英学とは、果して異なるものであったのだろうか。異なるものがあったとすれば、それは何だったろう。そうした疑問が脳裏を横切っていく。トリニダードの人E・ウィリアムズが『帝国主義と知識人』（田中浩訳）で提示したことも、おそらく根柢で連なっている。その他、外国文化研究、翻訳文学研究をしていくうえで考えさせてくれる本は多くあったが、今は書誌文献のみを末尾に一覧し、謝辞に代えるにとどめる。

目録を作成するにあたり、最大の困難は原著の特定にあった。（翻訳原本の特定は困難をきわめ、その原題と作品の初刊年を明示するにとどめた。今後の研究に期待する。）柳田泉、豊田実の著書はその手掛りを得るのに、

役立った。だが、不明の点も多く、それらを明らかにするため、原著に当たる作業を必要とした。その作業を、この暑い夏中かけて引き受けて下さったのが、島田謹二先生の教えを受けられた岩野春一氏であった。最後まであいまいであったエッヂワースの原著を特定するため、その全集をドイツの古書店でようやく発見され、急ぎ航空便でとりよせて、報告して下さった日のことは忘れられない。その成果が、「原著者及び原著索引」である。

「翻訳者索引」「出版人・発行人索引」は一風変わったものとなったが、そのヒントとして『東京現在著作家案内』の存在を思いおこさせて下さった、国立国語研究所の飛田良文教授にお礼申し上げる。

イギリス文学編の解題は『日本近代文学大辞典』より、島田先生のご了解を得て、転載させていただいた。本目録に即して新たに書き下ろしていただきたかったが、今は残された時間を半世紀にわたって研究されてきたフランス派英文学の研究の総仕上げと、秋山真之第二部刊行のために費やしたい、旧稿で役立てば利用してかまわない、との言葉に、先生の健康を考えると私は同意せざるを得なかった。旧稿とはいえ、イギリス文学編の概論としてこれ以上ふさわしい一文はないと私は考える。読者にご了解願うところである。

また、転載にあたり、講談社文芸局長大村彦次郎氏のご配慮があったことを付記しておく。

本目録に基づくマイクロフィルム版を作成するに際しては、所蔵先である国立国会図書館の関係各位に一方ならぬご協力を賜わったことを申し述べねばならない。収録書の調査閲覧からマイクロ撮影に至るまで、業務内であれ、三上良一図書閲覧課長、浅沼栄氏にはさまざまな配慮を賜わったことに深く感謝する。併せて、閲覧のたびにお手数をかけた図書課の課員の方々にお礼申し上げる。撮影に際しては複写課の大口欣一氏、資料保存課の塚瀬剛氏のご配慮に感謝する。撮影困難な本の修理には大竹製本所の大竹博氏の労を煩わした。さらに、坂下精一課長、多田俊五次長、伊藤尚武課長には、種々ご教示賜わったことを記して謝する次第ある。

国会図書館本の破損を補充するために、国立国語研究所図書館のご協力を仰ぎ、野元菊雄所長、飛田良文部長のご配慮を賜わった。国会図書館に所蔵していない翻訳書の調査では、明治新聞雑誌文庫、三康図書館、文京区立鷗外記念本郷図書館などの協力を得た。

マイクロフィルム化作業は日本マイクロ写真株式会社が担当し、実務は河南寿麿、柳田修司両氏の尽力をいただき、撮影は松下義幸、久保田寿両写真士に担当していただいた。

一九八七年九月

榊原貴教

*

書誌文献――「明治期翻訳文学書全集」目録編纂に利用した書目を挙げ、これに代える。

明治文化全集　第二十二巻（翻訳文藝篇）　明治文化研究会編（明治初期翻訳文藝年表／柳田泉）　昭和二年初版　昭和四十二年第二版　日本評論社

西洋文学翻訳年表（「岩波講座　世界文学」第八巻）　木村毅・斎藤昌三編　昭和八年　岩波書店

日本沙翁書目集覧　山口武美　昭和八年　詩仙洞

明治初期の翻訳文学（明治文学叢刊）　柳田泉著　昭和十年　春秋社

明治文学書目　村上浜吉監修　昭和十二年　村上文庫　昭和五一年復刻　飯塚書房

日本英学史の研究　豊田実著　昭和十四年初版　昭和四十四年三刷　岩波書店

明治大正昭和翻訳文学目録　国立国会図書館編　昭和三四年　風間書房

日本キリスト教文献目録　明治編　国際基督教大学アジア文化研究委員会編　昭和四十年　創文社

自慶応四年至明治二三年翻訳書目第一次未定稿　東京大学文学部文化交流研究施設日本文化カード小委員会　昭和四三年
明治・大正・昭和邦訳アメリカ文学書目　細入藤太郎監修　(財)国際文化会館・福田なをみ編纂　昭和四三年　原書房
日本の英学一〇〇年（明治編／別巻）　日本の英学一〇〇年編集部編（年表・高梨健吉、大村喜吉）　昭和四三―四四年　研究社
英米児童文学年表／翻訳年表　清水真砂子・八木田宜子編　昭和四七年　研究社
明治文学全集　7　明治翻訳文学集（日本翻訳史概観・木村毅／明治翻訳文学年表・田熊渭津子）　昭和四十七年　筑摩書房
明治期刊行図書目録　国立国会図書館整理部　昭和四八年　国立国会図書館
日本近代文学大事典　第四巻　日本近代文学館編　昭和五十二年　講談社
比較文学辞典　松田穣編　昭和五十三年　東京堂
明治前期戯作本書目（日本書誌学大系）　山口武美著　昭和五十五年　青裳堂書店
明治期フランス文学翻訳年表（『フランス小説移入考』）　富田仁　昭和五十六年　東京書籍
日本におけるシェイクスピア書誌　為房裕子・中島厚子　昭和五十九年　女子聖学院短期大学
日本戯曲総目録（一八八〇―一九八〇）　加藤衛編　昭和六十年　横浜演劇研究所
その他、各大学図書館、研究所などの所蔵目録

翻訳者索引——校閲者・序跋等の筆者を含む

本索引は明治二十五年三月出版の『東京現在著作家案内』（明治文化全集　第二十巻　文学芸術篇　所収）を念頭において作成した。『案内』の凡例に「当時在京の小説家、翻訳家、狂言作者等、諸家の雅号を五十音順に列叙し住所、寄寓所を記し音問等の便に供す」とある。

本索引はもちろん「音問」の役には立たぬが、翻訳者の著作当時の住所、寄留地を明らかにするように努めた。同時に、出自も明らかにし、雅号ではなく本名による五十音順の配列とした。『案内』と併せて利用いただければ、双方補い合い、近代文学研究に役立つものと考える。

本稿は概ね収録書の奥付等から作成した。厳密な校訂を経ていない第一次稿である。

あ

饗庭与三郎（篁村、龍泉居士、竹の舎主人）　安政二年江戸生れ　序㊶

赤司新三郎（春煙小史）　佐賀県士族　下谷区谷中清水町一番地　㊽　→木下新三郎

浅野和三郎（憑虚）　明治七年茨城県生れ　㊹

赤松連城　校閲㊺

跡部正道（素山）　校閲㊹㊾㊿

阿部弘国　東京第九大区二小区小石川竹早町百六番地　④

天野淞村　序㊶

天野淡翠　㊼

雨の家狸遊　㉝

有栖川宮熾仁親王　天保六年京都生れ　題辞㊶

新井清彦（河田泰之助、河田清彦）　京都府下丹後国加佐郡河守町大字波見（美）六番所　河田㊲㊺㊻　校閲㊸

池亨吉（皐雨郎）　明治六年高知市生れ　高知県高知市中島町六十番屋敷　㊷

石田羊一郎（東陵）　慶応元年仙台生れ　東京市市ヶ谷田町二丁目二十二番地　⑳

磯野徳三郎（依緑軒主人、筑水）　安政四年筑後国生れ　福

岡県士族　麹町区一番町十九番地 ㊷
磯辺弥一郎　文久元年豊後生れ　東京府平民　東京市神田
錦町一丁目十二番地国民英学会 ⑩④⑩⑥
板倉興太郎　明治六年備後生れ　広島県平民　神田区駿河
台南甲賀町四番地岡谷国三郎方寄留 ㊾
井上十吉　文久二年徳島生れ　校閲⑩④⑩⑥
井上勤　嘉永三年阿波国生れ　徳島県士族　徳島県名東郡
前川村三三一番地 ⑫　赤坂区新町三丁目二十四番
地 ⑲　府下芝区今入町七番地寄留 ㉒㉚　麹町
区上六番町四十七番地寄留 ㊸⑥⓪⑧④⑧⑤
井上不鳴　文化九年生れ　阿波徳島の藩医　勤の父　序⑫
ウェルス　校閲⑪③
植木貞次郎(泰東居士)　新潟県平民　東京下谷区池ノ端仲
町七番地広瀬方 ⑨①　東京市本郷区本郷五丁目十五
番地寓 ⑨①
植田栄(花月情史)　跋㊺
上田敏(柳村)　明治七年東京生れ　序⑯⓪　校閲⑯④
牛山良助(鶴堂)　長野県平民　神田区五軒町二十番地 ㊹
神田区末広町十二番地 ㊹㊾㊿
宇田川文海(半痴居士)　嘉永元年江戸生れ大阪府平民
大阪府東区北浜五丁目二十三番地 ⑥①閲㉝
内田成道　東京府平民　東京麻布区狸穴町七番地 ⑤①
内田貢(不知庵、魯庵)　慶応四年江戸生れ　東京小石川江
戸川町十五番地 ⑪⑦
内田弥八(芳渓)　徳島県平民　芝区三田二丁目二番地慶応
義塾寄留 ㊲
内村達三郎 ⑯③
浦瀬七太郎(白雨) ⑯⑤
遠藤速太　鳥取県平民　東京府下神田区今川小路二丁目十
七番地寄留 ⑥⑥
大久保常吉(夢遊、桜洲)　嘉永六年生れ　神奈川県平民
麹町区有楽町二丁目二番地 ㉟⑥④
大倉本澄　大阪市西区阿波座一番町九十三番屋敷 ⑪③
大島国千代　京都府士族　東京市神田区今川小路二丁目十
一番地寄留 ⑫①⑫⑧⑫⑨
大屋八十八郎　東京市市ヶ谷田町二丁目三十三番地 ⑫⓪
大和田建樹　安政四年伊予宇和島生れ　校閲・序 ㊷
岡千仭　天保四年仙台生れ　宮城県士族　東京芝区愛宕町
三丁目一番地 ⑤①
小川漁史 ⑩③
小川義綏　題辞⑮
尾崎庸夫　東京本所区外山手町五八番地 ㉛
尾崎行雄　安政五年生れ　東京府平民　東京神田区駿河台
南甲賀町二番地 ⑤⑨　序㉙㊳

尾崎行隆　三重県士族　東京神田区駿河台南甲賀町二番地（在上海）㊾
織田純一郎（旧姓、丹羽）　嘉永四年京都生れ　東京府平民　本所区亀沢町二丁目十五番地　㉑　大阪府平民　東京麹町区富士見町二十番地寄留　㉒　→丹羽純一郎
小野宰（東奥致堂）　序㊼
小野友次郎　校閲㊾
小幡篤次郎　天保十三年豊前中津生れ　序⑰

か

海雲漁翁　序㉜
加勢鶴太郎　⑯
片上伸（天弦、天絃）　明治十七年愛媛県波止波村生れ　⑯
片山淳吉　閲⑨
片山平三郎　静岡県士族　芝区芝公園地松蓮社寄留　⑪
加藤政之助（城陽）　安政元年生れ　埼玉県平民　北足立郡滝馬室町八十四番地　㉙
河島敬蔵（鶯林学人）　安政六年生れ　和歌山県士族　和歌山区吹上組西徒町十五番地　㊱㊴㊸㊹㊺
河田泰之助（清彦）　→新井清彦
河津祐之　嘉永二年生れ　三河国西端藩士　題字㊴
菊地清（幽芳）　明治三年水戸生れ　⑮
菊地純（三渓、晴雪楼主人）　文政二年紀伊生れ　奥儒者　序㊹㊶
喜多川金吾（麻渓居士）　東京府士族　麻布谷町五十七番地　㊸
木下新三郎（春煙小史）　佐賀県士族　東京本郷区□島新花町二十六番地　㊺　→赤司新三郎
肝付兼行　序㊶
九岐晰　大分県平民　小石川区新諏訪町二十一番地　筆記　⑪
草野柴二（若杉三郎）　明治八年岡山県羽仁村生れ　㊶
草野宜隆（丈山居士）　熊本県士族　麹町区中六番町十番地　㉞
草間時福（石鉄居士）　嘉永六年京都生れ　序㊴
久保得二（天随、兜城）　明治八年東京生れ　高遠藩士久保譲次の次男　⑮
倉田績　序㊱
栗野忠雄　東京府平民　芝区烏森町一番地　㊵
栗本鋤雲（匏菴）　文政五年江戸生れ　幕府医官喜多村槐園の三男　序㉙
呉秀三　慶応元年江戸生れ　序⑩
黒岩周六（涙香）　文久二年土佐国川北村生れ　⑫⑫⑤　閲⑬⑧
狷堂野史　→久松義典

幸田露伴　慶応三年江戸生れ　⑱
小松武治（月陵）　⑯
小宮山桂介（天香）　安政二年常陸国磯浜生れ　水戸藩士　㊴

さ

採菊山人——→条野伝平
斎藤恒太郎　三重県平民　東京芝区新銭坐十一番地　㊸
斎藤了庵　①⑳
坂部訓正　校訂㉒
佐々木吉三郎　序⑫
佐藤喜峰　福岡県士族　芝区通新町十三番地　⑮
佐藤鐘太郎　静岡市二番町三十番地　⑫
塩井正男（雨江釣士）　明治二年但馬国豊岡町生れ　豊岡藩士の子　東京市本郷区駒込東片町百六十一番地　⑫
志賀重昂（矧川）　文久三年三河国岡崎生れ　儒者志賀重職の子　序⑪
繁野政瑠（天来）　明治七年生れ　徳島藩士の子　⑭
市東謙吉　千葉県平民　東京日本橋区元大工町十三番地寄留　筆記㊵㊶
品田太吉　新潟県平民　本郷区弓町一丁目二十六番地　㊸
芝野六助　⑯
島崎湊（鴻南）　高知県士族　高知県土佐郡萬々村二十二番地　㊹
条野伝平（採菊山人、山々亭有人）　天保三年江戸生れ　⑩
城慶度　東京府平民　京橋区南鍋町一丁目八番地　㉓
末広重恭（鉄腸）　嘉永二年生れ　宇和島藩勘定役末広禎介の次男　東京麹町区内幸町二丁目三番地　㉘
末松謙澄（笹波萍二、清萍）　安政二年生れ　福岡藩士末松織雲の四男　芝区公園地内御成門通　㊼　序㊷
菅沼政経　題辞㊱
杉谷代水　⑭
鈴木玄龍　日本橋区呉服町十二番地　⑨
鈴木虎市郎　⑭
鈴木常松（青渓）　大阪市東区安土町四丁目三十八番屋敷　⑩
住谷八朔（天来）　東京市神田区猿楽町　⑬
関徳（逐軒）　兵庫県士族　丹波篠山藩儒者関楓陰の子　評㊶
関直彦（橘村）　和歌山県士族　東京神田区北甲賀町十七番地　㉕
関藤成緒　広島県士族　東京府赤阪区赤阪仲ノ町二十三番地寄留　⑦

た

高田寅二郎　京都府上京区第十組相国寺御前町一番戸寄留 ㊼

高田義甫　弘化三年生れ　八幡の豪商納屋嘉八代目　滋賀県下近江蒲生郡八幡町　校①⑳

高橋五郎　序㊹b

高橋健三(自恃居士)　安政二年江戸生れ　尾州武術師範高橋石斎の子　⑭

高橋雄峰　⑬①

滝本誠一　安政四年江戸生れ　愛媛県士族　大坂東区横堀二丁目十九番地寄留　校訂㊱

竹内余所次郎　慶応元年生れ　石川県平民　東京府下牛込区神楽町一丁目十四番地寄留　㊷

田島象二(任天学人)　嘉永五年江戸生れ　尾州藩士　跋㉒㊻

辰巳小二郎　安政六年江戸生れ　尾州藩士　閲・序㊽

田中達三郎　神田区今川小路二丁目十番地　㉔

田中秀　序㉒㊻

田中酉熊　⑭⑨

田村左衛士(峨洋逸人)　京都府左京区丸太町通烏丸西へ入常真横町十六番戸　㊹

竹葉散人　⑩⑧

チェンバレン　B. H. Chamberlain　序⑩④⑩⑥

塚原靖(澁柿園、蓼州)　嘉永元年江戸生れ　幕臣　東京府芝区南佐久間町二丁目二番地　㊻b㊾

土井林吉(晩翠)　明治四年仙台生れ　⑬④

坪内雄蔵(逍遙、春の舎朧)　安政六年美濃生れ　愛知県士族　東京小石川表町四十五番地　㉖　東京府平民本郷区真砂町十八番地　㉗㊺　序㊶㊺⑯⑥　閲⑭⑦⑭⑧⑮⑨

ディクソン　J. M. Dixon　序⑩④⑩⑥

デニング　W. Dening　校閲・序㉜

天涯逸史　評㊷

土肥庸元(春曙)　明治二年熊本県長洲生れ　麹町区下二番町三十七番地　⑮③⑮⑥

土居通豫(香国)　嘉永三年土佐佐川生れ　題辞㊴　序㉔

戸川明三(秋骨)　明治三年肥後生れ　⑮⓪

東酬居士　序㊾

富永徳磨(蕃江)　⑭⓪

鳥尾岩太郎　徳島県平民　東京麻布区芝森元町二丁目十一番地寄留　㊽

鳥尾小弥太　題字㊺

な

中尾氏就　大阪府平民　東京浅草東町六番地寄留　⑬　校閲㊽⑩⓪

中川太郎　山口県士族　京都市下京区若宮通花屋町南入西市松町第四番地寄留　㉟
永坂秀親　校正⑬
中島茂一（孤島）　明治十一年長野県生れ　⑮
中村正直（敬宇）　天保三年江戸生れ　題辞⑮
永峰秀樹　嘉永元年甲斐国生れ　医師小野通仙四男　②
夏目金之助（漱石）　慶応三年江戸生れ　序⑯⓪⑯⑤
新宮寸鉄　⑬③
仁田桂次郎（叢菊野史）　安政五年生れ　静岡県平民　伊豆国田方郡仁田村一番地　㊳㊼㊽㊸
二宮熊二郎（孤松）　慶応元年生れ　宇和島藩士尾崎覚太夫の末子　㊼
丹羽純一郎　東京第十大区三小区浅草今戸町十一番地　⑥⑦　東京浅草区地方今戸町八十四番地　⑧　→織田純一郎
任天学人→田島象二
野田良吉　東京市京橋区三十間堀二丁目一番地　⑬⑧

は

服部誠一（撫松居士）　天保十二年磐城国岳下村生れ　福島県士族　東京本郷区湯島天神町一丁目四番地　㉓㊻　校閲⑥⑦⑧㊹　序㊹
原余三郎（抱一庵主人）　慶応二年岩城国郡山生れ　二本松藩士柏木喜嘉三の子　⑭⑧b
久松定憲　安政元年大阪生れ　評㊶
久松義典（狷堂野史）　安政二年江戸の桑名藩邸生れ　批辞㉙
平井広五郎　京都市上京区烏丸御池下ル虎屋町第三十二番戸　㊼
深沢由次郎　明治五年山梨県生れ　⑭⑥⑮⑨
福井有　三重県伊勢国津市大字下部田八十二番地　㊾
福地源一郎（桜癡、桜痴）　天保十二年生れ　長崎の儒医福地苟庵の末子　東京府下谷区茅町二丁目十六番地　⑧⑥　b　閲㉕
藤田軌達（天放道人）　大阪市東区内淡路町二丁目百五十番屋敷　⑪
藤田信（蠖堂居士）　序㊳
藤田茂吉（鳴鶴、禎）　嘉永五年生れ　豊後佐伯藩士林平十郎の第三子　東京日本橋薬研堀町三十三番地　㉛　序㉙㉜
藤西貞之（騰雲）　緒言㉑
ブラック　㊶
ホワイト　W. J. White　㊹b
本多金十郎（芳丘居士）　東京府平民　牛込区榎町四十七番

地 ㊷
本多孫四郎　長崎県士族　東京京橋区山城町十五番地　㊺
本田増次郎　㊶

ま

前田太郎（香縁情史）　静岡県士族　麻布谷町五十七番地
㊸
前野芳造（嗽石居士）　東京市下谷区根岸金杉村五十一番地
㊿
前橋孝義　東京府士族　麹町区飯田町五丁目二十一番地
㊶
益田克徳　⑲
松尾豊文　牛込区肴町三十二番地寄留　⑳㉕
丸岡久之助（春亭九花、九華）　慶応元年江戸生れ　序詩㊸
丸山平次郎（竹園居士）　大阪北区堂島浜通一丁目二十四番
地　㊾
三浦徹　日本橋区蠣殻町一丁目四番地　㊶
三木貞一（愛花仙史）　文久元年上総大網生れ　㊽
三島常　題字㊿
箕浦勝人　安政元年生れ　豊後臼杵藩士実相寺常之丞の次
男　序㉙
宮井安吉　㉔
宮崎八百吉（湖処子、西邱隠士）　元治元年筑前国生れ　⑩
宮崎富要（夢柳）　安政二年土佐生れ　土佐藩士宮崎富成の
子　㉔
宮崎嘉国　東京府士族　神田区一ッ橋通町二十二番地　⑨
三芳蘇江　評㉚
森晋太郎（嵓峰）　東京市芝区西久保広町二十一番地　⑱
森田文蔵（思軒居士、紅芍園主人）　文久元年備中国笠岡生
れ　⑮㉓　後序㉙㉛　叙⑲

や

八木半治（半の谷半痴）　愛知県士族　東京麹町区元園町一
丁目四十七番地　㉒㊻
矢野文雄（龍渓、龍谿学人、香夢楼主人）　嘉永三年佐伯生
れ　豊後佐伯藩士矢野光儀の長男　㊽　序㉙㊻
矢部新作（五洲）　元治元年栃木県佐野生れ　⑭
山縣五十雄（蠡湖）　明治二年滋賀県水口町生れ　⑲㉛
山岸惣次郎（荷葉）　明治九年東京生れ　東京市日本橋通四
丁目五番地　㉖
山田奠南　叙㉗
山田正隆　第一大区四小区美土代町三丁目四番地　⑤
同二丁目一番地　⑤
山田良作　富山県平民　麻布区麻布新網町一丁目五十四番

地 ⑰
横山鉾呂久　岐阜県平民　東京芝区三田二丁目二番地慶応義塾寄留 ㉜
横川文之助　千葉県平民　東京京橋区新富町七丁目四番地 ㊼
東京神田区仲猿楽町十番地 ㊻
吉田熹六（韜庵）　安政六年生れ　徳島県平民　東京神田区小川町六十二番地 ㉕
吉田直太郎　和歌山県平民　麹町区飯田町一丁目公園内地内警第三号 ㊼
依田百川（学海）　天保四年江戸の佐倉藩邸生れ　序㉖㊸
閲・序㊺

ら

蘭山居士 ⑫⑥
蓼州——→塚原靖

わ

若菜貞爾（瑚蝶園）　安政元年千葉佐坪村生れ　校正㉔
若林玵蔵　安政四年武蔵国生れ　速記⑪⑨
若松賤子（巌本嘉志子）　元治元年会津若松生れ ⑫⑦
和田篤太郎（鷹城居士）　安政四年岐阜県荒川村生れ　序㊿
和田万吉（わだのとろみ）　慶応元年大垣生れ　東京麹町区隼町十番地 ㉚
渡辺治（台水）　元治元年生れ　茨城県士族　東京京橋区山城町四番地寄留 ㊵　赤坂区赤坂田町七丁目三番地 ㉖
渡辺温（無尽蔵書斎主人）　天保七年生れ　幕臣渡辺重三郎の長男　東京牛込白銀町二十七番地 ③
渡辺修二郎　東京府平民　東京本郷区駒込千駄木町十三番地 ㊺㊻
渡辺松茂　岡山県生れ　大坂市北区中之島二丁目四十八番地 ㊽⑩⓪
渡辺義方　校正㉚

出版人・発行人索引

発兌人は出版人・発行人の記載のない場合のみ採録した。
出版社名は屋号として（　）内に示した。ただし発行人(者)が出版社の代表者にすぎない場合はその旨を示した。住所は当該出版物刊行時のものである。

青山清吉　東京第四大区三小区小石川大門町二十一番地　④
赤城友次郎(耕文舎)　和歌山県士族　和歌山区新町南組新中通三丁目二十一番地　㊱
赤坂亀次郎(集成社書店)　東京府平民　東京神田区小川町十番地　㉕㉖
足立庚吉　小石川指ヶ谷町十七番地　⑩③
綾部喜久二　東京市神田区雉子町三十四番地　⑬⑥
石川栄司(育成会)　東京市本郷区森川町一番地　⑭②
石川治兵衛(錦森堂)　東京府平民　日本橋区馬喰町二丁目一番地　⑨
石川貴知(桃林堂)　東京神田区美土代町四丁目五番地　㉘
石田忠兵衛　大坂市東区安土町四丁目三十八番地　㊽⑩⓪
石渡賢八郎(イーグル書房)　神田区佐久間町三丁目十三番地　㊻
伊藤岩次郎(誠之堂)　神田区西福田町一番地　㊺
稲田佐吉(薔薇楼)　東京府平民　京橋区三十間町堀二丁目四番地　⑪
井上蘇吉　東京府平民　神田区裏神保町一番地　㊷
今村金治郎(鴻盟社)　長野県平民　東京麻布区北日下窪町二番地寄留　㊽
上田捨吉(編輯)　京都府平民　大阪府南区末吉橋通三丁目十五番地寄留　㊴
内田喜三郎(吟松堂)　東京府平民　東京神田区鍛冶町二十二番地　㊺
内田正義(言文社)　東京市本郷区向ヶ岡弥生町三番地　⑬⑨
内田彌八　徳島県平民　東京芝区三田二丁目二番地慶応義

塾寄留　㉜㊲

梅原忠蔵(図書出版会社代表者)　大阪市東区北久太郎町四丁目番外一番屋敷　⑪

大島三郎　京都市士族　東京市牛込区薬王寺寺前町十八番地寄留　⑫

大野堯運　東京府平民　京橋区滝山町四番地　㉚

大橋新太郎(博文館)　日本橋区本町三丁目八番地　⑭⑱⑲⑫④⑬①

大平俊章(日進堂)　東京神田区小川町十八番地　㉘

大淵浪(駿々堂本店)　京都府平民　大阪府南区末吉橋通三丁目十五番地　㊴

岡島真七(宝文館)　大阪府平民　府下東区本町四丁目五十九番地　㉙⑥①

小野英之助　東京府士族　北豊島郡地方橋場町一三八〇番地　㊼

垣田純朗(民友社)　東京々京区日吉町四番地　⑩⑤　東京市京橋区日吉町七番地　⑫③

柏原政次郎　大阪府平民　大阪府下西区阿波堀一丁目五十五番地　㊹

加藤鎮吉(開新堂)　東京府士族　東京神田区表神保町二番地　㉘⑧①　東京市神田区表神保町二番地　⑨①⑬⑫②

金刺源次(芳流堂)　東京市神田区今川小路一丁目五番地　⑫⑧⑫⑨⑬⑤

亀井忠一(三省堂)　東京神田区裏神保町一番地　㉘⑩⑥⑮⑧

河合卯之助(文港堂)　京都府上京区第三十組妙満寺前町十番戸　㊲　京都市上京区寺町通二条下ル妙満寺前町十番戸　⑨⑦①⑩⑦①⑮①⑯①③③

川越屋松次郎　東京神田柳町一番地　⑳

菊地むめ(春陽堂)　東京市日本橋区通四丁目五番地　⑮②

木村多喜　神田区小川町十四番地　⑦④

草野茂松(編輯、民友社)　東京々京区日吉町四番地　⑩⑤

久野木信善　東京神田区猿楽町二十五番地寄留　⑧④

神代洞通(興教書院)　福岡県平民　京都市油小路上ル玉本町五番戸寄留　⑨⑤

広野仲助(広知社)　東京府平民　浅草区黒船町二番地　⑤③

国民英学会文学会(蔵版)　東京市神田錦町一丁目十二番地　⑩④

小林喜右衛門(仙鶴堂)　東京府平民　日本橋区新大坂町十番地　④⑥

小林新兵衛(嵩山房)　東京府平民　日本橋区通二丁目十三番地　⑥②⑧⑥b

小柳津要人　大坂府士族　日本橋区通三丁目十四番地寄留　④⑩　東京市日本橋区通三丁目十四番地　⑫⑩

酒井清蔵　東京府平民　神田区表神保町五番地　⑤②

阪上(坂上)半七　東京府平民　日本橋区呉服町十二番地
㉑㉓㉕　日本橋区本石町十軒店六番地　㉜
坂本嘉治馬(富山房代表者)　東京市神田区裏神保町九番地
⑭⑭⑮⑮
佐野養治(尚文館)　仙台市名掛町五番地　⑭
品田太吉　新潟県平民　本郷区弓町一丁目二十六番地　㊽
斯波二郎　愛知県平民　東京浅草区三好町五番地　㊾㊷
白井練一(共益商社)　東京府士族　東京京橋区竹川町十三番地　㊼㊸㊻
春陽堂→和田篤太郎、菊地むめ
鈴木金輔　東京府平民　京橋区本材木町二丁目二十六番地
㊿
鈴木徳輔　静岡県平民　京橋区宗十郎町十一番地寄留　⑱
鈴木常松(積善館)　大阪市東区安土町四丁目三十八番屋敷
㊾
世渡谷丈吉　徳島県士族　徳島通り町二丁目九十五番地
⑫
高橋源吾郎　東京第二大区一小区内幸町二丁目一番地　⑥
⑦　東京芝区内幸町二丁目一番地　⑧
龍川民治郎(今古堂)　東京市日本橋区葺屋町一番地　⑭b
田中源三郎(有楽社)　東京市麹町区有楽町三丁目一番地
⑯③

田中治兵衛(文求堂)　京都市下京区寺町通四条上ル大文字町十八番戸　㊹
田村奈良吉(英学新誌社)　東京市神田区表神保町三番地
⑭⑨⑮⓪
千葉胤矩(三英堂)　大阪市南区長堀橋筋二丁目二十九番屋敷　⑩①
千葉茂三郎(共隆社)　京橋区銀坐二丁目六番地　㊽
土田宗助　静岡県士族　麹町区飯田町三丁目二十三番地
⑧①
東洋館書店(発兌)　東京神田区小川町十番地　㉖
豊住謹次郎　三重県伊勢国津市大字地頭領町二十三番地
㊾
内藤加我(金桜堂)　山梨県平民　日本橋区通四丁目八番地寄留　⑦③
長井庄吉(太平洋館、英語世界社)　東京市神田区裏神保町一番地　⑭⑤⑨
長尾景弼(長尾商店)　兵庫県士族　府下芝区愛宕町三丁目一番地寄留　㉒
中島勝義(賛育社)　北海道庁平民　東京北豊島郡全杉村二六三番地寄留　⑤⑥
長島永豊　東京府士族　神田区五軒町一番地　⑲
中田道之助　京橋区銀座四丁目十三番地　⑮

中村善兵衛　大阪府平民　南区心斎橋二丁目十三番地　㉝
中村昌生(錦光堂)　東京府平民　東京府下日本橋区浪花町十七番地　㊻
中村芳松(鐘美堂)　大阪市南区末吉橋通二丁目八十九番屋敷　⑩⑥　東京市日本橋本銀町三丁目二番地　⑮⑦
成島国任　千葉県平民　神田区同朋町二十二番地　㉗
西原喜一　東京京橋区日吉町十四番地　㊸
西村富次郎　東京府平民　京橋区大鋸町四番地　㊺
服部国太郎(服部書店)　⑮③
花井卯助(積善館)　大阪府平民　大阪府下東区安土町四丁目十一番地　㊹
浜本伊三郎(明昇堂)　大阪市東区北久宝寺町四丁目三十五番屋敷　⑭③⑭④⑭⑤
原亮三郎(金港堂)　東京府士族　東京日本橋区本町三丁目十七番地　㊺⑤⑨⑥⑦
博聞社(蔵版)　東京本社　銀座四丁目　⑰㉒
深谷知恂(蔵玉堂)　東京府牛込区東五軒町三十三番地　㊻

b

日高藤兵衛(有隣堂)東京市本郷区元冨士町二番地　⑯⑩
平山勝熊(隆文館)　東京市京橋区尾張町一丁目一番地　⑯⑤
福岡元治郎(鐘美堂本店)　大阪市南区塩町三丁目六十九番屋敷　⑮⑦
福田栄造　東京府平民　日本橋区上槇町九番地　㊺
福永文之助(警醒社書店)　東京京橋区出雲町一番地　⑪⑦⑫⑦
東京市京橋区采女町二十四番地　⑬⑦
ブレスウェート、ジョージ　東京市赤坂区氷川町五番地　⑯②
前田金之丞(麕城堂)　宮崎県平民　東京浅草区南元町二十五番地　㊺
前川善兵衛　大阪府平民　同府下東区南久宝寺町四丁目八番地　⑫
町田宗七(扶桑堂)　東京日本橋区新右衛門町十番地　⑪②⑫⑤
町田浜雄(扶桑堂)　東京市京橋区北槇町十二番地　⑬⑧
松下軍治　長野県平民　東京日本橋区室町三丁目十番地寄留　⑥⑧
松田駒次郎　京都府上京区第三十一組榎木町四十七番戸寄留　⑧⑦　京都市上京区寺町通二条下ル榎木町四十七番戸　⑨④
間野秀俊(晩青堂)　東京府平民　本郷妻恋町二番地　㉗
宮川保全(大日本図書代表者)　東京市京橋区銀座一丁目二十二番地　⑮④⑯④
民友社——垣田純朗、草野茂松、渡辺為蔵
村上真助(文泉堂)　浅草区北富坂町十三番地　㊽

望月誠（兎屋書店）　東京府平民　京橋区南鍋町一丁目七番地　⑯⑥⓪

森ミツ（当籤堂）　大阪東区瓦町四丁目四番地　⑦⑨

山縣操（内外出版協会）　東京市神田区南甲賀町八番地　⑬⑨　⑮①　東京市本郷区駒込西片町十番地　⑯①

山城屋政吉（発兌、奎章閣）　東京京橋銀坐三丁目　②

山本新吉　神田区西今川町三番地　⑨⓪

吉岡平助（吉岡書店）　大阪市東区備後町四丁目七十八番邸　⑫⑥

倫敦聖教書類会社　㊹b

和田庄蔵（文宝堂）　大阪府平民　東区南久太郎町四丁目三十三番地　㉝

和田篤太郎（春陽堂）　岐阜県平民　京橋区南伝馬町一丁目十四番地　㉟　日本橋区通四丁目五番地　㊹㊾⑤⓪⑥③　⑧⑨⑪⓪⑬④

渡辺為蔵（民友社）　東京市京橋区日吉町四番地　⑭⓪

渡辺壽彦（成文舎）　神奈川士族　武蔵国北多摩郡府中駅第三六五番地　㉔

原著者及び原著索引

アーノルド Edwin Arnold (1832-1904) *The Light of Asia*, 1879. ㉟

アラビアン・ナイト *Arabian Nights' Entertainments* (*The Thousand and One Nights*) ②㉚㊽㊾

イソップ物語 *Aesop's Fables* ③④㉟㊹㊾ ③は Thomas James 撰, ㉟日下部鳴鶴の入手本, ㊹は都運箋土（トウンセント）の英訳本より訳出。

ウォルトン Catherine Augusta Walton *Saved at Sea, A Light-house Story.* ㊶

ウード Henry Wood (1814-87) *East Lynne*, 1861. ㉒ 1888年10月英国出版の版より訳出（例言）

エインズワース William Harrison Ainsworth (1805-82) *The Tower of London*, 1840. ㉘ *The Manchester Rebels, or the Fatal '45'*, 1873. ㉙

エッヂワース Maria Edgeworth (1767-1849) *To-morrow*, in "*Popular Tales*", 1804. ㊼ *The Lottery*, in "*Popular Tales*". ㊸

エリオット George Eliot (Mary Ann Cross) (1819-80) *Romola*, 1863. ㊵

オレル Max O'Rell (Léon Paul Blouet) (1848-1903) *John Bull and his Island*, 1883. ㊾ *John Bull's Womankind*, 1884. ㊾ *John Bull's Neighbour in her True Light.* ㊾

カーライル Thomas Carlyle (1795-1881) *On Heroes, Hero-Worship, and the Heroic in History*, 1841. ⑳㉖㉞㊲㊶ ⑳は1章と2章, ㉖は3章, ㊶は1章のみの訳。

ギルバード William Gilbert (1804-1890) *The Wizard of the Mountain*, 1867. ㉒抄訳

キング Edward King *The Gentle Savage : a noble*, 1883. ㉔（豊田実による）

キング, エドマンド・フーキリンアム *The Thousand Wonderful Things.* ㊻

グラント James Grant (1822-87) *The Romance of War*, 1845. (?) ㉓

クレイ　Bertha M. Clay (Charlotte Monica Braeme) (1836-84) *Dora Thorne*, 1883. ⑰　『嬢一代』 ⑫⑤

倶礼　*Home Versus Darwin.* (?) ⑧⑤

コリンズ　Wilkie Collins (1824-89) *Man and Wife*, 1870. ⑥⓪の前半（豊田実による）　『非小説』 ⑪②

ゴールドスミス　Oliver Goldsmith (1728-74) *The Vicar of Wakefield*, 1766. ⑨①⑤④　*The Deserted Village*, 1770. ⑤⑦

コンフォルト　Lucy Randall Comfort *Love and Jealousy.* ⑤③

サーゼイ　Robert Southey (1774-1843) *The Life of Nelson*, 1813. ⑤①⑦③⑫⑧⑬⓪⑬③　⑦③は1886年米国紐育刊より訳出

サッカレー　William Makepeace Thackeray (1811-63) *The Story of Mary Ancel*, in "*The Paris Sketch Book*", 1840. ⑬⑨

シェイクスピア　William Shakespeare (1564-1616) *Julius Caesar*, 1599-1600. ②⑥③⑨①①③　*Romeo and Juliet*, 1594-5. ③⑥④⑤　*Pericles*, 1608-9. ⑤⑧（ラム）　*Coriolanus*, 1607-8. ⑥⑨　*All's Well that Ends Well*, 1602-3. ⑦⓪　*Comedy of Errors*, 1592-3. ⑦⑥　*Merchant of Venis*, 1596-7. ⑦⑨①⓪④①⓪⑥①⑤③　*King Lear*, 1605-6. ①⓪②　*Hamlet*, 1600-1. ①⑤⑥　『想夫恋』 ①⓪⑧　『幻影』 ①①⓪

ジョンソン　Samuel Johnson (1709-84) *The History of Rasselas, Prince of Abyssinia*, 1759. ③④⑨④⑨⑨①②①⑥④　①②①は英国龍動 George Koutledge 出版に注釈

スウィスト　Jonathan Swift (1667-1745) *Travels into Several Remote Nations of the World by Lemuel Gulliver*, 1726. ①①⑥④⑥⑧

スコット　Sir Walter Scott (1771-1832) *The Bride of Lammermoor*, 1819. ①⓪　*The Lady of the Lake*, 1810. ②③①②①⑤⑧（②③は柳田泉による）　*Ivanhoe*, 1819. ④④①④⑤　*Tales of a Grandfather*, 1823-31. ③②

スタッフォード　James Stuffords *The Young Scholar.* ⑥①

スターリング　Starling *Noble deeds of Women.* ⑨

スタンレー　Sir Henry Morton Stanley (1841-1904) *In darkest Africa*, 1890. ①①④　未特定作品 ①⓪①①①①

スチーヴンソン　Robert Louis Stevenson (1850-94) *Will O' the Mill*, in "*The Merry Men*", 1887. ①⑤⓪　*Master Francis Villon*, in "*New Arabian Nights*", 1882. ①⑤⓪

ディケンズ　Charles Dickens (1812-70) *Sketches by Boz*, 1836. ①⑥

The Black Veil, in "*Sketches by Boz*". ⑪⑦ *Haratio Sparkins*, in "*Sketches by Boz*". ⑮① *The Italian Prisoner*, in "*The Uncommercial Traveller*", 1860. ⑩⑤（豊田実による） *A Christmas Carol*, 1843. ⑫⑦⑭①

ディズレーリ Benjamin Disraeli (Beaconsfield) (1804-81) *Coningsby*, 1844. ②⑤ *Endymion*, 1880. ④⑩ *Henrietta Temple*, 1837. ⑤⑩ *Contarini Fleming*, 1832. ⑧⑥ b

テニソン Alfred Tennyson (1809-92) 『テニソンの詩』 ⑯⑥

デフォー Daniel Defoe (?1660-1731) *The Life and Strange Surprizing Adventures of Robinson Crusoe*, 1719. ①⑤②⑩②②④⑨①③①⑤①④②①④③

トロロープ Anthony Trollope (1815-82) *Christmas at Thompson Hall*. ①④⑥

ドリウム(?) 『可憐嬢』 ⑥⑤

ハッガード Sir Henry Rider Haggard (1856-1925) *Allan Quartermain*, 1887. ①②④①⑤②

ハワード Will Howard *Spell bound*. ⑤④

バニヤン John Bunyan (1628-1688) *The Pilgrim's Progress from this World to that which is to come*, 1678. '84. ①⑤④④ b ⑥② ①⑤ は W. C. Burns（賓為霖）の漢訳から

フィリップス, S. N. *Famous Cases on Circumstantial Evidence*, 1873. ①④

フォーセット, ノニム *The Crime of Christmas eve*. ⑤⑤

ブライト (John Bright?) 『政党情話（英国奇談）』 ⑦② 『第一之美人(世界)』 ⑧⑥

ブラッセー Anna Brassey (1839-1887) *The Voyage in the "Sunbeam", our home on the Ocean for Eleven Months*, 1878. ③⑦

ブラッドン Mary Elizabeth Braddon (1837-1915) *Flower and Weed and other stories*, 1884. ④①

ベンヂスン Mrs. Bendisn *The Phantam Tower*. ①③⑧（涙香の創作説あり）

ホープ Sir Anthony Hope (1863-1933) *The Prisoner of Zenda*, 1894. ①③⑥ *Rupert of Hentzau*, 1898. ①③⑧

マコーレイ Thomas Babington Macaulay (1800-59) *Warren Hastings*, 1841. ①⑦⑧①⑨⑩①⑥①③② *Lord Clive : an essay*, 1840. ②⑧⑥⑥⑦⑧⑩⑦⑨③ ⑨⑧①①⑤ *Fredric the Great*, 1842. ④⑦⑨⑥①⑩⑦①②⑨ *Milton : an essay*,

1825. ㊼㊼　㊻㊽㊾は明治12年東京大学翻刻を，㉜は明治17年東京同盟出版書肆翻刻を，㊻は明治19年の翻刻版をそれぞれの翻訳・註釈原本としている。

マーセット　*Conversation on the history of England.* ⑬

マルクハム，ヘスチングス　Sir Albert Hastings Markham (1841-1918) *The Great Frozen Sea*, 1877. ⑱

マレイ，ジョン　John Murray 『龍動新繁昌記』 ⑥

ミルトン　John Milton (1608-74) *Paradise Lost*, 1667. ⑭⑯③

ラム　Charles Lamb (1775-1834) *Tales from Shakespeare*, 1807. ⑲㉝㊳㊷㊸㊽㊼㊷㊸㊹⑭⑭⑮⑯⓪　*A Tale of Rosamund Gray and Old Blind Margaret* ⑭⑨

リットン　Edward George Earle Lytton Bulwer-Lytton (1803-73) *Ernest Maltravers*, 1837. ⑦㉑　*Alice*, 1838. ⑦㉑　*The Last Days of Pompeii*, 1834. ⑧　*A Strange Story*, 1862. ⑫（木村毅による）　*Paul Clifford*, 1830. ⑱⑩③　*Rienzi, The Last of the Roman Tribunes*, 1835. ㉗　*Kenelm Chillingly his adventure and opinions*, 1873. ㉛　*Eugene Aram*, 1832. ㊻⑭⑧b　*Harold, the Last of the Saxon Kings*, 1848. ㊷　*Leila ; or the Siege of Granada*, 1838. ㊺　*Calderon the Courtier*, 1838. ㊺　*Night and Morning*, 1841. ⑪⑨

ワーズワース　William Wordsworth (1770-1850) 『ウォルヅヲォスの詩』 ⑯⑤

『シェイクスピア物語』20編訳出一覧

リア王　㊷㊸⑭⑯⓪　オセロー　⑯⓪　ロミオとジュリエット　⑯⓪　マクベス　㊸⑭⑧⑯⓪　ハムレット　㊸㊹⑮⑯⓪　お気に召すまま　⑯⓪　十二夜　⑭⑧⑯⓪　嵐　㊷⑭⑧⑯⓪　ヴェニスの商人　⑲㉝㊸⑮⑯⓪　冬物語　㊳⑯⓪　真夏の夜の夢　⑭⑭△　以尺報尺　㊳△　終りよければすべてよし　△　から騒ぎ　△　じゃじゃ馬ならし　㊼△　ベロナの二紳士　㊸△　間違いの喜劇　△　アゼンスのタイモン　㊸△　ペリクリーズ　㊽△　シンベライン　㊸△　（△印は，小松月陵訳『沙翁物語十種』明治40年12月博文館刊に収録されているもの）

なお，このほか明治期に訳出されたものとして，菅野徳助・奈倉次郎訳註の三省堂青年英文学叢書（『ヴェニスの商人』40年1月，『皇子ハムレッ

ト』40年7月，『オセロ』42年1月，『ロメオとジュリエット』43年11月），百島操訳述『シェークスピア物語』（嵐，お気に召すまま，冬物語訳出，42年7月内外出版協会），吉岡向陽訳『ハムレット』（44年7月春陽堂）が刊行された。

未刊のものとしては，仁田桂次郎の『泰西奇談』が全20編を予定しており，竹内余所次郎『シェキスピーヤ筋書』がマクベス，アゼンスのタイモン，ロミオとジュリエット，ハムレット，オセロを予告している。刊本未確認のものとして，粟屋関一訳『舌克斯畢（しえくすぴーや）』が㊽の広告にみえる。内容は「翻雲覆雨一名たいもん物語／情天恨地一名志しりい物語／啼鳥落花一名おせろ物語／秋風旅雁一名まきしむ物語／蓬飛萍合一名いゝぜおん物語／断魂銷骨一名べりくりす物語／悍女奇婚一名かせりん物語」以上7編合冊とある。

ほかに，柳田泉によって，藤田鳴鶴訳『佛国某州領主麻吉侯情話』（お気に召すまま）が報告されている。

マイクロフィルム版

国立国会図書館所蔵

明治期翻訳文学書全集 目録 (Ⅱ)

——明治5年～明治38年

ナダ書房

収録書目録

凡例

一、明治五年から明治三十八年までに刊行された国立国会図書館所蔵の翻訳文学書を、イギリス文学・アメリカ文学・フランス文学・ドイツ文学・ロシア文学・その他に分類する。第一期はイギリス文学編とし、それ以外を第二期とする。

二、本全集に収録する作品は、小説を中心とするが、戯曲・詩・評論等も含めた。ただし、明治二十年代に多く刊行された探偵小説類の収録は一部にとどめた。黒岩涙香、丸亭素人、採菊散人、不知火、一二三子の訳本の多くは省いた。

三、国会図書館に未所蔵のものも、その書誌を掲げ、閲覧可能な所蔵先を示しておいた。

四、収録書の配列は、各編ごとに刊行年代順とした。

五、書誌事項中〈　〉内の引用は原則として、本文の冒頭をもってした。(引用文中、変体仮名は現代表記に改め、ルビは大半省略した。)末尾の記号は上が国会図書館請求番号、下がマイクロフィルム版の収録リール並びに齣番号である。番号の下に(左)とあるは、左開きの本であることを示す。

六、索引は、翻訳者索引、出版人・発行人索引、原著者及び原著索引の三種を付し、書誌を補うものとした。

アメリカ文学編

【明治12年】

① **西洋穴探** (一)キルワン著、(二、三)マックケープ著　加藤政之助訳　(七月、㈠一三年三月、㈢一〇月)　東京　中島精一出版
三冊19cm　緒言3＋目次2＋118p、(二)目次2＋二編序3＋175p、(三)緒言2＋目次2＋140p　特20-465　R 1-1
〈車轂相撃チ人肩(ジンケン)相摩シ衽ヲ連テ帷ヲ成シ袂ヲ挙テ幕ヲ成シ汗ヲ揮フ／テ雨ヲ成シ家殷(サカ)ンニ人足ルトハ夫レ英京龍動ノ謂乎〉(初編)
〈紐約(ニウヨルク)克府ハ米国最大至要ノ都会ニシテ大西洋ヲ距ル九里ホドソン河／口ニ位セルマンハタン島ニ在リテ〉(二編)　特20-465　R 1-68 162

【明治14年】

② **近世米国奇談(きんせいべいこくきだん)**　〔原著者不明〕　小川吉之輔編輯・出版　(七月)　高知　柳影社刊
二冊和装合本　18cm　小川活版所広告1＋16＋17丁
〈米州合衆国ヲハイヲ州なるルーレンス郡にセリダンとなん呼ぶ一村あり玆に名をばブル／ースと云ひ業わ理学の教師にて数多の弟子を預り最も豊に世を送る一個の老人ありける／が〉
一九年五月に、上田捨吉(京都、駸々堂本店)が洋装翻刻本を出版　特41-81　R 1-239 257

【明治15年】

③ **仏国革命自由党魁　真段郎蘭伝(アダムローラント)**　上巻　アボット著　門田平三訳述・出版　(四月)大坂
18cm　眞段郎蘭眞像一葉＋題字(箕田居士)4＋自序2＋凡例2＋目次2＋95p
〈邦家ノ治乱、興亡ノ状ヲ察シ、人間ノ栄枯、得喪ノ理ヲ知ル、史／伝ノ多キ、其中ニ仏国革命ノ大乱ニ

其人アリト聞ヘタル義／勇、絶倫、英名、赫々タルマダムローランドノ伝記ヲ〉
目次には、中巻・下巻あり　特20-539　R1-277

④
英国情史　**蝶舞奇縁**　初編　桑野鋭訳述・出版　（五月）東京（紫溟堂蔵版）
18cm　和装木版　序（撫松逸史）2＋凡例・口絵・目録3＋33丁
〈爰に約翰（しょん）、格拉倫（くらべりんぐ）となんいへる、やんごとなき人ゐましかり／けり、其夫人の名を約翰と呼做し、長女ハ既に他に嫁せ、家に／四人の女児をぞ持たりける〉
奥付に二編三編四編の予告あり　特41-96　R1-335

【明治18年】

⑤
那翁外伝　**閨秀美談**　亜勃（アボット）的著　秋庭浜太郎翻訳　（五月）東京　山本秀雄出版
19cm　題字（板倉松叟）5＋序（三嶋毅、栗本鯤）7＋口絵2葉＋目次2＋410＋跋（服部誠一、田島象二）8p
〈麻珍（マアチンキウ）求の島と云へるは熱帯地方にありて加爾比亜（カルビアン）海の中心より崛起せるも／のなり〉　34-11　R2-1
一九年一月に、市川路周（東京、文事堂）が板権譲受して再版出版。国語研究所蔵

【明治19年】

⑥
操貞　**英国美譚**　〔クック著〕　鎗田山人編輯　三村芳南校正　（一月、再版八月）東京　鎗田かね（一光堂）出版
19cm　序2＋158p
〈春の旦に桜花を友とし紅裙舞袖の解語の花に伴ハれてハ／如何なる石部金吉でも三弦太鼓に笛皷歌ひつ舞つ勃興（うわ）思／情（き）を顕ハし秋の夜景ハ亦更に〉　特13-538　R2-241

【明治20年】

⑦ **名花之余薫**　フランクリン著　ウヱルド補　御手洗正和訳・出版　(三月)東京
18cm　肖像1葉＋題字(勝海舟)2＋序(中村正直、ウヱールド)14＋凡例3＋目録4＋268p
〈異郷に在る老父遠く一書を愛児の許に寄す老父は自家の系譜及び祖／先の履歴を捜ぐり其事蹟の僅かなりとも之を得るを以て無二の快楽／と思惟せり〉(第一～十六章)　33-252　R2-324

【明治21年】

⑧ 革命余聞 **英雄之世路**　チャンダアス著　阿部秀吉訳述　(九月)東京　西村富次郎発行(自由閣発兌)
18cm　自由閣之印章1葉＋序(鉄腸山士)6＋自序2＋目録4＋202p
〈今ハ曩昔(むかし)一千七百四十年代のころとかや米国ヲハヨウ洲中最とも芋盛(せんせい)の位地を占むる／クレヴィランド府ハイレイ湖に接近し道路宏濶巨厦甍を聯ね巍々として玄霄(おうそら)に聳ひ〉　17-54　R3-1

⑨ 摘陰発微 **奇獄**　マクウアツテルス著　千原伊之吉訳述　(一一月)京都　佐藤庄太(日本同盟法学会)発行
18cm　序(井上操)4＋凡例2＋目次2＋350p
〈英国倫敦府に偽造貨幣の盛に流布したることあり其勢ひ正貨の信憑をも妨げんとするに至りしかば政府の憂慮一方ならず〉　17-123　R3-111

【明治22年】

⑩ **ベンジャミン、フランクリン自叙伝**　望月興三郎訳　(一二月)大阪　上田貞治郎(済生堂)発行
19cm　肖像1葉＋富氏自叙伝序(竹越与三郎)4＋原序(H、M)4＋小引2＋目次2＋176p
〈卑賤の家に生れ、貧困なる生活の間に成長せしが、幸に天の祐助に頼て／豊富を致し、名を世界に知られ、晩年に至る迄、能く景福を保つの身と成／りたる、予の経歴を知らまほしく思ふ、子孫の為に自伝を叙さん〉(第十二章まで)　特20-316　R3-294

【明治23年】

⑪ **文明論** えめるそん著　佐藤重紀訳述　(四月)東京　野口竹次郎発行　〔発兌元　博文館〕
19cm　肖像1葉＋序(広沢安任、中村正直)7＋題詩(東海散士)1＋序(徳富蘇峰)4＋自序10＋例言三則2＋著者小伝4＋66＋跋(荘田三平)4p
〈本論ノ冒頭ニ於テ首トシテ究明スヘキモノハ文明即開化／トハ如何ナル義ナリトヤ云フ問題是ナリ〉　18-133　R3-393

【明治24年】

⑫ **小公子** バーネット女史著　若松しづ子訳　(六月?)
21cm　口絵1葉＋自序4＋268p(以下欠損)　挿画6葉
〈セドリックには、誰も云ふて聞かせる人が有ませんかつたから、何も知らないで／ゐたのでした〉　特28-634　R4-1

⑬ **闇路の燈**(やみぢのともしび) パンゼー女史著　三浦徹訳・発行　(一一月)盛岡(日曜学校協会出版)
19cm　緒言6＋306p
〈堂内は充満しつ、大小の童男童女、大人さへに皆座に就き、生徒は一同歌ひなれ／たる「たのしきくに、天にあり」を歌終りぬ〉　特18-907　R4-147

【明治25年】

⑭ **翻訳新声** アーヴィング著　前橋孝義訳　(三月)東京　加藤鎮吉(開新堂)発行
22cm　序(松平康国、古郡図南)4＋例言2＋55p
〈猛けきものゝほゆる音も凄き鴟梟の鳴く声も、そ／のあたりにはきかぬなり。／梢に寒き木がらしも、あらしもよそに聞ゆれど、そ／のあたりには吹かぬなり〉(村の花)　8-126　R4-311

【明治26年】

⑮ ワシントンアービング スケッチブック註釈　大倉本澄註釈　工藤精一校閲(二月、㈡二七年二月)東京　加藤鎮吉(開新堂書店)発行
二冊19cm　緒言2＋150p、(二)小序2＋150p
〈意解。余ハほーまーノ言フ所大ニ其意ヲ得タリ。即チ殻ヲ脱シタル／(crept out) 蝸牛ハ間モナク蛙ト変ジ、而シテ其変ジタル為メ (Thereby)〉(The Author's Account of Himself)
837・5－O633w　R4－493 416(左)

⑯ ワシントンアーヴィング スケッチブック釈義　河田(新井)清彦訳解　(八月、㈡二七年四月、㈢六月、㈣二八年四月、㈤七月、㈥二九年七月、㈦三〇年一月、㈧五月)京都　河合卯之助(文港堂)発行
八冊19cm　釈義概言3＋80p、㈡80p、㈢はしがき及目次2＋99p、㈣83p、㈤71p(389～397p逆とじ)、㈥72p、㈦75p、㈧75p
〈英ノ戯曲詩家ジョン、リリー(1553？—1600？)其著書「ユーフュース」(Fuphues　ハ氏ガ著作中特ニ／著名ナルRomance 也)中ニ曰ク〉(記者之自叙)
特27－546　R5－1 48 100 160 209 254 298 343

⑰ 黒猫　ポー著　内田貢訳述　(九月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
21cm　凡例2＋目次2＋65～79(15)p
〈余が今筆を執らんとするは最も荒唐不稽なる物語なれば、勿論信ぜられるべく／もあらず又信ぜられん事をも欲せず〉
『鳥留好語』に所収。イギリス文学編⑪を参照(第Ⅰ期R33—380に収録)

【明治27年】

⑱ **家妻**　アービング著　宮崎湖處子訳　(四月)東京　垣田純朗(民友社)発行
19cm　目次2＋160～171(12)p
〈女の胸にかくれたる／宝を見れば、わだつ海の／庭なる珠も珠ならす／我宿ちかく我が来れば／くしき香の薫るなり〉
『第四国民小説』に所収。イギリス文学編⑫③を参照(第Ⅰ期R35-296に収録)

⑲ **ありふれ物語**　ホーソーン著　大島正健訳　(五月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
18cm　はしがき1＋目録(夢ならぬ夢、心の浮画、新天路歴程、腹中の蛇)1＋91p
〈人は世にありて。多くの事に出で逢ふとも直に身の上に係りて、行末の／方向をも定むべき、いと大切な事柄さへも、知り得るは僅に一部に止る／のみ。〉(夢ならぬ夢)　18-430　R5-389

【明治29年】

⑳ **空中軍艦**　フォーセット著　山岸藪鶯訳　(七月)東京　大橋新太郎(博文館)発行
19cm　凡例2＋目次5＋315p
〈世は騒がしき此頃、何方の新聞社も業務いと繁きに、まして世界に／名たゝる大新聞社のことなれば、忙はしさは復格別にて、平生には碌／々出社さへ得為さゞりし文学記者の我らまで、社長の哀訴的厳命に／もだし難くて一週間幾度となく出社することさへありける〉　68-423　R6-1

㉑ **ベンヂャミンフランクリン自著言行録直訳、註釈**　大島国千代訳　(一二月、(下)三〇年五月)東京　金刺源次(芳流堂)発行
上下二冊19cm　224p、(下)206p(第十二章まで)
〈私ハ常ニ私ノ祖先ノ或ル僅少ノ逸事ヲ得ルコトニ於テ愉快ヲ持タ〉　特27-584　R6-166 292

【明治30年】

㉒ **間一髪**(かんいっぱつ)(袖珍小説第二編)　ポー著　森田思軒訳　(一月)東京　大橋新太郎(博文館)発行
16cm　183p
〈余は已に久しく病みつかれて、僅かに奄々たる気息をあ／ますのみなりき、渠等が余の縛を解きて余をしてそこに／座らしめしときは、余は吾が躰を離れ／ゆくをおぼえたり〉
71-334　R6-402

㉓ **小公子**　バルネット夫人著　若松しづ子訳　(一月)東京　大橋新太郎(博文館)発行
23cm　肖像1葉＋遺稿編纂の辞(桜井鷗村)2＋緒言(鷗村)7＋前編自序3＋口絵1葉＋342p＋小公子の後に書す(巌本善治)1＋『小公子』に対する江湖の評言15p　松井昇画
〈セドリックには、誰も云ふて聞かせる人が有りませんかッたから、何も知らないで／ゐたのでした〉
74-110　R7-1

㉔ **弗蘭克林自叙伝註釈**　井上歌郎註釈　(九月、(下)一一月)　東京　小池淡(後凋閣書店)・小池弘夫(菁莪堂書店)発行
上下二冊19cm　自序2＋132p、(下)155p(第十二章まで)
〈I I have ever etc——余ハ逸話ニシテ苟モ祖先ニ干スルモノナルトキハ／如何ニ瑣細ナルモノニテモ之ヲ集ムルヲ以テ常ニ楽ト為ス〉
129-66　R7-353　281(左)

㉕ **フランクリン自伝講訳**　上巻　深沢由次郎講訳(一一月)東京　飛鴈一郎(静寿館)発行
19cm　序(イーストレーキ、日本英学新誌記者)6＋緒言3＋129p(第三章まで)
〈われは苟りにも祖先の逸話ならば如何なる些事にても之れを探る／をもて常に楽みとしたり〉
奥付に「中巻下巻近刊」とあり
特20-579　R7-354

【明治32年】

㉖ 少年小説 **乞食王子** マアク、ツェン著　巌谷漣山人・黒田湖山人・川田河山人共訳　（一〇月）東京　大橋省吾（文武堂）発行
15cm　はしがき（小波）2＋序（湖山人）2＋原序2＋凡例4＋目次4＋口絵1葉＋578p　挿画3葉
〈時は丁度紀元千六百二十五年から、千六百五十年までの間の、あ／る秋の日の事である。処はロンドン市中で、キャンテといふ貧乏／な家に、一人の男児が生れた〉　37-228　R8-1

【明治33年】

㉗ **フランクリン自叙伝詳解** 菅野徳助著　（九月）東京　岩崎鐵治郎（大学館）発行
19cm　緒言1＋237p（第五章まで）
〈1-2 I have ever…ancestors——余は常に如何な／る些末の事にても祖先に関する逸事等を知り得るを悦は／しく思へり〉　特20-368　R8-440（左）

㉘ ふらんくりん **自叙伝直訳註釈** 下巻　松尾豊文訳述　（一一月）東京　金刺源次（芳流堂）発行
18cm　自叙に代へて2＋286p（第六～十二章まで）
〈（第六章）私ハぺんしるがあにあ州ニ私自身ヲ建テシ時ニ於テ其処ニぼすとんノ南方ニ迄植／民地ノ如何ナルモノニ於テモ一ノ善キ書肆ノ店ガアラザリシ〉　特27-585　R9-1

【明治34年】

㉙ **スケッチブック** アービング著　浅野和三郎訳　（一月、㊦九月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行
上下二冊19cm　肖像1葉＋略歴及び著書8＋序4＋凡例1＋目次2＋335p、（下）目次2＋400p
〈余ハ平生目新らしき風景を訪ね、又物珍らしき人物習俗等を観察す／るを好みき〉　88-86　R9-190 332

㉚ **恵磨遜（エマルソン）の書簡** ノルトン編　民友社訳　（九月）東京　渡辺為蔵（民友社）発行
19cm　口絵写真1葉＋序（徳富蘇峰）8＋目次2＋恵磨遜（蘇峰）24＋緒言（ノルトン）7＋128p
〈拝啓、フラー嬢の推察せらるゝ所によれば、此頃貴／兄はコンコルドまで御来賀被下とも、御差閊なき丈／に御暇の由、小生も、近頃は特に閑暇にて、善き感化は／何にても感謝して受けんと存居候〉
88-209　R10-1

【明治35年】

㉛ **宝ほり**（英文学研究第四冊）　ポー著　山縣五十雄訳註　（七月）東京　内田正義（言文社）・山縣操（内外出版協会）発行
19cm　はしがき2＋68p、（左開）英文51＋ポーの小伝25p
〈久しき前余はウィリアム、レグランドなる者と親しき交を結びたり〉　139-294c　R10-109
広告に英文学研究第一冊「白梅嬢」、第二冊「荒磯」（コナンドイル著）、第三冊「英米詩歌集」とあり

㉜ **プリモスの美人**（英米文学研究叢書第一輯）　ロングフェロー著　西川光太郎註訳　（一二月）東京　岩瀬寧津（東文館）発行
19cm　口絵1葉＋目録2＋発刊の辞2＋読者諸君へ2＋平民詩人ロングフェローと其著作9＋64p（1～14pまで切取）、（左開）肖像1葉＋英文及註釈64p
〈㈠恋愛と友情の衝突／室は閉静なり、聞ゆるものは、美少年か急ける水茎の音と、シーザーが驚嘆すべき言行を／読みながら、肺臓より吐き出す隊長の嘆息のみ〉　139-222　R10-190

【明治36年】

㉝ **該撒（シーザー）殺害**（英文学研究の六）　マーク、トウェーン著　山縣五十雄訳註　（五月）東京　山縣操（内外出版協会）・内田正義（言文社）発行

19cm　読者諸君へ2＋トウェーン論38＋11p、(左開)肖像1葉＋英文8＋註釈7p

〈凡そ世の中に新聞探訪員にとりて血腥く且つ秘密の籠れる殺人事件の委細を集め来り、大／に之を誇張して、事情詳らかに書き上ぐる程多くの満足を与えるものあるなし〉　139-294　e　R10-255

㉞ **偉人論**　エマーソン著　大谷正信訳　(一〇月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行

19cm　肖像1葉＋エマーソンの一生6＋はしがき3＋目次1＋452p

〈偉人を崇拝するのは人の天性である〉　96-331　R10-295

㉟ **緋文字**　ホーソン著　富永蓄江訳　(一一月)東京　岩瀬寧津(東文館)発行

19cm　肖像1葉＋小引6＋249＋発行者あとがき1p

〈鬚生やしたる一群の人々は、中に婦人をも雑えて木造の大厦(たいか)の前、鉄の大鋲うてる／厳めしき樫木の門扉に面して集り居たり〉　96-364　R11-1

㊱ **百年後の社会**　ベラミー著　平井広五郎訳　(一二月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行

23cm　序(矢野龍渓)3＋序(平井)4＋注意2＋333p

〈余が始て此浮世に産声を揚げたのは波士頓の市中で、時は恰も紀元千八百五十七年の事である〉　特70-430　R11-138

【明治37年】

㊲ **三美姫物語**　アーヴィング著　礒部精一訳　(一月)大阪　吉岡平助(宝文館)発行

20cm　55p、(左開)英文35＋小伝1＋註釈25p

〈昔グラナダ府に、モハメッドと称する、ムア一人の王、統御し玉ひぬ。人民は王／の名モハメッドに、エル、ハイガリ(左利(ひだりきき)の義)と云ふ綽名を添へて呼びなせり〉　138-256　R12-1

㊳ **百年後の新社会**　ベラミー著　堺枯川抄訳・発行　(三月)東京　平民社発行

22cm　30p（二段組）
〈時は耶蘇紀元千八百八十七年（念の為に申す、今年／は千九百四年であります）アメリカのボストン市に西／野と云ふ金持の若紳士があって〉　79-308　R 12-68

日本近代文学館所蔵の第四版（三八年三月）に初版千部、再版千部、三版千部とあり

㊴

英和対訳 **セーラ、クルー物語**　ミンチン女塾の出来事　バーネット著　若松賤子訳　木下祥真編輯
（一〇月）東京　山縣操（内外出版協会）発行
22cm　104p　挿画1葉
〈抑もの初めから話しをしますと、ミンチン女史と／いふは、ロンドン府に居住をした人でして、其住／宅は東京でいふと、銀座通りの様な、大きな趣味／の無い建並の中でも、尤も大きくて高く、趣味の／至つて無い家でした〉　138-219　R 12-86

【明治38年】

㊵

英文註釈 **西洋浦嶋物語**　アービング著　堀越晩翠編輯　（五月）東京　中村赤次郎（盛文堂書店）発行
19cm　はしがき1＋英文27＋注釈22p
〈whoever has made…the Hudson——ハドソン河を／溯る者は何人も〉　158-88　R 12-144

フランス文学編

【明治11年】

㊶ 新説 **八十日間世界一周** 仏人ヴェルヌ著　川島忠之助・出版　（六月、後編一三年六月）横浜
前後二冊19cm　201p、（後編）208p
〈千八百七十二年中ニ龍動ボルリントン公園傍サヴヒルロー街第七番／ニ於テ千八百十四年中シエリダンガ物故セシ家ニ同府改進舎ノ社員／ニテ自身ハ勉メテ行状ノ人ノ目ニ立タヌ様注意シアリシモ何時トナ／ク奇僻家ノ名聞轟キケルフアイリースフヲツグ氏ト称スル一紳士ゾ住ヒケル〉
合本のため奥付欠損。刊記は明治新聞雑誌文庫所蔵本による。　26-212　R13-1-104

㊷ 仏国 **巴里斯新繁昌記**　初編　ガリグナニイ著　丹羽純一郎訳述　（九月）東京　久米田也寿出版
19cm　目次1＋44p
〈一千五百六十一年保礼（ポーリー）第四世馬勢留ヲ以テ遊猟ノ地ト為／ス蓋シ当時樹木森鬱、麋鹿之レニ居リ唯タ一負郭ノ林樾ナリシ也〉　特29-295　R13-1-210

【明治12年】

㊸ 西洋滑稽 **三笑人（さんせうじん）**　山田保抄訳・出版　（五月版権免許）東京
18cm　緒言2＋69p
〈凡そ地球の表面に、有る国々は数多にて、人の種類も色々に、／分ちはあれど人情と、物の道理ハかはりなく、笑ふもあれば／楽みて、浮世を渡る滑稽の、奇談を爰に解き出すは〉
緒言に「此書は佛蘭西にて、開板したる、滑稽借家の奇談を訳したる者」「原書は長き物語にて、紙数も多分にあれど、其中我国の人情に合はずして面白からぬ所は大抵削り去り、成丈興ある所

のみを摘訳」とあり

特13-553　R13-238

㊹

欧洲小説 哲烈禍福譚（てれまくわふくものがたり）　閉禰論（へねろん）著　宮島春松訳　仮名垣魯文閲　三浦義方挍　鮮斎永濯画　（五月、㈢八月、㈤一〇月、㈥一一月、㈦一三年一月、㈧六月）東京　宇敷則明（太盛堂）出版

八冊　木版和装19㎝　序（魯文）2＋緒言・口絵4＋15丁、㈡20丁、㈢18丁、㈣23丁、㈤19丁、㈥18丁、㈦20丁、㈧23丁

〈窟裡歌声絶て仙女不談話（ものいわず）。憂愁的（うきめ）を見ての春秋（としつき）ぞ。不死／長生の仙境も。翻て甲斐ぞなかりける。媛苅浮藻ハ末長／く。比翼連理といひかはし。雲となり又雨となる。〉

緒言に「三十六巻にて全局を結び」とあり。

特40-617　R13-274 299 323 345 371 394 416 440

㊺

【明治13年】

九十七時二十分間 月世界旅行（げっせかいりょかう）　米国ジュールス、ベルン著　井上勤訳述　（三月、㈡五月、㈢九月、㈣一〇月、㈤一一月、㈥～㈩一四年三月）大阪　黒瀬勉二出版、㈥より三木美記出版

一〇冊　18㎝　序（片山徹）3＋凡例2＋41p、㈡39p、㈢36p、㈣30p、㈤35p、㈥37p、㈦35p、㈧35p、㈨36p、㈩35p　挿画19葉（国立国語研究所蔵の十九年九月再版は22葉）

〈亜墨利加合衆国独立戦争最中ノ時トカヤ合衆国ノ内「マリ／ーランド」ト云ヘル国ノ首府「バルチモール」ト云ヘル處アリ〉

本文末尾に「月世界旅行ノ次篇ナル月世界（ラオンドジムーン）一周」の予告あり。初版にはルビなく、再版（三木佐助刊、国語研究所蔵本）、四刷（二一年一二月、西村富次郎刊、三康図書館蔵本）は総ルビ付で、仮名は本文・ルビ共に平仮名。

31-160　R14-1 32 55 75 95 117 140 162 184 206

㊻

【明治14年】

仏国情話 五九節操史　歴山戎馬斯著　松岡亀雄訳　（一月、㈡二月、㈢六月）甲府　内藤伝右衛門（温故

堂)出版
三冊活版和装　20cm　題言1＋目録1＋32丁、(二)目録1＋32丁、(三)目録1＋47丁
〈道傍右左、長堤数理堤上に樹あり松柏殊に多し、是れモント／レイユ　ビセンヌ　セントモー
ルの三県より巴里斯に入るの／咽吭(のどくび)なるセント、アントワーヌなり〉
巻一、二の内題「法国情話　五九節操史」　特41-86　R14-229 269 306

【明治15年】

⑰ 千万無量 星世界旅行　一名世界蔵　第一編　貫名駿一著・出版　甲田良造閲　(六月)
17cm　序(香泉陳人)4＋凡例2＋143＋第二編目次(予告)2p
〈長空一碧万里蒼茫トシテ日月星辰此間ニ輾転スル所ロ之ヲ名ケテ天ト云フ〉　特49-872　R14-358

⑱ 西洋奇談 富貴の種蒔　シユリキ著　江川勝信訳編・出版　(六月)東京
二冊18cm　緒言2＋目録2＋57p、(二)50p
〈世の中に此手柏の両表時世／＼移り行くけふの富貴を頼／にして心のまゝに行えは明日ハ貧賤
の身となりて危険の／道に迷ひ入り家をも身をも滅してなき後の世の者笑ひ〉　特52-225　R14-438 473

⑲ 虚無党退治奇談　ヴェルニエ著　川島忠之助訳述・出版　(九月)横浜
19cm　佛人小説序(学海居士)2＋題虚無党退治(橘園小史)1＋緒言4＋282p
〈凜冽厳風欺冷楊、飄零飛雪打寒燈初更九時ノ点鐘ヲ期シ列車ノ轔々ト／シテ軋リ来ルアリ夫レ
ト見ルヨリ停車場ノ役員ハヂュナフールナリト／叫ヒツヽ東西ニ奔走セリ〉　26-230　R15-1

⑳ 仏蘭西革命記 自由の凱歌　ヂユーマ著　宮崎夢柳意訳　(一〇月、(二)一二月)東京　柳谷藤吉出板
二冊19cm　序1＋88p、(二)序(浅田吉太郎)2＋96p　一松斎芳宗画
〈錦繡の楼閣花を出でゝ高く雲に聳え珠玉の宮殿柳を隔て／て遠く霞に連る霧鬢風鬟美人の車を

輾らすあれハ鞭糸帽／影公子の馬を駆るあり〉

本文末尾に「第三篇に次回の出るを待ち給へ」とあり。発兌元は絵入自由新聞社　31-284　R15-151 210

【明治16年】

(51) 亜非利加内地 **三十五日間空中旅行**　英国ジュールス、ベル子著　井上勤訳　渡辺義方校（九月、(二)一一月、(三)一二月、(四)一七年一月、(五)～(七)二月）東京　宏虎童（絵入自由出版社）出版

七冊19cm　序（荷香逸人）2＋60p、(二)60p、(三)60p、(四)60p、(五)60p、(六)60p、(七)95p　挿画14葉

〈精神一たび致らば何事か成さざらん抑々五大洲の一なる亜非利加洲／は暴悪なる人類の巣穴にして古来より欧羅巴人の該内地に旅行する／者皆な其肉を野蛮人が〉　特50-964　R15-253 291 328 364 404 441 478

(52) 経世指針 **鉄烈奇談**　自初編至五編　フヱ子ロン著　伊沢信三郎訳　森重遠校閲　（一二月）東京　森重遠（白梅書屋）出版

19cm　口絵1葉＋題詞（中村正直）3＋序（有井範）2＋緒言（荻園閑人）6＋凡例1＋小伝5＋目次5＋211p

〈迦里夫想（カリブソウ）ハ勇理士（ユリース）に別離せしより恋々の情やるかたなく、その身不死／の神にしあれば、千秋其憂を絶滅するの期なき不幸を悲しめり〉

本文末尾に「此書全部十八篇あり」とあり　173-331　R16-1 34 54 75 94

(53) 開巻驚奇 **第廿世紀未来誌**　巻之一　ロビダー著　富田兼次郎・酒巻邦助合訳・出板　（一二月）東京

19cm　序（澹菴樵夫）4＋目録1＋64p　挿画1葉

〈池頭春草の夢未だ覚めずして階前の梧葉已に秋声あり、実／に光陰は人を待たず、春と立ち秋と過ぎ知らす識らず数多／の星霜を重ね第十九も暮れて第廿世紀となれり〉　特52-246　R16-126

【明治17年】

⑭ 回天偉績 **仏国美談** 税熱登達基（ゼーネツトタツキー）著　粟屋関一訳述　田島象二校閲　(二月)東京　石原慎平出版
二冊合本　18cm　序6＋はしがき3＋(前編)123＋(後編)77p　挿画9葉
〈世ハかり孤とみだれつゝ、茜さす日も晴やらず、天つ日継はうき雲の隔／つる處となりにけり、うら痛ましや西のかた佛蘭西国の帝王ハ都の内／に塵を負ひ思はぬ憂に沈まれて〉
表紙・扉の角書は「回天偉蹟」。再版(一九年一〇月、塩谷芳兵衛・早川新三郎出版、国語研究所蔵本)は総ルビ付。
35-151　R16-168 240

⑮ **月世界一周**　英国ベル子著　井上勤訳述　(四月序)東京　長尾景弼出版(博聞社蔵版)
20cm　序(依田百川)7＋前編月世界旅行之大意88＋260＋正誤1p　挿画8葉
〈却テ説ク数万ノ見物人ハ大胆ナル三人ノ旅行者ガ我ガ地球ヲ出立スルノ結／菓ハ如何ナラント思フ心ノ頭脳ニ逆上シテ恰モ狂人ノ如ク四辺雑沓錐ヲ立／ツルノ地〉
26-4　R16-287

⑯ 英国 **太政大臣難船日記**　英国ベル子著　井上勤訳述　渡辺義方校正(八月、(二)九月)東京　宏虎童(絵入自由出版社)出版
二冊18cm　60p、(二)60p　挿画5葉
〈「チャアンストン」(英国地名)一千八百六十九年九月二十七日　折しも海／ハ満潮にて午後三時とも覚しき頃「太政大臣」号ハ阜頭を離れ沖合投（さ）し／て駛せ出づるに〉
特49-96　R17-139
続刊予定

⑰ 五大洲中 **海底旅行**　ベルン著　大平三次重訳　服部誠一校閲　(一〇月、(下)一八年三月)東京　四通社発刊、(下巻)覚張栄三郎(起業館)出版
二冊19cm　序(撫松)4＋目次3＋223p、(下)起業館印1葉＋目次4＋262p　挿画24葉

〈説起す澳西多羅利国は印度洋の中に位し四面に大海を繞／らして渺々たる滄溟ハ幾万里の天に連なるを知らず〉　特13-450　R17-77-213

国会図書館蔵36-124は覚張栄三郎の再版であるが、奥付に(上)一七年六月翻刻(下)一九年六月再出板とあり。三版、四版は版権譲渡本。下巻挿画は11葉だが、三康図書館蔵本には12葉あり。

⑤⑧

白露革命外伝　**自由廼征矢**　英国ベル子著　井上勤訳述　渡辺義方校正　（一〇月）東京　宏虎童（絵入自由出版社）出版

18cm　絵入自由出版社印1葉＋序（荷香逸人）1＋口絵（芳宗画）4＋目次1＋135p

〈頃ハ一千八百四十四年冬十二月の事なるが斜陽ハ既にコルヂレスラ／峰の彼方に沈み日ハ全たく暮れ果て影疎々なる星の光ハ地上を照し／て冴へわたりたる冬の天〉　特13-988　R17-365

⑤⑨

六方英里　**海底紀行**　英国ベル子著　井上勤訳述　（一一月序）東京　長尾景弼出版（博聞社蔵版）

20cm　序（依田百川）5＋558＋正誤2p　挿画8葉

〈説キ起ス玆ニ紀元一千八百六十六年ハ奇妙不思議ノ現象顕ハレ出デ最ト怪／キ出来事ノアリタルガ為メニ最モ著シキ年トナリ世ノ人今ニ其年ヲ記臆セ／ザルモノナシ〉　34-108　R18-1

百川の序ではヴェルヌを「佛人」と記す。国語研究所蔵本には目次4pあり

【明治18年】

⑥⑩

拍案驚奇　**地底旅行**　英国ウェル子著　三木貞一・高須治助合訳　（二月）丸谷新八（九春堂）出版

18cm　序10＋凡例3＋目録4＋235p　挿画8葉

〈学術技芸の漸く開け文明隆昌の域に進むに従ひ欧州人ハ／宇宙間の事物を観て種々般々に神智を凝らし工風を極め／遺す処ハなかりしかど独り地中の内部の事に至りてハ〉　34-41　R18-296

奥付欠損のため、刊記は国立国語研究所蔵本による

(61) 情態奇話 人七癖（ひとのななくせ） 吝嗇編 初、三―九編 シュー著 二愛亭花実・淡々亭如水合訳〔奥付は森澄徳聡訳〕
（三月、(四)～(六)四月、(七)～(九)五月）東京 中村正義（稽古堂）出版
八冊19cm 稽古堂之印章1＋序詞（仮名垣魯文）2＋叙（紙鳶堂風来）4＋口絵3＋30p、(三)～(八)各30p、(九)36p
＜抑も仏蘭西の首都巴黎（ばり）と聞へしハ世界に名たゝ／る都会にして市街の繁昌大方ならず大路小路の／差別なく何処に愚ハ非る中ニ殊ニ傑出て熱鬧（にきはし）きハ＞ 特52-521 R19-1 25 42 59 76 93 110 127

【明治19年】

(62) 修羅浮世 鍛鉄場主（たんてつぢやうしゅ） 一名生活の戦場 オ子ー著 加藤瓢乎訳述 （五月）大阪 山田弥三郎編輯・出版
18cm 序（坪内雄蔵）5＋自叙2＋156＋跋（饗庭篁村）2p 挿画（ビゴー、大蘇芳年）8葉
＜千八百八十年十月中の事なりとか美麗なる猟衣裳を着けたる一人の少年が仏国のジュ／ラと云る山の半腹に生ひ茂りたる森の片蔭に休ひ＞ 特13-585 R19-148
一九年五月、田中キチ編輯兼出版の改題本『鍛鉄の主人』（特10-386）あり

(63) 世界進歩 第二十世紀 ロビダー著 服部撫松訳述 （六月、(二)二〇年一一月、(三)二一年五月）大阪 岡島真七・岡島幸次郎（岡島宝玉堂）出版
三冊18cm 自序7＋彩色口絵1葉＋目録4＋233p、(二)岡島版権所有之印1葉＋第二編の序（宇田川文海）4＋目録4＋209p、(三)目録3＋211p 挿画29葉（明治新聞雑誌文庫蔵の再版は32葉）
＜鳥（ひ）行き兎（つき）進み歳月瞬時だも止まらず芳草の夢未だ覚めざ／るに梧葉早く秋風に飄り春花秋月去て復た来り四時の循環限りなく地球の始て成りしより＞ 26-281 R20-1 147 274

【明治20年】

(64) 西洋演劇筋書 恋娘婚姻事情 一名演劇独稽古 ラビシュ著 米国ジュリアン、マンガス翻訳 ブランダー、

マッシュース編纂　荻原良太郎・有賀国次重訳　（一月）東京　山中孝之助出版
18cm　序(坪内雄蔵)2＋原序の要領7＋例言2＋人物1＋舞台の飾付1＋136p　挿画5葉
〈アン子ッ／モシ御客さまお湯を其処へ上ました(ト云ひつゝ立出で／宜処に立て)／アノアナトール、ガラドーさんとやら御仰る御客さ／んハ〉　特13-592　R20-396

⑮ 万里絶域 **北極旅行**　英国ヴエル子著　福田直彦訳述　服部誠一校閲　大久保桜洲訂正　（一月、後四月）東京　和田篤太郎(春陽堂)出版
前後二冊合本　18cm　序(撫松)4＋目録14＋271＋(後編)225＋跋(愛花仙史)4p　挿画8葉
〈明日満潮を待つて汽船「ホルワルド」号ハ船長K・Z・副船長／「リチャルド」氏乗込にて「ニュープリンチェス」船渠より／出帆の都合なり〉　26-251　R19-246-395

⑯ 改良小説 **奇遇魯国美譚**　トンベイ及男著　大石高徳纂訳　伊藤重固校閲　（二月）東京　辻岡文助(金松堂)出版
18cm　金松堂発兌印1＋題字(巌谷修)3＋序(厚東樹臣)3＋口絵1葉＋凡例2＋目録3＋120p　挿画8葉(第4図欠)
〈玆に西暦千八百十一年に端緒を開きたる哀にして且つ頼母しき一条／の譚あり〉　26-60　R21-1

⑰ 学術妙用 **造物者驚愕試験**　仏国ベル子著　井上勤訳述　（二月）東京　広野仲助(広知社)出版
18cm　序(依田百川)4＋142p　挿画2葉
〈説き起こす玆に人ありて多く「フランダア」国の地図を集め／眼を凝して其の隅々を探りたりとも恐らくハ「クキッケン／ダァン」と云へる小市街ハ之を見出すこと能ハざるべし〉　26-59　R21-87

⑱ 政教小説 **蒙里西物語**　カロー女史著　大石高徳纂訳　（四月）東京　辻岡文助(金松堂)出版
18cm　金松堂発兌印1葉＋序(仏ボウタン)2＋自序3＋目録4＋口絵1葉＋153p　挿画5葉

⑥⑨ 開巻驚奇 **西洋復讐奇譚** 前編 デュマ著 関直彦訳述 (四月)東京 原亮三郎(金港堂)出版 26-129 R 21-182

二冊合本 18cm 目次2+429p(前編(一)182、前編(二)247p)

〈馬耳塞(マルサイユ)は地中海に沿ふ仏蘭西第一の港にして船の出/入の数繁く豪商大賈軒を并べ貿易最も繁昌の港なり頃は千八百十五年二月二十八日の事なりける〉

末尾に「後編に詳かならん」とあり

⑦⑩ 五日紀変 **英雄之肝胆** 上編 ゆごー著 野田藤吉郎訳述 有賀長雄校閲 (四月)東京 原田庄左衛門(博文堂)・大坂 松村九兵衛(文海堂)出版 23-31 R 21-280

19cm 序(今村有隣)4+原著凡例2+凡例6+肖像1葉+目次2+308+跋(天囚居士)4p

〈仏郎西ノ民俗豪俠ニシテ、勇ヲ好ミ闘ヲ喜ビ、以テ政事ノ変更ヲ致/シ、互ニ相攻撃シ、争乱止ムトキナシ〉

⑦① 政治小説 **佳人之血涙** 仏国ベル子著 井上勤訳述 (四月)東京 西村富次郎(自由閣)出版 33-255 R 22-1

18cm 自由閣印1+題字(山岡鉄舟)2+序(荷香逸人)2+目次2+171p 挿画4葉

〈頃しも一千八百四十四年十二月斜陽ハ既に古兒爾列羅斯(コルジレラス)/山乃彼方に沈み日ハ全たく暮れ果て影疎々なる星の光は/地上を照して冴えわたり〉

⑦② 社会進化 **世界未来記** 原名二十世紀 ロビダ著 蔭山広忠訳 (六月)東京 和田篤太郎(春陽堂)出版 26-112 R 22-182

21cm 題辞(中村正直)3+序2+目録4+440p 挿画12葉

〈一嬢 喃(なん)姉君達塵界をバ眺(のぞ)み見玉へ身ハ大虚(おほぞら)に舞ひ翔りて仙乙女(ひじり)に異なら/ねバ塵界とハ言ひたりかし〉 26-29 R 22-283

奥付欠損のため、刊記は三康図書館蔵本による。但し、両書の表紙異なる。

⑦③ 慨世史談 **断蓬奇縁** エルクマン・チャートリアン著　小宮山桂介訳述　依田学海評点　(六月)東京　小宮山桂介・前田圓(鳳文館)出版
四冊　木版和装23㎝　題字1＋口絵1葉＋序(依田学海、河津祐之、不知老人、重恭)9＋序2＋凡例2＋人名1＋目次2＋32丁、(二)65丁、(三)54丁、(四)56＋跋(栗本鋤雲)1丁　挿画15葉
〈聴カレヨ諸君。今ハ昔紀元千七百九十年代ノ事ナリケリ。／普魯西ノ西疆。安西達土(アンスタット)ノ山村ニ住ミテ。若甫(ジャツコフ)、華具涅爾(ワグネル)ト呼／ブ一人ノ医博士アリケリ〉　10-62　R23-1 61 139 204

⑦④ 欧洲奇説 **恋情花の嵐** ルサージュ著　岩本五一編次　著作道人校訂　(一一月)東京　村上真助出板
18㎝　序1＋題画3＋総目次2＋167p
〈欧洲伊多利の南角に位せる西々里(シシリー)の一島ハ其境場東西六／十五里余ありて北部ハ其土地極て豊饒に山嶺も亦嶮峻な／らねど東部ハ埃徳納(ニウナ)の火山巍然として高天に聳へ〉　特13-523　R23-271

⑦⑤ **鐵世界** ヴェルーヌ著　紅芍園主人訳述　森田思軒刪潤・出版　(九月)東京〔集成社書店発兌〕
18㎝　序(思軒)11＋凡例三則(紅芍園主人)2＋目次2＋200p
〈成程是等の新聞ハ流石に英国中屈指と称せらるゝたけありて善くも／書きたり」と独語きつゝ卓子の上に一枚のデーリーニュースを抛け出だ／せるハ〉　25-415　R23-362

⑦⑥ 欧洲小説 **西洋梅暦** 一名恋情月の叢雲　ジェヌイヤック著　福田直彦・森知斎合訳　香夢楼主人校訂(内題下には紅雪楼主人訳述　夢廼家さむる校補)　(一〇月)東京　内沢安二郎出版
18㎝　口絵1葉＋目次4＋192p　挿画8葉
〈此処ハ京城巴里府より程里遠からぬ郷にして愛美(アミエンス)と云る／地なり〉　特13-627　R24-1

⑦⑦ 孝女美談 **沙漠の花** 勿陳(リストウ)女史著　浅井栄熙・坂本筒蔵同訳・出版　行徳文郷批評　(一二月)東京〔集成社書店発兌〕

18cm　題詞(中村正直)2＋原序5＋女史の小伝1＋凡例3＋目録2＋294＋正誤2p
＜イルチス川ハ源をカルマック韃靼に発してオビの大河に入る其東／岸にトボルスクとて西北利(サイベリ)亜(ア)の首府あり＞　26-71　R24-121

【明治21年】

(78) **政事上之放逐人　千里風煙**　チッソー、アメロー同著　米国コックス英訳　鈴木力重訳　末広重恭・西村時彦補述　(二月)東京　原田庄左衛門(博文堂)・榊原友吉(文盛堂)・杉本七百丸(翰香堂)・小林喜右衛門(仙鶴堂)発行
19cm　緒言(末広鉄腸)2＋序(西村天囚)3＋自序2＋242p　挿画6葉
＜ナアチンスクの鉱穴に苦役せらるゝ刑徒は大抵重罪の者のみにして／其の取扱振りは至って残忍なりければ西比利亜の追放人は皆畏れ倭／きて深く此地を嫌ひけり＞　26-135　R24-282

(79) **瞽使者**　ヴェルーヌ著　羊角山人訳述　森田思軒刪述・発行　(〔五月〕、(下)二四年一一月)東京　(報知社)
上下二冊18cm　題瞽使者(思軒)8＋例言四則(羊角)3＋目次2＋250p、(下)目次2＋261p
＜「御前只今又た新報達し候」。「吉剳布(キツツツフ)中将なる歟、何処より」。「吐士屈(トムスク)より」＞　特13-628　R25-1-136

(80) **警世奇話**　フヱヌロン著　加藤幹雄訳　(七月)東京　石渡賢八郎(イーグル書房)発行
上下二冊19cm　序言(西村茂樹)3＋序(天沼金三郎)4＋緒言4＋フヱヌロン氏略伝4＋目次2＋口絵1葉＋90p、(下)目次2＋71＋跋(勝山重良)2p　挿画6葉
＜王獅死して、妃獅の哭声、山谷に轟きしかば、衆獣皆其洞窟に走り、之を吊／慰せり＞　特13-568　R25-281-342

(81) **通俗八十日間世界一周**　仏国ベル子著　井上勤訳述　(一一月)東京　西村富次郎出版(自由閣梓)

18cm　序5＋目録4＋426p　挿画6葉（国語研究所蔵本8葉）
〈説き起す頃しも紀元一千八百七十二年英京倫頓（ロンドン）波亜林頓（バーリントン）公園傍の左／兒（サ）比伊兒（ルビール）町七番地に住む一人の紳士あり其名を比列亜斯扶倶（フィレアスフォグ）と云ふ〉　特11-326　R26-1

⑫
仏蘭西革命記　自由の凱歌（じゆう　かちどき）　歴山徳邨麻（アレキサンダー・デュマ）著　宮崎夢柳訳述　（一二月、㈠一二年五月）大阪　岡本仙助出版
二冊19cm　122p、（二）序（中江篤介・島本仲道）10＋155＋跋（和田稲積）6p
〈頃は一千七百八十九年七月十七日の事なりき仏蘭西の首府巴里の政庁なる堡亭堂維（ホテルダウイル）の正門／に当りし一大広路より四方八面の街衢に雲霞の如く押し寄せ詰め寄せたる人民等〉　特20-350　R26-227 292
跋に「前稿に継ぎ之れを東雲新聞に訳載し且つ裒めて一冊子とな」すとあり。盛業館発兌

⑬
浮世の巻　前編　シュー著　岡野碩意訳　（一二月）東京　原亮三郎（金港堂）発行
19cm　目次2＋226＋あとがき3p　挿画（月耕）3葉
〈何れの君の統御にして、何れの年紀にやあるらん、頃ハ十一／月の下旬、降り灑ぐ雨ハ、篠を束ぬるが如く、襲ひ来る寒ハ刃／もて劈くに似たる〉　17-36　R26-382

【明治22年】

⑭
色是空（しきせくう）　ルサージュ著　小栗貞雄訳　（二月）東京　佐藤乙三郎発行
18cm　引（思軒）2＋新嘉坡通信（矢野龍渓）11＋新嘉坡通信評（珂水漁夫）2＋66＋評（珂水漁夫）3p
〈昔し伊太利の志々利国王露牙に一人の弟と一人の妹あり／て弟君を曼布礼（マンフレイ）と呼び妹君を麻知佗（マチルダス）と呼びけるが不幸に／して御兄弟の間、睦じからず〉　19-159　R27-1
⑫『一読驚世界一大奇聞』中の「志々利物語」の改題本

⑮
探偵ゆーべる　ユーゴー著　森田思軒訳　（六月）東京　垣田純朗（民友社）編輯・発行

19cm　肖像1葉＋序2＋74＋訳文探偵ユーベルの後に書す5p

〈昨日、一千八百五十三年十月二十日、余は常に異なりて夜に入り府内に／赴けり〉　特13-765　R27-48

⑧⑥

椿の花把（つばきはなたば）　亜歴山戎馬男（アレキサンダー・デュマ・フィス）著　加藤紫芳訳　（六月墨書入れ）東京　和田篤太郎（春陽堂）発行

21cm　174p

〈按ずるに凡そ想像を以て人物を構造せんと欲せバ須らく先づ充分に経験に富み多くの／人に交際し広く世間の状態に通ずるを要すべし〉　特11-275　R27-93

「小説萃錦」の組版に通し頁を付した合綴本。国語研究所蔵本の刊記は「六月出版、七月発行」とあり両書の表紙異なる。

⑧⑦

【明治23年】

佛国三人男（ふらんすさんにんをとこ）　初編〔デュマ著〕　談洲楼燕枝聞書　長島伝治郎編輯　（一月）東京　中島茂十郎発行

19cm　初篇序（痴嚢狂夫）2＋彩色口絵1葉＋144p　挿画4葉

〈仏国三人男と題号を冠らせ廻らぬ筆を舌に換へ申上升〉　特11-188　R27-191

⑧⑧

大東号航海日記（『第一国民小説』所収）　ヴェルーヌ著　森田思軒訳　（一〇月）東京　垣田純朗（民友社）編輯・発行

19cm　目次1＋296p（大東号航海日記　61p）

〈千八百六十七年（慶応三年）三月十八日に余ハリバープールに赴けり是は数日の内に紐育に／出帆すへき有名なる大東号に乗込まん心組のありたれバなり〉　17-281　R27-396

『第一国民小説』目次――一口劔（露伴）R27-281〇細君（春の屋主人）291〇舞姫（鷗外）316〇良夜（饗庭篁村）104〇蝴蝶（美妙斎）337〇楠木（学海居士）348〇流転（北邙散士）365〇新編破魔弓（南翠外史）378〇拈華微笑（紅葉）389〇大東号航海日記

【明治24年】

⑧⑨ 教育奇談 **心の楽**（こころのたのしみ） フヱヌロン著　加藤幹雄訳　（二月）東京　石渡賢八郎（イーグル書房）発行
上下二冊合本　18cm　序・口絵4＋90p、（下）71p
特13-760　R27-430-481

⑨⓪ 『警世奇話』の改題本
探偵ゆーべる及くらうど　ユーゴー著　森田思軒訳　（一〇月増補三版、二二年六月初版）東京　垣田純朗（民友社）編輯・発行
18cm　三版序2＋序2＋再版探偵ユーベルに題す2＋肖像1葉＋（ゆーべる）74＋訳文探偵ユーベルの後に書す5＋（くらうど）45p
〈（くらうど）クラウドと云へるは八年ばかり前巴里にありて其の妻子と倶に暮せ／る貧しき傭夫なりき〉
「探偵ゆーべる」は⑧⑤と同じ。本書は⑧⑤の増補三版
19-266　R28-1

⑨① **仏蘭西二人皇后**　亜歴山嘘維馬（アレキサンジユーマ）著　小川忠武訳述　須永金三郎編輯　（一一月）東京　野口竹次郎発行（博文館発兌）
前後二冊21cm　目次2＋232p、（後編）目次2＋218p
〈頃は一千七百八十四年の事なりき、仏国にリシュリュウとて英名世に匿れなき老／将軍ありけり、時しも卯月の初旬ながら、此国の常として、雪は園生に降り敷／て〉
7-85　R28-71-192
国語研究所蔵本は略伝が付され、表紙異なる。出版日も七日異なる

【明治25年】

⑨② **懐旧**　ユーゴー著　森田思軒訳　（一二月）東京　垣田純朗（民友社）編輯・発行
19cm　引2＋例言2＋262p

＜この度は佐官礼甫杜伯寧（レオポルドドーウエルコー）の物語るべき番となれるとき渠は意外の面もちして左右を看まはし／たるが忙がはしく人々に向ひ己れは従来の生涯に挙げて誦すべきほどの事に遭際覚えな／しと辞謝したり＞　42-155　R28-307

【明治27年】

⑨③ **明日の戦争**　ダンリー著　厩堂散人訳　（二月）東京　吉村鐘一（兵事新報社）発行
19cm　題字（三好重臣、祐翠）5＋序（大島貞恭、竹内正策）6＋緒言2＋329p
＜小隊長殿、小隊長殿、速く御起きなさい大変です「何だ周章しい何事が始ったか「何／事どころじや御座いません彼奴等が攻入ました「彼奴等とハ誰のことだ「日曼耳（ぜるまん）人です＞　特13-483　R29-1

⑨④ **滑稽劇当世女学者**　モリエル著　松居松葉翻案　（五月）東京　須永金三郎（右文社）発行
22cm　序（尾崎紅葉）8＋108p
＜文　おや阿妹（おまへ）ハ如何でも本夫（ハズバンド）を有ちたいといふのかえ。まあ真実に呆れかへつて仕舞ふわ、他人の妻君になるなんて阿妹真実の気でそんな事をいふのかえ＞　特13-965　R29-176

【明治28年】

⑨⑤ **陸眼八目（おかめはちもく）**　ロチー著　飯田旗郎戯訳　（一二月）東京　和田篤太郎（春陽堂）発行
23cm　序（森槐南）7＋彩色口絵1葉＋自序3＋目録1＋232p
＜此ミヤコには近頃まで欧米人は寸時なりとも踏込む事を得ず＞　45-277　R29-241

【明治29年】

⑨⑥ **第一の佳人**　アルノー著　採菊散人稿　井上勝五郎著作・発行　（二月）東京　（薫志堂）
22cm　叙（小説館の主人さむる）2＋口絵4＋序（採菊散人）1＋巻中人物1＋176p
＜今を距る廿五六年前文久年間の事とかよ当時浅草猿若町にハ中村座市村座森田座の三劇場／軒

を並べ互ひに新を競ひ古きを尋ね興行に間断なく〉　特8-114　R30-1

⑯b **天声**　(『めをと』附録)ヴォルテール著　内田不知庵訳　(五月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　22cm　28p

〈無辺際の虚空に懸る一大星あり、名けて狼星(シリアス)といふ〉　43-241　R40-304

⑰ **初あらし**　小説叢書第六編　ユゴー著　堀江松華庵翻案　(九月)大阪　早川熊治郎発行　23cm　序1＋彩色口絵(国松画)1葉＋186p

〈今は昔、京都阿彌陀峯の麓に、五龍山聖果寺といふ大伽藍があッた〉　特8-633　R30-101

⑱ **十五少年**　ヴェルヌ著　森田思軒重訳　(一二月)　東京　大橋新太郎(博文館)発行　23cm　例言1＋目次4＋292p

〈一千八百六十年三月九日の夜、彌天の黒雲は低く下れて海を圧し、闇々濛々咫／尺の外を弁ずべからざる中にありて、断帆怒濤を掠めつゝ東方に飛奔し去る一／隻の小船あり〉　74-24　R30-201

【明治31年】

⑲ **ユーゴー小品**　森田思軒重訳　(六月)渡辺為蔵(民友社)発行　19cm　ユーゴー小品に題す(蘇峰)12＋目次2＋378p

〈(随見録)「御前、御前は巴里を去り給はねばならぬなり」との悲しき一語をルキフ／ヒリップ王に言へるものはクレミュー氏にてありし／王は既に其位を退けり〉　80-50　R31-1

(探偵ゆーべる)R31-47　(クラウド)R31-87　は各々⑧⑤⑨⑩に同じ

〈(死刑前の六時間)死刑を申渡されたり、嗚呼。／過ぎし全五週間余は唯だ斯の一念を以て起居したりき〉　80-50　R31-110

【明治32年】

⑩⑩ **王冠** コッペー著　長田秋濤抄訳　依田学海校訂　(一〇月)東京　和田むめ(春陽堂)発行
23cm　序(依田)5＋彩色口絵1葉＋緒言6＋164p
〈羅雑礼(らざあれ)(左方を指し)「やよ楽師、卿は是より所有る国々を見／んとするならん〉　81-299　R31-215

【明治34年】

⑩① **出世之間道(しゅつせのぬけみち)(一名寄り木(やどき))** ピカー著　独シルラー訳　尺秀三郎重訳　(九月)東京　山縣操(内外出版協会)発行
19cm　口上4＋157p
〈歌　何と云ふ仕合でせう！　父上、マアお察し下さい／比　何が！　藪から棒に！／歌　私は再び彼嬢にめぐり逢ひました／比　誰れに？〉　82-356　R31-311

【明治35年】

⑩② **ABC組合** ユーゴー著　原抱一庵訳述　(二月)東京　山縣操(内外出版協会)発行
15cm　例言二則2＋目次2＋136p
〈警視隊、憲兵隊、各旅団——凡そ巴里城内有ゆる武夫の／一半は、ABC組合の青年学生六十九人の楯籠れるコリン／ス保塁の周囲を今や十重二十重に取囲めり〉　94-17　R31-404

【明治36年】

⑩③ **椿姫** デュマ・フィス著　長田秋濤訳　(五月)東京　荒川信賢(早稲田大学出版部)発行
22cm　文学叢書発行之趣意2＋謝辞1＋肖像1葉＋序5＋マリー、デュプレシス夫人の肖像1葉＋少デュマ伝2＋473p　彩色挿画3葉
〈熟く手に入ッてからでないと迂濶に言語も喋れない。同じ理／屈で永年研究を積でからでなけ

国立国語研究所所蔵

れば、我手で人物を作り出し／小説などを書く事は能(でき)まい〉

104 **常久の憾／船がゝり／夏の夜** モオパッサン著 **荒磯／心の隈／苦闘録** バルザック著 **兄弟** ドオデ著(『やどり木』所収) 馬場孤蝶訳(一〇月)東京 江原豊治(弘文社)発行 77-252 R41-191
22cm 序(斎藤緑雨)2＋目次1＋148p
〈(常久の憾)われは嘗二三の友と共に、カンヌより、ラナプウルに亘れる広野のもなかにある、高き木立繁れ／るものふりたる丘のうへに住へる老いたる隠者を訪はむとて〉
〈(荒磯)ル、クロアジックよりバッツの町に行く路は定まれるものにはあらざりき〉 77-252 R41-197
〈(船がゝり)千八百八十二年三月三日、支那海の航路に向うてハアブルを出でたる横帆形の三桅船、ノオトル、／ダアム、デ、ヴァンは、四年の後〉 77-252 R41-206
〈(心の隈)メンダの小市の時計は今まさに半夜を告げぬ〉 77-252 R41-215
〈(夏の夜)汽船クルベルは停まりぬ。われはわが前に広がれるブウジイの美しき湾景を賞でつゝあり〉 77-252 R41-223
〈(苦闘録)生理学の一大新原理を公にして学界を益した医学博士ビアンソンは〉 77-252 R41-235
〈(兄弟)エドモン、ド、ゴンクウルは朝餐の前其新作の小説を読まんとて、此朝幾人かの友をヲオタイユに招きたり〉 77-252 R41-250

105 **鐘楼守**(ノオトル ダアム ド パリ) ユゴオ著 尾崎紅葉訳 (一二月)東京 荒川信賢(早稲田大学出版部)発行
上下二冊21cm 文学叢書発行之趣意1＋肖像(ユーゴー、紅葉)2葉＋はしがき(逍遙、早稲田大学出版部)7＋目次4＋367p (下巻)肖像(秋濤、紅葉)1葉＋序(秋濤)3＋目次4＋517p 彩色挿画4葉 〔但し、下巻所在不明。書誌は三康図書館蔵本にて補述〕

〈時は正に三百四十八年六箇月と十九日の昔、巴里の街々は、内巴里、学／生区、外巴里の三重の外壁の内に鳴る、有ゆる鐘の音に其眠を覚された〉　91-1　R 32-1

【明治37年】

106 **王党民党**（ユーゴー原作九十三年翻案）　小川煙村作　（二月）東京　西村正雄（新声社）発行　22cm　彩色口絵（古洞）1葉＋写真（川上音次郎他）1葉＋序（新声社）2＋目次8＋150p　〈甲『何と諸君、此微妙の音楽を聴くのも久し振ぢゃな』／乙『実に君のいふ通りぢゃ、此数年間、耳に聴くものは唯軍／馬の嘶き、喊の声、大砲の響、目には剣戟の光〉　79-302　R 32-200

107 **兄と弟**　モーパッサン著　（六月）東京　山田肇（金色社）発行　22cm　写実小説に就て（渡辺千冬）5＋口絵2葉＋254p　〈沖の方には白帆が見ゆる、空には浮雲一つなきうらゝかさ、白鷗閑に飛ぶ彼方の岩／蔭には、五六人の客を乗せた一艘の釣船が碇を下ろしてゐる〉　99-72　R 32-288

108 **史外史伝 巌窟王**　デュマ著　黒岩涙香訳　（七月初版・三九年九月九版、㈡三八年九月、㈢三九年三月初版・一二月五版、㈣六月初版・八月三版）東京　町田浜雄（扶桑堂）発行　四冊21cm　前置6＋（本文二段組）290p、（二）口絵1葉＋255p、（三）彩色口絵1葉＋241p、（四）彩色口絵1葉＋228p　〈拿翁（なぽれおん）がエルバの島に流されて早十ヶ月ほどを経た千八百十五年二月廿九日である〉　99-105　R 33-1-154-287-417

109 **ユーゴーの詩**　小原無絃訳　（一二月）東京　吉田正太郎（本郷書院）発行　18cm　肖像1葉＋序（佐々醒雪）2＋序2＋ユーゴー年譜5＋目次2＋154p　〈（のぞみ）昇れ、粟鼠（りす）、樫の高枝（ほづえ）に、／花のごとゆらぎ動ける／空高き樫の小枝に〉　98-224　R 32-429

ドイツ文学編

【明治15年】

⑩ **哲爾自由譚** 一名自由之魁　前編　視而列爾(シルレル)著　山田郁治訳述　(十月)東京　佐々木和亮出版
18cm　緒言2＋凡例1＋目録1＋69p(15～22p欠)
〈夫有天下者。以人心為水。而順其流以行之。庶不為嫚奏之続矣／とかや。此に説出す一条の物語ハ。民の心に順はず。己か儘な／る暴政を。施す者は後遂に。其身のみかは家国まで。亡ぼすことを書綴り。鑑を后に貽す世の。義なり〉
25-125　R34-1

【明治17年】

⑪ 独逸奇書 **狐の裁判** ゲーテ著　井上勤訳述　渡辺義方校正　(七月)東京　宏虎童(絵入自由出版社)出版
18cm　絵入自由出版社印1葉＋序(依田百川)2＋382＋狐裁判評七則(学海居士)4p　挿画10葉
〈久方の日光長閑き春なれや柳ハ垂て人を招き花ハ爛熳て色を添ふ空／に飛翅ふ鳥の音ハ宛がら気中の鈴に似て牧場に生る青草ハ雨に浴し／ていよ〳〵蒼し〉
一九年四月刊の春陽堂版(国立国語研究所蔵)の標題は「禽獣世界狐の裁判」
32-264　R34-38

【明治19年】

⑫ **欧洲書生気質** 第一号　シュレーデル(ゲ)著　村田豊作訳・出版　(一〇月)東京(神谷書房発兌)
和装活版23cm　自序2＋13丁
〈「如何なる事由かは知らねども。よしや自身に来られずば。書翰位は遣るべきに」と独り／語りつ只管に思案にくるゝ一個の佳人〉
特62-432　R34-249

⑬ 沙漠旅行 **亜拉比亜奇譚** ハオフ著　中川霞城訳　（二月）大坂　浜本伊三郎（巨文堂）出版
13cm　序3＋144p
〈或る時隊商か長き列を組み沙漠の中を過ぎたりしが名にし／負ふ亜拉比亜の大沙漠の事なれバ渺茫千里眼界に入るもの／ハ唯碧落の天と黄白の砂のみなりき〉（三話収録）　特66-744　R 34-264

⑭ 西洋古事 **神仙叢話**　〔グリム著〕　菅了法訳　（四月）東京　赤坂亀次郎（集成社書店）出版
18cm　目次2＋145p　挿画（石版）2葉
〈（仙禽を逐ふて公子金城に入る）或る城主その城外に広ろき花園を持ちけるがこゝに一樹の林禽（りんご）あり／て金の菓実を結びけり〉（十話収録）　25-28　R 34-342

⑮ **八ツ山羊**　西洋昔噺第一号　〔グリム著〕　呉文聡訳　（九月）東京　長谷川武次郎（弘文社）出版
19cm　5丁（彩色仕掛絵本）
〈むかし〳〵／八ツ子をもち／し牝山羊ありけり／ある日市街に行かんとして子どもらにむかひ、るす／のうちはかたく戸をとぢて、たれがきたるともかならずあくることなかれ〉　特44-682　R 34-431

⑯ 字血句涙 **回天之弦声**　知留連（シルレル）著　蘆田束雄訳　（一一月）東京　鎗田政治郎（一光堂）出版
乾坤二冊　木版和装23cm　題字2＋自序5＋例言・目録2＋50丁、（坤）47丁（第2丁欠）　挿画11葉　（明治新聞雑誌文庫に一九年五月、小川寅松出版の再版あり）
〈瑞西（スイツツル）国ハ仏蘭西ノ東、日耳曼（ゼルマン）ノ南、墺地利（ラヲストリヤ）ノ西、以／太利ノ北ニ在リ、地二十二州ニ分ツ、山谷三之二／ニ居ル、居民種類一ナラス、大半牧畜ヲ以テ業トナス〉　10-95　R 35-1-69

⑰ **妖怪船**　ハウフ著　高橋礼五郎訳述　桃の舎主人閲　（一二月）東京　松成伊三郎（松成堂）出版
17cm　序（不言居士）2＋例言1＋43p

〈何時の頃にや確実にハ、月日を記す由なけれど或時数多の商人が、一ッの隊を組結び、亜布利加洲に有名なる、サハラノ沙漠を横切りて、数日の間行きたりしが〉　特49-321　R35-123

【明治21年】

⑱ **春雪馬利御最後**（はるのゆきメーリーごさいご）　シルレル著　〔福地桜痴訳〕　（二月～三月）東京日々新聞附録合本　和装22cm　序6＋登場の人員2＋102＋附評6p　10-141　R35-152

〈（賢禰慈（ケンネシー））コレ待れよ貴殿にハ何故あつて此のお簞笥を猥に明け斯く乱暴をなされる／ぞ〉

⑲ **泰西奇譚 旅路之空**　原名「メルヘン」　巴烏弗（ハウフ）著　田中祐吉・秋元隆次郎訳述　（四月）東京　石渡賢八郎（イーグル書房）発行　19cm　はしがき3＋口絵1葉＋序14＋目次3＋発端9＋191p　挿画6葉　21-53　R35-214

〈昔時亜剌比亜国の名高き都馬倶太徒（ばぐだど）に其名を加里夫爾爾土（かりふかじど）(Kalif Chasid)／と呼はれたる王ありけり〉（四話収録）

【明治22年】

⑳ **おほかみ**　家庭叢話第一　グリム著　上田万年重訳　（一〇月）東京　吉川半七発行　木版和装18cm　14丁　特67-390　R36-1

〈むかし、一疋の年とッた女羊があッて、七疋の子／供を可愛がッて育てゝ居た〉

【明治24年】

㉑ **小学講話材料 西洋妖怪奇談**　グリム他著　渋江保訳述（八月）東京　大橋新太郎（博文館）発行　19cm　凡例1＋目次4＋265p

〈（玻璃山（ガラスざん）の魔女（まつかひおんな）の話）一夕、二十四五歳とも覚しき鼓手が海浜散歩の折に、偶々砂上に三片の

「リン子ル」を見当／りしかば、「オー美しきリン子ルかな！」とて其一片を拾ひて我が懐に納め、何気なく我が／家に帰りぬ〉（四十話収録）　**三康図書館所蔵**

凡例に「本書はグリム氏独逸怪談を根本と為し傍らデーナ氏独逸怪談及ひ亜剌比亜物語等より其萃を抜きたるものなり」とあり。第二篇予告

⑫② **悪因縁、地震**　クライスト著　**うきよの波**　ステルン著（『第二国民小説』所収）　森鷗外訳　草野茂松編輯　（一〇月）東京　垣田純朗（民友社）発行

19cm　目録1＋370p（悪因縁＝44、地震＝21、うきよの波＝26p）

（悪）〈此世紀のはじめ、黒人乱をなして白人を害せしときセント、ドミンゴ島の仏領〉

（地）〈チリ王国の首府セント、ジャゴに千六百四十七年の大地震将に起らむとするをり囹圄の柱に倚りて立てる一少年あり〉

（う）〈その石徳利取りて、炉の側へ寄り玉へ、おん僧。酒は年経たる匈牙利酒なり〉

イギリス文学編⑩⑤参照（第Ⅰ期R29-168・190・200に収録）

【明治27年】

⑫③ **白薔薇**（『第四国民小説』所収）　シュライ子ル著　画湖仙史訳　（四月）垣田純朗（民友社）発行

19cm　目次2＋280p（白薔薇＝7p）

〈儂に一個の手箱あり、彫刻なしたる褐色の箱今は古びて、蓋は破れ、紐をもて結びぬ〉

イギリス文学編⑫③参照（第Ⅰ期R35-302に収録）

⑫④ **なまけもの**（世界文庫第十七編）　アイヘンドルッフ著　阪田孫四郎抄訳　〔八月〕博文館蔵版

22cm　小伝2＋目次1＋167p

〈父が粉ひく臼の響、やゝ久しくきこえて、夜半に積りし屋根の雪、日影にとけて落る軒滴音せ

わし／く、雀は庭に群り下りて餌を争ひ、鳴立る声かまびすき折から〉　43-241　R36-17

【明治31年】

⑫⑤ **因果の小車**　ケラス〔カールス〕著　鈴木大拙訳述　釈宗演校閲　（九月）東京　長谷川武次郎発行　活版和装25cm　題字（釈宗演）5＋緒言1＋25＋保羅馨蘭（ポールケラス）西博士小伝2p　挿絵彩色

〈何時の頃にやありけん尚仏教の始の時代なりしが、中央印度ハ早や大方開けて此処彼処に大／なる都会いくつとなく打ちたてられ、工業商業ハ云ふに及ばず〉　2-178　R36-114

【明治34年】

⑫⑥ **ハイネの詩**　尾上柴舟訳　（一一月）東京　佐藤儀助（新声社）発行　18cm　肖像1葉＋序（登張竹風）4＋例言2＋目次2＋75＋ハイ子評伝30p

〈おのが涙のしたゝらば／麗しき花咲きぬべし／おのがなげきの響きなば／鶯の音となりぬべし／われを思はゞをとめ子よ／花をば君にまゐらせむ〉　82-373　R36-135

三八年二月渡辺書店刊（第五版）は7編追加し57編収録（特22-460）

⑫⑦ **ヘルマン、ウント、ドロテヤ**（内題・尾題、愛媛伝）　ゲーテ著　草野柴二訳述　（一一月）仙台　佐藤養治・山本音四郎（東北図書出版舎）・木村文助発行　19cm　序4（2、3p刷漏）＋ゲーテ伝15＋ことわりがき3＋120p　挿画4葉

〈主人。あゝ大相静かになつた！　全市（まちぢう）で現在何人位残つてゐるか知らん／が、人種子が死絶えても是れ迄だらう〉　30-189　R36-199

【明治36年】

⑫⑧ **シルレル物語**　ウィルヘルム、テル及メリー、スチュアート（通俗世界文学第九編）　徳田秋江編　坪内逍遙閲　（一二月）東京　坂本嘉治馬（冨山房）発行

23cm　肖像1葉＋口絵7葉＋はしがき4＋(テル)121＋はしがき1＋(メリ)50p
〈(テル)スキッアランドは欧羅巴の中央、アルプス山の北面に在る一小山／国なり〉
〈(メリー)蘇国と英国とがいまだ合一せざりし頃、即ち第十六世紀の／後半、蘇国にメリー、スチュアートといふ女王おはしき〉

129 悲劇 **オルレアンの少女**(おとめ)　シルレル著　藤沢周治訳　(一二月)東京　坂本嘉治馬(冨山房)発行　41-109　R36-284
23cm　口絵2葉＋緒言4＋232＋附録15p
〈チボオダアク「ナント近所の衆や。俺等は、まづ今日日の処では、仏蘭西国の／自由の民。御先祖代々持ち伝へた、田畑の主人ぢや〉

【明治37年】

130 **うえるてる**　ゲエテ著　久保天随訳　橋本青雨補正　(七月)東京　原亮一郎(金港堂)発行　45-398　R38-1
22cm　序6＋叙説28＋244p
〈あはれなるゼルテルの生涯に就いて、苟くも尋ね得べかりしものを、／予は、こゝに勉めて蒐集し、今や之を卿等に示さむとはするなり〉

131 **ファウスト**　ゲーテ著　高橋五郎訳　(八月)東京　前川亦三郎(文栄閣)発行　45-350　R37-1
19cm　自序4＋目次4＋本劇中の人物一覧2＋献本詞10＋488p
〈座主／君等二人、我を今まで屢々／困難苦境の中に助けたる者、／請ふ言へ独逸の地に於ける此の〔新〕事業は／君等の眼中に於て其成敗果して何如ん〉

【明治38年】

132 **へるまんとどろてーあ**(文学叢書　独逸語学雑誌臨時増刊第七年第五号)　ゲーテ著　小笠原昌斉訳述　巌谷小波・山口小太郎共閲　(一月)東京　東儀季治(独逸語学雑誌社)発行　98-19　R37-135

23cm　口絵1葉＋ことわり2＋ヘルマンとドロテーアの成立に就て3＋目次1＋90＋雑報6p

〈この市場の往来の、こんなに寂寞く成つたことは、実に今日が初めて。宛然(まるで)何かで掻き拭つたか、／それとも死に絶えてしまつたやうだ〉　79-521　R38-144

⑬③ 喜劇脚本 **髯一つ**　ピッカール作　シルレル訳　千葉秀浦・青柳有美共訳　(四月)東京　清水金右衛門(文明堂)発行

23cm　彩色口絵(トルナイ画)1葉＋訳者写真1葉＋披露の文(藤沢浅二郎)4＋緒言1＋トルナイ1＋登場人物2＋138p

〈坊城急ぎ足にて登場、四辺を見回しテーブルの傍に至り書翰を読む／「前略今夕六時を期し東条氏庭園柴折戸のところより御忍び被／下度候〉　79-550　R38-205

⑬④ **ゲエテの詩**　橋本青雨訳　(七月)東京　中根駒十郎(新潮社)発行

16cm　口絵2葉＋序(竹風)3＋はしがき6＋目次5＋164p(左)目次2＋独文52＋注釈23p

〈(迎と別れ)胸とゞろきつゝ、駒飛ばせつゝ、／思ふ間もあらで我は行きぬ。／夕暮はよう地を眠らせ、／山々を夜は鎖しぬ。／かしこに闇は林より、／百の黒眼にみるところ、／樫樹は狭霧の衣きて、／たてり巨塔とものすごく〉　94-371　R38-289

ロシア文学編

【明治15年】

(135) **露国虚無党事情**　西河通徹訳述　(九月)東京　栗田信太郎(競錦堂)出版
18cm　序(末広重恭)2＋訳者序1＋目次1＋71p
〈不当ニモ虚無党ナル名称ヲ以テ世ニ呼バル、所ノ魯国革／命党ハ此六年間常ニ欧洲ノ論客学者併ニ世人の注目ヲ要／シタリ吾輩ハ日トシテ著書新聞紙又タ一般社会ニ於テ此／党派ニ関スル甚キ誤謬錯雑ノ説ヲ見ザルコトナシ〉
序に「露国虚無党事情数編ヲ蒐集シテ一冊子ト為シ来テ序ヲ請フ」とあり　18-116　R39-1

【明治16年】

(136) **露国奇聞　花心蝶思録**　プシキン著　高須治助訳述　服部誠一校閲　(六月)東京　法木徳兵衛出板
18cm　訳者序2＋84p　挿画4葉(月岡芳年画)
〈山脈蟠蜿万里ニ亘リ林樹蓊蔚幽谷ニ連リ蕪々タル荒原ア／リト雖ドモ荊棘、地ニ蔓シテ纔カニ樵蹊ヲ通ジ孤狸ノ居ル／処、豺狼ノ叫ブ処此ハ是レ露国ノ北部即チシビリヤ地方ノ／一村落ニシテ最モ寒陋僻鄙ノ境ナリ〉　特22-623　R39-47

【明治19年】

(137) **泣花怨柳　北欧血戦余塵**　トウストイ著　森鷗訳　(八月)西邨兒一(忠愛社)出板
19cm　序6＋例言2＋目録2＋174p＋正誤1葉　挿絵朝雅画
〈貴下は知らせ玉へりや。偈奴(ゲヌス)や禄加(ルッカ)(種族の名)の民族は。既くもポナパル／ト家の臣隷と成り侍り。如此無道の上も無き那破侖(ナポレオン)をば。我皇帝の仇な／らず〉　27-36　R39-100

本文末尾に「第一編説ク所此書ノ発端ニ過ギズ」とあり

【明治24年】

(138) **あいびき**　ツルゲーネフ著　二葉亭四迷訳　(一〇月)東京　垣田純朗(民友社)発行　19cm　目録1＋112～129(16)p　〈秋九月中旬といふころ、一日自分がさる樺の林の中に座してゐたことが有ッた〉　『第二国民小説』(17-281)に所収。イギリス文学編(105)を参照(第Ⅰ期R29-84に収録)　R39-327

【明治25年】

(139) **小説罪と罰**　ドストイエフスキー著　内田貢訳　(一一月)東京　内田芳兵衛(内田老鶴圃)発行　19cm　例言2＋244p　〈七月上旬或る蒸暑き晩方の事。S(なにがし)……「ペレウーロク」(横町)の五階造／りの家の、道具附の小坐敷から一少年が突進して、狐疑逡巡の体でK(なにがし)…／…橋の方へのッそり出掛けた〉　68-355　R39-199

【明治26年】

(140) **「コサアク」兵**(世界文庫第八編)　トルストイ著　田山花袋訳　(九月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　22cm　228p　〈モスコウ府の寂寞なる時は今なりき〉　43-241

三七年一一月再版『哥薩克兵』の序に「こはわが十一年前の筆の痕にして、訳者亦アメリカ粗製版に由りたるが為なり」とあり

【明治28年】

(141) **チフリスの百合**　ボデー女史著　北川貞行訳・発行　(二月)尚絅社発行

19cm　187p

〈明月皎々として満街を照し、高加索(カウカス)の峯巒、朧朦として、遠く／霧間に聳え、クーラ川近く緩流して、水声滾々、チフリス――／『楽園』の密柑の森及檸檬の林ハ、芳香を放つて馥郁たり〉

特22-655　R40-1

【明治29年】

(142) **名曲クレーツェロワ**　トルストイ訳　小西増太郎・尾崎紅葉共訳　(二月)垣田純朗(民友社)発行

19cm　正誤1＋258p(名曲クレーツェロワ＝105p)

〈当今欧洲大陸の文学界に立ちて、独り嶄然として衆山を小とする者は、露国のレ、ニ、ト／ルストイ伯にあらずや〉

17-281　R40-99

『第六国民小説』所収。目次――名曲クレーツェロワ　○花あらそい(AB子)R40-155　○浮沈(枯葉山人)170　○うき島の荒狼(金子春夢)211　○覿面(斎藤緑雨)219

(143) **めをと**　トオストイ　内田不知庵訳　(五月)東京　大橋新太郎(博文館)発行

22cm　例言5＋128＋附録28p

〈秋の初めに亡くなられた母君の喪中、マカアとソオニヤと自分の三人は故郷のポコロオウスキイで／一緒に冬季を過した〉

43-241　R40-235

例言にトルストイの翻訳一覧あり。附録は、ヴォルテール『天声』の翻訳

(144) **片恋(附、奇遇、あひゞき)**　ツルゲーネフ著　二葉亭四迷訳　(一一月)東京　和田篤太郎(春陽堂)発行

22cm　凡例1＋口絵1葉＋125p、「奇遇」扉1枚＋71p、「あひゞき」扉1枚＋22p

〈恰(ちやう)ど私の二十五の時でした、と某といふ男が話し出した、ですから最／う余程以前の事です〉

(奇遇)〈自分の持村から五里ばかりの処にグリンノエといふ村が有つたが、夏／の中は屢く此村へ遊猟に在つた〉　74-9　R40-320

(あひゞき)〈私は九月中旬の事で、一日自分がさる樺林の中に坐つてゐたことが有／つた〉　R40-387　R40-423

【明治36年】

⑭⑤ **トルストイの人生観**　加藤直士訳　(七月)岐阜　五十嵐喜広(東京・救済新報社)発行　19cm　序(松村介石)2＋例言一則2＋目次2＋210p、「基督教の真髄」扉1枚＋目録2＋124p

〈古より今に至るまで、あらゆる偉人の生涯を一瞥するに、必ずや心／機一転の時期を有せずと云ふことなし。而かも其の劇甚にして顕著／なるトルストイ翁の如きは稀なり〉　96-285　R41-1

この題名で、訳者はトルストイの人生観を熟読後、換骨脱胎し、平易に解説。そのあとに、かなり短縮した形で、付録『要約福音書』Краткое изложение Евангелия. がある。(柳富子氏の教示による)

⑭⑥ **秋の一夜**　ゴルキイ著　馬場孤蝶訳　(一〇月)東京　江原豊治(弘文社)発行　22cm　序(斎藤緑雨)2＋目次1＋148p

〈ある秋なりき。われはげに快からぬ便なき境遇に在りしことあり〉　77-252　R41-178

『やどり木』所収。目次——秋の一夜○常久の憾(モオパッサン)R41-191○荒磯(バルザック)197○船がゝり(モオパッサン)206○心の隈(バルザック)215○夏の夜(モオパッサン)223○苦闘録(バルザック)235○兄弟(ドオデ)250

⑭⑦ **蠻勇**　ゴーゴリ著　塚原澁柿・柴田流星共訳　(一〇月)東京　森山守次(新声社)発行　22cm　口絵1葉＋序1＋173p

〈ホウ、怜か、此方向いて見い。何んぢや、其の態ア。狼の法衣然たるものを着やがつて、／大学ぢや皆な其様態をし居るのか。」〉

(148) **教訓小説集** トルストイ著　斎木仙酔訳　(一二月)東京　日高藤兵衛(有隣堂)発行　18-976　R 41-258

19cm　序文1＋160p

〈或家の一とつ窓の部屋にマルチン、アウデーウィッチュと謂ふ靴師が住んで居た〉　96-380　R 41-352

内容――愛ある処其処に神あり Где любовь, там и бог. ○穀粒 Зерно с куриное яйцо. ○黄金 Два брата и золото. ○三老翁 Три старца. ○人間は何によりて生活するものなのか Чем люди живы?

【明治37年】

(149) **露国軍事小説 士官の娘** プーシキン著　足立北鷗・徳田秋声共訳　(二月)辻駒次郎(集成堂)発行　45-319　R 42-1

23cm　序(北鷗)2＋口絵1葉＋182p

〈自分の父は若い時は、御新府伯の配下の一将校であつたが、陸軍少佐で休した〉

(150) **虚無党奇談** キュー著　松居松葉訳　(九月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行　97-224　R 42-102

19cm　著者の序詞2＋訳者の詞2＋目録1＋223p

〈いよ〳〵本文に取かゝる前に、ちよつと自分の身の上をお話して置くことが必要であ／る。／今や不幸にも、かく英吉利に流寓の身となつて居る自分は、露国皇帝の臣民浦出見信／露好というのが、本名である〉

同年一〇月に再版(国語研究所所蔵)。本書はフランス文学編への収録が妥当と思われるが、内容から判断し、ここに収める。

【明治38年】

⑮① **最後の勝利** トルストイ著　梅北雪淵・沖野五點共訳　(一月)東京　堀田達治(教文館)発行
15cm　序(沖野)5＋目次2＋97p　94-341　R42-217
〈昔、ある所に金持の百姓があつて、三人の男の子と一人の娘／とを持つて居ました〉

⑮② **男女観(女神「ヂアナ」、「クロイツェル・ソナタ」後語** 附、**人生の意義)** トルストイ著　橋本青雨訳　(一月)東京　原亮一郎(金港堂)発行
23cm　緒言4＋目録5＋111p、「人生の意義」43p　79-515　R42-274
〈人は如何なる境遇に在りとも、其已婚なると未婚なるとに論なく、基督先づ言ひ、尋いでポオルの述べけるやうに、力て常に貞潔ならざるべ／からず〉(男女観)

⑮③ **悲劇 暗の力(やみのちから)** トルストイ著　落合浪雄訳　(五月)東京　清水金右衛門(文明堂)発行
23cm　序(田口掬汀)2＋例言4＋登場人物1＋208p　99-51　R42-361
ピーター(窓の外を見ながら)『あれ、又馬が出て居るぢやないか！、人が／蹴られたツてちツとも不思議ぢやない、真個(ほんとう)に困つちまふな、／オイ！　ニキター、お前聾か、(婦人の方に耳を傾けて)唱ふのをお／止めよ！　何も聞こえやしない』〉

その他

【明治7年】

(154) 開化進歩 **後世夢物語** ジヲスコリデス著　上條信次訳　(一〇月)東京　山城屋政吉(奎章閣)発兌
二冊　木版和装23cm　40丁、(二)38丁
〈夫厘々数百年前ノ景況ヲ以テ目今開花進歩ノ／景況ト比較スルトキハ後世ノ景況ハ又如何ニア／ルベキヤト自然疑団ノ起ラザルヲ得ズ〉
4-153　R43-1-45

【明治11年】

(155) **新未来記** ジヲスコリデス著　近藤真琴訳述　(一二月)東京　青山清吉(雁金屋清吉)出版
上下二冊　木版和装23cm　題辞(実美)1＋序(肥田浜五郎)2＋例言(明治元年一二月)1＋序1＋63丁、(下)55丁
〈後世畏るべし、焉んぞ来者の今に如かざるを知ら／ん。珍しと見しきのふの事ハ。今日は誰知らぬ者も／なき様に成りゆくハ。世の中のさまにして〉
4-152　R43-87-159

【明治15年】

(156) 欧洲情譜 **群芳綺話** 初編　ボッカス著　大久保勘三郎抄訳　服部誠一校閲　(六月)東京　宮川長次郎出版
18cm　目次1＋106p
〈凡ソ人の伉儷ハ月下氷人ノ媒介ニ係リ往々ニシテ奇遇ア／ルハ古今ノ春史ニ乏シカラズ往古伊(イ)多利(タリヤ)ノ一都府フロラ／ンスニ富裕ノ貴族アリ〉

国立国語研究所所蔵

【明治19年】

(157) **ボッカス翁十日物語 想夫恋** ボッカス著　仏国カストル訳　佐野尚重訳補述・出版　菊亭静校定　高瀬真卿・笹島吉太郎・田島象二合評　ビゴー挿画　(一〇月)東京　(臨池書院蔵版)〔丸善書店発兌〕
和装活版19cm　緒言2＋46丁　挿画3葉　特41-93
〈意太利(いたりや)の一部なる西々留(しし)は、地中海中の一島なり、山嶽多し／と雖も土地頗る膏腴にして、夫の著名なる地中海の天燃灯／台は、此島の中央に位せり〉

(158) **楊牙(ヨンゲル)児奇談** クリストマイエル著　神田孝平訳　成島柳北編　(一二月)東京　中川鐵次郎翻刻
18cm　序2＋口絵2＋75p　挿絵(月耕)　R43-217
〈余ガ給府(ゲ)ノ大学校ニ寄留セシ時ノ事ナリケル(余トハ／原書ノ作者以下同ジ)余ノ同寮ニ一人ノ少年生有リ余／輩常ニヨンゲル。ロデウツキト呼ブサレド其本姓ハフ／ワン。ロデンイキレト云ナフリケル〉

(159) **伊国情史 鴛鴦奇観(えんおうきくわん)** ボッカス翁十日物語ノ内　仏国カストル訳　近藤東之助重訳(内題下には菊亭静訳述)　菊亭静閲　(二月)東京　高崎修助(高崎書房)出版
18cm　口絵2＋緒言1＋63p　挿絵(月耕)　R43-316
〈伊太利十大部の其一なる多斯加納(とすかにー)は東にアベニー山あり／西は地中海に臨みて伊国第一の豊饒の地なり此国の都を／フロレンスと云〉

【明治20年】

尾題「楊牙児奇獄」。なお、明治新聞雑誌文庫に稿本の写本『和蘭美政録』(文久元年写)あり、その本文〈予がゲ府の大学校に寄宿せし時の事なりける予が同寮に一人の若き書生あり身分もよき人なり〉(和装23cm　55丁)。　25-560　R43-273

⑯⓪ 泰西情譜 **密夫(みつぶ)の奇獄(きごく)** ボッカス著　仏国カストル訳　近藤東之助重訳（内題下には菊亭静重訳）（二月、二〇月十一月再版）東京　石渡賢八郎（イーグル書店）発行
18cm　石渡氏印1葉＋緒言4＋口絵4＋目次2＋75p　挿画（小林周茂）4葉
＜今を距る三十年前の事なりき（案ずるに千三百廿年の頃と／知らる）伊太利国の都フロレンスの高等学校に盛大なる卒／業授与式を挙行せられ国王殿下八百官臣僚を率ゐて＞　特13-571　R43-355

⑯① 欧洲新話 **谷間乃鶯**　仏国セルバント著　斎藤良恭訳　（四月）東京　千葉茂三郎（共隆社）出版
18cm　共隆社印1葉＋序（三木愛花）3＋目次1＋113p　挿画（月耕）6葉
＜赤旆(せきはい)空に翻て祝融威を逞ふし時しも夏の最中なれバ炎暑ハ宛ら蒸すが如／く絺綌(ちきげ)を着るも堪難き昼の気候に引かへて晩風樹々の梢に起り涼味ハ池／水の面に動き＞　26-163　R43-408

⑯② 一読一驚 **世界一大奇聞**　中沢順三編輯・評点　（五月）大阪　三谷平助出板
19cm　序（菊地純）3＋目次5＋208p　挿画4葉
＜（新嘉坡通信）社員矢野の知人なる在新嘉坡(シンガポール)英人ジョセーブ、クラーク氏より最近の郵便／にて左の書面を寄せられたり＞（矢野龍渓）　26-101　R44-1
＜（志別(しべつと)土商人の物語）偖ても初夜に於て演述の席に現れたるは身材(みのたけ)六尺有余其の面茶黒色を帯／ひ漆黒の髭髯は喉頤より下頬の辺迄生ひ繁れり＞（天峯居士訳）　26-101　R44-13
＜（印度太子舎摩(ジャルマ)の物語）次の夜演述の席に現ハれ出でしハ年齢已てに七十を超したりと覚しき翁にて鼻下の髭すら一面銀の如くに皤み身にハ筒袖ながらも＞（笠山樵客訳）　26-101　R44-31
＜（志々利(シシリー)物語）昔し伊太利の志々利国王露牙(ローゲル)に一人の弟と一人の妹ありて弟君を曼布礼(マインフレイ)／と呼び妹君を麻知佗(マチルダス)と呼びけるが＞（訳者不記）㊹参照　26-101　R44-54
＜（金驢譚(きんろものがたり)）余（柳志斯(リューシャス)）は或る時デッサリーの都ハイパタ府に游はんとて一頭の馬を雇／ふて発足

せり〉(不語軒主人訳)　26-101　R 44-79

〈(英国士官の物語)余ハ英国の士官にて数年前迄は亜弗利加ズールーの地に戦ひしが交代の／期至りて本国に帰り只今は非職士官なり〉(訳者不記)　26-101　R 44-109

末尾に「出版者曰後篇ハ昨今編者へ依頼中ニ付引続キ近日出版可仕候」とあり

⑯3 嘉坡通信報知叢談 **志別土商人物語**　矢野龍渓訳　上田捨吉編輯・出版　(五月)大坂　(駸々堂本店蔵版)

17cm　66p(「新嘉坡通信」「志別土商人の物語」収録)⑯2参照　26-88　R 44-117

⑯4 人情小説 **花情粋話**　ベルセジオー著　仏ルー訳　大石高徳意訳　(六月)辻岡文助(金松堂)出版

19cm　序(魁蕾史)2＋自序4＋口絵(小林茂麿)2＋目録3＋212p　挿画5葉

〈外周の塀ハ石を以て高く滑に築き門の左右ハ常磐木隙／間もなく植列べ住居ハ渾て平家煉瓦造〉　特13-549　R 44-154

⑯5 欧洲情史 **美人の罠**　仏国セルバント著　中村柳塢訳　三木愛花閲　(一〇月)東京　千葉茂三郎(共隆社)発行

18cm　共隆社印1葉＋自序3＋目次1＋127p　挿画(月耕)5葉

〈紫騮ハ嘶て西に去り緑車ハ轟て東に来る紳士往き商人還る玆ハ欧洲／西班牙の都バラドリットを少し離れ繁華を避けし一と構へ〉　特13-590　R 44-287

⑯6 他邦侵略 **露人気質**　八木半治訳出　(一〇月)東京　西村富次郎(自由閣)出板

18cm　序(須藤南翠)6＋口絵1葉＋143p　挿画(月耕)9葉

〈黒水深淵の怒流は岩に激して霧と成り水散りて花を成す翁鬱幽棲の／樹木は水音の之れに響きて宛ながら雷の轟ろくが如くして惨愴凄愴／云はん方なき露西亜窩瓜河の殺風景〉　国立国語研究所所蔵

⑯7 名将佳人 **遠征奇縁**　一名西洋水滸伝　小野次郎纂訳　三木愛花閲　小西柳塢評　(一二月再版、初版一

九年一二月）東京　千葉茂三郎（共隆社）出版
18cm　共隆社印1葉＋序（紅夢楼主人）2＋登場人物3＋目次1＋111p
〈将星鶺鴒原に落て蜀の英雄諸葛亮其死を知り白虹日を貫て燕の壮士／荊軻其の首を授く〉
『露国水滸伝』（十七年刊）の改題本（柳田泉による）　特11-292　R44-368

【明治21年】

⑯⑧ 波斯奇談 **奇遇夢物語**　横山峯一訳述　（一月）東京　関田倉吉（盛春堂）出版
22cm　題字（中江兆民）1葉＋緒言4＋目次2＋149p　挿画（周延）2葉
〈今を去る千年前波斯（べるしや）国ハコースルシヤと名くる帝ありて／性頗る奇異を好ミ給ふより美麗なる衣服を装ひて諸所を／遊行せらるゝ事あり〉　173-495　R44-428

⑯⑨ 滑稽狂言 **双児の邂逅**　プロータス著　相良常雄訳　（五月）東京　原亮三郎（金港堂）発行
19cm　緒言（末松謙澄）5＋登場人物1＋前口上6＋130p
〈〔須〕あの若い人達は己ィらに須本治（スポンジ）（海綿の義）と云ふ名を付けたから、／何故だと言ったら、己ィらが食事をするときにや〉　38-19　R44-514

⑰⓪ 印度小説 **志別土商人物語**　絵入教育改良小説　矢野龍渓訳　（七月）東京　村上眞助（文泉堂）発行
17cm　叙（夢廼家さむる）1＋口絵3＋41p（⑯②の「志別土商人の物語」収録）　特49-424　R45-1

⑰① 希臘異聞 **金驢譚**　絵入教育改良小説　森田思軒訳　（七月）東京　村上真助発行
16cm　叙言（夢廼家さむる）1＋口絵3＋61p（⑯②の「金驢譚」収録）　特47-478　R45-26

⑰② 諷世奇談 **王様の新衣裳**　アンデルセン著　河野政喜訳　（一二月）東京　近藤音次郎（祥春堂）発行
19cm　28p
〈むかし或処に衣服道楽の王様があつて、此の／彼のと新式の衣裳を買とゝのふばかりで御／庫

の金銀を費はたすほど、平生服装に身をやつして居られまして〉　特52-706　R45-61

【明治24年】

⑬ **二人むく助**　少年文学第二編　アンデルセン著　尾崎紅葉訳　（三月）東京　大橋新太郎（博文館）発行　和装19cm　序2＋口絵1＋114p　〈むかし某村に椋助といふ百姓／二人住みけるが、おなじ名の紛らはしとて、四頭の馬を持て／るを大椋助、一頭の馬の主を小椋助と、誰いふとなく呼びな／らはせけり〉　特47-601　R45-80

⑭ **航海小説羅（ラ）、武烈号（ムレツト）**　驚濤生訳述　**懺悔**　フハージオン著　賣薪生訳　**石美人**　白水居士翻案（『第二国民小説』所収）　草野茂松編輯　（一〇月）東京　垣田純朗（民友社）発行　19cm　目録1＋370p　〈（羅、武烈号）日は西に落ちたり波を彩どる斜照の名残も何時しか消えて極目渺杳なる印度洋は一面に蒼／然たる暮色の覆ひ罩み寂寞を破るはたゞ我ルビー号の徐に波を截るあるのみ〉　〈（懺悔）左らば余ハ白状を為さんか。法教師めは己が苦心の甲斐ありて斯くなりぬと慢らんが、斯／く思はゞ斯く思へ〉　〈（石美人）主婦は客を伴なうて広間の内より出で来れり、見渡せば十六夜の月、高く碧琉璃の空にかゝ／りて海は白銀の鏡を磨き半開きたる胡弓〉　イギリス文学編⑩⑤を参照。（第Ⅰ期R29-93、R29-107、R29-131に収録）

【明治25年】

⑮ **金満家**　（一二月）東京　菅谷与吉（日吉堂）発行　18cm　新嘉坡通信7＋志別土商人の物語叙（夢廼家さむる）1＋挿画3＋志別土商人の物語37＋貧

福24＋亜非利加奇譚叙詞1＋挿画3＋亜非利加奇譚49ｐ　特13-533　R45-150

〈「新嘉坡通信」「志別土商人の物語」は⑯②に同じ〉

〈(貧福)昔しムーア人種の猶ほ西班牙を占領せし頃グラナダの帝都に孟査(モーザ)及び丙南吐(ヘルナンド)と云へる両人／の紳商あり〉(森田思軒訳)　特13-533　R45-176

〈(印度太子)亜非利加奇譚)印度国の太子舎摩王故ありて亜非利加の地に渡来し久しく其地に住て獅子猟を業となし居／けるが久々にて郷里に帰らんとして船便宜に(新嘉坡)に着し演説の席に列して身の来歴を／口述し物語なり当時此舎摩王は齢已に七十を越たりと覚しき〉　特13-533　R45-190

【明治26年】

⑯ **西洋笑本**　田村久和纂・発行　(五月)東京　(東京出版館)発行
19㎝　序2＋目次1＋36ｐ(八話収録、第八話はフランクリンの話)

〈聞きならく頃ハ島田の十七年質の流れの六月三日観音様／の御縁日十七日も過ぎ去りて蚤の死骸の四十九日三年三月の其間地震、雷、火事、親爺〉　特49-95　R45-217

⑰ **極楽郷　雪の女王**　アンデルセン著　**孤屋(ひとつや)**　ハート著(『鳥留好語』所収)　内田魯庵訳　(九月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
21㎝　凡例2＋目次2＋170ｐ

〈(極楽郷)万巻の書冊を擁して只管宇宙の秘密を探らんとする学者あり〉

〈(雪の女王)昔し陰険邪智なる大悪魔あり有るほどの悪事を仕尽して猶ほ厭き足らず終に／不思議なる魔鏡を鋳造せり〉

〈(孤屋)我々一行は馭者と共に八人なり。此六里間車中の者皆無言なりき、一行中の／裁判官が話中に引用せし詩句を、険路をがたつく喧然たる車輪の響にて半ば消／されし以来は〉

イギリス文学編⑰参照(第Ⅰ期R33-348、R33-359、R33-388に収録)

⑱ **鈍機翁冒険譚** (世界文庫第九・十編) セルバンテス著 松居松葉抄訳 (一一月)東京 大橋新太郎(博文館)発行
上下二冊22cm 小伝6+114+訳者の解4p、(下)161p 43-241 R45-243 311
〈近きほどのことなりき。騾慢呵村の片ほとりに一人の紳士ありけり〉

【明治28年】

⑲ **四の緒** ぼっかしお著 尾崎紅葉訳 (七月)東京 和田篤太郎(春陽堂)発行
23cm 口絵1葉+115p(鷹料理=14p、三箇条=18p)
〈(鷹料理)今は昔、伊太利ふろおれんすに、系図も正しく、富裕なる家に生れて、容清秀に、心の都雅は更なり、弱年ながら才芸備りて、ふェでりごぞ由々しき武士と沙汰せし〉 45-206 R46-1
〈(三箇条)今は昔あけいあのあゝごすといへりし町ににこすつらたすとなむ呼べる貴人ありける〉 45-206 R46-10
『四の緒』目次——鷹料理〇三箇条〇白百合(柳浪)R46-19〇左褄(眉山人)34〇鐘声夜半録(泉鏡花著、紅葉閲)45

【明治34年】

⑳ **社会之敵** イブセン著 森嶌峰訳・発行 (九月)東京
19cm 口絵(斎藤松洲)1葉+序5+284p
〈相州の沿岸、その昔は間の駅ながら/に、可なりに盛つた市街、それが鉄/道が出来てからと云ふものは、東海/道一体の寂れを受けて、一時は誠に見る影も/ない哀れのものに〉 88-216 R46-92

㉑ **イブセン作 社会劇** 高安月郊訳(一〇月) 東京 高田俊雄(東京専門学校出版部)発行

22㎝　肖像1葉＋文学叢書発行の趣意2＋緒言2＋目次1＋イブセン74＋人形之家152＋社会之敵172p

〈(人形之家)ノラ　よつくクリストマスの木を隠しておくれ〉　91-1　R46/247

〈(社会之敵)ストツクマン夫人　ビルリング様、あなた遅くいらつしやるから、冷たいもので御辛抱して戴／かなくつちやなりません〉　91-1　R46-290

【明治35年】

(182) 世界奇書 **ドン　キホーテ**　其一　サーヴァンテス著　雄島浜太郎重訳　(四月)東京　石川栄司(育成会)発行

22㎝　目次1＋訳者の緒言2＋短歌10＋著者の緒言10＋そへがき1＋49p

〈さまで昔のことならず、ラーマンチャーの一村に、その村の名は思出す気もなけれど、常に鎗を架／け、楯をそなへ、瘠馬や狩犬を飼ひおく紳士の一人住みたりき〉　93-160　R46-471

(183) 伊国美談 **十二健児**　アミチス著　原抱一庵重訳　(五月)東京　山縣操(内外出版協会)発行

15㎝　例言2＋目次2＋158p

〈一艘の仏国船伊太利ゼノアに向けて西班牙バーセロナ港／を出帆せり〉　99-43　R46-513

(184) **西洋花こよみ**　ボッカシオ著　長田秋濤訳　(七月)東京　堀野与七(文禄堂書店)発行

19㎝　109p

〈(奥様の試験)郷田公爵と呼ぶは、先祖代々の勲功は勿論、幾百年間連綿とし／て、血統の絶たことのない、華胄の名門であるが〉　特13-581　R46-605

(185) **即興詩人**　アンデルセン著　森林太郎訳　(九月)東京　和田むめ(春陽堂)発行

上下二冊22㎝　例言1＋目次3＋213p、(下)目次3＋220＋不翻訳語一覧23p

〈羅馬に往きしことある人はピアツツア、バルベリイニを知りたるべし〉　86-356　R47-1-117

【明治36年】

(186) **血の涙**　リサアル著　山田美妙訳　(一〇月)東京　山縣操(内外出版協会)発行　19cm　はしがき(リサアル)2＋山縣悌三郎氏へ訳者から呈するデヂケシオ2＋162p

〈十月末の事であツたが、ビノンドの茶五旦那(Don Santiago de los Santos,/Binondo)が知り人を集めて晩餐御馳走といふことである〉　97-97　R47-247

(187) **ダンテ神曲物語**(通俗世界文学　第十編)　繁野天来訳　坪内逍遙閲　(一二月)東京　坂本嘉治馬(冨山房)発行　22cm　口絵1＋序(坪内)2＋はしがき5＋目次2＋136p　挿画7葉

〈以太利の歌仙ダンテ、三十五歳の春の花咲く頃、蝴蝶の夢心地に／人生の正しき道を失なひて昼なほ暗き林の奥に迷ひ入り、気うと／き一と夜をこゝろ細くもわなゝきあかしつ〉　41-109　R47-338

【明治37年】

(188) **オデッセ梗概　さすらひ**　赤司嚼花・石田春風編　(一月)東京　原亮一郎(金港堂)発行　19cm　緒言2＋目次2＋103p

〈苟も瀛の文学を談ぜむ程の儕、誰れかは、詩聖ホメロスを知／らざらむ〉　97-142　R47-431

(189) **イリアッド梗概　楯の響**　赤司嚼花・石田春風編　(一月)東京　原亮一郎(金港堂)発行　19cm　緒言4＋肖像1葉＋系図1葉＋目次5＋103p

〈上下三千載、遠く詞章の源泉となり、古今空絶の叙事詩に称せられ、天弦もとより凡俗の唱和をゆるさず、仰いで弥よ高きものは、これ、イリアツド二十四篇に非ずや〉　97-143　R47-488

イギリス文学編　追加

【明治7年】

⑲⓪ **泰西世説**　チェムブル著　中川将行訳述　(一一月)大阪　柳原喜兵衛(河内屋)・東京　岡田文助(河内屋)発行
三冊　木版和装23cm　緒言2＋凡例2＋目録3＋35丁、(二)目録3＋31丁、(三)目録2＋33丁
〈二匹ノ馬ヲ庁廠(カシヨウ)ヨリ牽キ出シ均シク或ル小河ニ水ヲ飲マシムルニ偶〻河水氷合シテ其水ヲ飲ムコト能ハズ〉
4-155　R48-147-83

【明治19年】

⑲① **泰西女丈夫伝の内　朗蘭夫人の伝**　〔グレース姉妹著〕　坪内雄蔵訳述　(一〇月)大阪　日野九郎兵衛(帝国印書会社)出版
19cm　叙(冷々亭杏雨)3＋151p
〈紀元一千七百六十三年頃かとよ。仏蘭西国パリの都セイ／ヌ河のほとりなる。ケイデ、ヲルヘウルといふ所に。一個の宝／石の商人住けり。姓は浮リッポン。名は具ラチエン〉　特20-525　R48-121

【明治20年】

⑲② **才子佳人　奇遇之夢**　中村柳塢纂訳　三木愛花評　〔三月〕東京　菊地辰三(金玉堂)出版
19cm　序(愛花)2＋226p　挿画2葉
〈今は世界の一強国名にし欧洲の英国なるアイルランドのコル県のミゼシベットと云ふ処に二つの豪家ありたりけり一家は華氏と云ひ〉　特13-518　R48-207

⑲③ **小説　雨中花**　初編　末広鉄腸・二宮孤松訳　(一一月)東京　小林義則(文学社)出版

18cm　213p　挿画2葉
〈男「メードラインよ直成(ほんとう)に餓(かつ)えると云ふは辛いもの／サ子／斯く云ひかけし男は其名をルイ、ブライトルと呼び／年の比三十計りと覚しく〉　22-128　R48-329

⑭
文明世界　**宇宙の舵蔓(うちふかじづる)**　勝岡信三郎訳述　内藤耻叟評記　（一一月）榊原友吉（文盛書屋）出版
20cm　序（依田百川）4＋叙（夢南迂史）3＋チヤアルス肖像1葉＋序言（鶴城居士）4＋凡例3＋目録3＋166＋批評（内藤）2　挿画7葉
〈天閑温にして青雲鬟鬌き四岳峻峻しくして禽鳥の翔行に／道なく樹林枝を交へて色益す緑りに谿水滾々として響砰／角を撲ち寂々寥々人跡を絶ち雅致風韵自から完備はる〉　24-34　R49-1

⑮
うきよかがみ　巻之一　摩爾利亜登著　橋本武訳・出版　（一一月）東京
木版和装22cm　序（松のやの主人）1＋25丁
〈今をさる百二十二年前西暦一千七百六十四年のことなりしとかや英／国に江戸輪宝太といふ丈夫ありける〉　特40-138　R49-109

【明治24年】

⑯
老婆毒計　**緑林の豪客**　不破曾武伯の冒険　スモレット著　河野基戯訳・発行　（一一月）東京
15cm　緒言4＋挿画（景信画）2＋33p
〈不破曾武(ふあそむ)伯ハ其日一人の道案内者を力と恃み／本村を出立しけるが、人里遠き深山の裡に日ハ全く暮れ果て夜ハ鳥羽玉の真の暗山林寂寞と物凄く〉　特49-481　R49-138

【明治26年】

⑰
短編小説　**愛の杯**　テイラ著　佐藤てつ子訳　（五月）東京　福永文之助（警醒社書店）発行
19cm　序（星野光多）1＋24p

〈久しき以前の事なるが、或る遠き国に一人の幼き男の童／ありけり〉　特49-819　R49-158

【明治30年】

(198) **彫像師**　袖珍小説第四編　コンウエイ著　内田魯庵訳　〔一月〕東京　〔博文館〕発行　16cm　142p

〈六月の末、晴々しき午後の事、二百年来此土地を子から／孫、孫から曾孫と伝へ〳〵て永代小作したる農夫アブラ／ハム、レイは例の如く牧場の門に立つて〉　71-334　R49-175

【明治32年】

(199) **軍事小説　帝国々難の夢**（軍人文庫）　那須野舎訳（三月、㈡五月、㈢六月）東京　伊藤芳松（兵事雑誌社）発行　三冊19cm　叙（呑海狂夫）4＋緒言2＋凡例1＋211＋平壌の戦争（長岡外史）39＋英雄の風流（武骨子）20p、（二）180＋二人特務（山内暖雪）40＋新報11p、（三）180＋小説妖怪談（ヘロン著、墨畝訳）32＋新報14p

〈戦争！　露西亜と戦争！／との風説の、歌舞伎座内に伝はるや、階上階下数千の観客は、忽ち哄き／始めたが〉　80-192　R50-1-154-285

【明治33年】

(200) **勇少年冒険談　初航海**　リード著　桜井鷗村補訳　（九月五版、三二年六月初版）東京　大橋省吾（文武堂）発行　16cm　緒言3＋目次2＋口絵（中村不折画）1葉＋312p

〈諸君！　私は、只今では、印度通ひの商船の長でして、不肖ながら、多く／の水夫共にも尊敬される身分となりましたが〉　77-446　R49-254

(201) 堅信美談 **薄命児** ストレットン著 田中太郎訳 (一二月)東京 福永文之助(警醒社書店)発行
19cm 緒言6＋目次2＋Introduction(ウエスト)1＋208p
〈此所は英吉利国の大都会ロンドン市の片隅なるイースト、エンドの／天使街とて、聖「ポール」の大伽籃より一哩余りを距てたる音に聞／こえし饑寒窟の一つである〉 88-76 R49-422

あとがき

伝統に培われた強固な価値意識と滔々たる欧米の近代合理主義の波に洗われて、明治期日本人は内的世界の分裂を生んでいった。

それは美術を日本画と洋画とに分類してしまったように、音楽や演劇においても、また文学の場においてもこの分裂を克服できないままに、今日に及んでいる。このことは、近代日本において芸術を成立せしめる条件が何であるかというテーマを孕んでいる。

日本の近代は、国家の諸制度を「国民」と「個人」だけでつくってきた。しかしそれら制度の手本となったヨーロッパでは、「国民」という意識に先だって、十二、三世紀以来日常生活に即してはぐくまれてきた「市民」意識の伝統があり、今日もなおヨーロッパ的社会秩序の根底に息づいている。それが、生活の場においてさまざまな自己貫徹を可能とする条件であるとするならば、少なくとも明治の日本にはなかったものである。

このような問題意識の下で、日本になぜそのような条件が生成しなかったのかを考えつつ、『明治期翻訳文学書全集』を編んだ。利用を期待するものである。

*

第一期に引きつづき、第二期の目録に収録できなかった翻訳文学書を一覧しておく。左の十二点中、『我懺悔』と『烈女の疑獄』の二点は国会図書館の目録にはあるが、書庫で行方不明のため収録不可能となったもの。編者の予備調査が不十分であったことをお詫びする次第である。

〔1は上田聖書館文庫、2・8は早稲田大学図書館、11は明治新聞雑誌文庫所蔵〕

1　富蘭克林自叙伝（勤勉立志）　望月与三郎訳　明治二二年一〇月　大阪　上田済生堂（フランクリン）
2　贋金つかひ　坪内逍遙訳　明治二一年　大阪　駸々堂（グリーン「ＸＹＺ」）
3　二万里海底旅行　梅木梅太郎訳　明治一三年　京都　山本（ヴェルヌ「海底二万リーグ」）
4　西洋血潮小暴風（仏国革命起源）　桜田百衛訳　明治一五年一二月　絵入自由新聞社（デュマ・ペール「ジョセフ、バルサモ」）〔同志社大学キリスト教社会問題研究会所蔵〕
5　黄昏日記（新篇）　小宮山天香訳　明治一八年三月　大阪　駸々堂（デュマ・フィス「椿姫」）
6　野の花　馬場孤蝶訳　明治三五年　新声社（ドーデー）
7　自由の弓弦（瑞西独立）　斎藤鉄太郎訳　明治一三年一二月　白水増吉（シラー「ウィルヘルム・テル」）
8　うゐるへるむてる　佐藤芝峰訳　明治三八年　秀文書院（ゲーテ）
9　我懺悔　加藤直士訳　明治三五年一〇月　警醒社書店（トルストイ）〔昭和女子大学近代文庫所蔵〕
10　烈女の疑獄（魯国奇聞）　杣田策太郎抄訳　明治一五年五月　由己社
11　鬼啾啾（虚無党実伝記）　宮崎夢柳訳　明治一八年一〇月　旭活版所（ステプニヤク「地底のロシア」）
12　学童日誌（教育小説）　杉谷代水訳　明治三五年一二月　春陽堂（アミチス「クオレ」）

なお、このほかに当初収録を予定しておりながら、逸した四点がある。左に掲ぐ。

1　梨園の曙　一名西洋演劇脚本　高橋義雄訳　明治二〇年一月（ヘンリー、イー、ジョンズ「洋琴調子整」、ゼヲヂ、ソーン「恋衣乾ぬ間の渚」、ゼヲジ、マクフハーレン「ガイフォークス地雷火奇譚」、テー、イー、ハルマー「女権拡張情理岐」）
2　水沫集　森鷗外訳　明治二五年七月　春陽堂
3　女優ナナ　永井荷風訳　明治三六年九月　新声社（ゾラ）
4　恋と刀　永井荷風訳　明治三六年一一月　新声社（ゾラ）

2は岩波書店版『鷗外全集』第一巻、第二巻、および「於母影」は第十九巻に、3・4は岩波書店版『荷風全集』第十八巻に収められている。1は国立国語研究所と明治新聞雑誌文庫に所蔵されている。

*

ロシア文学編の収録書は後半がほとんどトルストイの作品である。そして、この後も切れることなくトルストイの作品は翻訳されていく。柳先生が、本全集を明治三十八年までとした根拠を繰り返し問われた事情がここにあったと思われる。ロシア文学編を利用する方のために、収録書以外の明治期に翻訳出版されたトルストイの作品を一覧しておく。(○印は国会図書館所蔵本、〔 〕内は請求番号)

○36年3月　我宗教　加藤直士訳　文明堂〔88—375〕
○　5月　人生之意義　神東惇訳　経世社〔特54—91〕
○　10月　万国平和会議評言　一名軍備全廃論　神東惇訳　経世社〔94—180〕
○37年8月　トルストイの日露戦争観　加藤直士訳　日高有隣堂〔984—cT65tK〕
　7月　筒を枕に　二葉亭四迷訳　金港堂
　7月　セパストウポルの落城　峨嵯の屋おむろ訳　春陽堂〔三康図書館所蔵〕
○　9月　トルストイの日露戦争論　平民社訳　文明堂・信陽堂〔97—220〕
　39年1月　イワンの馬鹿　内田魯庵訳　火鞭会〔早稲田大学図書館所蔵、再版〕
○　4月　アンナ・カレンナ　柴田流星訳　上田屋〔26—35〕
○　6月　人生の意義　河上肇・小田頼造訳　古今堂〔97—428〕
○　10月　芸術論　有馬祐政訳　博文館〔78—3〕
○40年4月　トルストイ短篇集　百島冷泉訳　内外出版協会〔31—320〕

○　7月　下僕の生涯　神崎順一訳　平民書房〔32—328〕
○　11月　人道主義　小田頼造訳　隆文館〔76—362〕
○41年3月　二人巡礼　百島冷泉訳　内外出版協会〔特13—769〕
　9月　生ひ立ちの記　近松秋江訳　国民書院〔早稲田大学図書館所蔵〕
○　10月　長恨　筑山正夫訳　昭文堂〔32—369〕
　11月　復活　前編　内田魯庵訳　丸善〔三康図書館所蔵〕
○42年4月　トルストイ小説集　百島冷泉訳　内外出版協会〔32—390〕
○　6月　トルストイの教訓及其自叙伝　榎本恒太郎訳　内外出版協会〔17—471〕
○　10月　杜翁叢書二編（人生の意義、神想録）　榎本恒太郎訳　内外出版協会〔95—76〕
○43年1月　復活　後編　内田魯庵訳　丸善〔93—297〕
○　1月　簡易聖書　小田頼造訳　金尾文淵堂〔29—320〕
○44年6月　性欲論　大住嘯風抄訳　精神修養社〔332—113〕
○45年3月　生ひ立ちの記　青年編　徳田秋江訳　東京国民書院〔32—365〕
○　6月　三奇人（『毒の園』所収）　昇曙夢訳　新潮社〔338—89〕

なお、柳先生には「原著者及び原著索引」のロシア文学編の項作成にあたり、ご協力賜わりました。

*

第二期の目録作成にあたり、解題を快く担当していただいた福田陸太郎、富田仁、小堀桂一郎、柳富子の四先生には、あたたかい助言・示唆・教示を数々賜わったことに、深く感謝いたします。そのうえ、福田、富田、柳三先生には、ご多忙にもかかわらず国会図書館にまで足を運んでいただき、収録書のほぼ全点にわたって目を通

していただいたことに対しても、改めてお礼申し上げる次第であります。特に、柳先生は講義や会議の間隙をぬって、連日のように通っていただき、そこでとられたノートの量と用意された資料は、おそらく一冊の単行本を書き上げるに十分なほどのものであった。できうれば『日本におけるロシア文学』を著述されることを期待するものであります。

本目録に基づくマイクロフィルム版を作成するに際しては、第一期に引きつづいて、所蔵先である国立国会図書館の関係各位に一方ならぬご協力を賜わったことを申し述べねばならない。収録書の調査閲覧からマイクロ撮影および事後調査に至るまで図書閲覧課の三上良一前課長、高梨翌課長、浅沼栄係長にはさまざまなご配慮を賜わったことに深く感謝する。併せて、閲覧のたびにお手数をかけた図書閲覧課の方々にお礼申し上げる。撮影に際しては複写課の大口欣一氏のご配慮に感謝する。その他、調査のために同館のさまざまな部署の方々にお世話になり、ご教示賜わったことを記し、一々氏名を明記しないが、お礼申し上げる次第であります。

また、調査のために、国立国語研究所図書館、明治新聞雑誌文庫、三康図書館、日本近代文学館を利用させていただきました。その成果は多くあり、特記すべきことは目録のそれぞれの項へ所蔵館名とともに注記し、本目録を豊かにすることに役立たせていただきました。

マイクロフィルム化作業は日本マイクロ写真株式会社が担当し、実務は河南寿麿、柳田修司両氏の尽力をいただき、撮影は第一期に引きつづき、久保田寿写真士に担当していただいた。

一九八八年七月

榊原貴教

*

書誌文献――西欧翻訳文学全般にわたるものは概ね第一期の目録書に掲げておいたので、ここではその遺漏と英米文学以外の国毎のものを掲げ、補遺とする。

西洋文学の移入（明治文学研究第七巻）　柳田泉著　昭和四十九年　春秋社

日本に移されたフランス文学　高橋邦太郎稿（日仏文化協定締結記念　日仏文化交流展目録）　昭和二十八年　丸善株式会社

日独文化展覧会出品目録　昭和十二年　（財）日独文化協会

ドイツ文学案内　岡田朝雄・岡田珠子共著　昭和五十四年　朝日出版社

ロシア文学案内　中村喜和・灰谷慶三・島田陽共著　昭和五十二年　朝日出版社

イスパニア文学・哲学邦訳文献年表（翻訳・翻案編）　辻井正衛編　昭和四十六年　天理大学学術研究会

その他、作家毎の書誌はあるが、省略する。

翻訳者索引——校閲者・序跋等の筆者も含む

本稿は概ね収録書の奥付等から作成した、厳密な校訂を経ていない第一次稿である。住所、寄留地は当該出版物刊行時のものである。複数の住所があるものは、転居のあったことを示す。目録Ⅰの索引とあわせて利用されたい。

あ

饗庭与三郎(篁村)　安政二年江戸生れ　跋㊷

青柳猛(有美)　明治六年秋田県生れ　㉝

赤司繁太郎(嚼花)　㊽㊾

赤沼　朗(金三郎、天心狂史)　序㊵

秋庭浜太郎(楓山)　岡山県士族　牛込区西五軒町五十二番地寄留　⑤

秋元隆次郎(幻夢)　日本橋区薬研堀一番地　㊾

浅井栄熙　熊本県士族　本郷区真砂町二五番地寓　㊼

浅田吉太郎　序㊿

浅野和三郎(馮虚)　明治七年茨城県生れ　㉙

蘆田束雄(葦田半窓睡仙)　東京府平民　東京府南豊島郡金杉村四百三番地　㊻

阿部秀吉(幡渓仙史)　宮城県平民　港区南佐々間町一丁目三番地寄留　⑧

足立荒人(北鷗)　明治二年山口県生れ　㊾

有井　範　序㊷

有賀国次　長野県平民　浅草区南元町二六番地　㊹

有賀長雄　万延元年大阪生れ　閲㊿

粟屋関一(東洋)　山口県士族　神田雉子町二三番地寄留㊹

飯田旗郎(旗軒、眼花道人)　慶応二年江戸生れ　㉟

伊沢信三郎　安政三年生れ　長野県士族　東京小石川区小日向第六天町五十番地　㊷

石田元季(春風)　㊽㊾

イーストレイキ　G. W. Eastlake　序㉕

礒部精一　㊲

板倉松叟　題字⑤

伊藤重固　閲(66)
井上歌郎　東京市麴町区三番町二番地　(24)
井上勤　高知県士族・徳島県士族　大坂西区江戸堀通二丁目十番地寄留　(45)　東京芝区二葉町七番地寄留(45)　赤坂区赤坂新町三丁目二四番地寄留　(51)(55)　神田区駿河台南甲賀町八番地寄留　(56)(58)(59)(111)　麴町区上六番町四七番地寄留　(67)(71)(81)
井上操(法律学士)　序(9)
今村有隣　序(70)
巌本善治　文久三年但馬国生れ　跋(23)
巌谷季雄(漣山人、小波)　明治三年東京生れ　(26)　閲(132)
巌谷　修(一六居士)　題字(66)
岩本五一(香夢楼主人)　東京府平民　京橋区南鍋町二丁目二番地　(74)
上田万年　慶応三年生れ　愛知県士族　本郷区駒込西片町十番地　(120)
宇田川文海　序(63)
内田貢(魯庵、不知庵)　慶応四年江戸生れ　東京小石川区江戸川町十五番地　(17)(177)　神田区猿楽町五番地　(139)　住所不記　(96)b(143)(196)
江川勝信　福岡県士族　芝区白銀猿町八六番地尾崎宗隆方寄留　(48)
大石高徳　静岡県士族　本所区北二葉町二番地　(66)(68)(164)
大久保桜洲　訂正(65)
大久保勘三郎　茨城県士族　東京府浅草区象潟町七番地寄留　(156)
大倉本澄　大阪市西区阿波座一番町九十三番屋敷　(15)
大島国千代　東京市神田区今川小路二丁目十一番地寄留　(21)　赤阪区新町三丁目二一番地寄留　(21)
大島貞恭(鶯山)　序(93)
大島正健(相川漁夫)　(19)
大谷正信(繞石)　明治八年松江生れ　(34)
大平三次　東京府平民　京橋区新肴町一番地四通社　(57)
岡野　碩　東京下谷区池ノ端仲町十四番地　(83)
小笠原昌斉　(132)
小川多一郎(煙村)　明治十年京都生れ　(106)
小川忠武　(91)
小川吉之輔　高知県平民　土佐郡西弘小路二番地住　(2)
沖野岩三郎(五點)　明治九年紀州生れ　(151)
荻原良太郎　長野県平民　神田区宮本町十六番地　(64)
小栗貞雄　大分県士族　赤坂区表町三丁目九番地　(84)
尾崎徳太郎(紅葉)　慶応三年江戸生れ　(142)(173)(179)　序(94)
長田忠一(秋濤)　明治四年静岡県生れ　幕臣長田銈太郎の長男　(100)(184)　東京市牛込区若松町四七番地(103)　序(105)

雄島浜太郎 ⑱②
落合昌太郎(浪雄) ⑮③
尾上八郎(柴舟) 明治九年岡山県津山生れ 藩士北郷直衛の三男 ⑫⑥
小野次郎 京橋区南佐柄町四番地 ⑯⑦
小原要逸(無絃) ⑩⑨

か

魁蕾史 →古川精一(魁蕾)
鶴城居士 序⑲④
蔭山広忠 東京府士族 東京府下北豊島郡谷中村六七番地 ⑦②
画湖仙史 ⑫④
荷香逸人 序⑤①⑤⑧⑦①
珂水漁夫 評⑧④
片山 徹 序④⑤
勝麟太郎(海舟) 文政六年江戸生れ 幕臣 題字⑦
勝岡信三郎(硯岳樵夫) 静岡県士族 浅草区栄久町三番地 寄留 ⑲④
勝山重良(青城山人) 跋⑧⑩
加藤直士 明治六年山形県生れ ⑭⑤
加藤瓢乎(紫芳、聯画閑人) 安政三年大垣生れ ⑥②⑧⑥
加藤政之助 埼玉県平民 東京芝区三田二丁目二番地寄留 ①
大坂叡仲通二丁目十六番地寄留 ①
加藤幹雄 麹町区飯田町五丁目三三番地寄留 ⑧⑩⑧⑨
門田平三 大坂府平民 大坂西区堀北通一丁目十一番地 ③
仮名垣魯文(野崎文蔵) 文政十二年江戸生れ 閲④④
上條信次 弘化三年長野県生れ ⑮④
川島忠之助 千葉県平民 嘉永六年江戸生れ 幕臣川島奥六の末子 神奈川県下横浜相生町三丁目四六番地 山中伝次郎方寄留 ④①
神奈川県横浜区住吉町五丁目五九番地 ④⑨
河島 基(山北野史) 東京市芝区三田同朋町十一番地 ⑲⑥
川田河山人 ②⑥
河田清彦(泰之助、改名新井) 京都府下丹後国加佐郡河守町大字波美六番戸 ①⑥
河津祐之 序⑦③
神田孝平 文政十三年美濃生れ ⑮⑧
菊地 純(三渓) 文政二年紀伊国生れ 序⑯②
菊亭 静 ⑮⑨⑯⑩ 校⑮⑦ 閲⑮⑨
北川貞行 東京市牛込区袋町六番地 ⑭①
橘園小史 序④⑨
廐堂散人 ⑨③→吉村鐘一

驚濤生 ⑰④
行徳文郷 批評⑦⑦
草野柴二 明治八年岡山県生れ ⑫⑦
工藤精一 東京市四ッ谷区仲町三丁目三十番地 閲⑮
久保得二(天随) 明治八年東京生れ ⑬⑩
倉田 清(桜芳) ⑩⑦
栗本鋤雲(鯉、匏菴) 文政五年江戸生れ 幕臣 序⑤ 跋⑦③
呉 文聡 広島県士族 麹町区元園丁二丁目八番地 ⑪⑤
黒岩周六(涙香) 文久二年土佐生れ 東京市麻布区笄町一七四番地 ⑩⑧
黒田直道(湖山人) 明治十一年滋賀県生れ ②⑥
桑野鋭(顧柳散人) 安政五年生れ 福岡県士族 東京下谷区西町三番地寄留 ④
紅雪楼主人 ⑦⑥
香泉陳人 序④⑦
甲田良造 閲④⑦
厚東樹臣(渤海) 序⑥⑥
河野政喜(在一居士) 京橋区築地二丁目二二番地 ⑪⑦
紅夢楼主人 序⑯⑦ ——→三木愛花
古郡図南 序①④
小西増太郎 文久二年広島生れ ⑭②
小西柳塢 評⑯⑦
古梅道人 題字⑦③
小林茂麿 口絵⑯④
小宮山桂介(天香) 東京府平民 神田区西小川町二丁目一番地 ⑦③
近藤東之助 茨城県平民 東京本郷区湯島両門町十四番地 ⑮⑨⑯⓪
近藤真琴 芝区内新銭座六番地 ⑮⑤

さ

斎木延次郎(仙酔) 明治十三年広島県生れ ⑭⑧
採菊散人——→条野伝平
斎藤良恭 千葉県士族 京橋区南鍛冶町一番地木原信一方寄留 ⑯①
斎藤 賢(緑雨) 慶応三年伊勢国生れ 御典医の長男 序⑭⑥
堺 利彦(枯川) 小倉藩士堺得司の三男 明治三年生れ 東京府豊多摩郡淀橋町角筈七三八番地 ③⑧
阪田孫四郎(霧山人) ⑫④
酒巻邦助 下谷区御徒士町一丁目四三番地 ⑤③
坂本筒蔵 熊本県士族 熊本県熊本区新屋敷 ⑦⑦
相良常雄(春煙小史) ⑯⑨

桜井彦一郎(鷗村)　明治五年松山生れ　⑳　序㉓
笹島吉太郎(蜻洲)　評⑮⑦
佐々政一(醒雪)　明治五年京都生れ　序⑩④
佐藤重紀　会津生れ　神田区小川町十八番地　⑪
佐藤てつ子　横浜山手一七八番フェリス女学校寄留　⑲⑦
佐野　尚(臥牛楼)　大分県士族　東京下谷区池ノ端七軒町二八番地　⑮⑦
繁野政瑠(天来)　明治七年生れ　徳島藩士の子　⑱⑦
柴田流星　⑭⑦
渋江　保(幸福散士)　江戸生れ　⑫①
島本仲道(北洲)　序⑧②
荘田三平　跋⑪
条野伝平(採菊散人)　天保三年江戸生れ　⑨⑥
末広重恭(鉄腸)　愛媛県士族　嘉永二年生れ　東京芝区琴平町三番地寄留　⑦⑧　東京府麹町区内幸町二丁目一番地　⑲③　序⑧⑦③⑬⑤
末松謙澄(青萍逸人)　緒言⑯⑨
菅野徳助　明治三年石巻生れ　㉗
菅　了法　島根県平民　神田三崎町一丁目一番地寓　⑪④
鈴木貞太郎(大拙)　明治三年金沢生れ　前田藩の医師の子　⑫⑤
鈴木　力　福島県士族　東京本郷区本郷森川町一番地寄留　⑦⑧
須藤光暉(南翠)　安政四年宇和島生れ　御目付役須藤但馬の次男　序⑯⑥
須永金三郎(編輯)　牛込区矢来町三番地　⑨①
関　直彦(橘村居士)　東京府士族　安政四年生れ　麹町区飯田町三丁目十五番地　⑥⑨
尺秀三郎(鉄学士)　⑩①
鎗田かね(山人)　東京府平民　京橋区南紺屋町十九番地　⑥

た

高須治助(治輔、墨浦)　東京府平民　浅草区福富町十一番地　⑥⓪⑬⑥
高瀬真卿(鉄窓)　評⑮⑦
高橋五郎　安政三年柏崎生れ　東京芝区三島町十二番地　⑬①
高橋礼五郎(杏堂散史)　東京府平民　麹町区元園町一丁目四七番地　⑪⑦
高安三郎(月郊)　明治二年大阪生れ　医師の子　⑱①
田口鏡次郎(掬汀)　明治八年秋田県生れ　序⑮③
竹内正策(鷲山)　序⑨③
竹越与三郎(三叉)　慶応元年武蔵国生れ　序⑩

田島象二（本名伊達、任天居士）　嘉永五年江戸生れ　跋⑤
閲㊹　評⑮⑦
田中太郎　東京市赤坂区丹後町一番地　⑳①
田中祐吉（柏城）　小石川区小石川水道町五四番地　⑪⑨
田村久和（徒笑外史）　東京市本郷区駒込千駄木町五十番地
⑰⑥
田山録弥（花袋）　明治四年館林生れ　秋元藩士田山錦十郎
の次男　⑭⑩
談洲楼燕枝　⑧⑦
千葉秀浦　⑬③
千原伊之吉　大分県平民　京都府上京区第二十一組養安町
第一番戸寄留　⑨
著作道人　校訂⑦④
痴嚢狂夫　序⑧⑦
塚原　靖（渋柿園）　嘉永元年江戸生れ　幕臣の子　⑭⑦
坪内雄蔵（春廼屋朧）　東京府平民　東京府本郷区真砂町十
八番地　⑲①　序⑥④⑩⑤　閲⑱⑦
東海散士（柴四郎）　嘉永五年生れ　会津藩士　題詩⑪
徳田浩司（近松秋江）　明治九年岡山県生れ　⑫⑧
徳田末雄（秋声）　明治四年金沢生れ　加賀藩士徳田雲平の
三男　⑭⑩
徳富猪一郎（蘇峰）　文久三年肥後生れ　序⑪③⑩⑨
登張信一郎（竹風）　明治六年広島県生れ　序⑫⑥⑬④
富田兼次郎　日本橋区越前堀一丁目十番地　⑤③
富永徳磨（蟇江）　③⑤

な

内藤耻叟（碧海）　評⑲④
中江篤介（兆民）　弘化四年土佐生れ　序⑧②　題辞⑯⑧
中川霞城　⑪③
中川将行　⑲⑩
中沢順三（編輯）　⑯②
長島伝治郎　東京府平民　東京市本所区南二葉町十三番地
⑧⑦
中村豊之助（柳塢）　三重県士族　京橋区南八丁堀一丁目三
番地寄留　⑯⑤⑨②
中村正直（敬宇）　天保三年江戸生れ　幕臣　序⑦⑪　題詞
⑤②⑦⑦　題辞⑦②
成島惟弘（柳北）　天保八年江戸生れ　幕臣　⑮⑩
那須野舎　⑲⑨
西川光太郎（孤松）　東京小石川小日向台　③②
西河通徹　麹町区内幸町二丁目二番地　⑬⑤
西村茂樹　文政十一年江戸佐倉藩邸生れ　序⑧⑩
西村時彦（天囚居士）　鹿児島県士族　慶応三年生れ　東京

神田区猿楽町一丁目九番地寄留 ㊽ 跋㊿
二宮孤松 愛媛県士族 東京府芝南佐久間町二丁目十八番地 ㉓
丹羽純一郎 東京第十大区三小区浅草今戸町十一番地 ㊷
貫名駿一(松柏) ㊼
野田藤吉郎(栄城居士) 佐賀県士族 東京麹町区下二番町四九番地寄留 ㊿

は

賣薪生 ㉔
梅北雪淵 ⑤①
白水居士 ㉔
橋本 武(東洋逸史) 東京府士族 東京府下赤坂区新坂町十七番地 ㉕
橋本忠夫(青雨) ⑬④ ⑮②
服部誠一(無松逸史) 天保一二年生れ 東京府下本郷区湯島天神町一丁目四番地 ㊸ 東京府北豊島郡金杉村一二二番地 ㊸ 序④ 跋⑤ 閲㊼ ㊺ ⑬⑥ ⑮⑥
馬場勝彌(孤蝶) 明治二年土佐生れ ⑩④ ⑭⑥
原余三郎(抱一庵) 慶応二年岩代国生れ ⑩② ⑱③
肥田浜五郎 幕臣 序⑮⑤
平井広五郎 ㊱
広沢安任 序⑪
深沢由次郎 明治五年山梨県生れ 東京市神田区三崎町三丁目一番地 ㉕
福田直彦 熊本県士族 神田区美土代町三丁目三番地 ㊺ ㊻
福地源一郎(桜痴) 天保十二年長崎生れ 儒医の男 ⑪⑧
不言居士 序⑪⑦
藤沢浅二郎 序⑬③
藤沢周治(古雪) ⑫⑨
二葉亭四迷(長谷川辰之助) 元治元年生れ 尾張藩士長谷川吉数の男 ⑬⑧ ⑭④
不知老人 序㉓
古川精一(魁蕾) 安政元年江戸生れ 序⑯④
星野光多 序⑲⑦
堀江純一(松華庵) ⑨⑦
堀越岩松(晩翠) ④⑩

ま

前橋孝義 東京市麹町区土手三番町十四番地 ⑭
松居真玄(松葉) 明治三年宮城県生れ 東京市本郷区弓町一丁目二番地 ⑨④ ⑮⑩ ⑰⑧
松尾豊文 ㉘

松岡亀雄　福岡県士族　東京麹町飯田町五丁目三番地　㊻
松平康国　序⑭
松のやの主人　序⑲⑤
松村介石　安政六年明石生れ　明石藩士　序⑭⑤
三浦　徹（倒扇楼主人）　岩手県盛岡市川原小路三番戸寄留　⑬
三浦義方　校㊹
三木貞一（愛華、紅夢楼主人）　千葉県平民　京橋区南紺屋町四番地　㊿　閲⑯⑤⑥⑦　序⑯①　評⑲②　跋⑥⑤
三嶋　毅（吉備高梁、中洲）　序⑤
箕田居士　題字③
御手洗正和　静岡県士族　東京麻布材木町六八番地　⑦
三村芳南　校正⑥
三好重臣　題字㉓
宮崎富要（夢柳）　安政二年土佐生れ　土佐藩士宮崎富成の男　東京府平民　神田区表神保町四番地　㊿　大阪北区堂島浜通六一番屋敷　㉜
宮崎八百吉（湖處子）　元治元年筑前生れ　⑱
宮島春松　信州松代生れ　牛込区市谷田町二丁目三番地　㊹
民友社　㉚
夢南迂史　叙⑲④
村田豊作（寸木田人）　佐賀県士族　東京本郷区駒込肴町六番地　⑫
望月興三郎（玉砕軒主人）　大阪西区江戸堀上通一丁目九十六番屋敷　⑩
桃の舎主人　閲⑪⑦
森重遠（荻園閑人）　閲㊷　→出版人
森晋太郎（嶸峰）　東京市芝区西久保広町二一番地　⑱⓪
森公泰（大来、槐南）　文久三年名古屋生れ　序㉕
森　知斎　東京府平民　麹町区元園町二丁目四番地　⑦⑥
森林太郎（鷗外）　文久二年石見国生れ　⑫②　⑱⑤
森　體（肌香夢史）　岡山県平民　東京府麻布区本村町一八一番地　⑬⑦
森澄徳聡　神奈川県士族　四谷坂町一二二番地　⑥①
森田文蔵（思軒居士、紅芍園主人、羊角山人、不語軒主人）　文久元年生れ　岡山県平民　東京本所区横網町二丁目七番地　⑦⑤　東京日本橋区薬研堀三三番地　⑦⑨
住所不記　②②　⑧⑤　⑧⑧　⑨⓪　⑨②　⑨⑧　⑨⑨　⑯②　⑰①　⑰⑤　引㉔

や

八木半治（半の舎半痴）　愛知県士族　三河国渥美郡田原村一七四番地　⑯⑥
矢野文雄（龍渓）　嘉永三年生れ　豊後佐伯藩士矢野光儀の

男 ⑧④⑯②⑯③⑰⓪⑰⑤ 序㊱
山岡鉄舟 題字⑦①
山縣五十雄(螽湖) 明治二年滋賀県生れ ㉛㉝
山岸覚太郎(藪鶯) ⑳
山口小太郎 閲⑬②
山田郁治(松湖漁史) 大分県士族 東京府京橋区宗十郎町四番地寄留 ⑪⓪
山田 保 士族 東京南鍋町二丁目二番地 ㊸
山田武太郎(美妙) 慶応四年東京生れ 南部藩士山田吉雄の男 ⑱⑥
夢廼家さむる 校補⑦⑥ 叙⑨⑥⑰⓪⑰①⑰⑤
横山峯一 鳥取県平民 鳥取県伯耆国八橋郡法萬村十九番地 東京本郷区菊坂町五六番地寄留 ⑯⑧
吉村鐘一(廐堂散人) 東京市四谷区荒木町二番地 ⑨③
依田百川(学海) 天保四年江戸佐倉藩邸生れ 序㊾⑤⑤⑤⑨⑦ ⑲④ 評⑦③⑩⓪

ら

笠山樵客 ⑯②⑰⑤

わ

若松しづ子(巌本嘉志子) 元治元年岩代国生れ 会津藩士松川勝次郎の子 ⑫㉓㊴
和田稲積 跋⑧②
渡辺義方 校⑤①⑤⑥⑤⑧⑪

出版人・発行人索引

発兌人は原則として、出版人・発行人の記載のない場合のみ採録した。明治期刊行図書には著者が出版人を兼ねている場合が多いが、本索引では、翻訳者索引で検索できる出版人は省いた。書誌を参照していただきたい。例えば「訳述・出版」とあるのがそれである。

あ

青山清吉(雁金屋清吉)　小石川区内大門町二一番地 ⑮⑤
赤坂亀次郎(集成社)　神田小川町十番地 ⑪④
荒川信賢　東京市小石川区関口町二百番地 ⑩③⑩⑤ →早稲田大学出版部
五十嵐喜広　岐阜市稲葉区三一五七番地ノ一ノ二外二筆合併地 ⑭⑤
石原慎平　島根県士族　神田五軒町十八番地寄留 ⑤④
石川栄司(育成会)　東京市本郷区森川町一番地 ⑱②
石渡賢八郎(イーグル書房)　神田区花田町一番地 ⑪⑨
　神田区佐久間町三丁目十三番地 ⑧⑩⑧⑨⑯⑩
伊藤芳松(兵事雑誌社)　東京市赤坂区丹後町二六番地 ⑲⑨
井上勝五郎(薫志堂)　日本橋区南紺屋町一番地 ⑨⑥
岩崎鐵治郎(大学館)　東京市神田区堅大工町五番地 ②⑦
岩瀬寧津(東文館)　東京市下谷区北大門町十六番地 ③②⑨⑤
上田貞治郎(上田済生堂)　大阪市南区安堂寺橋通三丁目十一番屋敷 ①⑩
上田捨吉　京都府平民　大坂府南区末吉橋通三丁目十五番地寄留 ⑯③
宇敷則明(太盛堂)　神田区淡路町二丁目四番地 ④④
内沢安二郎　東京府平民　日本橋区西川岸町十二番地 ⑦⑥
内田正義(言文社)　東京市本郷区向ヶ岡弥生町三番地 ③③
内田芳兵衛(内田老鶴圃)　日本橋区大伝馬町二丁目十六番地 ⑬⑨

江原豊治(弘文社)　東京市下谷区中根岸町五四番地 ⑩④ ⑭⑥
大橋省吾(文武堂)　東京神田区仲猿楽町十六番地 ㉖ ⑳⓪
大橋新太郎(博文館)　日本橋区本石町三丁目十六番地 ⑫①
⑰③　東京日本橋区本町三丁目八番地 ⑳ ㉒ ㉓ ⑨⑧ ⑭⓪ ⑭③
⑰⑨
岡島幸次郎(岡島宝玉堂)　大阪府平民　大阪府下東区南久
宝寺町四丁目九番地 ⑥③
岡島真七(宝文館)　大阪府平民　大阪府下東区本町四丁目
五九番地 ⑥③
岡田文助(河内屋)　東京本町四丁目 ⑲⓪
岡本仙助　大阪東区唐物町四丁目十二番屋敷 ⑧②

か

垣田純朗(民友社)　東京京橋区日吉町二十番地 ⑧⑤　東
京京橋区日吉町四番地 ⑧⑧ ⑨⓪ ⑨② ⑫② ⑬⑧ ⑭② ⑰④　東京市京
橋区日吉町七番地 ⑱ ⑫③
覚張栄三郎(起業館)　新潟県平民　芝区三島町六番地 ⑤⑦
加藤鎮吉(開新堂)　東京府士族　東京市神田区表神保町二
番地 ⑭ ⑮
金刺源次(金刺芳流堂)　東京市神田区今川小路一丁目五番
地 ㉑ ㉘
河合卯之助(文港堂)　京都市上京区寺町通二条下ル妙満寺
寺前十番戸 ⑯　同十三番戸 ⑯
菊地辰三(金玉堂)　東京府平民　京橋区竹川町十八番地
⑲②
木村文助　仙台市大町四丁目十四番地 ⑫⑦
救済新報社　東京市芝区三田四国町二ノ十六 ⑭⑤
久米田也寿　東京第一大区十四小区堺町八番地 ④②
栗田信太郎(競錦堂)　芝区露月町十五番地 ⑬⑤
黒瀬勉二　山口県士族　大坂東区本町四丁目十五番地寄留
④⑤
小池淡(後凋閣書店)　東京市神田区小川町四番地 ㉔
小池弘夫(菁莪堂書店)　東京市神田区小川町一番地 ㉔
宏虎童(絵入自由出版社)　東京府平民　京橋区三十間堀一
丁目二番地 ⑤① ⑤⑥ ⑤⑧ ⑪①
小林喜右衛門(仙鶴堂)　東京府平民　日本橋区新大坂町十
四番地 ⑦⑧
小林義則(文学社)　滋賀県士族　東京府日本橋区本町四丁
目十六番地 ⑲③
近藤音次郎(春祥堂)　京橋区銀座四丁目十二番地 ⑰②

さ

榊原友吉(文盛堂、文盛書屋)　東京府平民　日本橋区若松
町二一番地 ⑦⑧ ⑲④

坂本嘉治馬(合資会社富山房)　東京市神田区裏神保町九番地 ⑫⑫⑱⑦
佐々木和亮　兵庫県士族　東京府京橋区宗十郎町四番地寄留 ⑪⑩
佐藤乙三郎　東京府平民　日本橋区大伝馬町二丁目十五番地 ⑧④
佐藤儀助(新声社)　神田区錦町二丁目六番地 ⑫⑥
佐藤庄太(日本同盟法学会)　大分県平民　京都府上京区第二十一組養安町第四番戸寄留 ⑨
佐藤養治　仙台市名掛町五番地 ⑫⑦
清水金右衛門(文明堂)　東京市本郷四丁目五番地 ⑬⑤③
自由閣　京橋区中橋大鋸町四番地 ⑧① ——→西村富次郎
尚絅社　東京市神田区駿河台東紅梅町六番地　正教会附属女子神学校内 ⑭①
菅谷与吉(日吉堂)　神田区佐久間町一丁目九番地 ⑰⑤
杉本七百丸(翰香堂)　日本橋区本町四丁目十八番地 ⑦⑧
須永金三郎(右文社)　東京市牛込区矢来町三番地 ⑨④
関田倉吉(盛春堂)　埼玉県平民　東京本郷区元富士町三番地 ⑮⑧
鎗田政次郎(一光堂)　東京府平民　東京府下京橋区南紺屋町十九番地 ⑪⑥

た

高崎修助(高崎書房)　東京府平民　東京日本橋区浜町二丁目十二番地 ⑮⑨
高田俊雄(東京専門学校出版部)　東京市牛込区赤城下町二七番地 ⑱①
千葉茂三郎(共隆社)　東京府平民　京橋区銀座二丁目六番地 ⑯①⑯⑤⑯⑦
辻　駒次郎(集成堂)東京市日本橋区馬喰町二丁目一番地 ⑭⑨
辻岡文助(金松堂)　東京府平民　日本橋区横山町三丁目二番地 ⑥⑥⑥④
飛敷一郎(静寿館)　東京市神田区三崎町三丁目一番地 ②⑤
東儀季治(独逸語学雑誌社)　東京市牛込区中町三五番地 ⑬②
東京専門学校出版部　東京府豊多摩郡戸塚村大字下戸塚六七四番地 ⑱①

な

内藤伝右衛門(温故堂)　山梨県平民　西山梨郡甲府常盤町四番地 ④⑥
長尾景弼　兵庫県士族　府下芝区愛宕下町三丁目一番地寄

留 ㊺㊾
中川鐵次郎 ㊽
中島精一 大分県士族 東京芝区三田四丁目二六番地寄留 ①
中島茂十郎 群馬県平民 東京市芝区新銭座町十六番地寄留 ㊼
中根駒十郎(新潮社) 東京市牛込区新小川町一丁目十三番地 ㉞
中村赤次郎(盛文堂書店) 東京市牛込区神楽町三丁目六番地 ㊵
中村正義(稽古堂) 静岡県士族 四谷坂町一二二番地 ㊶
西川正雄(新声社) 東京市神田区綿町二丁目六番地 ㊻
西邨兒一(忠愛社) 東京府平民 東京府神田区小川町六二番地 ㊲
西村富次郎(自由閣) 東京府平民 京橋区南伝馬町一丁目八番地 ⑧㉑㉛㊻
野口竹次郎 日本橋区本石町二丁目十八番地 ⑪ 日本橋区本石町一丁目九番地 ㉑
法木徳兵衛 東京府平民 日本橋区元大坂町十一番地 ㊱

は

博文館 ㉔㊽ →大橋新太郎
博聞社 東京銀座四丁目 ㊺㊾
長谷川武次郎(弘文社、長谷川商店) 東京府平民 京橋区南佐柄町二番地 ㉕ 東京市京橋区日吉町十番地 ㉕
浜本伊三郎(巨文堂) 大坂府平民 府下東区北久宝寺町四丁目九番地 ㉓
早川熊治郎 大阪市南区塩町通一丁目一八四番屋敷 ㊼
原田庄左衛門(博文堂) 東京府平民 東京日本橋区久松町十五番地 ⑳㉘
原亮一郎(金港堂書籍株式会社) 東京市下谷区龍泉寺町四一四番地(東京市日本橋区本町三丁目十七番地) ㉚㉜㊽㊾
原亮三郎(金港堂) 東京府士族 日本橋区本町三丁目十七番地 ㊾㊸㊾
日高藤兵衛(有隣堂) 東京市本郷区元富士町二番地 ㊽
日野九郎兵衛(帝国印書会社) 大阪府平民 大阪府東区淡路町二丁目十三番地 ㊶
広野仲助(広知社) 東京府平民 浅草区黒舟町二番地 ㊼
福永文之助(警醒社書店) 東京京橋区出雲町一番地 ⑰⑲㊼㊼ 東京市京橋区尾張町二丁目十五番地 ㊱㊿
東京市京橋区采女町二四番地 ⑳
兵事新報社 東京市南豊島郡内藤新宿北裏町五十番地 ㊸

平民社　東京市麹町区有楽町三丁目一番地 ㊳
堀田達治(教文館)　東京市京橋区銀座四丁目三番地 ⑮①
堀野与七(文禄堂書店)　東京日本橋榑正町一番地 ⑱④

ま

前川亦三郎(文栄閣)　東京日本橋区箔屋町十六番地 ⑬①
前田圓(鳳文館)　東京府士族　京橋区弥左衛門町十五番地 ⑦③
町田浜雄(扶桑堂)　東京市京橋区北槇町十二番地 ⑩⑧
松成伊三郎(松成堂)　東京府平民　日本橋区南伝馬町三丁目六番地 ⑪⑦
松村九兵衛(文海堂)　大坂府平民　大坂南区心斎橋筋一丁目四三番地 ⑦⓪
丸谷新八(九春堂)　東京府平民　京橋区三十間堀一丁目五番地 ⑥⓪
三木美記　大坂府平民　大坂東区北久宝寺町四丁目四四番地住 ④⑤
三谷平助　大阪府平民　東区安土町四丁目三番地 ⑯②
宮川長次郎　東京府平民　東京府芝区芝愛宕町一丁目三番地居住 ⑮⑥
宮川保全(大日本図書株式会社代表者)　東京市京橋区銀座一丁目二二番地 ㉙㉞
民友社——→垣田純朗、渡辺為蔵
村上真助(文泉堂)　東京府平民　浅草区北富坂町十三番地 ⑦④⑰⓪⑰①
森重遠(白梅書屋)　東京府士族　東京小石川区小日向台町三丁目二十番地 ⑤②
森山守次(新声社)　東京神田錦町二丁目六番地 ⑭⑦

や

柳原喜兵衛(河内屋)　大阪心斎橋通北久太郎町 ⑲⓪
柳谷藤吉　東京府平民　芝区田村町八番地 ⑤⓪
山縣　操(内外出版協会) ⑱③⑱⑤　東京市神田区南甲賀町八番地 ③①③③⑩①⑩②　東京市本郷区駒込西片町十番地 ③⑨
山城屋政吉(奎章閣、発兌) ⑮④
山田　肇(金色社)　東京市本郷区弥生町三番地 ⑯⑦
山田弥三郎　大阪府平民　大阪府東区淡路町三丁目三六番地中川市之輔方寄留 ⑥②
山中孝之助　東京府平民　東京京橋区銀座二丁目九番地 ⑥④
山本音四郎(東北図書出版舎)　仙台市新伝馬町六番地 ⑫⑦
山本秀雄　愛知県士族　神田区末広町十一番地寄留 ⑤
吉岡平助(宝文館)　大阪市東区備後町四丁目七八番邸 ㊲

吉川半七　東京府平民　京橋区南伝馬町一丁目十二番地 ⑫⓪
吉田正太郎（本郷書院）　東京市本郷区駒込東片町二六番地 ⑩④

わ

早稲田大学出版部　東京府豊多摩郡戸塚村六四七番地 ⑱③
和田篤太郎（春陽堂）　岐阜県平民　東京日本橋区通四丁目五番地 ⑥⑤⑦②⑧⑥⑨⑤⑭④⑰⑨
和田むめ（春陽堂）　東京市日本橋区通四丁目五番地 ⑩⓪⑱⑤
渡辺為蔵（民友社）　東京市京橋区日吉町四番地 ③⓪⑨⑨

原著者及び原著索引

アメリカ文学編

アーヴィング　Washington Irving (1783-1859)　*Sketch-Book*. 1819-20. ⑭⑮⑯㉙㊵　⑭はThe pride of the villageの訳。⑮は「きやつせる社ノ出版ニ係ル赤表紙ノ原本ニ拠ル」訳。㉙は「前半を順次訳出せるもの」(そのうち二編を省略)。㊵はRip van Winkleの注釈。　*The Three Beautiful Princesses*. 1891, Yoshioka.（翻刻版）㊲　『家妻』⑱

アボット　Jacob Abbott (1803-79)　*History of Madame Rolland*. 1860, New York. ③　『ジョセフィン皇后伝』⑤

エマソン　Ralph Waldo Emerson (1803-82)　*Civilization*. ⑪　*Representative Men*. 1850. ㉞　『恵磨遜の書翰』(ノルトン編) ㉚

キルワン，ダニール・ジセッフ『龍動雑記』①

クック　E. J. Cooke, *My Lady Pokahontas : a true relation of virginia, writ by Anas Todhill, Puritan and Pilgrim*. 1879. ⑥（豊田実による）

チャンダアス　*The Fortune of Conqueror*. ⑧（豊田実による）

ハート　Francis Bret Harte (1836-1902)『孤屋』⑰

バーネット　Frances Eliza Hodgson Burnett (1849-1924)　*Little Lord Fauntleroy*, 1886. ⑫㉓　*Sara Crewe, or What Happened at Miss Minchin's*. 1888. ㊴

パンゼー　Pansy (Isabella Alden)　*Tip Lewis*. ⑬

フォーセット，ダウグラス　*Hartmann, the anarchist : or the doom of the great city*. ⑳

フランクリン　Benjamin Franklin (1706-1790)　*Autobiography*. ⑦⑩㉑㉔㉕㉗㉘⑯　⑦はヘスチング・ウェールドの補述あり。⑩㉑㉔㉘には補述なし。㉔は「かっせる会社出版ノ小本」が原著。㉕㉗は「東京三省堂翻刻の書に拠れり」

ベラミー　Edward Bellamy (1850-1898)　*Looking Backward, 2000-1887*. 1888. ㉖㊳

ポー　Edgar Allan Poe (1809-1849)　The black cat, "*Tales.*" 1845. ⑰ *The Pit and the Pendulum.* ㉒　*The Gold Bug.* 1843. ㉛

ホーソーン　Nathaniel Hawthorne(1804-1864)　*Twice-Told Tales.* 1837-42. ⑲　*The Scarlet Letter.* 1850. ㉟

マーク・トウェイン　Mark Twain (Samuel Langhorne Clements) (1835-1910)　*The Prince and the Pauper.* 1889, New York. ㉖（凡例による）　*The Killing of Julius Caesar "Localized."* ㉝

マクウアッテルス，ジョルジ　*Detectives of Europ and America.* 1878. ⑨

マックケープ，ゼームス・デ　*Light and Shadow of New York Life.* ①

ロングフェロー　Henry Wadsworth Longfellow (1807-82)　*The Courtship of Miles Standish.* 1858. ㉜

原著者不明『近世米国奇談』②

原著者不明「アルビニヤ，ヲール　ヨング　モーザル」1846，フヒラデルヒヤ刊　④

フランス文学編

アメロー，コンスタント　*Exiles.*（ジョージ・デー・コックス英訳）㉘

アルノー「メゼリー」㊻

ヴェルニエ　Paul Vernier, *Chasse au Nihiliste.* ㊾

ヴェルヌ　Jules Verne (1828-1905)　*Le Tour du Monde en 80 jours.* 1873. (*A round the world in the eighty days.* 1874. tr. by S. W. White) ㊶㊶　*De la Terre à la Lune.* 1865. (*From the earth to the moon in 97 hours 20 minutes.* 1873.) ㊺ 米国「チカゴ」府「ドン子リイ，ロイド」商会発兌による訳。　*Autour de la Lune.* 1870. ㊺　*Cinq Semaines en Ballon.* 1863. (*Five weeks in a balloon a voyage of exploration and discovery in Central Africa.* 1869.) ㊶　*Le Chancellor.* 1875. (*The survivors of the Chancellor——diary of J. R. Kazallin, passenger.* tr. by E. E. Frewer. London, 1880) ㊻　*Vingt Mille Lieues sous les mers,* 1869-70. (*Twenty thousand leagues under the sea.* 1873.) ㊼㊾　*Suivi de Martin Poz.*（英訳は「ゼ・ペール・オフ・リマ」か）㊽㊶　*Le Voyage au Centre de la Terre.* 1864. (*Journey of the center of the earth.* 1874.) ㊵　*The field of ice.* ㊺（柳田泉によればロシア語からの重訳という）　*Docteur Ox.* 1874. (*Doctor Oxs experiment.*) ㊼　*The Begum's*

fortune. tr. by W. H. G. Kingston. London, 1883. ⑮ *Michel Strogoff*. 1876. (*Michael Strogoff, the couries of the Czar*. tr. by W. H. G. Kingston. London, 1883.) ⑲ *A Floating City*. ㊽ *Deux Ans de vacances*. 1888. ㊽

ヴォルテール François Marie Arouet Voltaire (1694-1778) 『天声』 ㊻*b*

エルクマン・シャトリアン Erckmann-Chatrian〔Emile Erckmann (1822-99), Alexandre Chatrian (1826-90)〕 *Madame Thérése*. 1863. ㊸ 凡例に「去ル71年ノ所著ニ係ル」とあり

オーネ Georges Ohnet (1848-1919) *Le maître de forges*. 1882. ㊷ 自叙に原著「第199回出版」とあり

ガリグナニイ 『仏国巴里斯新繁昌記』 ㊷

カロー女史 *Maurice Ferragu ou le Travail*. 1870. ㊽

コペ François-Edouard-Joachin Coppée (1842-1908) *Pour le Couronne*. 1895. ㊿

ジャヌイヤック，グールドン 『西洋梅暦』 ㊻

シュー Eugène Süe (1804-57) *Le sept péchés capitaux*. ㊶ *Les mystères de Paris*. 1842-3. ㊸

シュリー 「上古史」 ㊽

タッキー，ゼーネット *Life of Joan*. ㊹

ダンリー 『明日の戦争』 ㊸

チッソー，ヴィクトル *Exiles*. (ジョージ・デー・コックス英訳) ㊽

デュマ・ペール Alexandre Dumas, Pére (1802-70) *Le Quarante-cinq*. ㊻ *Taking of the Bastille*. ㊿㉜ *Le Comte de Monte-Cristo*. 1844-46. ㊾㊽ 『仏国三人男』 ㊼〔「三銃士」の訳か〕 *Le Collier de la Reine*. ㊶〔㊶の本文末尾に〈アレキサンド，ジュマ氏の著書は概ね表題は異なれ共 数書関係連続せり 故に関係ある数部の稗史を通読せざれば間解せざる事あり 左に順序を正して掲記せんに 第一編「ジョセップバルサモ譚」 第二編「皇后の頸圏」 第三編「革命の惨劇」 第四編「アンジビトウ譚」 第五編「紅家の俠士」是ナリ 又別にシャルニー譚と云ふ書あり〉とある。『西洋血潮小暴風(仏国革命起源)』(桜田百衛訳，15年12月，絵入自由新聞社＝同志社大学所蔵) は第一編。㊶が第二編。㊿㉜が第四編。〕

デュマ・フィス Alexandre Dumas, fils. (1824-95) *La Dama aux camèlias*. 1848. ㊻㊽

ドーデー Alphonse Daudet (1840-97) 「兄弟」 ㊽

トンベイ父子 *Bon Frères.* ㊽

バルザック Honoré de Balzac (1799-1850) 「荒磯」「心の限」「苦闘録」 ⑩④

ピッカール Louis-Benoît Picard (1769-1828) *Médiocre et rampant, ou Le Moyen de parvenir.* 1797. (シラー独訳) ⑩① 「デル, ネッセ, アルス, オンケル」1803. (シラー独訳) ⑬③

フェヌロン François de Salignac de la Mothe-Fénelon (1651-1715) *Les Adventure de Télémaque.* 1699. ④③⑤② *Fables.* 1700. ⑧⑩⑧⑨

モーパッサン Henri René Albert Guy de Maupassant (1850-93) 「常久の憾」「船がゝり」「夏の夜」 ⑩④ *Pierre et Jean.* 1888. ⑩⑦

モリエール Jean Baptiste Poquelin Molière (1622-73) *Les Femmes Savantes.* 1672. ⑨④

ユゴー Victor Hugo (1802-85) *Histoire d'um Crime.* ⑦⑨ *Hubert,* "*Choses Vues* (Things seen)." ⑧⑤⑨⑩⑨⑨ *Claude Gueux.* ⑨⑩⑨⑨ *Le dernier jour d'um Condamné.* ⑨⑨ 〔⑨⑨の目次に『国民之友』への初出一覧あり。「随見録」(21年5月～10月)「探偵ユーベル」(22年1月～3月)「クラウド」(23年1月～2月)「死刑前の六時間」(29年8月～30年2月)〕 *Bug-Jargal.* 1826. ⑨② *Notre-Dame de Paris.* 1831. ⑨⑦⑩⑤ *The Friends of the ABC,* "*Les Misérables.*" 1862. ⑩② *Quatre-vingt-treize.* 1874. ⑩⑥ 『ユーゴーの詩』 ⑩⑧

ラビシュ Eugène Labiche (1815-88) *A trumped suit.* (ジュリアン・マンガス英訳) ⑥④

リストウ女史 (1772-1807) *Elizabeth, or the exiles of Siberia.* ⑦⑦

ルサージュ Alain-René Lesage (1668-1747) *Fetal Marrige,* "*Histoire de Gil Blas de Santillane.*" ⑦④⑧④⑯②

ロチ Pierre Loti (1850-1923) *Joponnerie d'automne.* 1889. ⑨⑤

ロビダー A. Robida, *Le Vingtième Siècle.* ⑤③⑥③⑦②

原著者不明 『三笑人』 ④④

ドイツ文学編

アイヘンドルッフ Joseph Freiherr von Eichendorff (1788-1857) *Aus dem Leben eines Taugenichts.* 1826. ⑫④

カールス Paul Carus (1852-1919) 「カルマ」(米国哲学雑誌「オップン, コールト」掲載) ⑫⑤

クライスト Bernd Heinrich Wilhelm von Kleist (1777-1811) ***Die Ver-***

lobung in St. Domingo. ⑫② *Das Erdbeben in Chili.* ⑫②

グリム兄弟 Jacob Grimm (1785-1863), Wilhelm Grimm (1786-1859) *Kinder- und Hausmärchen.* (1812, 14, 22) ⑭⑮⑳㉑

ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe (1749-1832) *Reineke Fuchs.* ⑪ *Hermann und Dorothea.* 1797. ⑫㉜ *Die Leiden des jungen Werthers.* 1774. ㉚ *Faust.* 1808, 1832. ㉛ 『ゲエテの詩』 ㉞

シュレーゲル August Wilhelm von Schlegel (1767-1845) 「スッデンテン，ウンド，リュツオウエル」 ⑫

シュライ子ル，オリーブ 『白薔薇』 ㉓

シラー Friedrich von Shiller (1759-1805) *Willhelm Tell.* 1804. ⑩⑯㉖ ⑩は1867年，スツットガルト版全集による。 *Maria Stuart.* 1800. ⑱㉖ *Die Jungfrau von Orleans.* 1801. ㉙ 『出世之間道』(仏ピカーの独訳) ⑩1 ⟶ (仏ピカール参照) 「デル，ネッセ，アルス，オンケル」(仏ピッカールの独訳) ㉝

ステルン Adolf Stern (1835-1907) *Die Flut des Lebens.* ⑫②

ハイネ Heinrich Heine (1797-1856) *Buch der Leider.* 1827. ㉖ *Neue Gedichte.* 1844. ㉖

ハウフ Wilhelm Hauff (1802-27) *Die Karawane.* 1826. ⑬⑰⑲ ⑬は「カリーフ鸛殿下」「幽霊船」「三尺ムック」の3話。⑰は「妖怪船」1話。⑲「鸛鳥加利夫王の譚」(Die Geshichte von Kalif Storch)「波登美救助譚」(Die Glschte von der Errettung Fatme's)「美少年耶香夢之譚」(Die Geschichte von dem Schonen Yakof)「断臂譚」(Die Geschichte von dera begehauenen Hand) の4話収録。

ロシア文学編

キュー，ウィリアム・ル (仏人？) 『虚無党奇談』 ⑮⓪

ゴーゴリ Nicolai Vasilievich Gogol (1809-52) Тарас Бульба. ⑭⑦

ゴーリキー Maksim Gorkii. (1868-1936) Однажды осенью. 1895. ⑭⑥

ツルゲーネフ Ivan Sergeevich Turgenev. (1818-83) Свидание, "Записки охотника" 1852. ⑬⑧⑭④ Ася. 1858. ⑭④ Три встречи. ⑭④

ドストエフスキー Feodor Michaelovich Dostoevsky. (1821-81) Преступление и наказание. 1866. ⑬⑨ Frederich Whishaw の英訳 (1886, Vezetery 刊) による

トルストイ Lev Nikolaevich Tolstoi. (1828-1910) Война и мир. 1864-

69. ⑬⑦ Казаки. 1852-63. ⑭⓪ Крейцерова соната. 1887-89. ⑭② Семейное счастье. ⑭③（ヴキゼッテリイ版・ウォーン版・ムンロオ版による） 『トルストイの人生観』〔目録を見よ〕⑭⑤ 『教訓小説集』〔目録を見よ〕⑭⑥ Сказка об Иване-дураке и его двух братьях. 1885.（The Story of Ivan the fool） ⑭⑨ Мужчина и женщина. ⑮② （チェルトコッフ編，ロンドン刊。Послесловие к《Крейцеровой сонате》. ほか2編も含む） Власть тьмы. 1886. ⑮③ 〔⑭③の例言に「トオストイの作にして我が国に翻訳せられ」たものとして「(a) 端西館（水沫集に出づ，原名「ルチェールン」）鷗外訳 (b) 初陣（国会新聞に出づ，原名「セヴハストボル」）露伴訳 (c) おひたちの記（原名「幼年篇」裏錦に出づ） (d) コサック兵（世界文庫）花袋訳」とあり〕

プーシキン Alexander Sergivich Pushkin.（1799-1837） Капитанская дочка. 1836. ⑬⑭⑨

原著者不明 『露国虚無党事情』 ⑬⑤

イタリア文学編

アミチス Edmondo de Amicis.（1846-1908） *Cuore*. 1886. ⑯③ 第39版の英訳による

ダンテ Dante Alighieri.（1265-1321） *Divina Commedia*. ⑯⑦

ビトリオ・ベルセジオー *Nouvelles Piemontaises*. ⑯④ アメデー・ルーの仏訳による

ボッカッチョ Giovanni Boccaccio.（1313-75） *Decameron*. 1348-53. ⑮⑤ ⑮⑦⑮⑨⑯⓪⑰⑨⑱④ ⑮⑦⑮⑨⑯⓪ は Castres, *Conte de Bocaces*. 1880. による

スペイン文学編

セルバンテス Miguel de Cervantes Saavedra.（1547-1616） *Novelas ejemplares*. 1613. ⑯①⑯⑤ 柳田泉によると，仏訳『模範小説集』中の⑯①は「血の力」，⑯⑤は「手管のある結婚」の訳 *El ingenioso hidalgo Don Quixote de la Mancha*. 1605, 1615. ⑰⑥⑯② ⑯②は「ヂョーヂ，マンロー出版の英訳とラオトレッヂのとより之を重訳」

六

デンマーク文学編

アンデルセン Hans Christian Andersen.（1805-75） *Eventyr, fortale fφr Bφrn.*（*Eventyr og Historier.*） 1835-72. ⑰②⑰③⑰⑦ ⑰②はその Jes Xabits Neufs Du Grand-duc. の訳 *Improvisatoren*. 1834. ⑱⑤

オランダ文学編

ジオスコリデス 『紀元2065年，一名未来の瞥見』〔「アンノ，チウィンチフ，ホンデルト，フェイフ，エンセスチフ，エーンブリッキ，インデ，ツーコムスト」柳田泉による〕(1865) ⑮④⑮⑤

クリストマイケル *De Jongel van Roderijke.* ⑮⑧

ノルウェー文学編

イプセン Henrik Ibsen. (1828-1906) *En Folkefiende.* 1882. ⑱⑩⑱① *Et Dukkehjem.* 1879. ⑱①

そ の 他

アプレイアス Apuleius, *Metamorphoses.* ⑯②⑰① (柳田泉による)

フハージオン 『懺悔』 ⑰④

プロータス 「メエーチミ，オル，ツワイン，プロザース」(リリー訳) ⑯⑨

ホメロス Homeros, *Odysseia* (Odyssey). ⑱⑧ *Ilias* (Iliad). ⑱⑨
ともに *Bulfinch's mythology., The Age of Fable.* (米 Tilton 社) および Charles Mills Cayley, *Classic myths in English Literature.* 1900. (Boston Cinn 社) による

ホワイト (英?) *Universal history.* ⑯⑥

リサール José Rizal y Mercado. (1861-96) (フィリッピン) *Noli me Tángere.* 1887. ⑱⑥

原著者不明
『志別土商人の物語』 ⑯②⑯③⑰⑩⑰⑤ 『印度太子舎摩の物語』 ⑯②⑰⑤
『英国士官の物語』 ⑯② 『貧福』 ⑰⑤ 『羅，武烈号』 ⑰④ 『石美人』 ⑰④ 『西洋笑本』 ⑰⑥ 『違征奇縁』 ⑯⑦ 『奇遇夢物語』 ⑯⑧

イギリス文学編 追加

グレース 『社会の女王』中，ローマン夫人の項 ⑲① (柳田泉による)

コンウェイ，ヒュー 『彫像師』 ⑲⑧

ストレットン Hesba Stretton. (1832-1911) *Little Meg's Children.* ②⑩

チェムブル 『泰西世説』 ⑲⑩

テイラ，エリザ・デー 『愛の杯』 ⑲⑦

リード Thomas Myne Reid. (1818-83) *Run Away to Sea.* ②⑩

William le Qlex. 「1897年英国大戦争」 ⑲⑨

マイクロフィルム版

国立国会図書館所蔵

明治期翻訳文学書全集　目録（Ⅲ）

——明治35年～明治45年／別集　黒岩涙香編

ナダ書房

ロシア文学編

【明治35年】

①**我懺悔**　トルストイ著　加藤直士訳　(十月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
19cm　12行(鼈頭付)　序(住谷天来)3＋例言8＋目次8＋213＋獄中吟6＋奥広6p〔40銭〕
〈余は希臘正教会の信仰に循りて洗礼を受け、且つ教育せられたり。余は余の幼時より之によりて誨へられ、又青年として自ら之を学びぬ。然るに余は齢十八歳にして大学を退きし時より、余が教へられし或物に関して一切の信仰を放棄したり。〉　96-63　R 1-1

【明治36年】

②**我宗教**　トルストイ著　加藤直士訳　(三月)東京　清水金右衛門(文明堂)発行
22cm　13行　口絵1葉＋序(住谷天来)5＋例言4＋目次2＋334p〔75銭、上製90銭〕
〈余は当初より此書に説く所の如き宗教思想を懐きしに非ず。既往三十五年の間余は実に一種の虚無党なりき——此語によりて余は政治上の革命家たりしと云ふにあらず、唯だ余は世上の何物をも信ぜざりしと云ふのみ。〉　86-375　R 1-128

③**人生之意義**　トルストイ著　神東惇訳　(五月)東京　高橋信定(経世社)発行
18cm　13行　肖像1葉＋緒言1＋30p〔10銭〕
〈人生の目的とは何ぞや、何故に生活せるや、換言すれば何故に吾は生活せるや、余は是れ等の疑問に対して喜んで解釈を試みんと欲す〉　特45-91　R 1-306

④**万国平和会議評言**　一名軍縮全廃論　トルストイ著　神東惇訳　(十月)東京　兼子慶太郎(経世社)発行

15cm　10行　肖像1葉＋緒言2＋23＋奥広6p〔6銭〕

〈拝啓　卿等が曩に其の尊重すべき書翰を以て述べられし如く、万国軍備廃止に関する最も容易にして且つ最も確実なる方法は、一に個人が軍隊義務を拒絶するにありとの意見は、頗る正当なるものにして、余も亦常に斯くの如きは、武断政治の恐るべき且つ絶えず増大し来る不幸より逃るゝ唯一の方策なりとの意見を抱持せるものなり〉

94-180　R1-327

【明治37年】

⑤ トルストイの **日露戦争観**　加藤直士訳　(八月)東京　日高藤兵衛(日高有隣堂)発行

15cm　10行　肖像1葉＋小引3＋185＋奥広37p〔30銭〕

〈又も戦争は始まれり、何人にも無用無益なる困厄に再びし、詐欺此に再びし、一般人類の愚妄残忍亦此に再びせんとす〉

984-cT65tK　R1-347

付録 『ト翁時局談』仏国フイガーロ新聞記者訪問録　及『倫敦タイムスの批評』

【明治39年】

⑥ **アンナ、カレンナ**　トルストイ著　柴田流星訳　(四月)東京　高橋重蔵発行　上田屋書店発売

22cm　14行　肖像1葉＋訳者序2＋330p〔85銭〕　26-354　R2-1

〈氛影(かげ)はオブロウスキー家を襲ふた。／オブロウスキー侯爵夫人は良人が子供の娯姆に傭ふた仏蘭西女と私して居ることを知つて、最う良人と一つ家根の下には棲まぬと迄断言したのである〉

⑦ **人生の意義**　トルストイ著　河上肇・小田頼造共訳　(六月)東京　瀧川民治郎(今古堂書店)発行

19cm　10行　序(小田)24＋例言1＋91＋跋(河上)4＋奥広14p〔30銭〕　97-428　R2-173

〈足下は問ふて曰く、「人生の目的は何ぞや、何が為に人は生活するや、更に換言すれば、予は何が為に生活するや」と。〉

【明治40年】

⑧ **トルストイ短篇集** 百嶋冷泉訳 (四月)東京 山縣操(内外出版協会)発行
19cm 13行 自序(訳者)2＋目次2＋225＋奥広4p〔30銭〕 31-320 R2-247

〈ブラックデイマ市に、商店二軒と住居一軒とを構へて居る、イバンと云ふ若い商人が住むで居た。／彼は一寸美貌(うつくし)い、人好のする、諧謔家(おどけや)の、歌自慢の、而して、青年時代(わかいうち)はなかなかの暴飲家であつたけれど、結婚してからは全然変化つて、適々の交際の外は酒を使用ひなくなつた。〉

目次——○神の審判〔引用〕 ○高架索(コーカサス)の囚人 ○悔改めたる罪人 ○愛の反響 ○三個の死 ○爾の隣 ○大人と小児 ○空太鼓 ○悪魔のたくらみ ○『余り不廉い？』 ○三個の教訓

⑨ **下僕の生涯(しもべのしやうがい)** トルストイ著 神崎順一訳 (七月)東京 熊谷勝(平民書房)発行
20cm 11行 肖像1葉＋訳者序1＋巻首に題す3＋127＋付録(ズラテ市の珈琲店)19p〔25銭〕 32-328 R2-369

〈千八百七十年の冬、聖ニコラスの翌日の事である。寺領の祭礼なので、料理屋の持主、第二等組合の商人ワツシリー、アンドレイチユ、ブレフノウは外へ出て行くことが出来なかつた。〉〈印度のズラテ市に、諸国の旅人が集まつて互ひに馳走を仕合ふ珈琲店があつた。〉

⑩ **泰西名著集** 馬場孤蝶訳 (七月)東京 今津隆治(如山堂書店)発行
23cm 13行 序(上田敏、島崎藤村)4＋目次2＋204＋奥広8p 肖像5葉 26-407 R3-1

○狼(ツルゲーネフ)〈時しも夕方、独、板馬車を急がせての、猟の帰途であつた。〉
目次——○狼 ○心の通路(バルザック) ○月夜 ○鐘の音 ○負債 ○月かげ (以上、モーパッサン) ○二人楽師 ○戦後(以上、ドーデー) ○灯台守(H・シェンキイウイック)

⑪ **革命奇談 神愁鬼哭** レオ・ドイッチ著 幸徳秋水訳 (八月)東京 伊藤元治郎(隆文館)発行
19cm 11行 肖像1葉＋訳者序4＋目次4＋170＋奥広8p〔40銭〕

〈一千八百八十四年三月の初め、予は瑞西ツーリヒを出でバーゼルを経て、独逸パーデン州フライブリヒに赴けり、此旅行の目的は、瑞西にて印刷せし露国社会党の文書を、本国に密輸入せんとてなりき、〉

特71-415　R3-119

⑫

人道主義　トルストイ著　小田頼造訳　(一一月)東京　平山勝熊(隆文館)発行
23cm　14行　序(綱島梁川)5＋序(訳者)6＋例言1＋目次4＋530＋奥広14p〔95銭〕

〈多年田舎の生涯を送りし余は、千八百八十一年莫斯科に移せしが、其の先づ余を驚かせるものは、実に都会に於ける激甚なる貧窮の情態にてありき。〉

76-362　R4-1

【明治41年】

⑬

カルコ集　長谷川辰之助訳　(一月)東京　和田静子(春陽堂)発行
19cm　12行　222＋奥広2p〔60銭〕

〈夜祈禱を済してから、粉屋のチホンはやつとこなと上衣を脱いで下衣一枚になり、背中ぢゆうをぼり〳〵掻きつゝ寝台の側へ来た。〉(ゴーリキイ「ふさぎの虫」)
〈職を離れた田舎教師のキリール、イワーノウィチ、ヤロスラーフツェフは卓子に肘を持たせ、両手で顳顬(こめかみ)を確と圧へ、前に散らけた統計表を茫然諦視(なかめ)て、さて此四角な紙を如何したものかと、散々使って草臥れた脳髄から、此知恵一つ絞り出さうと試みた。〉(ゴーリキイ「二狂人」)
〈忘れもせぬ、其時味方は森の中を走るのであつた。〉(ガルシン「四日間」)
〈テレビン氏はふと目を覚したが、誠に好い心持だ。〉(付録　二葉亭作「露助の妻」)

32-344　R3-359

⑭

二人巡礼(ににんじゅんれい)　通俗文庫第五編　トルストイ著　百島冷泉訳(三月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　13行　序2＋目次1＋90p＋口絵1葉＋トルストイ伯の家庭12＋奥広10p〔20銭〕

○二人巡礼〈二人の老人が、エルサレムへ巡礼に出懸ることを約束した〉

特13-769　R4-286

○神の教子〈ある処に一人の百姓が住むで居た。〉

⑮ **その前夜** ツルゲネーフ著　相馬御風訳　四月(東京)　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　12行　肖像1葉＋398＋奥広8p〔70銭〕　95-66　R4-350
〈千八百五十三年の夏のあつい盛であつた。コーントソフから程遠からぬ莫斯科河の河岸、高い菩提樹の蔭を枕に偃臥(ねそべ)つてゐる二人の青年がある。〉

⑯ **血笑記** アンドレーエフ著　長谷川二葉亭訳　八月(東京)　西本波太(易風社)発行
19cm　11行　248＋奥付1p〔85銭〕　32-362　R5-1
〈…物狂ほしさと怕ろしさとだ。／始て之を感じたのは某街道を引上げる時であつた。もう十時間も歩き続けて、休憩もせず、歩調も緩めず、倒れる者は棄てゝ行く。〉

⑰ **うき草** ツルゲネフ著　長谷川二葉亭訳　(九月)東京　金尾種次郎(金尾文淵堂)発行
22cm　11行　408＋奥付1p〔1円20銭〕　93-304　R5-132
〈夏の静かな朝の事であつた。晴やかな空に日は最う高く昇てゐたが、野は未だ露に煌めいて、今しがた靄の霽れた谷間からは何処となく良い匂のする涼風が通つて、しつとり濡れた森の中には早起きの小禽が面白さうに囀づる声がする。〉

⑱ **長恨** トルストイ著　筑山正夫訳　(一〇月)東京　宮城伊兵衛(昭文堂)編輯・発行
19cm　12行　筑山肖像1葉＋序(徳富健次郎、嶋村抱月)7＋口絵1葉＋244＋筑山正夫君を悼みて(小山東助)15＋長恨の後に(佐藤緑葉)4＋奥広4p〔60銭〕　32-369　R5-341
〈同じ客車の相客も停車停車で降りて行って、乗込む旅客と入換るので、初駅以来、今に乗通しの者は我が外には三人だけ……。〉

⑲ **露国文豪 チエホフ傑作集** 瀬沼夏葉訳　(一〇月)東京　薄田鶴二(獅子吼書房)発行
32-370　R6-1

19cm　12行　肖像2葉＋序(ケーベル)6＋序2＋小伝4＋目次1＋342＋奥広4p〔90銭〕

○六号室∧町立病院の庭の内、牛蒡、蕁草、野麻などの簇り茂つてゐる辺に、小やかなる別室の一棟がある。∨

○人影∧大きな縄がブウンと云ひさま飛来つて、今、熟睡中の検事補ガアモンの鼻の孔に入る、此の夜夜中、闇に逃げ迷ふたか、好奇心に駆られてか、将又偶然に来たものか、左に右、鼻は此の異種類の物体の止まつてゐるのに堪へ切れず、俄にガアギンは思ふさま、力一杯、耳をも裂く許りの大きい嚔をしたのであつた。∨

○ドストエフスキー(薄命)∧父上の死去なされたのは、私が十四の歳、思へば一生の中、最も幸福であつた日は、唯幼年時代許り、其時分は都にゐたのではなく、此所よりも未だ程遠い地方の、ある片田舎に住んでゐたので、父は当時、さる公爵家の広大なる所有地の管理人をしていた。∨

目次――○六号室　○里の女　○余計者　○人影　○月と人　○写真帖　○たはむれ　○叱ッ！　○艶福男　○村役場　○失策　○官吏の死　○をんな　○正誤表　○付　薄命

⑳

復活(ウオスクレセーニエ)　前編　トルストイ著　内田貢訳　(一〇月)東京　丸善株式会社(小柳津要人)発行　93-297　R6-190

(五版　大正二年七月)22cm　14行　肖像1葉＋例言6＋トルストイ及『復活』著述始末27＋460p　挿絵14葉〔1円50銭〕

∧何十万といふ人間が、寄つて集つて、自分達が押合ひ圧合ひしてる猫の額ほどの小ッぽけな土地を変改しやうと、一生懸命になつて、石を敷かうと、草や木の根を絶やさうと、木を伐倒さうと、鳥や獣を追出さうと、石油や石炭の煙で空気を濁さうと、春は矢張春だ∨

⑳

ツルゲーネフ短篇集　吉江孤雁訳　(一一月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行

19cm　12行　略伝2＋序言1＋目次1＋246＋奥広24p〔50銭〕　32-373　R3-218

○森林の旅〔12p欠、次頁に凸版にて補充〕

目次――○森林の旅　○ビエジンの曠野　○死　○苺の清水　○散文詩（自然、クリスト）　○森と原野　○犬　○山番

㉒

露国名著　**白夜集**　昇曙夢訳　（一一月）東京　竹沢章（章光閣）発行　93-300　R7-1

22cm　13行　肖像1葉＋はしがき1＋目次1＋278＋奥付2p〔1円〕

○草場（ツルゲーネフ）〈七月の、と或る美くしき日である。天候が久しく定まつた時でもなければ、到底も見られん美くしき日である。〉

○凄艶（ツルゲーネフ）〈十六世紀は中頃の事、伊太利のフェルラ、――（此地は当時文芸の保護者たる名君の治下に隆盛を極めて居た）――に二人の青年が居た。〉

○雪吹（プーシキン）〈一千八百十一年（ナポレオンが露西亜に侵入した前の年）と云へば露西亜人の脳髄に深く染みこんでゐる年であるが、恰度其年の末の事である。〉

○黒人（プーシキン）〈改革の洗礼を受けたばかりの新しい国家に須要な人材を養ふべく彼得大帝が外国に派遣した青年留学生の中に、大帝の教子で、名をイブラギムと呼ぶ一人の黒人が居た〉

○海少女（プーシキン）〈塩焼。アッハ、、、、まァ何んてこッた。〉

○奇火（コロレンコ）〈我曽ておぼつかなき秋の夕まぐれ、黯澹たる西比利亜の河を舟航せしことあり。〉

○窒扶斯（チェーホフ）〈彼得堡から莫斯哥へ下る郵便列車の喫煙室に若い陸軍中尉のクリモフといふが乗つてる。〉

○拳銃（チェーホフ）〈夏の唯或る日曜日の午後五時頃、ウォローヂャと呼ぶ十七歳の青年がシュ

ツルゲーネフ短篇集

ツルゲーネフ作
吉江孤雁譯

1

森林の旅

――（第一日）――

見る限り大地を覆つてゐる廣い松の森、「その森」を見ると、大洋の姿がおもはれる。して、それの狙ふ感じはどちらも異らない。その無情な原始的の力は、宏大といかめしさとの中に漲つて、眼の前を塡めてゐる。永劫の森の心から、不死の水の胸から、同じ聲が響いて來る、「吾汝と何の關する所あらん」と、自然は人に向つて言ふ。「汝死を脫れんと如何に努むるも、吾に主上權あ

り」と。

けれど、森林は大海に比べて、一層陰鬱である、一層單調である。ことに松の森となると、いつも何の變化もなく、殆んど一の聲も聞こえない。大洋は威嚇したり、愛撫けたり、色々な風をして嘻戯たり、樣々な聲で話し掛けたりする。また蒼穹の影を釀して、其蒼穹からは同じ永劫の吐息が洩れて來る。が、此永劫の中には吾々人類と脈の通つてゐる所がある。……眞闇て、變化のない松の森は、けだるい靜けさがあるか、でなければ、にぶい唸り聲が充ちてゐる。——此れに向ふと、人の心の深い底から、押へ難い身のもろさを感じて來る。

昨日生れて明日死ぬ運命を持つてゐる蜉蝣の身には、永劫の女神が、自分につゆの同情もかけず、冷かに見てゐるのが、到底も耐へ切れないことだ。若い元氣の望も夢も、此氷のやうな森の呼吸に包まれると、沈んで了ひ、消

ミヒン家の別荘の園亭に腰を掛けてゐた。病身である上に臆病で、一向風采の挙らないデレ助である。〉

○悪魔(ゴーリキイ)〈秋は物の哀れの一入身に泌む時で、何処となく無常の影が指し、生きてるのも何だか大儀だ！〉

【明治42年】

㉓ 暮れゆく海　ゴーリキイ著　中村孤月訳　(二月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行

19cm　12行　はしがき1＋肖像1葉＋194＋奥広18p〔40銭〕　32-381　R7-148

○暮れゆく海〈海が面白く笑つて居る。／微々と温い風に愉快く吹かれながら、故意と身を縮めて、其表には一面に漣漪(さざなみ)が燦々と日光に眩く、其銀の数千の唇で、よつと大空に笑ひ返して〉

○彼(あ)の少女(をんな)〈私等(わつちら)二十六人は、陰気な湿い地窖に閉ぢ込められた二十六の活きてる器械で、朝から晩まで菓子や乾麺麭の粉を捏ねくつて居て、窓の前あ厭やな溝で、湿気で青くなつた煉瓦がぎつしり詰つて居るんです。〉

㉔ 父と子　ツルゲネフ著　相馬御風訳　(三月)東京　中根駒十郎(新潮社)発行

19cm　12行　例言1＋作中の主なる人物2＋529＋奥広2p〔1円〕　32-391　R7-259

〈『どうだい、ペエトル、まだ見えんかな』／かう云ふ問が、千八百五十九年五月二十日、S駅の駅舎の低い階段へ帽子も被らずに顕はれた。年の頃四十を少し越えた位の、身には汚れ腐つた上衣に弁慶縞のヅボンを着けた田舎紳士の口から洩れた。〉

㉕ トルストイ小説集　百島操訳　(四月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行

19cm　12行　序1＋同じ著者に依りて編著されたる書1＋目次1＋185＋奥付20p〔40銭〕

○熊狩〈私達は熊狩の遠征に出懸けた。直ぐ一人が一頭を発見けて発砲したが、唯傷を負はせた

に過ぎなかつた。熊は赤い血を雪にたらし〳〵何処へか逃げて了つた。〉 32-390 R8-1

目次――○熊狩 ○大悪魔小悪魔 ○富の力 ○愛の勝利 ○世捨人 ○親子三代 ○珈琲店

○唯六尺

㉖ **トルストイの教訓及び其の自叙伝** 榎本秋村訳 (六月)東京 山縣文夫(内外出版協会)発行

19cm 12行 肖像1葉+目次3+186+奥広22p

〈其の当時の我が母を思ひ出さんとするに、親切と愛情との深き光を堪えたる褐色の眼や、薄き捲髪(ちゞれげ)の丁度下の頸にある小さき黒痣や、縫箔せる白き頸圏(カラー)や、幾度も幾度も我を抱き々々せる、然かも我が屢々接吻せる繊弱なる軟かき手を僅に想像するのみ。〉 17-471 R8-111

㉗ **心** アンドレイエフ著 上田敏訳 (六月)東京 和田静子(春陽堂)発行

23cm 10行 肖像1葉+序文5+目次1+326+奥広6p〔75銭〕

○心〈千九百年十二月十一日医師アントン・イグナチエギチ・ケルジェンツェフは人殺をした。犯罪当時の模様また之に先つ種々の事実までが、此犯人の精神状態にどこか異常の点がありさうだといふ疑念を起させた。〉 32-404 R8-223

目次――○心 ○これはもと ○クサカ ○旅行

㉘ **三人** ゴルキー著 田岡嶺雲訳兼発行 (七月)東京 黒白社発行 前川文栄閣発売

20cm 序1+肖像1葉+本書刊行の縁由につきて6+192+奥付1p〔40銭〕 32-411 R9-1

〈ケルゼンツの森の中には、寂し気に墓が幾らも散ばつて、其下には既に塵土に化した許多の古義宗徒の骨が瘞(うず)められてゐる、が中で今も猶此村の話柄に遺つてゐるのはアンチペである。〉

㉙ **乞食** 二葉亭四迷訳 (八月)東京 岡三郎(彩雲閣)発行

15cm 8行 228+奥付1p〔38銭〕

○乞食(ゴーリキイ)〈渡船を待合せながら、二人は断岸の影に足を踏伸して、鼻の先へざぶり〳〵と浪を打寄せては、どうどうと流れ行くクパンの濁流を、久しい間墨々と視めてゐた。〉
○狂人日記(ゴーゴリ)〈十月五日／今日は余程変な事があつた。朝、随分遅かつたが、起ると、マウラが靴の磨いたのを持つて来る、何時だッて聞くと、もう疾くに十時に打つたといふから、そこ〳〵に衣服を着た。〉

㉚
猟人日記 ツルゲーネフ著　戸川秋骨・蔽戸会同人共訳　(九月)東京　宮城伊兵衛(昭文堂)発行
22cm　15行　はしがき3＋凡例2＋目次2＋764＋奥広8p〔2円30銭〕　94-638　R9-106

㉛
杜翁叢書第一編 人生の意義 トルストイ著　榎本恒太郎訳　(一〇月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　12行　序5＋49＋奥広22p〔10銭〕　329-6　R10-1
〈誰でもボルホヴスキイの地方からチヅリンスキイの地方へ通つて行つたことのある人は、オーレル州の民族とガルーガ州の民族との間に際立つた違ひがあるのに気が付くであらう。〉

㉜
杜翁叢書第二編 想神録 トルストイ著　榎本恒太郎訳　(一〇月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　12行　はしがき1＋46＋奥広22p〔10銭〕　95-76　R9-226
〈人問うて曰く『人間生活の目的は何ぞや。人間は何故に生活するか』と、〉

㉝
小説 信仰 アンドレーフ著　中村春雨訳　(一一月)東京　杉本要(梁江堂)・中山三郎(春秋社)発行
23cm　12行　序2＋口絵(満谷国四郎画)1葉＋272＋奥広18p〔80銭〕　95-76　R9-269　32-429　R9-306
○信仰〈ワッシリー・フィヴァスキーの一生は、苦い、謎の如き運命許り続いて来た。〉
○沈黙〈五月の月明らかな夜であつた。妻がイグナチゥスの事務室に入つて来た時、杜鵑が鳴いた、妻の顔には心の苦悩が現はれて、手に持つ小いランプは慄えてゐた。〉

㉞ 短編六種 **ゴーリキー集** 相馬御風訳 （一二月）東京 大橋新太郎（博文館）発行
23cm 11行 原作者ゴーリキーに就て7＋302＋奥広6p〔45銭〕 32-432 R11-1
○チェルカッシュ〈蒼い南方の空は埠頭から立ち騰る塵烟に曇らされ、燃ゆるが如き太陽は灰色の薄絹を透したやうにドンヨリと緑の海を照り下ろして居る。〉
目次――○チェルカッシュ ○秋の一夜〔145～150p欠、本書89～91pに凸版にて補充〕 ○青い小猫 ○道連れ ○仲間 ○意中の人

【明治43年】

㉟ **黄金杯** 森林太郎訳 （一月）東京 和田静子（春陽堂）発行
22cm 14行 233＋出典2＋奥広6p〔90銭〕 329-28 R11-164
○犬（アンドレーエフ）〈此犬は名を付けて人に呼ばれたことはない。永い冬の間、何処に何うして居るか、何を食べて居るか、誰も知らぬ。〉
目次――○黄金杯（ワッセルマン） ○いつの日か君帰ります（ルスト） ○父（シェーフェル） ○山彦（ヒッペル） ○顔（デーメル） ○ソクラテエスの死（クレーゲル） ○わかれ（ホルツ、シュラーフ） ○犬 ○牧師（ラーエルレーフ）

㊱ **簡易聖書** トルストイ著 小田頼造訳 （一月）東京 金尾種次郎（金尾文淵堂）発行
15cm 10行（鼇頭付） 原著者序44＋訳者序8＋例言1＋目次6＋434＋索引10p〔65銭〕 29-320 R11-289
〈イエス・キリストは次の如くして生れたり。イエスの母マリアはマリアに許嫁し居るのに、二人が未だ夫妻生活を始める以前にマリアは子を生みぬ。〉

㊲ **チエーホフ短篇集** チェーホフ著 楠田麦圃訳 （二月）東京 山縣文夫（内外出版協会）発行
23cm 12行 目次1＋170＋奥広26p〔30銭〕 32-442 R12-1

○百姓〈モスコーのスラビアンスキー・バサアル旅館の給仕ニコライ・チキルデュフは健康を失した。両脚は麻痺して感覚を失つて了つた。〉
目次――○百姓　○ジノッチカ　○悲愁　○追放　○提琴　○牧笛

㊳ **決闘**　チエエホフ著　小山内薫訳　(四月)東京　前川又三郎(文栄堂)・大阪　杉本要(杉本書店)発行　98-250　R 12-105
19cm　11行　小引2＋296＋奥広18p〔1円〕
〈朝の八時は、土地の官吏や避暑の旅客が、蒸暑くて寝苦しい夏の夜の汗を洗ひに、いつも海水に来る時刻である。〉

㊴ **短編三種　ツルゲーネーフ集**　吉江孤雁訳　(四月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　98-244　R 12-267
19cm　11行　ツルゲーネフの作物8＋目次1＋340＋訂正1＋奥広8p〔48銭〕
○幻〈長い間私は眠つくことが出来なくて、寝返りばかりしてゐた。〉
目次――○幻　○啞　○ファウスト

㊵ **国事探偵**　ゴルキイ著　馬場孤蝶訳　(六月)東京　宮城伊兵衛(昭文堂)発行　329-52　R 13-1
22cm　15行　354＋奥付1p〔1円〕
〈エフセエ・クリムコフの父親が、山林へ盗伐か密猟に入つて山番に銃殺されたのは、エフセエの四つの歳で、七歳の時には、母親が亡つた。〉

㊶ **露西亜現代代表的作家六人集**　昇曙夢訳　六月(東京)　西村波太(易風社)発行　98-253　R 13-183
19cm　11行　序文(エリセーエフ)14＋自序4＋目次1＋338＋奥付1p
○夜の叫(バリモント)〈またしても例の夜中の叫び声が聞える。あの顫えながら段々と高まつて行く叫び声は何者の慟哭だらう。〉

○静かな曙(ザイッェフ)〈其夏、私はさる城市に住んで居た。昼は働いて、晩には、半ばガランとした、自分の寓舎へ帰つた。〉
○閑人(クープリン)〈イワン・ウィアノルイチ・ナセドキンは古い大きな銀縁の眼鏡を鼻先に滑したまゝ頸筋を捻つて、周囲を剃つた唇を前へ突出して険相な、毛深い斑白の眉を上下にびくつかせながら、視学官に宛てた一通の手紙を認めた。〉
○かくれんぼ(ソログープ)〈レレチカの室は晴々として、美しく、楽しさうであつた。〉
○妻(アルツイバーセフ)〈私の妻は丈の高い、スラリとした縹緻の好い女であつた。〉
○霧(アンドレーェフ)〈其日は払暁から平常にない、凝然と沈んだ霧が街道と云ふ街道を閉ざして居た。〉

㊷ 本脚 **どん底** ゴーリキー著 昇曙夢訳 (一〇月)東京 田中増蔵(聚精堂)発行
19cm 12行 献辞1葉+序に代へて11+人物2+347+奥広2p〔90銭〕 98-278 R14-1
〈男爵 それから?/クワシニャ いやだよ。最うこれでお仕舞なんだから、彼方へお出で。〉

㊸ **貴族の家** ツルゲーネフ著 相馬御風訳 (一〇月)東京 佐藤義亮(新潮社)発行
19cm 12行 緒言1+456+奥付1p〔1円〕 98-281 R14-195
〈華やかな春の日は次第に黄昏の色に薄れて行つた。晴渡つた空の上に高く薔薇色をした小さな雲が幾つも見えたが、それとて何方かへ動いて行くと云ふではなく、たゞ其のまゝジッと空の緑の底深くへ沈み行くものゝやうであつた。〉

【明治44年】

㊹ **人の一生/飛行機** 森林太郎訳 (一月)東京 和田静子(春陽堂)発行
22cm 14行 376+奥広6p〔90銭〕 329-85 R15-1

○人の一生(アンドレーエフ)〈口上(鼠色の人、人の一生を説く。)真四なる大座敷。全く空虚なり。戸も窓もなし。総てそのうちにあるものは煙の色に似たる鼠色の同じ調子になしあり。〉○飛行機(シュトゥッケン)〈主人。ひどい降りだな。／世話娘。却てどつと降つてしまつて、早く晴れる方が好うございますわ。〉

⑮ **性欲論** トルストイ著　大住嘯風訳　(六月)東京　安藤嶺丸(精神修養社)発行
19cm　12行　汎例2＋目次7＋179p〔135 136 p欠〕〔50銭〕
〈嘗て小説「クロイツェルソナタ」を公にしてから、今日に至る迄、読者は屢々書を寄せて其小説の中心思想をば最つと簡明に説明して呉れと云ふて来た。〉　332-113　R15-195

⑯ **お転婆** ゴルキイ著　吉田両耳生訳　(七月)東京　大倉広三郎(広文堂書店)発行
22cm　12行　献辞1＋272＋奥広2p〔90銭〕
〈地方の或る大学の講師に任命された四五日後、ヒッポライト、セルギーキッチ、ポルカノフはウォルガ河畔の或る一地方の所有地に住んでゐる妹から　電報を受取つた〉　329-110　R15-296

【明治45年】

⑰ **生ひ立ちの記 青年時代** トルストイ著　徳田秋江訳　(三月)東京　河野正義(東京国民書院)発行
19cm　12行　序言2＋目次4＋410p〔90銭〕
〈私は、ドミトリイとの交際が、私に人生に就いて新なる見解、またその目的及び負担を啓示したと言つた。〉　32-365　R16-1

⑱ **露国新作家集 毒の園** 昇曙夢訳　(六月)東京　佐藤義亮(新潮社)発行
19cm　11行　序に代へて13＋目次1＋320＋奥広4p〔90銭〕
○毒の園(ソログープ)〈『書生さん、お前さんは何を其様に考へ込んで居なさる?』と、宿主の　338-89　R16-214

婆さんが青年に恁う訊いた。〉

○地下室(アンドレーエフ)〈彼は酒に溺れて職業も友人も失ひ、最後に残つたものまでも酒に潰した揚句の果は、泥棒や売春婦と一緒に地下室に住まふ身となつた。〉

○夜(アルツイバーセフ)〈大晦日の夜であつた。／N病院の若いドクトルでセーメン・イワーノヰチ・グレボフと云ふ、体のガツシリした、強い、丈夫な男が一人病院の宿直室に坐つて居た〉

○白夜(カアメンスキー)〈家の上層だけはまだ、熱を病んでるやうな入日の光を真赤に浴びて居たが、階下は穏やかに、森然と静まり返つて、物寂しく、灯火さへ点つて居なかつた。〉

○三寄人(A・トルストイ)〈『貴方は白夜がお好きですか、』若い人々の群が斯う訊いた。〉

○嫉妬(バリモント)〈嫉妬は昔から眼の青い怪物だと呼ばれて居る。〉

○囈言(クープリン)〈マルコフ一等大尉の中隊は懲罰隊と連絡する為に進行した。〉

○死(ザイツェフ)〈閉じ籠めた病室の窓框を取外して、パウェル・アントヌイチが四月の空気を胸一杯に吸い込みながら、蒼白い空や、雀や、小さな園にチラホラ芽を萌き出したばかりの弱々しい青葉やを見た時、彼は是れが見納めの春だなと思つた。〉

【明治36年】

㊾ **ささやき**　藤沢古雪著　(七月)東京　原亮一郎(金港堂書籍株式会社)発行　19cm　12行　序(梅沢和軒)2＋目次1＋題詩(柴舟)＋144＋奥広2p〔25銭〕　97-32　R17-1

○人形のすまゐ(イプセン)／ノラ「ヘレネや降誕祭樹をよく仕舞て置てお呉れ、御飾りが出来ると小供連が見に来るから」(下男に向ひ財布をさぐり。)ノラ「御苦労様、いかほどです。」＼目次――○さうびの曲　○風の夜　○生ける道具　○澪のはま木　○おのが心(以上、創作)　○きずの痕　○少音楽家　○ぜうすの判決(以上、シエンキィヰック)　○人形のすまゐ

【明治40年】

㊿ **小九郎次大九郎次**　青年英文学叢書第五編　アンデルセン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行　15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋103＋奥広14p〔15銭〕　164-100　R17-148(左)

○小九郎次大九郎次／むかし、ある村に同じ名の二人の男が住んでおつて、両人とも九郎次と云ふ名であつたが、一方は四匹の馬を有つてるのに、外のは唯一匹しか有たなかつた。＼○着道楽／其昔し、新しい衣裳を有つのが好きな王様があつて、金と云ふ金は皆綺羅を飾るに費つてしまうた。＼

51 **反魂鳥／マツチ売**　青年英文学叢書第十一編　アンデルセン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(八月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行　15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋本編序2＋96＋奥広9p〔15銭〕　164-100　R17-209(左)

○反魂鳥〈支那の国では、勿論皇帝が支那人、して其の周囲の人々も皆支那人である。〉
○マッチ売〈恐ろしく寒くて、雪が降つて、真暗になつて来た、それは夕方であつたから——而も大晦日の晩であつた。〉

⑫
名著新訳　本間久四郎訳・発行　安田靱彦画　(一一月)東京　文禄堂書店売捌
22cm　12行　ポー肖像1葉＋口絵1葉＋序(夏目漱石、上田敏、抱月)11＋自序3＋目次2＋エドガー・アラン・ポーが事19＋152＋奥広26p　26-432　R17-210
○縦の木(アンデルセン)〈ある森の中に、一本の小さな縦の木がありました。日がよく当たるのと、空気が充分なのとで、大層愉快さうに立つてゐました。〉
○思ひ同志(アンデルセン)〈一つのお玩具箱の中に、独楽と小さな球とが交つて入つてゐました〉
目次——○黒猫物語　○陥穽と振子　○赤死病の仮面(以上、ポー)　○おもひ妻(ドイル)　○縦の木　○思ひ同志　○鑿石処にての第一日(ミラー)　○泉の幻影(ホウソン)　○哲学者日記(スーヴェストン)　○峡の宿(ホウソン)

⑬
魔法破(まほうやぶり)　アンデルセン著　雨谷石燕訳　(一二月)東京　中井政次(開文社)発行
18cm　10行　63＋奥広2p　挿絵7葉〔12銭〕
〈ジョンは父が重い病に罹つて到底癒る見込みがないが、どふかして今一度丈夫な体にしてあげて出来るだけ孝行をして見たいと思ひながら今夜も宵から少しも眠らず看病して〉　特45-968　R17-329

【明治41年】

⑭
赤靴物語(あかぐつものがたり)　通俗文庫第四編　アンデルセン著　百島操訳編　(二月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　13行　序2＋目次1＋100＋奥広8p　挿画1葉〔20銭〕　特47-71　R17-372

○赤靴物語〈昔ある処に、カレンといふ大層美しい、そして可愛らしい小娘が住むでゐた。〉
○マッチ売娘〈雪がどん〳〵降りしきつて居る大晦日の夕景に、一人の悲惨なマッチ売の娘が、声を涸らして、／『マッチやマッチ、マッチはいかが？』／と呟鳴りながら、傘もさゝずに、素足のまゝで市街を歩行き廻つて居た。〉
目次――○赤靴物語　○醜い家鴨　○マッチ売娘　○四季物語　○親ごゝろ　○くりすます樹

【明治42年】

⑤⑤
脚本 **蘇生の日**　イブセン著　千葉掬香訳　（七月）東京　西本波太（易風社）発行
19cm　12行　序（逍遙）6＋小引2＋261＋イブセン著作年表1＋奥付1p〔70銭〕
〈妻（夫の何事をか言はむとするを暫時待ち居たりしものゝ如くなりしが、やがて一声の歎気と共に手にせる新聞を墜す）「あゝ、あゝ、あゝ！」／彫刻家（新聞より眼を離して）「おや、御前何かおしか？」〉
32-409　R18-1

⑤⑥
建築師　イブセン著　千葉掬香訳　（七月）東京　西本波太（易風社）発行
18cm　12行　序に代ふる対話（森林太郎）7＋建築師管見7＋290＋奥付1p〔70銭〕
〈老たる工人（余りの心配に堪へきれぬ様にて、突然卓を離れ戸口に進み出で、苦しげに大息す）「あゝ厭だ厭だ、己は既辛抱為切れねえ！」〉
32-414　R18-141

⑤⑦
ヘダ・ガブラア　イブセン著　千葉掬香訳　（一一月）東京　西本波太（易風社）発行
19cm　12行　序（逍遙）8＋小引21＋307＋イブセン著作目録1＋奥付1p〔80銭〕
〈伯母（戸の内側に立ち、耳を峙て、小声になり）「おやまあ、未だ起きないのかねえ！」〉
32-428　R18-298

⑤⑧
ジョン・ガフリエル・ボルクマン　イブセン著　森林太郎訳　（一一月）東京　木沢孚（画報社）発行
奥付の著者が永井荷風となっているのは、発禁となった同年九月刊の『歓楽』の奥付流用か。

19cm　12行　359p＋奥付1p〔1円〕　32-431　R19-1

夫人ノ(聞き耳を立つ。目の内に喜の色輝き、覚えず呟く。)エルハルトかな。漸うの事で。(夫人は立ち上り、窓懸の所より外を覗く。失望したるらしく又長椅子に懸り編物す。)

【明治43年】

⑲

イブセン社会劇　**鏑木秀子**　土肥春曙訳　(三月)東京　和田静子(春陽堂)発行

22cm　13行　緒言1＋340＋登場人物2＋奥広2p〔85銭〕　329-44　R19-185

○鏑木秀子ノ(伯母(戸の傍に立ち耳欹てゝ小声で)マア二人ともまだ起きないんだね!/下卑(同じく小声で)ねえ、貴女、私が申上げた通りでございませう。)

目次——○翻案劇　鏑木秀子　○史劇　源義朝　○ヴェニスの商人(シェイクスピア)

⑳

アンダーセン原著　**教育お伽噺**　和田垣謙三・星野久成共訳　(一〇月)東京　小川寅松(尚栄堂)発行

18cm　14行　彩色口絵1葉＋緒言2＋目次6＋335＋奥広4p〔65銭〕　98-276　R20-1

○高慢な蕎麦ノ(少年諸君も御存知でしょうが、雷雨のあとで蕎麦畑へ行つて見ると、火に焦げたやうに、真黒々になつて居ります。)

○マツチ売娘ノ(寒い〳〵大晦日の晩でありました。雪がサラサラ降つて四辺も真暗な町中を、一人の小娘が何も被らず何も履かずに、彼方此方と彷徨ふて居りました。)

目次——○高慢な蕎麦　○二人木兵衛　○小指姫物語　○不思議な燧石　○マツチ売娘　○お墓の小供　○神様の焼だされ　○白鳥の王子　○王女の試験　○鉛の兵隊さん　○鶯と支那の天子様　○不思議の仇討　○樫の木の夢　○里子　○亡者のお礼　○てふ〳〵の嫁選び　○延命菊　○裸体の王様　○独楽君と毬嬢　○赤い靴　○悪戯小僧　○お母様　○薔薇と蝸牛　○雪の女王　○天から降つた木　○三の胡桃　○樅の木　○豚飼王子　○五ッ粒の豌豆　○五十銭銅貨の洋行

○甲虫の自慢　○御堂の鐘　○上機嫌　○不思議な人形　○家鴨の心　○伊苦子のパン　○お銭入れの豚　○繕ひ針　○兄弟　○石碑　○鋳物の豚　○お隣り同志　○昔の家　○幸福な家族　○新年の客　○月の物語　○兎と蝸牛と燕　○洗濯屋の息子　○林檎の枝　○柳の笛　○一寸法師　○友情　○大事な宝　○纐の首　○雪達摩

⑥1

嫌はれ者　青年英文学叢書第十九篇　アンデルセン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一二月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行

15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋諸言2＋106＋奥広19p〔15銭〕

〈野外へ出ると何も彼も美しい事よ。時は今夏であつて小麦は黄色で燕麦は青く乾草の堆が緑色の野に立つて居て鶴は埃及語でしやべりながら其の長い脚で歩き廻つて居る、彼は其言葉を母御から教はつたのだ。〉

164-100　R 20-250(左)

⑥2

アンデルセン物語　内山春風訳　(三月)東京　谷沢光吉(光世館書店)発行

19cm　12行　口絵1葉＋献辞1＋目次2＋290＋アンデルセンが事ども7＋奥付1p　彩色口絵8葉〔85銭〕

338-13　R 20-251

○野鵠〈冬になると、其処へ燕が飛んで行く遠い〳〵或地方に、曽て一人の王が住んで居た〉○樫の木〈或深い〳〵森林の中に不図小さな樅の木が生えた。その四辺の心地よさ。太陽が其れをクワッと照せば微風は折々来り戯れ、其処や彼処には若かる老へる多くの仲間が立つて居て、つゆ寂しいこともない。〉

目次――○野鵠　○樅の木　○赤い靴　○小人魚　○鐘　○母の情　○水の滴り　○薔薇の精　○家鴨の子　○四季物語　○雛菊

⑥③

新訳解説 **アンダアゼンお伽噺** 近藤敏三郎訳 (四月)東京 長谷川好太郎(精華堂書店)発行
19cm 12行 彩色口絵1葉+はしがき2+解題2+目次2+264+奥広2p〔40銭〕 338-18 R21-1

○皇帝のお召物/昔も昔大むかし、或国に一人の皇帝がありました、此のお方のお道楽は新らしいお召物がお好きでして、何でも人目を驚かす様なのが欲い、天下一品といふのを織らせたいなどゝ、宮廷のお手許金は悉皆其の為めに使はれるのでした/○燐寸売の小娘/手も足も捩断れる程寒い、雪の引切りなしに降り積る、真暗な大晦日の夜のことで御座います。/この寒気と暗闇の中を、見るも哀れな一人の小娘が戞々と身を慄はせながら、頭を覆ふ帽子も傘もなく、足には靴も穿かず、街衢を彷徨いてゐました/

目次——○皇帝のお召物 ○雛菊 ○不思議な鞄 ○燐寸売の小娘 ○火打箱 ○悪戯児 ○森の鶯 ○独楽太郎とお毬 ○お妃様と炒豆 ○高慢な蕎麦 ○襯衣の領子 ○仮装の王子 ○一滴の水 ○鉛の兵隊 ○縢針 ○白鳥の行方

⑥④

安得仙家庭物語(アンドルセンかていものがたり) 上田万年説話 鐘美堂編輯部編纂 (四月)東京 福岡元治郎(鐘美堂書店)・大阪 中村由松・中村寅吉(鐘美堂書店)発行
22cm 12行 彩色口絵(橋口五葉画)1葉+序4+目次4+610+奥付1p 挿画12葉〔1円50銭〕 329-94 R21-143

○醜い家鴨の雛/野に出て見ると何も彼も美しく見える夏の事、小麦は黄色に、燕麦は青く、緑色濃き牧場には枯草の幾堆が立って居て、長い赤い足で歩きまはってる鸛は、品のいい阿母から習って埃及語で喋舌って居る。/○木燧売(つけぎうり)/恐ろしく寒くって、雪が降って、真暗になって来た、それは夕がたであったのだ——而も大晦日の晩であったのだ。/

目次——醜い家鴨の雛 ○霞の衣 ○爺さんの為る事 ○反魂鳥 ○ものになる ○火打箱 ○

幸福な一家　○鸛　○木燧売　○雪の女王　○小九郎次大九郎次　○野育の白鳥　○墓中の幼児
○歳の話　○蝦蟆　○母親の噺　○雛菊　○小海姫　○競走者　○影法師　○蝸牛と薔薇の木
○大悪王　○麵麭を踏みし娘　○一莢の五粒豆　○煙突掃除童と飼羊女

⑥⑤
人民の敵　イブセン著　太田三次郎訳・発行　(八月)東京　政教社発行
23cm　13行　序2＋231＋奥付1p〔75銭〕
〈ヨハンナ　若一時間遅からうものなら貴方は煮返しもので我慢なさらなけや、なりませんよ。
／ビッリング　(食ひながら)非常に甘味しい……大変に結構！〉
a949-8　R22-1

⑥⑥
幽霊　イブセン著　森林太郎訳　(一二月)東京　高見勝(金葉堂)発行
17cm　11行　330p＋奥付1p〔90銭〕
〈女中。(かすめたる声にて。)なんの用があるのだらうねえ。そこをお動きでないよ。その体からは雨がぼたぼた垂れるぢやないか。〉
338-62　R22-123

英米文学編

【明治36年】

⑰ 艶美の悲劇詩 **パリシナ** バイロン著　木村鷹太郎訳　(三月)東京　大草常章(松栄堂書店)発行
18cm　10行(下段英文)　序1＋72＋奥付1p〔20銭〕
〈ナイチンゲールの高き調の囀りは／今は樹の間にひゞく時なり。／恋人等の交はす言の葉は／其さゝやきの一語一語に楽しき時なり。〉
82-582　R23-1

【明治38年】

⑱ **海賊** バイロン著　木村鷹太郎訳　(一月)東京　副島優(尚友館書店)発行〔65銭〕
19cm　12行　肖像1葉＋口絵2葉＋序6＋目次3＋『海賊』に就いて37＋227＋注釈9＋奥広6p
〈緑、色濃き海原の／歓び躍る波の上／吾等の思想はてしなく／吾等の心自由にて、／風吹きすさぶ其限り、浪は泡立つ其極み、／吾が帝国と打ちながめ、吾が住家とぞ望むなる〉
98-63　R23-41

【明治39年】

⑲ **シェレーの詩** 小原無絃訳　(二月)東京　日高藤兵衛(日高有倫堂)発行
19cm　10行(下段英文)　肖像1葉＋シェレー小伝(下中芳岳)7＋献辞1＋序1＋目次2＋140＋奥広16p〔35銭〕
〈(雲の詩)われは大海、細流より、／渇ける花にそゝがんと、／すゞしき雨を齎しつ／われはかすけき影を垂れ、／真昼の夢によこたはる／木々の瑞葉をかばふかな〉
30-225　R23-197

⑳ **バーンスの詩** 小原無絃訳　(二月)東京　日高藤兵衛(日高有倫堂)発行〔30銭〕
19cm　10行(下段英文)　肖像1葉＋バーンスの小伝(下中芳岳)8＋序1＋目次3＋130＋奥広16p

〈(山雛菊に与ふ)瓣の尖、真紅のやさし小花よ、／凶つ日、爾れこそわれに逢ひたれ、／あわれや、繊き爾が茎、われは／塵埃の裡に砕き去るをや、／あゝ今、爾れをば救はんずるも／かなしや、策なし、麗はし珠よ〉(全30編)　30-244　R 23-287

⑦① **乙女の操**　ロングフェロー著　高須梅溪訳　(三月)東京　中根駒十郎(新潮社)発行　19cm　11行　口絵1葉＋序(抱月)2＋自序2＋94＋『エヴンジェリン』の作者・『エヴンジェリン』に就て38＋奥広6p〔30銭〕
〈(序歌)此処は昔ながらの森なり。老松の梢、失鳩塔の幹の苔衣、緑なるを纏へるが、高く御空に聳えたり。〉　32-287　R 23-375

⑦② **ツワイストールド・テールス**　ホウソーン著　松本信夫訳　(九月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行　19cm　12行(鼈頭付)　肖像1葉＋序(畔柳都太郎)4＋緒言4＋目次2＋小伝12＋456＋奥広1p
〈(ハイデッガー博士の実験)かの奇人なるハイデッガー老医学博士は、或る時其書斎に会するやう四人の老友を招待した〉　30-472　R 24-1

⑦③ **恵馬遜傑作集**　エマーソン著　大谷正信訳　(一一月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行　19cm　12行　はしがき8＋恵馬遜の一生22＋目次1＋304＋奥付2p
〈(自然論)現代は回顧的なり。祖先の墳墓を建造するなり。伝記を草し、歴史を草し、批評を草するなり〉　30-510　R 24-345

⑦④ **三人姫**　青年英文学叢書第三篇　アーヴィング著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一二月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行　15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋124＋奥広2p〔15銭〕　164-100　R 24-488(左)

〈その昔しグラナダに世を知ろしめすモハメッドと云ふ王があつた。其御名に加へて臣下の者共はエル、ヘーガリ即ちレフトハンデッド(左りぎき)と云ふ添へ名を奉つた〉

【明治40年】

⑮ **ヴエニスの商人** 青年英文学叢書第四篇　ラム著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋87＋奥広14p〔15銭〕
〈猶太人シヤイロックはヴエニスに住んでおつて、基督信者の商人等に高い利息で金を貸して、莫大な身代を積上げた高利貸であつた。〉
164-100　R25-60(左)

⑯ **宇宙人生の神秘劇 天魔の怨** バイロン著　木村鷹太郎訳　(一月)東京　山本鐐蔵(岡崎屋書店)・宮下松太郎(二松堂書房)発行
19cm　12行　口絵1葉＋目次1＋序論『カイン』に就いて40＋188＋付録　人道と耶蘇教との衝突42＋奥付1p〔70銭〕
〈アダム　永遠、無限、全智の神よ—爾は一言もて海の上なる暗黒より、水の上に光を造りし神なり—頌むべきかな。エホバは帰る光と共に頌むべきかな。〉
32-308　R25-61
付録は『バイロン文界の大魔王』の中の第十章。

⑰ **無人島日記** 青年英文学叢書第五篇　デフォー著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(三月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15cm(横組)　口絵2葉＋叢書序3＋緒言3＋174＋奥付1p〔15銭〕
〈千六百五十九年、九月三十日。——余、哀れ果敢ないロビンソン、クルーソー、沖で恐ろしい暴風雨(あらし)中難船に出遇ひ〉
164-100　R25-299(左)

㊽ **蘆分小舟**（あしわけをぶね）　ヂッケンス著　池雪蕾訳　（三月）東京　和田静子（春陽堂）発行
19cm　13行　彩色口絵1葉＋251＋奥広4p〔45銭〕
〈浮世の海は広けれども、頼るべ渚の蘆分け小舟、沖遠く漕ぎ出づる迄の障り繁きに、さらでも露けき袂を絞りて、さては且つ散る棹の雫をも、猶ほ袖ぬらす涙の雨かと嘆たるゝは、誰が身の上にも変り無き憂き節であろう。〉
32-315　R25-300

㊾ **汗血千里マゼッパ**　バイロン著　木村鷹太郎訳・発行　（三月）東京　真善美協会発行
20cm　10行　序1＋目次3＋緒言『マゼッパ』に就いて15＋104＋注釈4＋奥付1＋木村鷹太郎氏重要著訳目録2＋広告7p
〈時は維れ、惨激なるポルタワ戦争の後、／運命瑞典王を離れ去り、／今や既に闘ふ能はず、又た血を濺ぐ能はざる、殺戮されし軍隊を／累々として王の四周に残したり。〉
97-426　R26-1

㊿ **皇子ハムレツト**　青年英文学叢書　ラム著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　（七月）東京　亀井忠一（三省堂）発行
15cm（横組）　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋134＋謹告6＋奥付1p〔15銭〕
〈丁抹の王妃ガートルード、ハムレツト王の俄かの崩御に由つて寡婦となられたるが、王死して未だ二ヶ月も立たぬ中に、王の弟クラウディアスと結婚した〉
164-100　R26-154（左）

(81) **含羞草**（ネムリグサ）　シェレー著　木村鷹太郎訳　（九月）東京　宮本林治（武林堂）発行
19cm　10行　肖像1葉＋序4＋目次4＋緒言39＋82＋註釈4＋奥付1p〔70銭〕　一条成美画
〈御園の内に含羞草／一もと生えぬ。うら若き／風、白銀の露をもて／其をはごくめば、扇なす／其葉を昼はひろげつゝ、夜の接吻に閉すなり〉
97-481　R26-155

(82) **沙翁悲劇はむれつと**　シェイクスピア著　山岸荷葉翻案　（一〇月）東京　和田静子（春陽堂発行）

15cm　11行　緒言4＋口絵1葉＋目録・人物4＋233＋山姫松轡鑑・花街丹前姿5＋新曲毒汁4＋春陽堂発行書の上演年表(明治33～40年)8＋奥広16p〔25銭〕

＜氏康　いかに方々。前の射日野の城主、まつた予が為には血を分けし兄君たる、葉村老公が御他界以後、日はいとゞ浅きがゆえ、かの人情の極より、城内悉く愁眉を顰め＞　94-518　R26-227

(83) 通俗文庫第一編　**天路歴程**（てんろれきてい）　バンヤン著　百島冷泉訳　(一一月)東京　山縣操(内外出版協会)発行

19cm　13行　口絵1葉＋序2＋例言2＋92＋奥広4p〔20銭〕

＜これは私が浮世の曠野を流浪つて、とある洞穴に休息み、つい眠つて了つた時、見た夢物語である。＞　特18-790　R26-375

(84) **父子の決闘**（ふしけつたう）　アーノルド著　田村逆水訳　(一一月)東京　木下子之吉(木下出版商社)　特13-65　R27-1

19cm　10行　口絵1葉＋序4＋凡例2＋序論11＋108＋付録　縁の糸79＋奥付1p〔45銭〕

＜暁風残月、ほの〴〵と明け行く空に、オクザスの河の面には／狭霧立ち籠めつ＞

(85) 短編　**バイロン詩集**　児玉花外訳　(一一月)東京　岩崎鉄次郎(大学館)発行

15cm　10行　序1＋肖像1葉＋緒言2＋バイロンの生涯14＋目次5＋222＋奥広10p〔30銭〕

＜(若き令嬢の夭折)美しかりし令嬢の墳墓を我れ訪づれて、／我が愛する屍の土の上に、四季をり〳〵の花を撒き散らしゝ時、／風も荒さまず、夜もいとど淋しく静やかに、些の微風さへ樹梢を鳴らさず。＞　94-527　R27-109

(86) **女子大学**　テニソン著　深江種明訳　(一二月)東京　内田正義(東西社)発行

19cm　12行(鼇頭付)　彩色口絵1葉＋自序3＋250＋奥付2p〔60銭〕

＜吾輩は皇子である。眼涼しく顔美しく、婀娜な気性は春の様、女子に似たる垂髪は、吾が床の上に影冴ゆる、北斗の光に色付て、黄金の環を連ねて居る。＞　32-338　R27-237

⑧⑦ **沙翁物語十種**　ラム著　小松月陵訳　(一二月)東京　大橋新太郎(博文館)発行
19cm　12行　口絵2葉＋序文2＋解題一般5＋目次2＋290p　32-335　R28-1
〈(夏の夜の夢)亜丁市に一つの法律が施かれて、親たるものは其娘を自分の好む青年に、否応云はせず嫁に行くやうに強迫する権利を与へらるゝ事と成つた。〉
目次――○夏の夜の夢　○しつぺい返し　○終よき皆よし　○から騒ぎ　○婦女馴らし　○ヴェロナの二紳士　○間違の喜劇　○タイモン　○ペリクリーズ　○シムベリン

⑧⑧ **ガリヴァー小人国旅行**　青年英文学叢書　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一二月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15cm(横組)　叢書序3＋緒言2＋189＋奥広10p〔15銭〕　164-100　R28-271(左)
〈私の父はノツチンガムシヤに少し地面を有つてて、私は五人の息子の三番目であつた。〉

⑧⑨ **アダムの日記**　トウェーン著　本間久四郎訳・発行　(一二月)東京　文禄堂書店発行
19cm　10行　口絵1葉＋読者に申す4＋マァク、トウェーンが事5＋60＋奥広4p　挿画16葉
〈月曜日　今朝髪の毛の長い変な動物現はる。正体解らず。煩さく付き纏ふこと御話にならず、困つたものなり〉　97-517　R28-272

【明治41年】

⑨⑩ **愛国小説　魔法修業者**　リットン著　抱花生訳　(二月)東京　岩崎鉄次郎(大学館)発行
19cm　12行　はしがき(九穂散士)1＋目次5＋口絵1葉＋242＋奥広18p
〈時しも西暦一四九一年の夏、西班牙王フエルデイナンドと后イサベラの大軍は稲麻竹葦の如くクラナダの都市を取囲みぬ。〉　特13-86　R28-333

⑨① **黄金虫**(おうごんちゅう)　ポー著　本間久四郎訳　(二月)東京　堀野与七(文禄堂)発行

19cm　10行　口絵1葉＋はしがき4＋94＋あとがき6＋広告8＋窓の顔（コナン・ドイル）58＋あとがき1＋奥広2p〔30銭〕

〈数年前に私はウイリアム、レグランドと云ふ人と懇意になつた。此人は或る名門の末で、曽ては富有の身であつたさうだが。〉

95-62　R29-1

⑫

伝記物語（少年画師）　青年英文学叢書　ホーソルン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　（五月）東京　亀井忠一（三省堂書店）発行

15cm（横組）　肖像1葉＋叢書序3＋緒言3＋96＋奥広9p〔15銭〕

〈エドワード、テムプルが八九歳の時分、眼病に罹つた。〉

164-100　R29-159（左）

⑬

ロビンソン漂流記　通俗文庫第六編　デフォー著　百島操訳　（六月）東京　山縣文夫（内外出版協会）発行

19cm　13行　序1＋79＋奥広8p〔20銭〕

〈私は紀元一千六百三十二年に、英国はヨーク市に生まれた者である。〉

特13-770　R29-160

⑭

ジョンブル　又名英吉利気質　マクス・オーレル著　正木照蔵訳　高橋五郎校閲　（九月）東京　鶴田久作（玄黄社）発行

19cm　12行　序（林董）3＋原序2＋小引5＋目録11＋352＋奥付1p〔55銭〕

〈「ジョンブル」は筋力逞しき腕と、長く広く平たく且つ重き足と、何にても摑みたるものは、確りと保ち得る鉄顎とを有する一大地主なり〉

17-353　R29-211

⑮

豪胆少年奮闘美談　対訳詳注　西洋御伽噺叢書第二篇　松浦政泰訳　（九月）東京　内田正一（東西社）発行

19cm（横組）　口絵2葉＋筋書1＋82＋付録　慣用句要覧7＋奥広4p〔20銭〕

〈数年前、ホールといふ濠太利の小さい町に、オーグスト、シュツレーラといふが、家族と共に

住んで居た。〉

⑯ **小人島大人島抱腹珍談** 対訳詳注 西洋御伽噺叢書第四編 スウィフト著 松浦政泰訳注 （一〇月）東京 内田正一（東西社）発行 19cm（横組） 口絵1葉＋緒言2＋目次1＋108＋奥広3p〔20銭〕 特47-284 R29-457(左)

〈子供の時から、水夫になッて異国へ行き、珍らしい物を見たいものと思ッて居たから、学校又家庭で書物を読む時にも、そんな生涯を送る時に役に立ちそうな事柄を知りたいと、いつも心掛けて居た。〉

⑰ **ミルトン失楽園** 始祖夫婦純愛の巻 ミルトン著 内村達三郎訳注 （一一月）東京 宮辺富次郎（建文館）発行 19cm 口絵1葉＋序2＋総説18＋154＋奥広12＋（横組）英文原文35＋Vocabulary 51p 特47-284 R30-64(左)

〈噫「災なる哉地に居る者よ」と、是れなん悪龍再び敗れて其恥辱を人類に雪がんとし怒りて地に降りし時なりき〉 181-34 R30-65

【明治42年】

⑱ **オセロ** 青年英文学叢書第十六篇 ラム著 菅野徳助・奈倉次郎訳注 （一月）東京 亀井忠一（三省堂書店）発行 15cm（横組） 口絵1葉＋叢書序3＋緒言1＋105＋奥広6p〔15銭〕 164-100 R30-274(左)

〈ヴェニスの有福なる議官プラバンショーにデズデモナと云ふ優しい美しい一人の娘が有つた〉

⑲ **悲劇オセロ** シェイクスピア著 菅野徳助訳注 （三月）東京 鶴田久作（玄黄社）発行〔1円50銭〕 22cm（横組） 緒言4＋ジョンソンの沙翁論4＋登場人物1＋396＋奥広2p 挿画10葉

〈ロデリゴ。いやモー聞きたうない。イヤゴー殿、貴殿は我財布を、紐は自分のものゝ様に、思

ふ儘になし置きながら、(予てより)此事を承知し居るとは〉　93-318　R 30-493(左)

⑩⑩ 冒険奇談 **奮闘の生涯**　デフォー著　松島剛監修　学窓余談社訳　(四月)東京　和田静子(春陽堂)発行
19cm　14行(鼈頭付)　彩色口絵1葉＋地図2葉＋序4＋肖像1葉＋小伝7＋凡例1＋目次2＋338＋奥広2p　特13-782　R 31-1
〈我は紀元一千六百三十二年に、英国のイングランド州ヨルク市の一良家に生まれたり。〉

⑩① **シェークスピーア物語**　通俗文庫第八編　ラム著　百島操訳　(七月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　13行　序1＋目次1＋90＋奥広20p　特22-176　R 31-191
〈曽て、ある離れ小島が、沖に唯一つぽつちりあつた。此の島にはプロスペロといふ老人が、それは〳〵美しい唯一人の娘、ミランダと両人で住んでゐた。〉
目次——○暴風雨物語(引用)　○御意の儘物語　○冬物語

⑩② **ロビンソンクルーソーの話**　初等英語叢書第八篇　デフォー著　鈴木正士訳注　(一一月)東京　小酒井五一郎(英語研究社)発行
19cm(横組)　叢書の序2＋緒言3＋小伝3＋146＋奥広8p〔25銭〕　特27-913　R 31-340(左)
〈僕は千六百三十二年、ヨーク市に初生声を挙げた。〉

⑩③ **ガリヴァー旅行記**　スフィフト著　松原至文・小林梧桐訳　(一一月)東京　小林啓蔵(昭倫堂)発行
19cm　12行　はしがき6＋口絵1葉＋発行人より読者へ(シンプソン)4＋目次12＋487＋奥付1p　挿画3葉〔80銭〕　72-363　R 32-1
〈私の父はノッチンガムシャアに些少許りの地面を持つて居たもので、私は其五人息子の三番目である。〉

⑩④ **ラセラス王子物語**　ジョンソン著　坂本大風訳　(一二月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　12行　肖像1葉＋緒言3＋目次3＋96＋奥広24p〔20銭〕
〈世の人、明日ありと思ふこと勿れ。明日を空頼みして、今日の尊きことを知らぬものは、此の上もなき愚者。幼時の望は必ず老後に成るとは定まらず。〉
32-430　R 32-266

⑩⑤ **ハムレット**　シェイクスピア著　坪内逍遙訳　(一二月)東京　早稲田大学出版部・富山房発行
19cm　12行　写真1葉＋緒言14＋登場人物4＋266＋付録「ハムレット」とキッドが作との関係18＋奥付1p〔1円35銭〕
32-437　R 32-337
〈バア　何者ちゃ？／フラン　あいや其許こそ。待て、名宣らしめ。／バア　今上万歳！〉

【明治43年】

⑩⑥ **アイバンホー**　スコット著　小原無絃訳　(二月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
19cm　12行　80＋奥広24p〔20銭〕
特13-318　R 33-1
〈今は八百年の昔、英国は、獅子魂と呼ばれた程の武勇絶倫なリチャード王の治下にあった。〉

⑩⑦ **処世論**　エマーソン著　高橋五郎訳　(二月)東京　鶴田久作(玄黄社)発行
19cm　12行(鼇頭付)　序4＋目次2＋414＋奥広8p〔1円20銭〕
〈数年前の、或る冬季中、偶ま我が国の都会にては、時勢の理といふ事を論ずる甚だ盛んにして、奇遇と言はば言へ、四五の名士は破士頓又は新約克の市民に向ひて、各々時代の精神に関する一場の演説を為しつゝありき。〉
72-409　R 33-58
目次――○運命　○勢力　○富有　○修養　○礼儀　○礼拝　○余論　○美　○迷想

⑩⑧ **エマーソン論文集**　第一巻　水島慎次郎訳　(三月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行
22cm　14行　序2＋例言1＋目録3＋153＋奥広16p〔30銭〕

〈近き頃、我が米国の都市は、一冬、大に「時代」の理論を研究したり。ボストン、紐育の両地にて、各々四五の名ある人物が、同時に市民の前に「時代精神」の講話を為しゝも一奇と謂ふべし。〉（運命、力、富の三編収録）　327-196　R 33-276

⑩⑧ b **ヴェニスの商人**　法廷の場　土肥春曙訳　（三月）　→59（イブセン社会劇）　鏑木秀子　317～340 p

〈公爵　アントニオはまゐつて居るか。／アントニオ　此処にさし控へて居ります。／公爵　慈悲憐愍などといふ考は兎の毛程も有たぬ、情なき木石、人非人の悪魔シヤイロックのやうな者を敵手に、今日当法廷へまゐつたのは、予も気の毒に思ふ。〉

⑩⑨ **後のロビンソン**　初等英語叢書第十一篇　デフォー著　鈴木正士訳注　（五月）東京　小酒井五一郎（英語研究社）発行
19 cm（横組）　叢書の序2＋緒言3＋目次1＋発音符1＋142＋奥広16 p〔25銭〕
〈僕は孤島を見捨てゝ、英国に帰つていくと、丸で一人の知己も居ない、他郷に来たも同様である。〉　特27-999　R 33-455（左）

⑪⑩ **小公子**　バーネット著　巌谷季雄訳　（六月）東京　野村鈴助（新橋堂書店）・服部国太郎（服部書店）発行　挿画2葉〔75銭〕　98-254　R 34-1
18 cm　11行　序2＋舞台面1＋口絵1葉＋256＋家庭劇小公子に就て（中村春雨）4＋奥付1 p
〈メリー　まア、何うだらう。矢張り人に備つて居らつしやるんだねエ。どんな大家の坊様だつて、我家の坊様のやうな、御容貌の好い、推出しの立派な方は、本当にありやし無い。〉

⑪⑪ 漂流奇談 **新訳ロビンソン**　デフォー著　笹山狂浪訳　（七月）大阪　又間安次郎（精華堂書店）発行　特22-214　R 34-142
19 cm　12行　はしがき1＋目次3＋191＋付一年間の日誌38＋奥付1 p〔35銭〕
〈西暦千六百三十二年にイギリスのヨークといへる町に於て一人の冒険児は呱々の声を挙けたり〉

⑫ 訳新 **フランクリン伝** 笹山狂浪訳 (七月)大阪 又間安次郎(精華堂書店)発行
19cm 12行 はしがき1＋目次8＋228＋奥付1p〔35銭〕 98-256 R34-263
〈私は私の祖先の逸話だとドン奈に瑣細なものでも蒐集するのを道楽にしてゐた〉

⑬ **新亜刺比亜(アラビヤ)物語** スチーヴンソン著 若月紫蘭・帆引徹巌訳 (八月)東京 鈴木種次郎(三教書院)・山本銀次郎発行〔1円50銭〕 329-60 R35-1
22cm 13行 はしがき2＋小伝4＋目次1＋彩色口絵1葉＋504＋奥付2p 挿画12葉
〈(自殺倶楽部)ボヘミヤ国の王子フロリゼル親王は、其挙動の如何にも奇異なのと、加ふるに其性質が寛仁大度なので、目下逗留中の倫敦では上下一般の敬愛は素晴しいものである〉
目次——○自殺倶楽部 ○大宝石 ○別荘の美人 ○不思議な家 ○夜の宿

⑭ **ロミオとジュリエット** シェイクスピア著 坪内逍遙訳 (九月)東京 早稲田大学出版部・富山房発行 98-272 R35-266
19cm 12行 口絵1葉＋緒言38＋登場人物4＋220＋奥付1p〔1円35銭〕
〈サム グレゴリー、実のこっちゃ、誰れが炭奴の役なぞをするものかえ。〉

⑮ **小公子** 通俗文庫第十編 バーネット著 百島操訳 (九月)東京 山縣文夫(内外出版協会)発行 特30-572 R35-403
19cm 13行 序1＋緒言1＋79＋奥広8p〔20銭〕
〈紐育の或る町に、セドリックの母親は、セドリックと外にメリーといふ女中を一人使つて佗住をして居た。——〉

⑯ **フランクリン自叙伝** 竹村脩訳 (九月)東京 山縣文夫(内外出版協会)発行 328-347 R36-1
22cm 14行 肖像1葉＋249＋奥広16p〔80銭〕
〈余は祖先の逸話といへば、其の事の大小を問はず知らまく欲せしかば、卿と共に英国に滞在中、

縁者の遺墨に我が祖先の事を研究し、又此旅行も、斯かる目的に因りしものなるは〉

(117) **小公女** バアネット著　藤井繁一訳　(一〇月)東京　田中増蔵(聚精堂)発行
22cm　14行　序(坪内逍遙)2＋例言1＋目次2＋彩色口絵1葉＋374＋奥広6p〔1円〕
〈薄暗い冬の或る日のこと、黄色な重苦しい濃霧が、どんよりと倫敦の街衢を罩めて、家々には洋灯が点され、店舗の硝子戸は、丁度夜間のやうにキラ〳〵と瓦斯の光りに輝いて居る時、妙な顔容の、小さな少女さんが、お父さんと一緒に、一頭立の馬車に乗つて、徐かに大通りを駈させて居ました。〉
329-95　R36-139

(118) **ロメオとジュリエト** 青年英文学叢書　ラム著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(一一月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15cm(横組)　口絵1葉＋叢書序3＋緒言1＋123＋奥広18p〔15銭〕
〈ヴェロナ市にキャビュレット、モンタギュと云ふ二大豪族があった。〉
164-100　R36-416(左)

【明治44年】

(119) 奮闘美談 **ろびんそんくるうそう** デフォー著　松島剛監修　学窓余談社訳　(一月)東京　和田静子(春陽堂)発行
22cm　15行　肖像1葉＋地図3葉＋合巻序2＋序3＋小伝7＋凡例2＋目次5＋719＋奥付2p
〈我は紀元一千六百三十二年に、英国のイングランド州、ヨルク市の一良家に生れたり。〉
329-81　R37-1

(120) ガリヴァー旅行記 **小人国大人国** スウィフト著　近藤敏三郎訳　(一月)東京　長谷川好太郎(精華堂)発行
19cm　12行　口絵2葉＋解説2＋緒言2＋230(61～66p欠)＋奥広2p
〈俺の父といふのは全体ノッチンガムシャアーに猫の額程な地面を持ってゐた人で、俺は其の五人あった息子の内で、三番目に生れた腕白者だったのだ〉
338-8　R37-383

(121) **エマーソン論文集**　戸川秋骨訳　(三月、(下)四五年一月)東京　鶴田久作(玄黄社)発行
二冊19cm　12行　(上)肖像1葉＋緒言4＋目次2＋630＋奥広8p、(下)肖像1葉＋目次1＋491＋奥広15p〔(上)1円40銭、(下)1円20銭〕
〈(歴史論)あらゆる個人を通して一貫せる一個の心あり。各個人はみな此の心とその全局に到るの溝渠たるなり。〉
332-55　R38-1330

(122) **オセロー**　シェイクスピア著　坪内逍遙訳　(四月)東京　荒川信賢(早稲田大学出版部)・坂本嘉治馬(富山房)発行
19cm　12行　彩色口絵1葉　緒言12＋登場人物2＋249＋奥付1p〔1円35銭〕
〈ロデリ　えゝ！　聴かぬわい。予の財布を自身のゝやうに使ひ散らいてゐたお主が、此事を知つてゐたとは酷いわい。〉
338-16　R39-1

(123) **ガリヴァー小人国大人国漂流記**　スウィフト著　風浪生訳　(四月)東京　磯部辰次郎(甲陽堂)発行
19cm　11行　口絵1葉＋凡例3＋目次2＋165＋奥付1p
〈私(ガリヴァー自分をかく言ふ)は生れ付海が好であつたので、今に成人になつたら水夫になつて世界各国を旅行し、あわよくば前人未発の所へ行つて、珍らしいものを見物したいものだ〉
338-21　R39-138

(124) **イーノック　アーデン**　テニスン著　長谷川康訳　(五月)東京　宮辺富次郎(建文館)発行
19cm　12行　彩色口絵1葉＋序2＋88＋奥広16＋(横組)肖像1葉＋Enoch Arden に就いて2＋英文原文34＋注釈49＋正誤1p〔60銭〕
〈遙につゞく　岨岸に　壊れ落ちたる　罅隙(はざま)あり、／其罅隙には　泡ぞ立つ　磯の真砂地　ほの白し、／かなたの狭き　埠頭には　一ト群ならぶ　赤き屋根、／わびしく起てる　廃寺を　見上げつ行けば　尚高う／長き街道(みちずぢ)　高塔の　立てる磨舎(こなや)に　通ふなり〉
181-276　R39-231

⑫⑤ **小山羊の歌** エッヂヲース著　本間久訳　黒崎修斎画　(五月)東京　中井真三(良明堂書店)発行
19cm　11行　はしがき2＋目次1＋170＋奥付2p〔60銭〕
〈ウエルスと云ふ海辺の僻田舎では、昔から五月一日を大祭日の一つとして、楽しく祝ふ習慣になつてゐた。今年も其五月一日が近づいて来た。〉　特46-105　R39-337

⑫⑥ **ハムレット物語** ラム著　相馬御風訳　坪内逍遙閲　(六月)東京　富山房発行
19cm　12行　88＋奥広2p〔20銭〕
〈時は真夜中、丁抹国エルシノアの宮城は月光を遮つて高く黒く聳えて居る。空気は凍える程冷たい。だが今宵この城塁を警護する三人の者は、寒さにも優る恐ろしさにわな〳〵と身を震はせて居る。〉　338-30　R40-1

⑫⑦ **ハムレット** 家庭お伽文庫第七篇　ラム著　吉岡向陽訳　鰭崎英明画　(七月)東京　和田静子(春陽堂)発行
23cm　10行　口絵2葉＋48＋続大岡裁判(高野辰之)31＋奥広2p〔10銭〕
〈丁抹王が俄に崩御あつてより、まだ二箇月も経たぬ中に、其の王妃わ王の弟のクローヂアスと云ふ人と結婚した。〉　特47-672　R40-50

⑫⑧ 絶島奇談 **新訳ロビンソン漂流記** デフォー著　笹山狂郎訳　(九月)大阪　立川熊次郎(立川文明堂)発行
13cm　12行　口絵1葉＋目次4＋285＋奥広6p
〈そは西紀千六百三十二年の事なりき、予は英国のヨークの町に於て勇ましく呱々の声を挙げぬ〉　特64-144　R40-99

⑫⑨ 新訳註解 **クリスマス、カロル** ヂッケンス著　紅薔薇生訳注　(一一月)東京　富田能次(文陽堂)発行
19cm　12行(鼈頭付)　小伝2＋目次1＋237＋奥広38p〔40銭〕
〈却説、株式仲買人のマーレーは死んだ。これは毫しも疑の無い事で、此の男の埋葬の登記には、

お寺の坊さんも書記も葬儀屋も、それから喪主も皆調印した。即ちスクールジも調印したのである。〉

338-52 R40-252

⑬⓪ **ガリヴァー旅行記** スウィフト著　佐久間信恭訳　(一二月)東京　小川寅松(小川尚栄堂)発行
19cm　12行　彩色口絵2葉＋緒言2＋目次8＋358＋奥付1p〔50銭〕

338-59 R41-1

〈余の父はノッチンガムシヤーに少し許り地面を持て居り、余は五人の息子の三番目であつた〉

⑬① **聖戦** バンヤン著　松本雲舟訳　(一二月)東京　福永文之助(警醒社書店)発行
22cm　14行　口絵1葉＋序2＋読者へ15＋聖戦解題23＋目次2＋357＋奥付1p〔1円10銭〕

324-275 R41-193

〈旅行の途次、私はいろ〳〵な地方や国々を歩いたが、或時図ずも宇宙の有名な大陸に入つて往つた。〉

【明治45年】

⑬② **小桜新吉** ヂッケンス著　堺枯川訳　(五月)東京　新井由蔵・松本亀造(公文書院)発行
22cm　14行　はしがき2＋彩色口絵(古洞画)1葉＋320＋奥付1p〔85銭〕

329-135 R42-1

〈小桜新吉は或年の或日、小桜町の養育院で此浮世に生れ出た。〉

⑬③ **註訳デッケンス物語** 大橋栄三訳　(六月)東京　鹿島長次郎(興文社)発行
19cm(横組)　肖像1葉＋序(浅田栄次)2＋はしがき1＋デッケンス百年祭記念印紙1葉＋Charles Dickens 5＋120＋奥付1p　挿画3葉

158-276 R42-244(左)

〈(オリヴァー　トウィスト)オリヴァーは救恤院で生れ、母と云ふはオリヴァーの生れた其夜亡くなつたのである。〉

〈(デーヴィド　コッパフィールド)私はサッフォークス州のブランダストンと云ふ土地で、金曜日(と云ふ日柄の悪い日)の夜正十二時に生れました〉

〈(大あてこと)父の苗字はピィリップ、私の実名はフィリップであった、(で本来ならばフィリップ・ピィリップと云ふのを)小児の廻らぬ舌で私は自分のことをピップと云ておった〉

⑬④

運命小説 **テス** 前編 ハーデ著 山田行潦訳・発行 (六月)東京 榊原友吉(文盛堂書店)発行

19cm 12行 序(島村抱月)2＋解題4＋訳者より3＋488＋付録6＋奥付1p〔1円〕

〈五月も末の或る夕暮、シャスタン町を後ろに、地続きのブラックムーアの谷をさしてマロット村へと帰る四十恰好の男がある〉

338-87
R 42-245

【明治15年】

(135) **雄辨美辞法**　米クワツケンブス著　黒岩大訳　堀口昇校閲　(三月)東京　関根寅之助出版　輿論社発兌
明治二十年七月三版　19cm　12行　序(末広重恭)3＋緒言2＋目次8＋93＋奥付1p〔30銭〕
〈夫レ言語ハ人間交通上欠ク可カラサルノ者トス　太古蒙昧ノ世人々ノ交通未タ開ケサルニ当ツテハ所謂ル言語ナル者ナク相互ニ思想ヲ通スルノ便ヲ欠キタリ〉　25-303　R43-1

(136) **政体各論**　米ヒルドレス著　黒岩大訳　(一二月)東京　大塚英祐(秩山堂書舗)出版
18cm　12行　序(堀口昇)2＋緒言2＋目録2＋108＋奥広5p〔50銭〕
〈(第一章　政府ノ三大原則ヲ論ズ)世人或ハ曰フ　政府ノ権力ト人民ノ苦痛トハ消長ヲ共ニシ比例ヲ同フスル者ナリ〉　特15-589　R43-59

【明治16年】

(137) **議事/演説/討論傍聴筆記新法**　英ピットマン著　黒岩大・日置益訳補　神田乃武校訂　(七月)東京　丸家善七出版〔62銭5厘〕
19cm　12行　序(辻新次)2＋緒言2＋小引2＋目次1＋75＋読法練習16＋正誤2＋奥付1p
〈(第一章　略字ヲ用ルノ理由)我国古来漢字片仮名平仮名等ノ文字久ク世ニ行ハレタリ　就中漢字ハ其用最モ広シト雖トモ字画錯雑ニシテ疾書ニ便ナラズ〉　特28-550　R43-122

【明治20年】

(138) **西洋女大学(せいやうおんなだいがく)**　英ラトクリフ夫人著　片岡信訳(上)一〇月序、(下)二十二年四月)東京　早矢仕民治(丸

善書店)発行
18cm　12行　題字(三条実美)6＋序(末松謙澄・Mrs. Eby)5＋凡例2＋目次2＋98p、(下)99～172＋奥付2p　特21-200　R43-313-373
〈(婦人談話の心得)談話ハ交際の道に欠く可からざる者なれハ交際の心掛ある者は一通り談話の法を心得ざる可からず〉

【明治21年】

(139)
裁判小説　人耶鬼耶(ひとかおにか)　仏ガボリオ著　涙香小史訳　(一二月)東京　岩本五一(小説館)発行
18cm　13行　緒言5＋巻中替人名1＋243＋奥付2p　挿画6葉　17-125　R43-178
〈仏国の都巴里府より僅か離れし棒木場の辺り尊長村に寡婦お伝とて年頃五十七八なる独り暮しの女あり〉

【明治22年】

(140)
銀行奇談　大盗賊　仏ガボリオ著　涙香小史訳　芳宗画　(四月)東京　内藤加我(金桜堂)発行
18cm　13行　前文・口絵9＋凡例1＋186＋奥付1p　特13-558　R43-413
〈小倉銀行と云へるハ仏国巴里の府にて金満第一と崇められ手広く取引なす有名の私立銀行なるが昨年十月三十日の事とか朝の八時頃此銀行の前に馬車を留め悠然として下来る紳士あり〉
内題・尾題の角書は「裁判小説」と印刷されたのを、墨で訂正。

(141)
法庭(はふてい)の美人(びじん)　英コヌウエー著　涙香小史訳　明信画　(五月)東京　岩本五一(小説館)・井上勝五郎(薫志堂)発行
18cm　13行　前文・口絵8＋122＋奥付1p(表紙は和装の美人)　特13-596　R44-1
〈読者よ　余ハ二十七歳の夏学力優等を以て医科大学を卒業し医学博士の学位を得たり〉

(142) 銀行奇聞 **他人の銭**（たにんのぜに）　仏ガボリオ著　涙香小史訳　明信画　（五月）東京　岩本五一・井上勝五郎・富田直次郎発行
18cm　13行　序（小説館の主人）・口絵6＋150＋奥付1p　（表紙は和装の男女）
〈仏国巴里府にて可入町と云へるは最も物静なる所にして人車などの往来も繁からず此町に住む人々は互ひに顔を見知りあひ道にて逢ふも必ず言葉を通す程なれば向ふ三軒両隣りさへ口も交かざる都会の風俗にハ似も遣らず永く住慣れたる人のみにて〉　特8-128　R44-70

(143) 銀行奇談 **魔術の賊**（ましゅつのぞく）　涙香小史訳　（七月）東京　岩本五一（小説館）発行　富田直二郎・井上勝五郎専売
17cm　13行（袋綴洋装）　自序4丁＋169p＋奥付1丁
〈北米国にて勃敦府と云ふは紐育克に続く繁華の土地なり　此所に名高き白井銀行と云へるは今年五十七歳なる其頭取白井英二の名誉と共に広く世間に知られ凡て金銀を取扱ふ商店にて之と肩を並る者なし〉　特13-532　R44-151

(144) 雙子奇縁 **二葉草**（ふたばぐさ）　彩霞園柳香稿　（八月）東京　井上勝五郎（薫志堂）発行　岩本五一・富田直二郎専売
17cm　13行（袋綴洋装）　序文（小説館主人）・口絵4＋55＋奥付1丁
〈上野停車場の時計ハ丁度九時をうち今三十五分を経ちなバ発車と云ふ〉　特10-315　R44-242

(145) **無惨**（むざん）　小説叢第一巻　涙香小史作　（九月）東京　岩本五一（小説館）編輯・発行
19cm　12行　小説叢発刊の主意4＋平家姫小松（右田寅彦）自序2＋言訳状3＋30＋新案の小説　無惨・凡例2＋86＋広告4p
〈世に無惨なる話しハ数々あれど本年七月五日の朝築地字海軍原の傍らなる川中の投込ありし死骸ほど無惨なる有様は稀なり〉　特13-721　R44-302

(146) **海底の重罪**（かいていのじゅうざい）　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（九月）東京　辻岡文助（金松堂）発行

18cm　13行　序(天趣散士)3＋口絵5＋259＋奥付1p〔30銭〕
〈西洋には密輸入と云へる事あり　其は払ふべき税を払わず受くべき検査を受けずして密かに外国の品を積来る不法の業たり〉(表紙は「海底之重罪」)　特13-555　R45-1

(147) **指環**(ゆびわ)　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(一一月)東京　岩本五一・金桜堂・今古堂発行
19cm　13行　序(夢廼家さむる)2＋口絵6＋287＋奥付1p〔30銭〕
〈時ハ是れ春猶ほ早き寒き朝日の漸やく出んとして往来も左まで繁からぬ頃仏国巴里の都なる春田の町を南より北へ往く一輛の辻馬車あり〉　特13-524　R45-139

(148) **仏蘭西小説　有罪無罪**　仏ガボリオ著　涙香小史訳　(一一月)東京　井ノ口松之助(魁真楼)発行
18cm　13行　序(兆民居士)2＋凡例3＋口絵5＋319＋奥広8p〔35銭〕　(年英・芳宗画)　特13-511　R45-291
〈千八百七十年とは吾国の明治三年に当る歳にして則ち仏国が独逸の兵に攻られ巴里の都をまでも攻落されたる時なり　此翌年と云へば我明治四年の事なる可し　七月二十二日の夜十二時を過ぎ孰れの家も寝鎮まりたる頃無整馬(はだかうま)に打乗り此町を矢の如く馳せて行く一人の農夫あり〉

(149) **劇場(げきぢやう)の犯罪(はんざい)**　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(一一月)東京　岩本五一(小説館)編輯・発行
19cm　15行　序(天笠庵小法師)・口絵8＋300＋奥付1p
〈玆に説出すは仏国巴里の社会を驚かしめたる大犯罪の顛末にして事皆紳士貴婦人の秘聞に属せり〉(表紙は扶桑堂版と女性の服の模様、背景の花が異なる)　特13-589　R46-1

(150) **真(ま)ッ暗(くら)**　米グリーン著　涙香小史訳　(一二月)　内藤加我(金桜堂)発行
18cm　13行(袋綴洋装)　凡例5＋口絵5＋289＋奥付1p　(表紙は椅子に掛ける横向の女性)
〈読者よ余は新育府の代言人なり　昨年初めて代言の免許を得たれど未だ其看板を掛けず今猶ほ有名なる代言人実入吉雄の事務所に在り実入吉雄の下働きを為せり〉　特13-540　R46-163

【明治23年】

(151)
幽霊（ゆうれい）　涙香小史訳　（一月）東京　井上勝五郎発行
17cm　12行（袋綴洋装）　序（小説館主人）・口絵3丁＋86＋奥付1p
〈幽霊を神経病の所為なりと云ふハ最古めきし説にして今ハ又学者の中にも幽霊ありと唱ふる人多し〉（表紙は和服の男女）　特13-550　R46-311

(152)
梅花郎（ばいからう）　〔英フェン著〕　涙香小史訳　芳宗画　（一月）東京　富田直次郎（明進堂）編集・発行
19cm　13行　凡例10＋185＋奥付1p
〈茲ハ是れ仏国フエレット岬の辺り夏の日ハ早や既に斜めに波を照して海の果に入り月さへ東に登らんとす　今宵ハ山手の迎賓館に於て村津伯の催ふせる夜会ありとて坂を登り行く四五人の少年紳士あり〉　特8-129　R46-360

(153)
片手美人（かたてびじん）　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（二月）東京　岩本五一編輯・発行　聚栄堂梓
18cm　13行　序（梅廼家かほる）・口絵8＋278＋奥付1p〔30銭〕（表紙は大川屋版と異なる）
〈仏国巴里の都にて鳥瀬銀行と云へば誰知らぬ者なき有名の私立銀行なり　其頭取鳥瀬栄一と云へるハ日頃忙しき身なれども毎水曜日の夜にハ必ず懇意の人々を招きて小宴会を開き之に我最愛の娘お花嬢をも侍らせて人々が嬢を賞るを聞き此上なき楽みと為すとかや〉　特8-130　R47-1

(154)
美少年（びせうねん）　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（二月）東京　扶桑堂発行
19cm　13行　序（三筋町の隠士）・口絵8＋285＋奥広2p
〈昨年の春或夜の事「オペラ、コミク」と云ふ仏国の名高き芝居に男一人女二人を一組としたる見物あり　女は数年前に死亡したる銀行家頭取野瀬何某の未亡人なる野瀬夫人と娘紫紋嬢にして男は其叔父野瀬保路なり〉　特13-709　R47-147

⑮⑤ **悪党紳士**（あくとうしんし） 仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（三月）東京　岩本五一編輯　富田直二郎（明進堂）発行
19cm　13行　序（夢廼家さむる）・口絵8＋283＋奥付1p　特13-530　R47-299
〈仏国の俚諺に「最も貴婦人に似たるは色を売る女なり」と云ふ言葉あり〉

⑮⑥ **此曲物**（このくせもの） 仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（四月）東京　岩本五一編輯　井上勝五郎発行
18cm　12行　序（香夢楼の隠士）・口絵3丁＋260p〔78265266pは袋綴〕＋奥付1丁〔20銭〕　特13-595　R48-1
〈玆に説出すは塔の上の犯罪とて一時仏国巴里府の人心を悽動せしめたる惨話の顚末なり〉

⑮⑦ **美人の獄**（びじんのごく） 涙香小史・丸亭素人合著　習古画　（八月）東京　筒井民治郎（今古堂）・金桜堂発行
18cm　12行　序（夢幻散士）2＋口絵6＋259＋奥付1p〔25銭〕　特13-519　R48-138
〈広く長き廊下の両側に幾室とも数知れず戸を並て列る密房ハ是れ、其名を聞くさへも恐ろしき重罪人の牢屋なり〉
〈英国に「美人の獄」と呼バれたる大事件あり、殆ど英国の上下社会を動かしたり〉（序）

⑮⑧ **涙香集**（るいかうしう） 涙香小史訳　（七月を墨にて九月と訂正）東京　岩本五一編纂・発行
19cm　12行　序（一二三散史）・口絵8＋275＋奥付1p　挿画2葉　特13-525　R48-275
〈（金剛石の指環）物の祟りほど恐ろしきは莫し　詰らぬ品物も祟るときは人の命に罹るとかや余が妻の環たる指環の如きは実に妻の命に祟りし者なり〉
〈（恐ろしき五分間）僅に五分間と云へば最短き事なれど余ハ其恐ろしさを生涯忘れ得ず〉
〈（婚姻）英国の西部ウエルスと云ふ所にリンズイナントと呼ぶ湖水あり〉
〈（紳士三人）倫敦にリリピピ嬢と云ふ美人あり　容貌の美しきが上に年々五千円の所得あり〉
〈（電気）時は八月の中旬午後三四時と云へば暑き盛りなるべし〉
〈（生命保険）母と云ひ子と云ふ世に是ほどの親しき者ハなし〉

〈(探偵)米国オリアン州の警察署内探偵詰所の上坐の扣へ余念もなく書類を取調べ居る老官吏は言でも著き探偵長ならん〉

〈(広告)余が曾て其新聞の記者を勤めし頃盛んに芝居改良と云へる事流行し寄と接ると其議論を初る程なりしかば余も妻も其流行熱に浮され自ら俳優と為り改良歌舞伎の舞台に上る覚悟を定め余は妻と共に俳優の稽古を初めたり〉

159 **妾の罪**　涙香小史訳　(九月)東京　鈴木金輔(三友舎)編輯・発行
18cm　13行　序(骨皮道人)・口絵4丁＋363＋奥付1p　特13-604　R49-1

〈ア、妾―自ら想ひても我身の恐ろしさに身震す　心に罪ある者は我が神経に襲はるゝとかや〉

160 **執念**　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(九月)東京　岩本五一発行
19cm　14行　序(香夢楼主人)・口絵8＋420＋奥広2p
〈名にし負ふ仏国巴里の都は世界第一と知られたる繁華の地なれば一年三百六十日婚礼の無き日は莫し〉　特13-567　R49-198

161 **活地獄**　一名大金の争ひ　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(一二月)東京　岩本五一編纂　町田宗七(扶桑堂)発行・印刷
18cm　14行　序(香夢楼主人)1＋口絵7＋331＋奥付1p
〈今は昔し其名天下に震ひたる智謀無双の拿勃翁もウヲタルウに戦ひ敗れ英国と独逸と一味になり仏の皇族ブルボン家を助け再び仏国を帝王の御代にせんと進んで巴里の囲みし頃(千八百十五年)仏国に一種の秘密革命党あり〉　特13-522　R50-1

【明治24年】

162 **決闘の果**　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(五月)東京　鈴木金輔(三友社)編集・発行

18cm　13行　序(笠園主人)3＋口絵7＋236＋奥付1p(末尾4pは袋綴)
〈我国には維新以前に果し合の風俗あり　此頃又決闘の説行はる　然れども決闘の最も盛なるは仏国なり〉　特13-516　R50-174

⑯③ **玉手箱**(たまてばこ)　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(五月)東京　鈴木金輔(三友舎)編輯・発行
18cm　15行　凡例・口絵8＋375＋奥付1p
〈夜ハ早や二時三時を過ぎ暁方将に近からんとする頃ド、ル、オペラの町を急もせずに話しながら連立行く二人の紳士あり〉　特13-515　R50-299

⑯④ **巨魁来**(きょかいきたる)　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(八月)東京　町田宗七発行
18cm　13行　序(竹葉舎晋升)・口絵8p＋訳者序2＋359＋奥付1p
〈頃は千八百三年の夏とかよ　英国へ逃隠れたる勤王党の残類私に商船に乗込て次第〳〵に帰り来るとの風評あり〉　68-76　R51-1

⑯⑤ **如夜叉**(にょやしゃ)　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(一一月)東京　町田宗七(扶桑堂)発行
19cm　12行　叙(在天生)・口絵8＋483＋奥付1p　挿画6葉
〈巴里府パチノール街に西山三峰とて可なり名高き彫刻師あり〉　特13-583　R51-189

⑯⑥ **何者**(なにもの)　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(一一月)東京　山中閑(都新聞社)編輯・発行
19cm　16行　序(井上笠園)2＋口絵4＋182＋奥付1p〔18銭〕
〈噫是れ空前絶後の大裁判なり、罪人ハ何物ぞ何が為めに其罪を犯したるや、判事も知らず検察官も知らず、弁護人も亦知らず、傍聴人固より知らざるなり、知ずして宣告し知ずして死刑に処せんとす〉　特13-798　R52-1

【明治25年】

⑯6 b **死美人**　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(四月、(後)五月)東京　町田宗七編輯・発行〔白表紙〕
二冊19cm　12行　(前)はしがき(飯田忍)・口絵8＋367＋奥付1p、(後)序2＋396＋奥付1p
〈雪は紛々と降りしきりて巴里の町々は銀を敷きしに異ならず　唯一面の白皚々を踏破りたる靴の痕だも見えず　夜は既に草木も眠るてふ丑満を過ぎ午前三時にも間近ければ寒さは宛ながら骨に砭するかと怪まる〉(本書は昭和55年、旺文社文庫に収録)　特13-517　**崩壊本にて未収録**

⑯7 **血(ち)の文字(もじ)**　二日間の記事　仏ガボリオ著　涙香小史訳　桂舟画　(『綾にしき』所収)　(八月)　東京三宅米吉(金港堂書籍会社)発行
23cm　14行　元禄人形(江見水蔭)19＋走馬灯(三十三階堂主人)36＋血の文字90＋奥付1p　挿画4葉〔25銭〕
〈余が医学を修めて最早卒業せんとし頃(時に余が二十三)余は巴里府プリンス街に下宿しゐたるが余が借れる間の隣の室に中肉中背にて髭髯を小綺麗に剃付て容貌にも別に癖の無き一人の下宿人あり〉　特8-67　R52-106

⑯7 b **非小説**　英コリンズ著　涙香小史訳　(八月)　→第Ⅰ期⑫に収録

【明治26年】

⑯8 **大金塊(だいきんくわい)**　英フェンほか著　涙香小史訳　(二月)東京　町田宗七(扶桑堂)編輯・発行
19cm　10行　序(竹葉舎晋升)2＋口絵14＋270＋奥付1p
〈世に値高き品物は数多あれど英国の貴族竹田男爵の家に蓄へある二個の金の大塊ほど見事なる者は類ひ少なし〉　特13-529　R52-191

⑯9 **正史実歴　鉄仮面(てつかめん)**　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　(上)五月、(中)六月、(下)七月)東京　町田宗七(扶桑堂)発行

三冊23cm　12行　(上)序(竹葉舎晋升)・口絵8＋彩色口絵(信一画)1葉＋279＋奥付1p、(中)序(晋升)・彩色口絵4＋231＋奥広5p、(下)序(晋升)・彩色口絵4＋253＋奥広3p　挿画10葉

〈(序説)三十年の永き月日を鉄の仮面に顔を隠して送りしと云はバ人誰か誠と思はん、去れども実際に斯る人ありたり〉〔各30銭〕

特9-901　R53-1 151 283

【明治27年】

⑯⑨ 探偵小説 帽子の痕(ぼうしのあと)　涙香小史訳　(一月)東京　三井新次郎(金桜堂)編輯・発行

22cm　12行　序(柳煙散士)・口絵4＋帽子の痕18＋松風(夢の家)40＋琵琶(愛花)16＋奥付1p

〈探偵の妙は極めて瑣細なる手掛りを本として其の犯罪を見破るに在りとかや〉

特9-130　R54-1

⑰⓪b 嬢一代(むすめいちだい)(情仇新伝)　英クレイ著　涙香小史訳　(六月)　→第Ⅰ期⑫⑤に収録

【明治28年】

⑰① 捨小舟(すてをぶね)　英ブラッドン著　涙香小史訳　(上)八月、(中)九月、(下)一一月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行

三冊23cm　12行　(上)序(愛花)4＋275＋奥付1p、(中)253＋奥付1p、(下)245＋奥付1p

〈今より三十年前、クリフと称する英国の一港場に、水夫倶楽部と綽名せらるゝ酒店あり〉

特8-258　R54-44 187 317

【明治29年】

⑰② 怪の物(あやしのもの)　ドーニイ著　涙香小史訳　(三月)東京　町田浜雄(扶桑堂)編輯・発行

23cm　12行　序(紅夢楼)2＋彩色口絵(永洗画)1葉＋凡例6＋230＋奥広2p

〈読者よ、余が開業せし倫敦町尽れの家と云ふは、大道より稍々入込みて広き空地の片隅に建られたる者にして、先づ野中の一軒家とも称す可き最静に最淋しき家なりき〉

特10-1　R55-1

⑰③ 女退治(をんなたいじ)　〔ノリス著〕　涙香小史訳　(七月)東京　町田浜雄(扶桑堂)編輯・発行

23cm　12行　序(愛花)3＋彩色口絵(永洗画)1葉＋219＋奥付1p　特8-105　R55-126

〈英国倫敦府の上流社会に外洲浪麿と呼ばるゝ一紳士あり〉

⑭
探偵小説 三筋(みすじ)の頭髪(かみのけ)　探偵小説第十二集　嘯月稿　(一一月)大坂　大淵渉(駸々堂)発行
22cm　13行　96p

〈人殺しありたり〳〵との叫声に、何処だ〳〵と立騒ぐ野次馬連を始とし、朝未明より群り集ふ老幼男女、無惨にも切刻なまれたる一個の死骸を中に囲みて、茲処湊川中橋付近の堤上は、人もて山を築きたらん如く、ガヤ〳〵と罵り騒ぎぬ〉

⑮
女庭訓(をんなていきん)　〔英ブラッドン著〕　涙香小史訳　(一一月)東京　町田浜雄(扶桑堂)編輯・発行
22cm　12行　序(愛花)4＋彩色口絵(永洗画)1葉＋289＋奥付1p　74-5　R55-293

〈冬も早や寒き最中に届きて木枯の吹冷る十二月中旬過ぎの或る日暮に英京なるパタルシー橋の許に立ち橋の袂に風を避けつゝ、物思はしげに一通の手紙を、立ながら披きて読む一少女あり〉

⑯
探偵小説 六人の死骸　探偵小説第十五集　香骨作　嘯月補　(一二月)大阪　大淵渉(駸々堂)発行
22cm　13行　90p　特8-719　R56-1

〈北風無遠慮に吹き荒み、八百八街閭として声なく、寒さに涙も氷らんとすらん。〉

【明治30年】

⑰
人外境(にんぐわいきやう)　上　仏ベロー著　涙香小史訳　(二月)東京　町田浜雄(扶桑堂)編輯・発行
23cm　12行　序(愛花)4＋彩色口絵(永洗画)1葉＋276＋奥広2p

〈仏国の都巴里府にてマリンシェーブと云へる町は多く豊に暮す人々の住む所なるが其中にも四囲に樹木の茂りたる最奥ゆかしき一構は誰の住居なるや知ねど室内の飾付にて察すれば、好みも最と高尚なる美人の居ぞとは知らる〉　(中巻は日本近代文学館に所蔵)　特12-875　R56-49

⑱ **武士道**（ぶしだう） 一名秘密袋　仏ボアゴベ著　涙香小史訳　（一二月、後編三十一年四月）東京　町田浜雄（扶桑堂）編輯・発行
二冊 23 cm　12行　（上編）題詞（愛華）4＋彩色口絵（永洗画）1葉＋285＋奥付1p、（後編）彩色口絵1葉＋232＋奥広2p　77-118　R 56-197 347
〈仏国の『グランビル』と云ふ所は西北の海に突出たる山の端にして、千仞の絶壁直ちに海に臨み、海より見上れば殆ど攀難き崖にして崖の上にグランビルの町は城の如く高く懸り〉

【明治32年】

⑲ **露国人**（ろこくじん） 米ノリス著　涙香小史訳　（一月）町田浜雄（扶桑堂）編輯・発行
22 cm　10行　自序2＋彩色口絵（永洗画）1葉＋256＋奥広2p　84-10　R 57-1
〈頃は暑さの稍や催さんとする六月の一夕、英国倫敦のベイスウヲターと称する静けき巷に、殊に静に住む畑村夫人が家の客間に四個の人あり〉

【明治34年】

⑲b 奇中奇談 **幽霊塔**　米ウイリアムソン著　野田良吉訳　（一月～九月）　→第Ⅰ期⑬に収録

【明治36年】

⑳ **天人論**　宇宙倫理観　黒岩周六著　（五月）東京　荒川千代三（朝報社）発行
22 cm　13行2段　凡例1＋目録1＋161＋奥付1p〔35銭〕　74-282　R 57-136
〈人は疑問の中に生れ疑問の中に死す　何故に生れたるやが一の疑問なり、生存中に何を為す可きやが二の疑問なり、死すれば何の境に入るやが三の疑問なり〉

㉑ **雪姫**（ゆきひめ）　英クレイ著　涙香小史訳　〔奥付には野田良吉著〕　（六月）東京　町田浜雄（扶桑堂）発行
22 cm　12行　彩色口絵（永洗画）1葉＋211＋奥付1p　74-300　R 57-223

〈『雪姫』とは曾て澳国に派遣せられたる外交家河畑良年の一女清子が綽名なり、本名の清子にては知らぬ人も多けれど『雪姫』と云はゞ英国第一の美人として噂に聞及ばぬ人もなし〉

【明治37年】

⑱② **精力主義**（エネルギズム）　黒岩涙香文集　（五月）東京　平山勝熊（隆文館）発行
23cm　14行2段　目次2＋201＋後に書す2＋備考2＋奥広2p
〈支那には座右の銘とか箴とか云ふ如き者あり、西洋にもモットと称し気を引立る如き言葉を選びて或は意気を表し、或は自ら警戒するの風あるを見る〉　79-344　R57-334

⑱③ **英和対訳科学小説　暗黒星**　米ニウカム著　黒岩涙香訳　（九月）染谷仙蔵（朝報社）発行
22cm　13行2段　凡例1＋83＋『暗黒星』を読みて（天生）4＋奥付1p
〈『暗黒星！　暗黒星！』／遙かに天の一方に、怪しき暗黒星が現れたとの信号が、火星世界の天文台から発せられた〉　79-428　R58-1

【明治38年】

⑱③b **史外史伝　巌窟王**（がんくつわう）　仏デュマ著　涙香小史訳　（七月～三十九年六月）　→第Ⅱ期⑩⑧に収録

【明治39年】

⑱④ **噫無情**（ジー・ミゼラブル）　仏ユゴー著　涙香小史訳　（（前）一月初版・一二月六版、（後）四月初版・六月三版）東京町田浜雄（扶桑堂）発行〔各70銭〕
二冊22cm　14行　（前）小引6＋彩色口絵1葉＋284＋奥広2p、（後）彩色口絵1葉＋252＋奥広2p
〈仏国の東南端ブロボンと云ふ一州にダイン（Digne）と称する小都会がある〉　26-371　R58-50-201

⑱⑤ **人生問題**　黒岩周六講演　（四月初版・五月再版）東京　高島大圓（丙午出版社）編輯・発行
22cm　14行　序説5＋序（高島）1＋目次2＋272＋奥広2p〔55銭〕

〈(神は有る耶無き耶)神の有無は、科学上の智識を以て証明す可き者なるや否、別言せば神を信ずる心は科学の研究より生じ来る者なるや否、是れ大なる疑問なり〉　特21-556　R58-333

(186)
人の妻　英クレイ著　涙香小史訳　(一〇月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行
22cm　15行2段　彩色口絵1葉＋294＋奥広2p〔70銭〕
〈玆に説出すは或人々の身の上である、作り話や小説の様に旨く辻褄は合ぬかも知れぬが、読で了つた後で考へると、成るほど小説よりも不思議だと驚くかも知れぬ〉　26-358　R59-1

【明治40年】

(187)
説椿
山と水　佳人ビデイ姫の伝　後編　英バレット著　涙香小史訳　(四月)東京　町田浜雄発行
22cm　15行2段　彩色口絵1葉＋235＋奥広2p〔65銭〕
〈余はマシウの後に従ッて山路を攀ぢた。マシウの、打扮は若し昼間見たらば、何れほどか異様で有らう〉(前編は日本近代文学館、三康図書館に所蔵)　26-368　R59-154

【明治41年】

(188)
説椿
花あやめ　英クレイ著　涙香小史訳　(一月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行
22cm　14行　彩色口絵(半古画)1葉＋213＋奥広2p〔65銭〕
〈何千年の昔から血統連綿と続けて居る貴族の家でも、盛衰と云ふ事は免かれぬ〉　26-444　R59-278

(189)
郷土柳子の話　涙香小史訳　(六月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行
22cm　15行2段　口絵1葉＋177＋柳子の其後80＋奥広2p〔55銭〕
〈英国の南の海岸にシヤドと云ふ小な静な町がある、町だか村だか分らぬほどの寂れた土地だけれど、都から遠からぬだけ夏には多少の避暑客も来る〉　特49-303　R60-1

【明治42年】

⑲⓪ **野の花**（のはな） 英ハーデイ著　涙香小史訳　（前）一月、（後）五月）東京　町田浜雄（扶桑堂）発行〔各75銭〕
二冊22cm　12行　（前）彩色口絵1葉＋276（169 170欠）＋奥付2p、（後）彩色口絵1葉＋270＋奥広2p
＜大事の子を兵隊に遣るのは何所の親も心快くは思はぬ者、けれど行く当人は少年の血気で、是から軍人の仲間に入ると思へば肉も躍るほど気が勇む＞　93-306　R60-137 281

【明治43年】

⑲① 新説 **破天荒**（はてんくわう） 英グリフィス著　黒岩涙香訳　（二月）東京　町田浜雄（扶桑堂）発行
22cm　14行　目次2＋口絵4葉＋326＋奥広2p〔1円20銭〕
＜時は一千九百年、即ち十九世紀が玆に尽き、二十世紀が之から始まらうと云ふ年（明治三十三年）の十一月五日、米国から英国へ行く定期船ボーロ号が大西洋の波の上で旭日の出るのを迎えた＞　329-43　R61-1

⑲② **人尊主義**　黒岩周六著　（四月）東京　野村鈴助（新橋堂書店）・服部国太郎（服部書店）発行
23cm　13行　自序4＋人尊主義とは何ぞ12＋目次2＋148＋目次2＋奥付1p〔55銭〕
＜（『人尊主義』とは何ぞ）人は尊貴なり、尊気は人なり、全宇宙に人よりほか尊貴と云はる可き者あらず＞　327-231　R61-174

【明治45年】

⑲③ **青年思想論**　講話叢書第一　黒岩周六述　（六月）東京　染谷仙蔵（朝報社）発行
19cm　9行　序4＋127＋奥付1＋理想団主意及規約5＋広告4p
＜（青年と政治思想）支那の青年が革命を企てたことは、其結果や利害は孰れとするも青年問題の上に大なる光りと熱とを注射した者と云ふ可きである。＞　340-12　R61-263

【大正2年】

⑭ **第二青年思想論**　一名大正維新論　黒岩周六述　(四月)東京　染谷仙蔵(朝報社)発行
19cm　9行　凡例2＋目次2＋228＋奥付1p〔25銭〕　350-33　R61-338
〈(乃木将軍の自殺を聞きて)我が国家は乃木将軍の自殺によりて偉大なる者を失ひたるか将た偉大なる者を得たるか〉

⑮ **小野小町論**(をののこまちろん)　黒岩涙香述　(七月)東京　山田藤吉郎(朝報社)発行
19cm　11行　題字1＋序言4＋目録2＋285＋跋言(沼波武夫、深川清喜堂、橋田長次郎、立川雨村)10＋索引10＋奥広6p〔60銭〕　350-87　R62-1
〈諸君、『貞女は一夫にだも見えず』と云ふことは女の覚悟であります〉

⑯ **予が婦人観**　大正文庫第五編　黒岩周六著　(七月)東京　高島大圓(丙午出版社)発行
17cm　10行　序8＋目次7＋261＋黒岩先生並に読者諸君(高島)6＋奥広24p〔60銭〕　350-59　R62-151
〈(通俗女生一元論)蜜蜂の類には女王と云ふ者が有つて其社会を支配して居る〉

⑰ **八十万年後の社会**　英ウェルズ著　黒岩涙香訳　(九月)〔扶桑堂発行〕
15cm　10行　342p〔奥付欠〕　338-217　R62-309
〈「出来る筈が無い」と思はれた事柄が、出来る様になる、其れが文明である、「ナニ、空中旅行！、其様なことは出来る筈が無い」と吾々の先祖は云うた、今日では其空中旅行が容易である〉

【大正3年】

⑱ **島の娘**　英ベザント著　黒岩周六訳　(上)七月、(終編)一一月)東京　町田浜雄(扶桑堂)発行
二冊22cm　13行　(上)彩色口絵1葉＋273＋奥広3p、(終)彩色口絵1葉＋287＋奥広2p〔各85銭〕　329-219　R63-1-147
〈英国の本土から西南三十哩ほど離れた海上に紫瑠璃群島と云ふ小島がある。〉

【大正4年】

⑲⑨ **実行論**　黒岩周六著　坂井新一編　(六月)東京　大倉広三郎(広文堂書店)発行
19cm　12行　序(編輯所)3＋目次2＋336＋目次(発表順)2＋奥広14 p〔90銭〕
〈(空理に馳する勿れ)世の中の有様を見ると、人と人との間には常に争があるが、其争は何であるかを考へると、先ず一番大いなるのが利益の争いである〉
360-118　R63-292

【大正8年】

⑳⓪ **社会と人生**　黒岩周六著　(一月)東京　原武(止善堂書店)発行
18cm　12行　序2＋凡例2＋目次4＋320＋奥広4 p〔1円50銭〕
〈(善を為す勇気)吾人は善事を為すに人を恐れざる可からざるか、悪人は人を恐れて其の悪事を躊躇すること有り、善人も亦人を恐れて善行を躊躇す可きか〉
376-250　R64-1

【大正11年】

⑳① **黒岩涙香**　涙香会編　(一〇月)
23cm　肖像1葉＋口絵1葉＋序2＋凡例1＋目次9＋先生自ら語る430＋諸名士の談話(内村鑑三、関和知、山縣五十雄、石川三四郎、倉辻白蛇、塩谷恒太郎、大谷誠夫、漆間真学、尾崎行雄)431～614＋先生と余技615～750＋会員の見たる先生751～924＋黒岩涙香先生略年譜925～928 p〔以下欠〕
398-103　R65-1

【大正15年】

⑳② **土佐五名家随筆集**　明治大正随筆選集19　田中貢太郎編　(九月)東京　水守栄(人文会出版部)発行
19cm　14行　序2＋小伝11＋書懐一律代題詞(秋水)1＋目次8＋中江兆民随筆1～56＋黒岩涙香随筆57～115＋幸徳秋水随筆117～181＋田岡嶺雲随筆183～264＋大町桂月随筆265～303＋奥広4 p〔1円〕
539-36　R64-171

㉓

涙香文選　石井文作編　（一〇月）東京　万朝報社発行

19㎝　13行　序（秀村得一）2＋はしがき（斯波貞吉）2＋凡例1＋目次2＋351＋奥広4ｐ

〈（発刊の辞）目的　万朝報は何が為めに発刊するや、他なし普通一般の多数民人に一目能く時勢を知るの便を得せしめん為のみ、此目的あるが為に我社は勉めて其価を廉にし其紙を狭くし其文を平易にし且つ我社の組織を独立せり〉

536-239

R64-342

〈十月六日は故黒岩涙香先生の第七回忌に相当する。本書は之を記念せんが為に、故人の諸作物中より特に当時世人の心を動かしたる論説と、故人が新聞界の偉人として万朝報創業以来幾多試みたる記念事業の中より最も意味深きものゝみを抄録したものである。〉（序）

うよ……直に夜が明けるわ。眞實よ……汝さんも酒でも飲んだの？……追拂を喰つたんぢやなくつて？……まアそんな事はどうだつて好いけれど』こんな風に彼女は僕を慰めた……僕を勵ました。

あゝ僕は三度まで呪はれやうとするのだらうか。この一些事の中に、僕にとつて何たる反語の世界の藏せられる事ぞ。まア想像しても見たまへ。人間運命の歸趨に深く心を秘めて、社會組織の改造を考へ、政事上の革命を考へ、さては著者自身にすらも計り知り難いやうな深意を藏する幾多の名書を讀破し——更に自ら進んで「有力なる社會の力」たらんとして、現に僕は全力を傾注して居たのだ。自ら省みて多少拗執に失したと思はぬでもないが、兎に角僕は僕として存在すべき特權を有して居るのだ。自己の生活上相當なる必然的勢力を有するのだ、隨つて人類社會に一個の偉大

一四五

一四六

なる歷史的地步を占むるに充分なる權能を有するのだ——と、少なくともこれ位までには自負して居たのだ。而も今や如何。金で操を賣る女が、肌の溫味に僕を暖めて居るのだ。人の世に何等の地位なく、何等の價値なき憐れな、傷け害はれ、追はれ獵り立てられた動物——それが身を以て僕を溫めて居るのだ。それに比べて僕自身は如何だらう。女の方から自分を助けて呉れるまで、此方から助けやうと云ふ氣を夢にも持たなかつたではないか。せめてその考へだけは起つたとしても、如何にして助くべきかを知らなかつたではないか。

あゝ、僕はせめては此事の凡ては夢——厭はしく、重苦しき夢なれかしとまで思つた。

が、だめだ、とてもだめだ。冷たい雨の滴は僕の上に容赦もなく落ちる。

女はシッカリと身を押し付ける。暖かい息が僕の顔を煽る、微にヴオツカの臭があるにも拘らずそれが僕には氣持が好い。風は怒り吼える。雨は舟の上を打ち、波は盛に噪く。二人は寒さに慄きつゝも、痙攣的に相抱いて居る。凡て此等の事は夢とすべく餘りに眞實だ。誰れかこの現實、此の事實の如く重苦しい怖ろしい夢を見るものか。

だが、ナタシヤは絶えず何か彼か喋舌りつづけた。女でなくてはとても得られぬ深切と、同情とが言葉の節々に籠つて居た。その聲、その深切な言葉にほだされて、微かな焔が僕の身内に燃え、何時となく胸の奥に何物か溶けて流るゝを覺えざるを得なかつた。

と、やがて僕の眼からは涙が雨霰の如くに流れ出て、今の先胸に結ぼれた邪なる思、愚なる思、悲しき思、汚れたる思の凡てを洗ひ去つた。ナタシヤは重ねて僕を勵ました。

『さア〳〵。最う好いぢやないか。泣かなくても好いわ。なアに、神樣はいつか又好い目に遇はしてくださるだらうからね……氣を取り直して、今一度好い處へ落ち着いて見るさ……何とかならアね……』

斯う云つてナタシヤは接吻を續けた……繰り返し幾度も僕を接吻してくれた……燃えるやうな接吻……たゞそれだけ……

だが、僕が女から接吻を受けたのは、この時が始めてゞ、而もそれが又此の上ない接吻であつた。何しろそれ以後の接吻と云ふものは、眼玉の飛び出る程の高價な費をして、おまけに醜ゆる所は眞實若干もなかつた。僕は矢張あの時の接吻を最上のものと思ふ。

『まア、そんなにクヨ〳〵するもんぢやないつてばさ。ほんとに隨分な弱

虫だよ。汝さんが自分で好い所を探せなくつても、妾が明日になつたら何とかして上げますよ――』その穏かに説得するやうな呼吉は、僕の耳にはまるで夢の中からでも來る聲のやうに響いた。

その儘そこで夜明まで二人は寐た……。

夜が明けると僕等は舟の蔭から匐ひ出て、町へ行つた……やがて二人は惜しい別を取交した。そして最う二度とは遇はなかつた。その後半年もかゝつて僕はあゝ云つた類のナタシャ――今こゝに書いた如く秋の一夜を共に明したその人のやうなナタシャを、隅から隅まで探し歩いたが……

若しや既に死んだのであるならば――實を云へばその方が女には好いのだが――安らかに眠れかし。だが若しまだ此世の人であるならば……矢張僕は彼女の上に平和あれかしと祈る。あゝ、どうぞいつまでも彼女の心に、自己の過れる生活に對する自覺などの起らぬやうに……此の世に活きて居られる限り、そんな自覺は甲斐ない餘計な苦しみに過ぎぬのだから……。

第Ⅰ期・第Ⅱ期正誤表

〈第Ⅰ期〉

⑫ 龍動奇談 ―→ 龍動鬼談

⑰ 五月板権免許―→ 十七年二月序

㉗ 24-8 ―→ 28-4（請求記号）

㉟ 香雲散人記 ―→ 香雪散人訳

㊷ ハロールド ―→ ハロールド物語

㊹ 本文348ｐ ―→ 248ｐ

⑩⑧ R29-1 ―→ R30-1

⑩⑨ R29-77 ―→ R30-77

⑫⑧⑫⑨ 明治27年 ―→ 明治29年（38頁13行の次に【明治29年】が脱落）

⑬⑧ ベンヂスン著―→ウイリアムソン著

〈第Ⅱ期〉

㊶ 川島忠之助・出版―→川島忠之助訳・出版

以上、「収録書目録」の項で判明している誤記・誤植を掲げ、訂正いたします。国会図書館において第Ⅰ期㉗の『慨世士伝』を誤植の請求記号で請求された方には、ご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。

索引

翻訳者索引——校閲者・序跋等の筆者も含む

一、出版制度の変容に伴い、明治二十年代の刊行図書の奥付から、著訳者の出自・住所が姿を消す。第Ⅲ期の収録書は当然のことながら出自・住所の表示がない。本稿では、出生年・出生地を調査して付すこととする。

一、住所表示のあった図書は、Ⅰ期Ⅱ期同様採録した。☆印は、住所が記されていないことを示す。

あ

浅田栄次　慶応三年徳山生れ　序⑬③

雨谷石燕　⑤③

飯田忍（竹の家）　序⑯⑥b

池雪蕾　土佐生れ　⑦⑧

石川三四郎　明治九年埼玉県生れ　三九年万朝報入社　談⑳①

井上啞々（九穂散士）　明治一一年名古屋生れ　序⑨⓪

井上笠園（真雄）　慶応四年生れ　序⑯②⑯⑥

岩本五一（小説館主人、香夢楼、夢廼家さむる、梅廼家かほる）　京橋区元数奇屋町一丁目三番地　序⑭②⑭⑦⑯⓪⑯①

日本橋区檜物町四番地　序⑮③⑮⑤⑮⑥　☆序⑭④⑮①　——→

出版人索引

巌谷季雄（小波）　明治三年東京生れ　⑪⓪

上田万年　慶応三年江戸生れ　⑥④

上田敏（柳村）　明治七年東京生れ　②⑦　序⑤②

内田貢（魯庵）　慶応四年江戸生れ　②⓪

内村鑑三　文久元年江戸生れ　談②⓪①

内村達三郎　⑨⑦

内山春風　⑥②

梅沢和軒　明治四年米沢生れ　序④⑨

漆間真学　安政六年生れ　談②⓪①

榎本秋村（恒太郎）　②⑥③①③②

江見水蔭　明治二年岡山生れ　⑯⑦

エリセーエフ、S　一八八九年ロシア生れ　序④①

大住嘯風（舜）　明治一四年東京生れ　㊺
太田三次郎　愛知県生れ　㊺
大谷繞石（正信）　明治八年松江生れ　㉓
大谷誠夫　明治三年生れ　二七年都新聞入社、のち社長となる　談⑳
大橋栄三　㉝
大町桂月（芳衛）　明治二年高知生れ　㉒
尾崎行雄　安政五年神奈川県生れ　談⑳
小山内薫　明治一四年広島生れ　㊳
小田頼造　明治一四年山口県生れ　⑦⑫㊱
尾上柴舟　明治九年岡山県生れ　題詩㊾
小原無絃（要逸）　㊾⑦⑩

か

片岡信　東京府平民　京橋区南紺屋町二十四番地　㉘
加藤直士　明治六年山形県生れ　①②⑤
河上肇　明治一二年山口県生れ　⑦
神崎順一　明治一五年生れ　⑨
神田乃武　安政四年江戸生れ　校訂㉗
木村鷹太郎　明治三年宇和島生れ　東京市芝区金杉浜町三十五番地　㊽　東京府下淀橋町柏木三百九番地　⑦⑥
⑦⑨　☆⑥⑦
楠田麦圃（斧三郎）　㊲
倉辻白蛇（明義）　明治一〇年生れ　万朝報記者　談⑳
黒岩大　高知県士族　東京芝区愛宕町一丁目十二番地寄留　⑬⑤⑥⑬⑦→黒岩涙香
黒岩涙香（周六、大）　文久二年高知県生れ　⑬⑨～⑭③⑭⑥～⑰③⑰⑤⑰⑦～㉓〔麻布区麻布笄町百七十四番地　⑱⑩⑱④⑱⑤⑱⑦⑱⑧⑱⑨⑲⓪〕
畔柳都太郎（芥舟）　明治四年山形県生れ　序⑫
ケーベル　一八四八年ロシア生れ　序⑲
香骨（黒岩涙香）　⑰⑥
幸徳秋水　明治四年高知県生れ　三一年万朝報入社　⑪㉒
児玉花外　明治七年京都生れ　⑧⑤
小林梧桐　⑩③
小松月陵（武治）　⑥⑦
小山東助　明治一二年宮城県生れ　三六年毎日新聞入社　跋⑱
近藤敏三郎　⑥③⑫⓪

さ

彩霞園柳香（雑賀豊太郎）安政四年大坂生れ　⑭④
堺枯川（利彦）　明治三年福岡県生れ　三二年万朝報入社　⑬②

坂本大風（栄吉）　⑩④
佐久間信恭　文久元年沼津生れ　⑬⓪
笹山狂浪（準一）　⑪①⑪②⑫⑧
佐藤緑葉（利吉）　明治一九年群馬県生れ　跋⑱
塩谷恒太郎　談⑳①
柴田流星（勇）　明治一二年東京生れ　⑥
斯波貞吉　明治二年生れ　三二年万朝報入社　序⑳③
島村抱月（滝太郎）　明治四年島根県生れ　序⑱⑤②⑦①⑬④
下中芳岳（弥三郎）　明治一一年生れ　⑥⑨⑦⓪
嘯月　⑰④⑰⑥
神東惇　麹町区下二番町四十八番地　③④
末広鉄腸（重恭）　嘉永二年宇和島生れ　序⑬⑤
末松謙澄　安政二年豊前生れ　序⑬⑧
菅野徳助　明治三年石巻生れ　⑤⓪⑤①⑥①⑦④⑦⑤⑧⓪⑧⑧⑨②⑨⑧⑨⑨⑪⑧
鈴木正士（熊本中学校教諭）　⑩②⑩⑨
住谷天来（八朔）　序①②
関和知　明治三年千葉県生れ　三九年万朝報入社　談⑳①
痩々亭骨皮（西森武城）　文久元年江戸生れ　序⑮⑨
瀬沼夏葉（郁子）　明治八年高崎生れ　⑲
相馬御風（昌治）　明治一六年糸魚川生れ　⑮②④③④③④⑫⑥

た

田岡嶺雲（佐代治）　明治三年高知生れ　三〇年万朝報入社　東京市下谷区中天王寺町二十二番地　㉘　☆⑳②
高島米峰（大圓）　明治八年新潟県生れ　序⑱⑤⑲⑥　→出版人
高須梅溪（芳二郎）　明治一三年大阪生れ　⑦①
高橋五郎（吾良）　安政三年柏崎生れ　⑩⑦　閲⑨④
竹村脩　⑪⑥
立川雨村　跋⑲⑤
田中貢太郎　明治一三年高知生れ　編⑳②
田村逆水（全宣）　⑧④
竹葉舎晋升　序⑯④⑯⑧⑯⑨
千葉掬香（鉱蔵）　明治三年東京生れ　⑤⑤⑤⑥⑤⑦
筑山正夫　明治四〇年没（二四歳）　⑱
辻新次　天保一三年松本生れ　序⑬⑦
綱島梁川（栄一郎）　明治六年岡山県生れ　序⑫
坪内逍遙（雄蔵）　安政六年美濃生れ　東京市牛込区余丁町百十二番地　⑩⑤⑪④⑫②　☆序⑤⑤⑤⑦⑪⑦　閲⑫⑥
天笠庵小法師　序⑭⑨
土肥春曙（庸元）　明治二年熊本生れ　⑤⑨
戸川秋骨（明三）　明治三年肥後生れ　③⓪②①

徳田秋江（浩司、近松秋江）　明治九年岡山県生れ　㊼
徳富蘆花（健次郎）　明治元年熊本県生れ　序⑱

な

中江兆民（篤介）　弘化四年高知生れ　㉒　序⑭⑧
中村孤月（八郎）　明治一四年東京生れ　㉓
中村春雨　㉝　序⑪⓪
奈倉次郎　明治五年伊豆生れ　㊿㊶⑥①⑦⑤⑦⑦⑧⓪⑧⑧⑨②⑨⑧⑪⑧
夏目漱石（金之助）　慶応三年江戸生れ　序㊷
沼波武夫（瓊音）　明治一〇年名古屋生れ　三八年万朝報入社　跋⑲⑤
野田良吉　⑱①
昇曙夢（直隆）　明治一一年奄美大島生れ　牛込区市ヶ谷田町二丁目二十二番地　㊶　☆㉒㊷㊽

は

橋田長次郎　跋⑲⑤
長谷川康（開成中学校講師）　⑫④
長谷川辰之助（二葉亭四迷）　元治元年江戸生れ　⑬⑯⑰㉙
馬場孤蝶（勝弥）　明治二年高知生れ　⑩㊵
林董　嘉永三年佐倉生れ　序⑨④
日置益　三重県平民　神田区駿河台東紅梅町二番地寄留　⑬⑦
秀村得一　序㉐③
一二三散史　序⑮⑧
風浪生　⑫③
深江種明　⑧⑥
深川清喜堂　跋⑲⑤
藤井白雲子（繁一）　⑪⑦
藤沢古雪（周次）　㊾
二葉亭四迷→長谷川辰之助
紅薔薇生　⑫⑨
抱花生　⑨⓪
星野久成（楽天）　⑥⓪
帆引徹巌　⑪③
堀口昇　嘉永三年高崎生れ　校閲⑬⑤　序⑬⑥
本間久四郎（久）　東京市芝区神谷町九番地　㊷⑧⑨⑨①　☆⑫⑤

ま

正木照蔵　⑨④
松浦政泰　⑨⑤⑨⑥
松島剛（利道）　安政元年江戸生れ　監修⑩⓪⑪⑨

松原至文（致遠）　明治一七年三重県生れ　⑩③
松原三十三階堂主人（岩五郎）　慶応二年伯耆国生れ　⑯⑦
松本雲舟（赳）　明治一五年生れ　⑬①
松本信夫　⑦②
丸亭素人（遠藤速太）　元治元年生れ　⑮⑦
三木愛花（貞一、愛華、紅夢楼）　文久元年大網生れ　⑰⑩
　序⑰①⑰②⑰③⑰⑤⑰⑦⑰⑧
右田寅彦（柳塢亭）　慶応二年臼杵生れ　⑭⑤
水島慎次郎　⑩⑧
夢幻散士　序⑮⑦
百嶋（島）冷泉（操）　東京府豊多摩郡西大久保村五百四
　⑭⑨③　☆⑧②⑤⑤④⑧③⑩①⑪⑤
森林太郎（鷗外）　文久二年石見国生れ　③⑤④④⑤⑧⑥⑥　序⑤⑥

や

山縣五十雄（蠁湖）　明治二年滋賀県生れ　二八年万朝報
　入社　談②⓪①
山岸荷葉（惣次郎）　明治九年東京生れ　⑧②
山田行潦（直）　東京市下谷区上根岸町八十八番地　⑬④
夢の家　⑰⓪
吉江孤雁（喬松）　明治一三年長野県生れ　②①③⑨
吉岡向陽　⑫⑦
吉田両耳生（良次）　④⑥

わ

若月紫蘭（保治）　明治一二年防府生れ　四一年万朝報入
　社　⑪③
和田垣謙三　万延元年豊岡生れ　⑥⓪

出版人・発行人索引

あ

新井由蔵　東京市京橋区木挽町二丁目十三番地　㉜

荒川千代三（朝報社）　京橋区弓町二十一番地　㊽

荒川信賢（早稲田大学出版部）　東京市小石川区音羽町四丁目十一番地　㉒→早稲田大学出版部

安藤嶺丸（精神修養社）　東京市浅草区橋場町百三番地　㊺

石井文作（万朝報社）　東京市京橋区銀坐二丁目四番地　㉓

磯部辰次郎（磯部甲陽堂）　東京市日本橋区蠣殻町二丁目九番地　㉓

伊藤元治郎（隆文館）　東京市京橋区南鍋町一丁目二番地　⑪

井上勝五郎（薫志堂）　京橋区南紺屋町一番地　㊶㊷㊸㊹㊶㊷

井ノ口松之助（魁真楼）　東京市京橋区南大工町九番地　㊽

今津隆治（如山堂書店）　東京市日本橋区上槇町十番地　⑩

岩崎鉄次郎（大学館）　東京市神田区鍋町二十一番地　㊺㊵

岩本五一（小説館）　京橋区銀坐二丁目十二番地　㊴

京橋区元数寄屋町一丁目三番地　㊶㊷㊸㊹㊺㊼㊾㊿(61)

日本橋区檜物町四番地　㊸㊺㊻㊽→翻訳者索引

上田屋書店　東京市神田区裏神保町一番地　⑥

内田正一（東西社）　東京神田区表神保町十番地　㊺㊻

内田正義（東西社）　東京市本郷区向岡弥生町三番地　㊻→東西社

大草常章（松栄堂書店）　東京市日本橋区橘町一丁目一番地　㊼

大倉広三郎（広文堂書店）　東京市京橋区南槇町十八番地　㊻

大塚英祐（秩山堂書舗）　東京府士族　神田区小川町十番地　㊱

大橋新太郎（博文館）　東京市日本橋区本町三丁目八番地

大淵渉（晨々堂）　大坂市東区末吉橋通四丁目八十六番邸　㉞㊴㊼

岡三郎（彩雲閣）　東京市神田区表神保町三番地　㉙　⑰⑰⑥

小川寅松（小川尚栄堂）　東京市京橋区南紺屋町十八番地　⑥⓪⑬⓪

か

鹿島長次郎（興文社）　東京市日本橋区馬喰町二丁目一番地　⑬③

金尾種次郎（金尾文淵堂）　東京市京橋区元数寄屋町二丁目十三番地　⑰

兼子慶太郎（経世社）　東京青山原宿百八十三番地　④　⑯

亀井忠一（三省堂書店）　東京市神田区裏神保町一番地　⑤⓪⑤①⑥①⑦④⑦⑤⑦⑦⑧⓪⑧⑧⑨②⑨⑧⑪⑧

木沢孚（画報社）　東京市神田区西小川町一丁目九番地（画報社＝本郷区切通坂町二十五番地）　⑤⑧

木下子之吉（木下出版商社）　東京市芝区神明町十二番地　⑧④

熊谷勝（平民書房）　東京市本郷区弓町二丁目一番地　⑨

河野正義（東京国民書院）　東京市神田区駿河台袋町十六番地　㊼

小酒井五一郎（英語研究社）　東京市麹町区富士見町六丁目一番地　⑩②⑩⑨

小林啓蔵（昭倫堂）　東京市本郷区東片町百三十六番地　⑩③

小柳津要人（丸善株式会社）　東京市日本橋区通三丁目十四、五番地　⑳

さ

榊原友吉（文盛堂書店）　東京市日本橋区鉄砲町三番地　⑬④

坂本嘉治馬（冨山房）　東京市神田区裏神保町九番地　⑫②　→冨山房

佐藤義亮（新潮社）　東京市麹町区飯田町三丁目二十五番地　④③④⑧

清水金右衛門（文明堂）　東京市本郷区本郷四丁目五番地　②

春陽堂　麹町区飯田町五丁目十番地　⑧②　→和田静子

真善美協会　東京府下淀橋町柏木三百九番地　⑦⑨

杉本要（杉本梁江堂）　東京市京橋区中橋広小路六番地　③③

杉本要（杉本書店）　大阪市東区北渡辺町八十九番地　③⑧

鈴木金輔（三友舎）　京橋区本材木町三丁目二十六番地
159 162 163
鈴木種次郎（三教書院）　東京市神田区佐柄木町二十一番地 113
薄田鶴二（獅子吼書房）　東京市京橋区南小田原町三丁目九番地 19
政教社　東京市神田区鎌倉町 65
関根寅之助（輿論社）　埼玉県平民　東京神田淡路町一丁目一番地寄留 135
副島優（尚友館書店）　東京市神田区錦町一丁目十番地 68
染谷仙蔵（朝報社）　東京市京橋区木挽町二丁目十三番地
183 193 194

た

高島大圓（米峰、丙午出版社）　東京市小石川区原町六番地 185 196
高橋重蔵　東京青山千駄ヶ谷四百七十番地 ⑥
高橋信定（経世社）　麹町区元町三丁目一番地 ③
高見勝（金葉堂）　京橋区木挽町一ノ三 66
瀧川民治郎（今古堂書店）　東京市日本橋区馬喰町三丁目十四番地 ⑦
竹沢章（章光閣）　東京市日本橋区箔屋町十四番地 22
立川熊次郎（立川文明堂）　大阪市東区博労町四丁目十三番地 128
田中増蔵（聚精堂）　東京市本郷区龍岡町三十四番地 42 117
谷沢光吉（光世館書店）　東京市日本橋区松島町二十九番地 62
朝報社（万朝報社）　東京市京橋区弓町二十一番地 183 193 194 195 203
——→荒川千代三、石川文作、染谷仙蔵、山田藤三郎
辻岡文助（金松堂）　東京市日本橋区横山町三丁目二番地 146
筒井民治郎（今古堂）　日本橋区新和泉町一番地寄留 147 157
鶴田久作（玄黄社）　東京市神田区雉子町三十二番地 94 99 107 121
東西社　神田区表神保町十番地 ——→内田正義
富田直次（二）郎（明進堂）　日本橋区通四丁目七番地 142 143 144 152 155
富田能次（富田文陽堂）　東京市神田区美土代町三丁目一番地 129

な

内藤加我（金桜堂）　日本橋区通四丁目八番地　⑭⓪　同四丁目四番地　⑭⓪⑮⓪⑮⑦

中井真三（良明堂書店）　東京市京橋区西紺屋町十六番地　⑫⑤

中井政次（開文社）　東京市神田区猿楽町二十一番地　⑤③

中根駒十郎（新潮社）　東京市麹町区飯田町三丁目二十五番地　㉔　牛込区新小川町一丁目十三番地　⑦①

中村由松・中村寅吉（鐘美堂書店）　大阪市南区安堂寺橋通三丁目五十七番地　⑥④

中山三郎（春秋社）　東京市神田区鈴木町十六番地　③③

西本波太（易風社）　東京市麹町区飯田町六丁目二十四番地　⑯④①⑤⑤⑤⑦

野村鈴助（新橋堂書店）　東京市京橋区出雲町一番地　⑪⓪　⑲②

は

長谷川好太郎（精華堂書店）東京市神田区多町一丁目十五番地　⑥③⑫⓪〔大阪店／大阪市南区安堂寺町心斉橋筋西入〕

服部国太郎（服部書店）　東京市日本橋区傳正町一番地　⑪⓪　⑲②

早矢仕民治（丸善書店）　東京府平民　神田宮本町五番地　⑬⑧

原武（止善堂書店）　東京市神田美土代町一丁目四十二番地　②⓪⓪

原亮一郎（金港堂書籍株式会社）　④⑨

日高藤兵衛（日高有隣堂）　東京市本郷区元富士町二番地　⑤　本郷区千駄木林町百九十六番地　⑥⑨⑦⓪

平山勝熊（隆文館）　東京市京橋区南鍋町一丁目二番地　⑫　赤坂区一ッ木七十四番地　⑱②

福岡元治郎（鐘美堂書店）東京市日本橋区本銀町三丁目二番地　⑥④

福永文之助（警醒社書店）　東京市京橋区尾張町二丁目十五番地　⑬①　☆①

冨山房　東京市神田裏神保町　⑪④　☆⑩⑤⑫⑥

堀野与七（文禄堂書店）　東京市日本橋区傳正町一番地　⑤②⑧⑨⑨①

ま

前川又三郎（前川文栄閣）　東京市京橋区中橋広小路六番地　㉘㊳

又間安次郎（精華堂書店）　大阪市南区安堂寺町四丁目六

十番地 ⑪〔東京店／東京市多町一丁目十五番地〕⑫
町田宗七（扶桑堂） 東京日本橋区新右衛門町十番地 ⑭
⑯ ⑯ ⑯ ⑯b ⑯ ⑯
町田浜雄（扶桑堂） 東京市京橋区北槇町十二番地 ⑰ ⑰
⑰ ⑰ ⑰ ⑰ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱ ⑱
松本亀造（公文書院） 東京市日本橋区通四丁目四番地
⑬
丸家善七 東京府平民 日本橋区通三丁目十四番地 ⑬
水守栄（人文会出版部） 東京市牛込区矢来町三番地 ⑳
三井新次郎（金桜堂） 日本橋区通三丁目十三番地寄留
⑰
宮川保全（大日本図書株式会社） 東京市京橋区銀座一丁目二十二番地 ⑦ ⑦
宮城伊兵衛（昭文堂） 東京市本郷区弓町一丁目二番地
⑱ ③ ④
三宅米吉（金港堂書籍会社副社長） 本郷区妻恋町六番地
⑯〔金港堂＝東京市日本橋区本町三丁目十七番地〕
宮下松太郎（二松堂書房） 東京市神田区上白壁町九番地
⑦
宮辺富次郎（建文館） 東京市神田区猿楽町二番地 ⑨ ⑫
宮本林治（武林堂） 東京市麹町区麹町一丁目三番地 ⑧

や

山縣文夫（内外出版協会） 東京府下北豊島郡巣鴨町大字上駒込十九番地 ⑭ ⑮ ㉑ ㉓ ㉕ ㉖ ㉛ ㉜ ㊲ ⑤ ⑨ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑪
⑪
山縣操（内外出版協会） 東京市本郷区駒込西片町十番地
⑧ ⑧
山田藤吉郎（朝報社） 東京市麻布区新龍土町十二番地
⑲
山中閑（都新聞社） 東京市麹町区内幸町一丁目五番地
⑯
山本銀次郎 東京市本所区吉岡町十二番地 ⑬
山本鎌蔵（岡崎屋書店） 東京市神田区雉子町三十二番地
⑦
万朝報社→朝報社

ら

隆文館 東京市京橋区尾張町一丁目一番地 ⑱

わ

早稲田大学出版部 東京市牛込区早稲田 ⑪ ⑫ ☆ ⑩
→荒川信賢

和田静子（春陽堂）　東京市日本橋区通四丁目五番地　⑬

㉗㉟㊹㊾㊽㊷㊿⑲⑫⑦　→春陽堂

書名索引

一、本索引は「明治期翻訳文学書全集」の完結に伴い、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・別集の目録書に収めた作品の検索を容易ならしめるために作成したものである。

一、しかし、五百五十点余を収めた本全集は、当然のなりゆきとして、明治期の翻訳文学書を網羅する形となった。ここに収録できなかった図書は、主として、涙香以外の探偵小説と明治三十九年以後のフランス・ドイツ文学である。

一、研究の便宜をはかるため、「近代日本黎明期文学書集成」に収めた翻訳書も本索引に収録しておいた。

あ

噫無情（ユゴー著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑱④
愛の杯（短編小説）（テイラ著　佐藤てつ子訳）　Ⅱ⑲⑦
アイバンホー（スコット著　小原無絃訳）　Ⅲ⑩⑥
あいびき（ツルゲーネフ著　二葉亭四迷訳）　Ⅱ⑬⑧　Ⅰ⑩⑤
赤靴物語（アンデルセン著　百島操訳）　Ⅲ⑤④
秋の一夜（ゴルキイ著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ⑭⑥
悪因縁（クライスト著　森鷗外訳）　Ⅱ⑫②
悪党紳士（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑮⑤
亜細亜の光輝（アーノルド著　中川太郎訳）　Ⅰ⑨⑤
蘆分小舟（小説）（ディケンス著　池雪蕾訳）　Ⅲ⑦⑧
明日の戦争（ダンリー著　厩堂散人訳）　Ⅱ⑨③
アダムの日記（トウェーン著　本間久四郎訳）　Ⅲ⑧⑨
兄と弟（モーパッサン著　倉田桜芳訳）　Ⅱ⑩⑦
痘痕伝七郎（シェイクスピア著　条野採菊翻案）　→黎明期
怪の物（ドーニイ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑰②
荒磯（バルザック著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ⑩④
亜拉比亜奇譚（沙漠旅行）（ハオフ著　中川霞城訳）　Ⅱ⑪③
暴夜物語（開巻驚奇）（永峰秀樹訳）　Ⅰ②
アラビヤンナイト物語（深沢由次郎訳）　Ⅰ⑮⑨

ありふれ物語（ホーソーン著　大島正健訳）　Ⅱ⑲
闇黒亜弗利加（スタンレー著　矢部新作訳）　Ⅰ⑭
暗黒星（英和対訳科学小説）（ニューカム著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑱
アンダアゼンお伽噺（近藤敏三郎訳）　Ⅲ⑥
アンデルセン物語（内山春風訳）　Ⅲ⑥
安得仙家庭物語（アンデルセン著　上田万年説話）　Ⅲ⑥
アンナ・カレンナ（トルストイ著　柴田流星訳）　Ⅲ⑥
家妻（アーヴィング著　宮崎湖処子訳）　Ⅱ⑱
活地獄（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯
いさ子（ウード著　織田純一郎訳）　Ⅰ⑨
石美人（白水居士翻案）　Ⅱ⑰
偉人論（エマーソン著　大谷正信訳）　Ⅱ⑭
伊曽保物語（前田香雪訳）　Ⅰ⑤
伊蘇普物語（新訳）（鈴木常松訳）　Ⅰ⑩
伊蘇普物語（寓意勧懲）（田中達三郎訳）　Ⅰ⑦
伊太利の囚人（ディケンス著　森田思軒訳）　Ⅰ⑩
一読三嘆（訐隠発秘）（マックスヲーレル著　尾崎行雄・尾崎行隆訳）　Ⅰ⑤
一輪の牡丹花（シェイクスピア著　丸山平次郎筆記）　Ⅰ⑦
いつの日か君帰ります（ルスト著　森鷗外訳）　Ⅲ⑤
犬（ラーエルレーフ著　森鷗外訳）　Ⅲ⑤
イーノックアーデン（テニソン著　長谷川康訳）　Ⅲ⑫
祝ひ歌（ディケンズ著　若松賤子訳）　Ⅰ⑫
因果の小車（ケラス著　鈴木大拙訳）　Ⅱ⑫
印度開国紀事（マコーレー著　高田寅二郎訳）　Ⅰ⑧
印度開国征略史（マコーレー著　渡辺松茂訳）　Ⅰ⑨
印度奇観（マコーレー著　前橋孝義訳）　Ⅰ⑧
印度征略史（マコーレー著　末広重恭訳）　Ⅰ②
印度顚覆史（マコーレー著　山田良作訳）　Ⅰ①
ヴィカー、ヲブ、ウェークフィールド（ゴールドスミス著　浅野和三郎訳）　Ⅰ⑮
ヴェニスの商人（シェイクスピア著　土肥春曙訳）　Ⅲ⑤
ヴエニスの商人（ラム著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ⑦
うえるてる（ゲーテ著　久保天随訳）　Ⅱ⑬
ウォルヅヲォスの詩（浦瀬白雨訳）　Ⅰ⑯
うき草（ツルゲーネフ著　二葉亭四迷訳）　Ⅲ①
うきよかがみ（摩爾利亜登著　橋本武訳）　Ⅱ⑲
浮世の巷（シュー著　岡野碩訳）　Ⅱ⑧
憂世の涕涙（一滴千金）（キング著　宮崎夢柳訳）　Ⅰ②
うきよの波（ステルン著　森鷗外訳）　Ⅱ⑫
雨中花（小説）（末広鉄腸・二宮孤松訳）　Ⅱ⑲
宇宙の舵蔓（文明世界）（勝岡信三郎訳）　Ⅱ⑲

英国の義士、猶太の烈女（スコット著　河島敬蔵註釈）
Ⅰ(145)
英国美譚（貞操）（クック著　鎗田山人編）　Ⅱ⑥
英国魯敏孫島物語（斎藤了庵訳）　Ⅰ(20)
英雄崇拝論（カーライル著　住谷天来訳）　Ⅰ(137)
英雄崇拝論（カーライル著　大屋・石田訳）　Ⅰ(120)
英雄之肝胆（五日紀変）（ユーゴー著　野田藤吉郎訳）　Ⅱ(70)
英雄之世路（革命余聞）（チャンダアス著　阿部秀吉訳）
Ⅱ⑧
英雄論（カーライル著　土井林吉訳）　Ⅰ(134)
ＡＢＣ組合（ユゴー著　原抱一庵訳）　Ⅱ(102)
恵馬遜傑作集（エマーソン著　大谷正信訳）　Ⅲ(73)
エマーソン論文集（戸川秋骨訳）　Ⅲ(121)
エマーソン論文集（水島慎次郎訳）　Ⅲ(108)
恵磨遜の書簡（ノルトン編　民友社訳）　Ⅱ(30)
鴛鴦奇観（伊国情史）（ボッカッチョ著　近藤東之助訳）
Ⅱ(159)
遠征奇縁（名将佳人）（小野次郎訳）　Ⅱ(167)
生ひ立ちの記　青年時代（トルストイ著　徳田秋江訳）
Ⅲ(47)
王冠（コッペー著　長田秋濤訳）　Ⅱ(100)
黄金虫（ポー著　本間久四郎訳）　Ⅲ(91)
黄金杯（ワッセルマン著　森鷗外訳）　Ⅲ(35)
王様の新衣裳（諷世奇談）（アンデルセン著　河野政喜訳）
Ⅱ(172)
欧洲書生気質（シュレーゲル著　村田豊作訳）　Ⅱ(112)
欧洲美談（才子佳人艶話）（ホワード著　島崎湊訳）　Ⅰ(54)
欧洲美談（婦女立志）（田島象二訳）——→西国烈女伝の改題本
王党民党（ユゴー著　小川煙村訳）　Ⅱ(106)
王子羅世刺斯伝（ジョンソン著　芝野六助訳）　Ⅰ(164)
王子羅世拉斯伝記（ジョンソン著　草野宜隆訳）　Ⅰ(34)
おほかみ（グリム著　上田万年訳）　Ⅱ(120)
陸目八目（ロチ著　飯田旗郎訳）　Ⅱ(95)
オセロ（ラム著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ(98)
オセロー（シェイクスピア著　坪内逍遙訳）　Ⅲ(122)
お転婆（ゴーリキー著　吉田良次訳）　Ⅲ(46)
乙女の操（ロングフェロー著　高須芳二郎訳）　Ⅲ(71)
小野小町論（黒岩涙香著）　Ⅲ(195)
折枝の梅が香（アルノー著　条野採菊訳）——→黎明期
オルレアンの少女（悲劇）（シラー著　藤沢周治訳）　Ⅱ(129)
女退治（ノリス著か　黒岩涙香訳）　Ⅲ(173)
女庭訓（ブラッドン著か　黒岩涙香訳）　Ⅲ(175)

か

懐旧（ユゴー著　森田思軒訳）　Ⅱ㊽
慨世士伝（開巻悲憤）（リットン著　坪内逍遙訳）　Ⅰ㉗
回世美談（デフォー著　山田正隆訳）　Ⅰ⑤
海賊（バイロン著　木村鷹太郎訳）　Ⅲ㊽
海底紀行（六万英里）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㊾
海底の重罪（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊻
海底旅行（五大洲中）（ヴェルヌ著　大平三次訳）　Ⅱ㊼
回天綺談（英国名士）（加藤政之助訳）　Ⅰ㉙
回天之弦声（字血句涙）（シラー著　蘆田東雄訳）　Ⅱ㊱
顔（デーメル著　森鷗外訳）　Ⅲ㉟
革命奇談神愁鬼哭（ドウイッチ著　幸徳秋水訳）　Ⅲ⑪
花情粋話（人情小説）（ベルセジオー著　大石高徳訳）　Ⅱ㊹
花心蝶思録（露国奇聞）（プーシキン著　高須治助訳）　Ⅱ㊱
佳人之血涙（政治小説）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㉑
片恋（附、奇遇、あひゞき）（ツルゲーネフ　二葉亭四迷訳）　Ⅱ㊹
片手美人（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊸
鏑木秀子（イブセン社会劇）（土肥春曙訳）　Ⅲ㊾
カーライル英雄論詳解（本田増次郎編）　Ⅰ㊶
ガリヴァー小人国旅行（スウィフト著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ㊽
ガリヴァー旅行記（スウィフト著　松原・小林訳）　Ⅲ㊸
ガリヴァー旅行記（スウィフト著　佐久間信恭訳）　Ⅲ㊵
鵞瓊皤児回島記（絵本）（スウィフト著　片山平三郎訳）　Ⅰ⑪
花柳春話（欧洲奇事）（リットン著　織田純一郎訳）　Ⅰ⑦
花柳春話（通俗）（リットン著　織田純一郎訳）　Ⅰ㉑
カルコ集（ゴーリキー、ガルシン著　二葉亭四迷訳）　Ⅲ⑬
可憐嬢（坪内逍遙著）　Ⅰ㊺
簡易聖書（トルストイ著　小田頼造訳）　Ⅲ㊱
間一髪（ポー著　森田思軒訳）　Ⅱ㉒
巌窟王（史外史伝）（デュマ著　黒岩涙香訳）　Ⅱ㊽
寒村行（ゴールドスミス著）（久保・天野訳）　Ⅰ㊼
漢訳伊蘇普譚（阿部弘国訓点）　Ⅰ④
奸雄の末路（リットン著　吉田熹六訳）　Ⅰ㊺
奇遇之夢（才子佳人）（中村柳塢訳）　Ⅱ㊷
奇遇夢物語（波斯奇談）（横山峯一訳）　Ⅱ㊽
奇遇魯国美譚（改良小説）（トンベイ著　大石高徳訳）　Ⅱ㊻

奇獄（摘陰発微）（マクウアッテルス著　千原伊之吉訳）
Ⅱ⑨
鬼啾啾（虚無党実伝記）（レウロッフ著　宮崎夢柳訳）――→
黎明期
奇想春史（欧洲奇話）（リットン著　織田純一郎訳）　Ⅰ⑧
貴族の家（ツルゲーネフ著　相馬御風訳）　Ⅲ㊸
狐の裁判（独逸奇書）（ゲーテ著　井上勤訳）　Ⅱ⑪
義勇兵（仏国史談）（カボロー著　宮崎夢柳訳）――→黎明期
教育お伽噺（アンデルセン著　和田垣謙三訳）　Ⅲ⑥
鏡花水月（シェイクスピア著　渡辺治訳）　Ⅰ㊻
教訓小説集（トルストイ著　斎木仙酔訳）　Ⅱ⑭
巨魁来（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯
兄弟（ドーデー著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ⑩
虚無党奇談（キュー著　松居松葉訳）　Ⅱ⑮
虚無党退治奇談（ヴェルニエ著　川島忠之助訳）　Ⅱ㊾
嫌はれ者（アンデルセン著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ⑥
銀行の賊――→魔術の賊（銀行奇談）の改題本
近世偉業（亜弗利加探検）（スタンレー著　前野芳造訳）
Ⅰ⑩
近世米国奇談（小川吉之輔編）　Ⅱ②
金鉄腸（激浪濯血）（サーゼイ著　城慶度訳）　Ⅰ㊸
金満家（矢野龍溪・森田思軒訳）　Ⅱ⑰
金驢譚（希臘異聞）（森田思軒訳）　Ⅱ⑰
空中軍艦（フォーセット著　山岸薮鶯訳）　Ⅱ⑳
苦闘録（バルザック著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ⑩
草葉の露（小説）（ブレドン著　ブラック訳）　Ⅰ㊶
具雷武伝釈義（マコーレー著　河田清彦訳）　Ⅰ⑮
クライブ伝詳解（マコーレー氏評論）（関藤成緒編）　Ⅰ㊽
克来貌伝註釈（マコーレー氏）（斎藤恒太郎訳）　Ⅰ㊸
クライヴ伝直訳（マコーレー著　遠藤速太訳）　Ⅰ㊻
クライヴ伝直訳（マコーレー著　栗野忠雄訳）　Ⅰ㊵
クリスマスカロル（頭註）（ディケンス著　草野柴二訳）
Ⅰ⑭
クリスマス、カロル（新訳註解）（ディケンス著　紅薔薇
生訳）　Ⅲ⑫
暮れゆく海（ゴーリキー著　中村孤月訳）　Ⅲ㉓
黒岩涙香（涙香会編）　Ⅲ⑳
黒頭巾（ディケンス著　内田魯庵訳）　Ⅰ⑰
群芳綺話（欧洲情話）（ボッカッチョ著　大久保勘三郎訳）
Ⅱ⑮
「クロイツェル・ソナタ」後語（トルストイ著　橋本青雨
訳）　Ⅱ⑮
経国美談（斉武名士）（矢野龍溪訳）――→黎明期
繋思談（諷世嘲俗）（リットン著　尾崎・藤田訳）　Ⅰ㉛

閨秀美談（那翁外伝）（アボット著　秋庭浜太郎訳）　Ⅱ⑤
警世奇話（フェヌロン著　加藤幹雄訳）　Ⅱ㊽
ゲエテの詩（橋本青雨訳）　Ⅱ㉞
劇場の犯罪（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊾
血笑記（新訳）（アンドレーエフ著　二葉亭四迷訳）　Ⅲ⑯
月世界一周（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㊺
月世界旅行（九十七時二十分間）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㊺
決闘（チェーホフ著　小山内薫訳）　Ⅲ㊳
決闘の果（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯②
日耳曼政略史（マコーレー著　横川文之助訳）　Ⅰ㊼
剣侠（ホープ著　森嗌峰訳）　Ⅰ㊱
建築師（脚本）（イプセン著　千葉掬香訳）　Ⅲ㊻
恋娘婚姻事情（西洋演劇筋書）（ラビシュ著　荻原・有賀訳）　Ⅱ㊹
豪傑一世鏡（自由之笞恩愛の泄）（シェイクスピア著　板倉輿太郎訳）　Ⅰ㊾
皇子ハムレット（ラム著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ㊵
後世夢物語（開化進歩）（ジオスコリデス著　上条信次訳）　Ⅱ⑤④
豪胆少年奮闘美談（松浦政泰訳）　Ⅲ㊺
郷土柳子の話（黒岩涙香訳）　Ⅲ⑧⑨
国事探偵（ゴーリキー著　馬場孤蝶訳）　Ⅲ㊵
国民小説　（第一）Ⅱ㊽　（第二）Ⅰ㊺Ⅱ⑫②⑬⑧⑰④　（第四）Ⅰ⑫③Ⅱ⑱⑫③　（第六）Ⅱ⑭②
国民の元気（血涙万行）（谷口政徳訳）——→黎明期
極楽郷（アンデルセン著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑰⑦
心（アンドレーエフ著　上田敏訳）　Ⅲ㉗
心の隈（バルザック著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ⑩④
心の楽（教育奇談）（フェヌロン著　加藤幹雄訳）　Ⅱ⑧⑨
「コサアク」兵（トルストイ著　田山花袋訳）　Ⅱ⑭⑩
哥薩克兵——→「コサアク」兵の改題再版
小桜新吉（小説）（ディケンス著　堺利彦訳）　Ⅲ⑬②
乞食（ゴーリキー著　二葉亭四迷訳）　Ⅲ㉙
乞食王子（少年小説）（トウェイン著　巌谷・黒田・川田訳）　Ⅱ㉖
湖上の美人（今様長歌）（スコット著　塩井正男訳）　Ⅰ⑫②
五九節操史（仏国情話）（デュマ著　松岡亀雄訳）　Ⅱ④⑥
国会之瑕瑾（仏国革命余波）（ファイエット著　水谷由章訳）——→黎明期
滑稽劇当世女学者（モリエール著　松居松葉訳）　Ⅱ⑨④
此曲物（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑮⑥
小山羊の歌（エッヂワース著　本間久訳）　Ⅲ⑫⑤
ゴーリキー集（短編六種）（相馬御風訳）　Ⅲ③④

昆太利物語（ディズレーリ著　福地・塚原訳）　Ⅰ(86)b

さ

西国烈女伝（田島象二訳）→黎明期
最後の勝利（トルストイ著　梅北・沖野訳）　Ⅱ(151)
沙翁物語　ハムレット及ヱニスの商人（ラム著　中島孤島訳）　Ⅰ(155)
沙翁物語　マクベス外二篇（ラム著　杉谷代水編）　Ⅰ(148)
沙翁物語集（ラム著　小松月陵訳）　Ⅰ(160)
沙翁物語十種（ラム著　小松月陵訳）　Ⅲ(87)
何桜彼桜銭世中（ラム著　雨の家狸遊編）　Ⅰ(33)
ささやき（シェンキィヰック、イプセン著　藤沢古雪訳）　Ⅲ(49)
さすらひ（オデッセ梗概）（赤司・石田訳）　Ⅱ(188)
沙漠の花（孝女美談）（リストウ著　浅井・坂本訳）　Ⅱ(77)
猿乃裁判（優勝劣敗）（倶礼著　井上勤訳）　Ⅰ(85)
懺悔（フハージオン著　賣薪生訳）　Ⅱ(174)
三十五日間空中旅行（亜非利加内地）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ(51)
三笑人（西洋滑稽）（山田保訳）　Ⅱ(43)
三人（ゴーリキー著　田岡嶺雲訳）　Ⅲ(28)
三人姫（アーヴィング著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ(74)
三人令嬢（シェイクスピア原作　条野採菊翻案）　Ⅰ(102)
三人令嬢　附夏の夜の夢（ラム著　河島敬蔵訳）　Ⅰ(144)
三美姫物語（アーヴィング著　礒部精一訳）　Ⅱ(37)
シェキスピーヤ筋書（ラム著　竹内余所次郎訳）　Ⅰ(42)
シェークスピーア物語（ラム著　百島操訳）　Ⅲ(101)
シェレーの詩（小原無絃訳）　Ⅲ(69)
士官の娘（露国軍事小説）（プーシキン著　足立・徳田訳）　Ⅱ(149)
色是空（ルサージュ著　小栗貞雄訳）　Ⅱ(84)
該撒殺害（トウェーン著　山縣五十雄訳）　Ⅱ(33)
自叙伝直訳註釈（ふらんくりん）（松尾豊文訳）　Ⅱ(28)
自叙伝註釈（弗蘭克林）（井上歌郎註釈）　Ⅱ(24)
地震（クライスト著　森鷗外訳）　Ⅱ(122)
自著言行録直訳、註釈（ベンヂャミンフランクリン）（大島国千代訳）　Ⅱ(21)
詩人的英雄（カーライル著　蘭山居士訳）　Ⅰ(126)
実行論（黒岩涙香著）　Ⅲ(199)
失楽園（ミルトン著　内村達三郎訳）　Ⅲ(97)
失楽園（訳註）（ミルトン著　内村達三郎訳）　Ⅰ(163)
失楽園物語（ミルトン著　繁野天来編）　Ⅰ(147)
死美人（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(166)b
志別土商人物語（印度小説）（矢野龍溪訳）　Ⅱ(170)

志別土商人物語（嘉坡通信報知叢談）（矢野龍溪訳）　Ⅱ⑯③
島の娘（ビザント著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑲⑧
下僕の生涯（トルストイ著　神崎順一訳）　Ⅲ⑨
社会劇（イブセン作）（高安月郊訳）　Ⅱ⑱①
社会と人生（黒岩涙香著）　Ⅲ②⓪⓪
社会之敵（イプセン著　森皚峰訳）　Ⅱ⑱⓪
十五少年（ヴェルヌ著　森田思軒訳）　Ⅱ⑨⑧
十二健児（伊国美談）（アチミス著　原抱一庵訳）　Ⅱ⑱③
執念（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯⓪
自由の凱歌（仏蘭西革命記）（デュマ著　宮崎夢柳訳）　Ⅱ
⑤⓪⑧②
自由太刀余波鋭鋒（該撒奇談）（シェイクスピア著　坪内逍遙訳）　Ⅰ②⑥
自由廼征矢（白露革命外伝）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ
⑤⑧
出世之間道（ピカー著　尺秀三郎訳）　Ⅱ①⓪①
ジユリアス、シーザー講義（シェイクスピア著　大倉本澄訳）　Ⅰ①①③
春鶯囀（政党余談）（ディズレーリ著　関直彦訳）　Ⅰ②⑤
春情浮世之夢（シェイクスピア著　河島敬蔵訳）　Ⅰ③⑥
春窓綺話（泰西活劇）（スコット著　服部誠一訳）　Ⅰ②③
春風情話（スコット著　坪内逍遙訳）　Ⅰ①⓪
情供証拠誤判録（フィリップ著　高橋健三訳）　Ⅰ①④
小九郎次大九郎次・着道楽（アンデルセン著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ⑤⓪
商海狂瀾（キャッセル著　久松義典訳）→黎明期
小公子（バーネット著　若松賤子訳）　Ⅱ①②②③
小公子（バーネット著　百島操訳）　Ⅲ①①⑤
小公女（バーネット著　巌谷小波訳）　Ⅲ①①⓪
小公女（バーネット著　藤井繁一訳）　Ⅲ①①⑦
小人国大人国（スウィフト著　近藤敏三郎訳）　Ⅲ①②⓪
小人国大人国漂流記（スウィフト著　風浪生）　Ⅲ①②③
小人島大人島抱腹珍談（スウィフト著　松浦政泰訳）Ⅲ⑨⑥
小人国発見録（政治小説）（ジョルジ著　鳥尾岩太郎訳）
Ⅰ⑥⑧
肖像画（ゴーゴリ著　二葉亭四迷訳）→黎明期Ⅱ⑧⑥b
鐘楼守（ユゴー著　尾崎紅葉訳）　Ⅱ①⓪⑤
女子大学（テニソン著　深江種明訳）　Ⅲ⑧⑥
処世論（エマーソン著　高橋五郎訳）　Ⅲ①⓪⑦
ジョン・ガフリエル・ボルクマン（イプセン著　森鷗外訳）
Ⅲ⑤⑧
ジョンブル（オレル著　正木照蔵訳）　Ⅲ⑨④
白梅嬢（サッカレー著　山縣五十雄訳）　Ⅰ①③⑧
白浪艶話（父子奇遇）（リットン著　小川漁史訳）　Ⅰ①⓪③

シルレル物語（徳田秋江編）　Ⅱ⑫⑧
白薔薇（シュライネル著　画湖仙史訳）　Ⅱ⑫③
新亜剌比亜物語（スティブンソン著　若月・帆引訳）　Ⅲ⑪③
信仰（小説）（アンドレーエフ著　中村吉蔵訳）　Ⅲ③③
新世帯（新案奇想英和小説）（ギルバート著　本多金十郎訳）　Ⅰ⑥②
人生の意義（トルストイ著　橋本青雨訳）　Ⅱ⑮②
人生之意義（トルストイ著　神東惇訳）　Ⅲ③
人生の意義（トルストイ著　河上・小田訳）　Ⅲ⑦
人生の意義（杜翁叢書）（トルストイ著　榎本恒太郎訳）　Ⅲ③①
人生問題（黒岩涙香著）　Ⅲ⑱⑤
神仙叢話（西洋古事）（グリム著　菅了法訳）　Ⅱ⑪④
人尊主義（黒岩涙香著）　Ⅲ⑲②
人道主義（トルストイ著　小田頼造訳）　Ⅲ⑫
人肉質入裁判（西洋珍説）（ラム著　井上勤訳）　Ⅰ⑲
人肉質入裁判法庭之場講義録（シェイクスピア著　礫辺弥一郎訳）　Ⅰ⑩④⑩⑥
新編黄昏日記（デュマ著　小宮山桂介訳）——→黎明期
新未来記（ジオスコリデス著　近藤真琴訳）　Ⅱ⑮⑤
人民の敵（イプセン著　太田三次郎訳）　Ⅲ⑥⑤
新訳ロビンソン（奇流漂談）（デフォー著　笹山準一訳）　Ⅲ⑪①
新訳ロビンソン漂流記（絶島奇談）（デフォー著　笹山準一訳）　Ⅲ⑫⑧
姿の夜桜（英国革命）（高安亀次郎訳）——→黎明期
スケッチブック（アーヴィング著　浅野和三郎訳）　Ⅱ②⑨
スケッチブック釈義（ワシントンアーヴィング）（河田清彦訳）　Ⅱ①⑥
スケッチブック註釈（ワシントンアービング）（大倉本澄訳）　Ⅱ①⑤
寿其徳奇談（スコット著　横山鉾呂久訳）　Ⅰ③②
スコット湖上之美人詳解（岡村愛蔵訳）　Ⅰ⑮⑧
蘇丹令探検実記（亜弗利加内地）（藤田軌達訳）　Ⅰ⑪①
スタンレー探険実記——→闇黒亜弗利加の改題本
捨小舟（ブラッドン著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑰①
政海の情波（三英双美）（ディズレーリ著　渡辺治訳）　Ⅰ④⑩
聖人か盗賊か（リットン著　原抱一庵訳）　Ⅰ⑭⑧b
聖戦（バンヤン著　松本雲舟訳）　Ⅲ⑬①
政体各論（ヒルドレス著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑬⑥
政党情話（英国奇聞）（ブライト著　八木半治訳）　Ⅰ⑦②
青年思想論（黒岩涙香著）　Ⅲ⑲③

西洋梅暦（欧洲小説）（ジェヌイヤック著　福田・森訳）
Ⅱ㊻
西洋浦嶋物語（英文註釈）（アーヴィング著　堀越晩翠編）
Ⅱ㊵
西洋女大学（ラトクリフ著　片岡信訳）　Ⅲ㊳
西洋花こよみ（ボッカッチョ著　長田秋濤訳）　Ⅱ㊹
西洋夫妻事情（ディケンス著　加勢鶴太郎訳）　Ⅰ⑯
西洋復讐奇譚（開巻驚奇）（デュマ著　関直彦訳）　Ⅱ㊾
西洋娘節用（仇結奇乃赤縄）（シェイクスピア著　木下新三郎訳）　Ⅰ㊺
西洋妖怪奇談（小学講話材料）（グリム著　渋江保訳）　Ⅱ㉑
西洋列女伝（スターリング著　宮崎嘉国訳）　Ⅰ⑨
西洋笑本（田村久和纂）　Ⅱ㊶
性欲論（トルストイ著　大住嘯風訳）　Ⅲ㊺
精力主義（黒岩涙香著）　Ⅲ㊷
世界一大奇聞（一読一驚）（矢野・森田訳）　Ⅱ㊷
世界事実奇談（キング著　渡辺修二郎訳）　Ⅰ㊻
世界未来記（社会進化）（ロビダー著　蔭山広忠訳）　Ⅱ㊷
セキスピヤ物語（ラム著　品田太吉訳）　Ⅰ㊸
絶島漂流記（ロビンソンクルーソー）（高橋雄峰訳）　Ⅰ㉛
ゼ、マーチャント、オブ、ヴェニス（シェイクスピア著　土肥春曙訳）　Ⅰ㊸
セーラ、クルー物語（英和対訳）（バーネット著　若松賤子訳）　Ⅱ㊴
戦場之花（繡衣錦袍）（グラント著　前田・喜多川訳）　Ⅰ㊸
鮮血日本刀（フォーセット著　本多孫四郎訳）　Ⅰ㊺
全世界一大奇書（井上勤訳）　Ⅰ㉚
千人会（エッヂワース著　森田思軒訳）　Ⅰ㉓
千里風煙（政事上之放逐人）（チッソー、アメロー著　鈴木力訳）　Ⅱ㊽
想神録（杜翁叢書）（トルストイ著　榎本恒太郎訳）　Ⅲ㉜
造物者驚愕試験（学術妙用）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㊼
想夫恋（泰西情話）（シェイクスピア原案　竹葉散人著）
Ⅰ㉘
想夫恋（ボッカス翁十日物語）（ボッカッチョ著　佐野尚訳）　Ⅱ㊼
雙鸞春話（ディズレーリ著　牛山良助訳）　Ⅰ㊿
ソクラテエスの死（クレーゲル著　森鷗外訳）　Ⅲ㉟
蘇生の日（脚本）（イプセン著　千葉掬香訳）　Ⅲ㊺
即興詩人（アンデルセン著　森鷗外訳）　Ⅱ㉟
その前夜（ツルゲーネフ著　相馬御風訳）　Ⅲ⑮

園之咲分（家庭教育）（ゴールドスミス著　植木貞次郎訳）　Ⅰ㊶

た

第一の佳人（アルノー著　条野採菊訳）　Ⅱ㊻
第一之美人（世界）（ブライト著　八木半治郎訳）　Ⅰ㊻
大金塊（マンヴィル・フェン、ハルリス著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊽
大人国旅行（南洋漂流）（デフォー著　大久保常吉訳）　Ⅰ㊹
泰西奇談　嵐之巻（ラム著　仁田桂次郎訳）　Ⅰ㊷
泰西奇談　智孟物語（ラム著　仁田桂次郎訳）　Ⅰ㊸
泰西奇談　女房持虎の巻（ラム著　仁田桂次郎訳）　Ⅰ㊼
泰西奇談　冬物語・因果物語（ラム著　仁田桂次郎訳）　Ⅰ㊳
泰西世説（チェムブル著　中川将行訳）　Ⅱ㊿
泰西名著集（ツルゲーネフ、バルザック、モーパッサン、ドーデー、シェンキイウイック著　馬場孤蝶訳）　Ⅲ⑩
大東号航海日記（ヴェルヌ著　森田思軒訳）　Ⅱ㊽
大盗賊（銀行奇談）（ガボリオ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊵
第二十世紀（世界進歩）（ロビダー著　服部誠一訳）　Ⅱ㊸
第二十世紀未来誌（開巻驚奇）（ロビダー著　富田・酒巻訳）　Ⅱ㊸
第二青年思想論（黒岩涙香著）　Ⅲ㊾
大氷海（マルクハム著　幸田露伴訳）　Ⅰ㊽
大宝窟（ハッガード著　宮井安吉訳）　Ⅰ㉔
宝ほり（ポー著　山縣五十雄訳）　Ⅱ㉛
太政大臣難船日記（英国）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ㊻
楯の響（イリアッド梗概）（赤司・石田訳）　Ⅱ㊾
谷間乃鶯（欧洲新話）（セルバンテス著　斎藤良恭訳）　Ⅱ㊶
谷間の姫百合（クレー著　末松・二宮訳）　Ⅰ㊼
他人の銭（銀行奇聞）（ガボリオ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊷
旅路之空（ハウフ著　田中・秋元訳）　Ⅱ㊾
玉手箱（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊸
男女観（トルストイ著　橋本青雨訳）　Ⅱ㊷
断腸花（欧洲佳劇）（スタッフォード著　宇田川文海訳）　Ⅰ㊶
探偵ゆーべる（ユゴー著　森田思軒訳）　Ⅱ㊺
探偵ゆーべる及くらうど（ユゴー著　森田思軒訳）　Ⅱ㊿
ダンテ神曲物語（繁野天来訳）　Ⅱ㊼
鍛鉄場主（修羅浮世）（オネー著　加藤瓢乎訳）　Ⅱ㊷
鍛鉄の主人――→鍛鉄場主（修羅浮世）の改題本

断蓬奇縁（慨世史談）（チャートリアン著　小宮山桂介訳）
Ⅱ㉝
チエホフ傑作集（露国文豪）（瀬沼夏葉訳）　Ⅲ⑲
チエーホフ短編集（楠田斧三郎訳）　Ⅲ㊲
父（シェーフェル著　森鷗外訳）　Ⅲ㉟
父と子（ツルゲーネフ著　相馬御風訳）　Ⅲ㉔
地底旅行（拍案驚奇）（ヴェルヌ著　三木・高須訳）　Ⅱ⑥⓪
血の涙（リサアル著　山田美妙訳）　Ⅱ⑯⑥
血の文字（ガボリオ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯⑦
チフリスの百合（ボデー著　北川貞行訳）　Ⅱ⑭①
長恨（トルストイ著　筑山正夫訳）　Ⅲ⑱
彫像師（コンウェイ著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑲⑧
蝶舞奇縁（英国情史）（桑野鋭訳）　Ⅱ④
鳥留好語（アンデルセン、ポー、ハート、ディケンス、エッヂワース著　内田魯庵訳）　Ⅰ⑪⑦　Ⅱ⑰⑦⑦
千代の礎（ウォルトン著　三浦徹訳）　Ⅰ⑦①
通俗伊蘇普物語（渡辺温訳）　Ⅰ③
通俗泰西自来也（リットン著　鈴木徳輔編）　Ⅰ⑱
月雲両面鏡（毒婦ハ於延節婦ハ音羽）（条野採菊訳）――→黎明期
椿の花把（デュマ著　加藤紫芳訳）　Ⅱ⑧⑥
椿姫（デュマ著　長田秋濤訳）　Ⅱ⑩③
燕の山ぶみ（大倭仮名）（田島象二訳）――→黎明期
妻の嘆（政治小説）（コリンス著　井上勤訳）　Ⅰ⑥⓪
罪と罰（小説）（ドストエフスキー著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑬⑨
ツルゲネーフ集（短編三種）（吉江狐雁訳）　Ⅲ㊴
ツルゲーネフ短篇集（吉江狐雁訳）　Ⅲ㉑
ツワイストールド・テールス（ホーソーン著　松本信夫訳）
Ⅲ⑦②
帝国々難の夢（軍事小説）（那須野舎訳）　Ⅱ⑲⑨
テス（運命小説）（ハーディ著　山田行潦訳）　Ⅲ⑬④
鉄仮面（正史実歴）（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑯⑨
鉄世界（ヴェルヌ著　森田思軒訳）　Ⅱ⑦⑤
デッケンス物語（訳註）（大橋栄三著）　Ⅲ⑬③
テニソンの詩（片上天絃訳）　Ⅰ⑯⑥
哲烈禍福譚（欧洲小説）（フェヌロン著　宮島春松訳）　Ⅱ
④④
鉄烈奇談（経世指針）（フェヌロン著　伊沢信三郎訳）　Ⅱ
⑤②
哲爾自由譚（シラー著　山田郁治訳）　Ⅱ①①⓪
伝記物語（少年画師）（ホーソーン著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ⑨②
天声（ヴォルテール著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑨⑥ｂ⑭③
天人論（黒岩涙香著）　Ⅲ⑱⓪
天魔の怨（バイロン著　木村鷹太郎訳）　Ⅲ⑦⑥

天路歴程（バニヤン著　池亨吉訳）　I ⑯②
天路歴程（バニヤン著　ホワイト訳）　I ㊹b
天路歴程（バニヤン著　百島操訳）　III ㉝
天路歴程意訳（バニヤン著　佐藤喜峰訳）　I ⑮
塔上の犯罪——→此曲物の改題本
毒の園（露国新作家集）（ソログープ、アンドレーエフ、アルツイバーセフ、カアメンスキー、A・トルストイ、バリモント、ザイツェフ著　昇曙夢訳）　III ㊽
土佐五名家随筆集（中江兆民、黒岩涙香、幸徳秋水、田岡嶺雲、大町桂月著）　III ⑳②
富村邸の基督降誕祭（捧腹絶倒）（トロロープ著　深沢由次郎訳）　I ⑭⑥
トルストイ小説集（百島操訳）　III ㉕
トルストイの人生観（加藤直士訳）　II ⑭⑤
トルストイ短篇集（百島操訳）　III ⑧
トルストイの教訓及び其の自叙伝（榎本恒太郎訳）　III ㉖
トルストイの日露戦争観（加藤直士訳）　III ⑤
鈍機翁冒険譚（セルバンテス著　松居松葉訳）　II ⑰⑧
ドン　キホーテ（世界奇書）（セルバンテス著　雄島浜太郎訳）　II ⑱②
どん底（脚本）（ゴーリキー著　昇曙夢訳）　III ㊷

な

雪崩と百合（小説）（エリオット著　富永蕃江訳）　I ⑭⓪
夏の夜（モーパッサン著　馬場孤蝶訳）　II ⑩④
何者（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　III ⑯⑥
なまけもの（アイヘンドルッフ著　阪田孫四郎訳）　II ⑫④
贋金つかひ（グリーン著　坪内逍遙訳）——→黎明期
二人巡礼（トルストイ著　百島操訳）　III ⑭
二人女王（ハッガード著　菊地幽芳訳）　I ⑮②
二人むく助（アンデルセン著　尾崎紅葉訳）　II ⑰③
如夜叉（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　III ⑯⑤
人外境（ベロー著　黒岩涙香訳）　III ⑰⑦
含羞草（シェレー著　木村鷹太郎訳）　III ⑧①
子ルソン将軍伝直訳註釈（サーゼイ著　大島国千代訳）　I ⑫⑧
子ルソン提督伝（サーゼイ著　新宮寸鉄訳）　I ⑬③
子ルソン提督伝直訳註解（サーゼイ著　松尾豊文訳）　I ⑬⓪
納耳遜伝（軍人必読）（サーゼイ著　内田・岡訳）　I ⑤①
残花憾葉桜（ベロット著　条野採菊訳）——→黎明期
後のロビンソン（デフォー著　鈴木正士訳）　III ⑩⑨
野の花（ハーディ著　黒岩涙香訳）　III ⑲⓪

は

梅花郎（フェン著か　黒岩涙香訳）　Ⅲ(152)
ハイネの詩（尾上柴舟訳）　Ⅱ(126)
梅蕾余薫（政治小説）（スコット著　牛山良助訳）　Ⅰ(44)
白夜集（露国名著）（ツルゲーネフ、プーシキン、コロレンコ、チェーホフ、ゴーリキー著　昇曙夢訳）　Ⅲ(22)
バイロン詩集（短編）（児玉花外訳）　Ⅲ(85)
薄命（ドストエフスキー著　瀬沼夏葉訳）　Ⅲ(19)
薄命児（堅信美談）（ストレットン著　田中太郎訳）　Ⅱ(201)
八十日間世界一周（新説）（ヴェルヌ著　川島忠之助訳）　Ⅱ(41)
八十日間世界一周（通俗）（ヴェルヌ著　井上勤訳）　Ⅱ(81)
八十万年後の社会（ウェルズ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(197)
初あらし（ユゴー著　堀江松華庵訳）　Ⅱ(97)
初航海（勇少年冒険談）（リード著　桜井鷗村訳）　Ⅱ(200)
破天荒（新説）（グリフィス著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(191)
花あやめ（椿説）（クレイ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(188)
英艸紙（沿革奇談）（マーセット編　中尾氏就訳）　Ⅰ(13)
ハムレット（シェイクスピア著　坪内逍遙訳）　Ⅲ(105)
ハムレット（ラム著　吉岡向陽訳）　Ⅲ(127)
ハムレット（沙翁悲劇）（シェイクスピア著　土肥・山岸訳　Ⅰ(156)
はむれつと（沙翁悲劇）（シェイクスピア著　山岸荷葉訳）　Ⅲ(82)
ハムレット物語（ラム著　相馬御風訳）　Ⅲ(126)
パリシナ（艶美の悲劇詩）（バイロン著　木村鷹太郎訳）　Ⅲ(67)
巴里斯新繁昌記（仏国）（ガリグナニイ著　織田純一郎訳）　Ⅱ(42)
春雪馬利御最後（シラー著　福地桜痴訳）　Ⅱ(118)
ハロールド物語（サクソン王の名残）（リットン著　磯野徳三郎訳）　Ⅰ(52)
万国平和会議評言（トルストイ著　神東惇訳）　Ⅲ(4)
反魂鳥・マッチ売（アンデルセン著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ(51)
バーンスの詩（小原要逸訳）　Ⅲ(70)
蛮勇（ゴーゴリ著　塚原・柴田訳）　Ⅱ(147)
悲劇オセロ（シェイクスピア著　菅野徳助訳）　Ⅲ(99)
髯一つ（喜劇脚本）（ピッカール著　千葉・青柳訳）　Ⅱ(133)
非小説（コリンズ著　黒岩涙香訳）　Ⅰ(112)
美少年（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(154)
美人の獄（黒岩涙香著）　Ⅲ(157)
美人の罠（欧洲情史）（セルバンテス著　中村柳塢訳）　Ⅱ(165)

人耶鬼耶（裁判小説）（ガボリオ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑬⑨
狐屋（ハート著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑰⑦
人の一生・飛行機（アンドレーエフ、シュトゥッケン著　森鷗外訳）　Ⅲ④④
人の妻（クレイ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑱⑥
人七癖（情態奇話）（シュー著　二愛亭・淡々亭訳）　Ⅱ⑥①
緋文字（ホーソーン著　富永蕃江訳）　Ⅱ③⑤
百年後の社会（ベラミー著　平井広五郎訳）　Ⅱ③⑥
百年後の新社会（ベラミー著　堺枯川訳）　Ⅱ③⑧
漂流者と野蛮人（デフォー著　河島敬蔵註釈）　Ⅰ⑭③
ファウスト（ゲーテ著　高橋五郎訳）　Ⅱ⑬①
富貴の種蒔（西洋奇談）（シュリー著　江川勝信訳）　Ⅱ④⑧
武士道（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑰⑧
父子の決闘（アーノルド著　田村逆水訳）　Ⅲ⑧④
婦人地球週遊記（ブラセー著　内田弥八訳）　Ⅰ③⑦
双児の邂逅（滑稽狂言）（プロータス著　相良常雄訳）　Ⅱ⑯⑨
二葉草（雙子奇縁）（彩霞園柳香稿）　Ⅲ⑭④
復活（トルストイ著　内田魯庵訳）　Ⅲ②⑩
仏国美談（回天偉績）（タッキー著　粟屋関一訳）　Ⅱ⑤④
船がゝり（モーパッサン著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ①⑩④
フランクリン自叙伝（竹村修訳）　Ⅲ①⑯
フランクリン自叙伝詳解（菅野徳助訳）　Ⅱ②⑦
フランクリン自伝講訳（深沢由次郎訳）　Ⅱ②⑤
フランクリン伝（新訳）（笹山準一訳）　Ⅲ①⑫
仏国三人男（デュマ著？　談洲楼燕枝閲書）　Ⅱ③⑦
仏蘭西二人皇后（デュマ著　小川忠武訳）　Ⅱ③①
プリモスの美人（ロングフェロー著　西川光太郎訳）　Ⅱ③②
フレデリック大王論（マコーレー著　河田泰之助訳）　Ⅰ①⑦
弗勒徳力大王論（挿註）（マコーレー著　横川文之助訳）　Ⅰ⑨⑥
フレデリック大王論直訳註釈（マコーレー著　大島国千代訳）　Ⅰ①②⑨
奮闘の生涯（冒険奇談）（デフォー著　学窓余談社訳）　Ⅲ①⓪⓪
文明論（エマソン著　佐藤重紀訳）　Ⅱ①①
ヘスチングス伝註釈（マコーレー氏）（佐藤鐘太郎訳）　Ⅰ①③②
ヘスティング釈義（マコーレー著　河田清彦訳）　Ⅰ①①⑥
ヘダ・ガブラア（イプセン著　千葉掬香訳）　Ⅲ⑤⑦
ヘルマン、ウント、ドロテヤ（ゲーテ著　草野柴二訳）　Ⅱ①②⑦

へるまんとどろてーあ（ゲーテ著　小笠原昌斉訳）　Ⅱ⑫
ベンジャミン、フランクリン自叙伝（望月與三郎訳）　Ⅱ⑩
帽子の痕（探偵小説）（黒岩涙香訳）　Ⅲ⑰
傍聴筆記新法（議事演説討論）（ピットマン著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑬
法庭の美人（コンウェイ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑭
北欧血戦余塵（泣花怨柳）（トルストイ著　森鷗訳）　Ⅱ⑬
牧師（ラーエルレーフ著　森鷗外訳）　Ⅲ㉟
星世界旅行（千万無量）（貫名駿一著）　Ⅱ㊼
北極旅行（万里絶域）（ヴェルヌ著　福田直彦訳）　Ⅱ㊺
翻訳新声（アーヴィング著　前橋孝義訳）　Ⅱ⑭

ま

誠之鏡（哀別奇遇）（シェイクスピア著　赤司新三郎訳）　Ⅰ㊽
魔術の賊（銀行奇談）（黒岩涙香訳）　Ⅲ⑭
マゼツパ（汗血千里）（バイロン著　木村鷹太郎訳）　Ⅲ⑦
真段郎蘭伝（仏国革命自由党魁）（アボット著　門田平三郎訳）　Ⅱ③
真ッ暗（グリーン著　黒岩涙香訳）　Ⅲ⑮
魔法修業者（愛国小説）（リットン著　抱花生訳）　Ⅲ⑨
魔法破（アンデルセン著　雨谷石燕訳）　Ⅲ⑤
幻影（シェイクスピア著　宮崎湖処子翻案）　Ⅰ⑪
曼府の叛乱（エインズワース著　塚原蓼州訳）　Ⅰ⑧
みさを物語（ラム著　田中酉熊訳）　Ⅰ⑭
三筋の頭髪（嘯月著）　Ⅲ⑰
密夫の奇獄（泰西情譜）（ボッカッチョ著　近藤東之助訳）　Ⅱ⑯
みなれざを（シェイクスピア著　和田万吉訳）　Ⅰ⑦
明日（エッヂワース著　内田魯庵訳）　Ⅰ⑪
弥爾敦論（マコーレー著　平井広五郎訳）　Ⅰ⑨
弥児頓論（批評の鏡）（マコーレー著　吉田直太郎訳）　Ⅰ⑤
婿選び（ディケンス著　山縣五十雄訳）　Ⅰ⑮
無惨（新案の小説）（黒岩涙香著）　Ⅲ⑭
無人島日記（デフォー著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ⑦
嬢一代（情仇新伝）（クレイ著　黒岩涙香訳）　Ⅰ⑫
名花之余薫（フランクリン著　御手洗正和訳）　Ⅱ⑦
名曲クレーツェロワ（トルストイ著　小西・尾崎訳）　Ⅱ⑫
名著新訳（ポー、ドイル、アンデルセン、ミラー、ホーソーン、スーヴェストル著　本間久四郎訳）　Ⅲ⑤
めをと（トルストイ著　内田魯庵訳）　Ⅱ⑭

女神「ヂアナ」（トルストイ著　橋本青雨訳）　Ⅱ(152)
瞽使者（ヴェルヌ著　森田思軒訳）　Ⅱ(79)
蒙里西物語（政教小説）（カロー著　大石高徳訳）　Ⅱ(68)

や

八ツ山羊（グリム著　呉文聡訳）　Ⅱ(115)
やどり木（ゴーリキー、モーパッサン、バルザック、ドーデー著　馬場孤蝶訳）　Ⅱ(104)(146)
山と水（椿説）（バレット著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(187)
山彦（ヒッペル著　森鷗外訳）　Ⅲ(35)
闇路の燈（パンゼー著　三浦徹訳）　Ⅱ(13)
暗の力（悲劇）（トルストイ著　落合浪雄訳）　Ⅱ(153)
有罪無罪（仏蘭西小説）（ガボリオ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(148)
雄弁美辞法（カッケンボス著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(135)
幽霊（黒岩涙香訳）　Ⅲ(151)
幽霊（イプセン著　森鷗外訳）　Ⅲ(66)
幽霊塔（奇中奇談）（ウイリアムソン著　黒岩涙香訳）　Ⅰ(138)
幽霊と対話（文明奇談）（ラム著　井上勤訳）　Ⅰ(84)
雪の女王（アンデルセン著　内田魯庵訳）　Ⅱ(177)
雪姫（クレイ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(181)
ユーゴー小品（森田思軒訳）　Ⅱ(99)
ユーゴーの詩（小原無絃訳）　Ⅱ(109)
指環（ボアゴベ著　黒岩涙香訳）　Ⅲ(147)
妖怪船（ハウフ著　高橋礼五郎訳）　Ⅱ(117)
予が婦人観（黒岩涙香著）　Ⅲ(196)
世捨人（英文訳註）（スチーヴンソン著　戸川秋骨訳）　Ⅰ(150)
四の緒（ボッカッチョ著　尾崎紅葉訳）　Ⅱ(179)
夜と朝（リットン著　益田克徳訳）　Ⅰ(119)
楊牙児奇談（クリストマイケル著　神田孝平訳）　Ⅱ(158)

ら

羅世良斯（ジョンソン著　福井有訳）　Ⅰ(99)
ラセラス王子物語（ジョンソン著　坂本栄吉訳）　Ⅲ(104)
刺世拉斯伝（亜微志尼亜ノ王子）（ジョンソン著　田村左衛士訳）　Ⅰ(94)
ラセラス伝註釈（ジョンソン氏）（大島国千代訳）　Ⅰ(121)
羅、武烈号（航海小説）（驚濤生訳）　Ⅱ(174)
猟人日記（ツルゲーネフ著　戸川秋骨訳）　Ⅲ(30)
緑蓑談（雨牕漫筆）（リーバー著　須藤南翠翻案）→黎明期
緑林の豪客（老婆毒計）（スモレット著　河野基訳）　Ⅱ(196)
涙香集（黒岩涙香訳）　Ⅲ(158)

涙香文選（石井文作編）　Ⅲ㉓
烈女之名誉（波斯新説）（矢野龍溪訳）　Ⅰ㊽
恋情花の嵐（欧洲奇説）（ルサージュ著　岩本五一編）　Ⅱ㉔
恋慕と嫉妬（コンフォルト著　井上勤訳）　Ⅰ㊸
連理談（文学小説）（リットン著　服部撫松訳）　Ⅰ㊻
六人の死骸（香骨著）　Ⅲ㊱
露国虚無党事情（西河通徹訳）　Ⅱ㉟
露国人（ノリス著　黒岩涙香訳）　Ⅲ㊴
露国水滸伝――遠征奇縁（名将佳人）の改題本
露西亜現代代表的作家六人集（バリモント、ザイツエフ、クープリン、ソログープ、アルツイバーセフ、アンドレーエフ著　昇曙夢訳）　Ⅲ㊶
露人気質（他邦侵略）（ホワイト著　八木半治訳）　Ⅱ㊻
ろびんそんくるうそう（奮闘美譚）（デフォー著　学窓余談社訳）　Ⅲ㊾
ろびんそんくるーそー（デフォー著　鈴木虎市郎編）　Ⅰ㊷
ロビンソンクルーソー伝直訳註釈（デフォー著　松尾豊文訳）　Ⅰ㉟
ロビンソンクルーソーの話（デフォー著　鈴木正士訳）　Ⅲ㉒
魯敏孫全伝（デフォー著　斎藤了庵訳）　Ⅰ①
ロビンソン漂流記（デフォー著　百島操訳）　Ⅲ㉓
魯敏遜漂流記（新訳）（デフォー著　牛山良助訳）　Ⅰ㊾
魯敏遜漂流記（絶世奇談）（デフォー著　井上勤訳）　Ⅰ㉒
羅馬盛衰鑑（沙吉比亜戯曲）（シェイクスピア著　河島・小宮山訳）　Ⅰ㊴
ロミオとジュリエット（シェイクスピア著　坪内逍遙訳）　Ⅲ㊹
ロメオとジュリエト（ラム著　菅野・奈倉訳）　Ⅲ㊽
朗蘭夫人の伝（泰西女丈夫伝の内）（グレース著　坪内逍遙訳）　Ⅱ㉑
龍動鬼談（開巻驚奇）（リットン著　井上勤訳）　Ⅰ⑫
龍動新繁昌記（マレイ著　織田純一郎訳）　Ⅰ⑥
倫敦塔（悲風惨雨）（エインズワース著　三木愛花訳）　Ⅰ㊽

わ

我懺悔（トルストイ著　加藤直士訳）　Ⅲ①
我宗教（トルストイ著　加藤直士訳）　Ⅲ②
わかれ（シュラーフ著　森鷗外訳）　Ⅲ㉟
妾の罪（黒岩涙香訳）　Ⅲ㊾
瓦連兵須珍虞斯伝（マコーレー著　渡辺松茂訳）　Ⅰ㊿
華連平斯丁伝直訳（標注）（マコーレー著　鈴木玄龍訳）　Ⅰ㊿

原著者及び原著索引

ロシア文学編（〔 〕はII期収録書）

アルツィバーシェフ，ミハイール・ペトローヴィチ Михаил Петрович Арцыбашев (1878-1927)

妻（Жена, 1904）㊶　夜（Ночь）㊽

アンドレーエフ，レオニード・ニコラーエヴィチ Леонид Николаевич Андреев (1871-1919)

血笑記（Красный смех 1904）⑯　心（Мысль, 1902）㉗

これはもと（Жили-были, 1901）㉗　旅行 ㉗

信仰（Жизнь Василия Фивейского, 1903）㉝

沈黙（Молчание, 1900）㉝

クサカ／犬（Кусака, 1901；独訳 Kussaka）㉗㉟

霧（В тумане, 1902）㊶

人の一生（Жизнь человека, 1907；独訳 Das Leben des Menschen）㊹

地下室（В подвале, 1901）㊽

カメーンスキー，アナトリイ Каменский

白夜 ㊽

ガルシン，フセヴォロド・ミハイロヴィチ Всеволод Михайлович Гаршин (1855-88)

四日間（Четыре дня, 1877）⑬

クプリーン，アレクサンドル・イワーノヴィチ Александр Иванович Куприн (1870-1938)

閑人 ㊶　　囈言（Путаница）㊽

ゴーゴリ，ニコライ・ワシリエヴィチ Николай Васильевич Гоголь (1809-1852)

狂人日記（Записки сумасшедшего, 1835）㉙

ゴーリキー，マキシム Максим Горький (1868-1936)

ふさぎの虫（Тоска, 1896）⑬　二狂人（Ошибка, 1895）⑬

悪魔（О чорте）㉒　暮れゆく海（Мальва, 1897）㉓

彼の少女（Двадцать шесть и одна, 1899）㉓

三人（Трое, 1900） ㉘
乞食（Дед Архип и Ленька, 1894） ㉙
チェルカッシュ（Черкащ, 1895） ㉞
秋の一夜（Однажды осенью, 1895） ㉞ 〔Ⅱ期 ⑭⑥〕
青い小猫（Зазубина, 1897） ㉞　道連れ（Товарищи, 1897） ㉞
仲間（Дружки, 1898） ㉞　意中の人 ㉞
国事探偵（Шпион） ㊵　どん底（На дне, 1902） ㊷
お転婆（Варенька Олесова, 1898） ㊻

コロレンコ，ウラジーミル・ガラクチオノヴィチ Владимир Галактионович Короленко (1853-1921)
奇火（Огоньки, 1900） ㉒

ザイツェフ，ボリス・コンスタンチノヴィチ Борис Константинович Зайцев (1881-1972)
静かな曙（Тихйе зори, 1906） ㊶　死（Смерть） ㊽

ソログープ，フョードル・クジミーチ Фёдор Кузьмич Сологуб (1863-1927)
かくれんぼ（Прятки『蠱惑の書』の一編） ㊶
毒の園（Отравленный сад, 1908） ㊽

チェーホフ，アントン・パーヴロヴィチ Антон Павлович Чехов (1860-1904)
六号室（Палата No. 6, 1892） ⑲　里の女（Бабы, 1891） ⑲
余計者（Лишние люди, 1886） ⑲
人影（В потемках, 1886） ⑲　月と人（Дачнки, 1885） ⑲
写真帖（Альбом, 1884） ⑲　たはむれ（Шуточка, 1886） ⑲
叱ッ！（Тссс！…, 1886） ⑲　艶福男（Счастливчик, 1886） ⑲
村役場（Справка, 1883） ⑲　失策（Неудача, 1886） ⑲
官吏の死（Смерть чиновника, 1883） ⑲
をんな（Загадочая натура, 1883） ⑲
窒扶斯（Тиф, 1887） ㉒　拳銃（Вододя, 1887） ㉒
百姓（Мужики, 1897） ㊲　ジノッチカ（Зиночка, 1887） ㊲
悲愁（Горе, 1885） ㊲　追放（В ссылке, 1892） ㊲
堤琴（Скрипка Ротшильда, 1894） ㊲
牧笛（Свирель, 1887） ㊲
決闘（Дузль, 1891；英訳 The duel とアンリ・シロル氏の仏訳より訳） ㊳

ツルゲーネフ，イワン・セルゲーヴィチ Иван Сергеевич Тургенев (1818-83)
狼／ツルゲーネフ短篇集／猟人日記（Записки охотника, 1852） ⑩㉑

㉚ (英訳 Sportsmsn's sketch より訳) 〔II期 ⑬⑭〕
その前夜 (Накануне. 1860 ; 英訳 On the eve より訳) ⑮
うき草 (Рудин, 1856) ⑰　　犬 (Собака, 1866) ㉑
散文詩 (Стихотворения в прозе, 1882) ㉑
ビエジンの曠野／草場／ビエジンの草場 (Бежин луг, 1851) ㉑㉒㉚
凄艶 (Песнь торжествующей дюбви, 1881) ㉒
父と子 (Отцы и дети, 1862 ; ガーネットの英訳 Father and children とレクラム版ヴィルヘルム・ランゲの独訳による訳) ㉔
幻 (Призраки, 1864) ㉙　　唖 (Муму, 1854) ㉙
ファウスト (Фауст, 1856) ㉙
貴族の家 (Дворянское гнездо, 1859 ; ガーネットおよびラルストンの二種の英訳 A house of gentlefolk より訳) ㊸

ドイッチ, レオ
革命奇談神愁鬼哭 (『西比利に於ける十六年』) ⑪

ドストエフスキー, フョードル・ミハイロヴィッチ Фёдор Михайлович Достоевский (1821-81)
薄命 (Бедные люди, 1846) ⑲

トルストイ, アレクセイ・ニコラーエヴィチ Алексей Николаевич Толстой (1883-1945)
三奇人 ㊽

トルストイ, レフ・ニコラーエヴィッチ Лев Николаевич Тоястой (1828-1910)
我懺悔 (My confession ; Исповедь, 1882) ①
我宗教 (В чем моя вера, 1884) ②
人生の意義 (The meaning of life, London, 1902) ③⑦㉛ 〔II期⑫〕
万国平和会議評言 ④
トルストイの日露戦争観 (Одумайтесь, 1904) ⑤
アンナ・カレンナ (Анна Каренина, 1875-77) ⑥
神の審判 (Бог правду видкт, да не скоро скажет, 1876) ⑧
高架索の囚人 (Кавкаэский пленник, 1872) ⑧
悔改めたる罪人 (Кающийся грешник, 1886) ⑧
愛の反響 (Где любовь, там и бог, 1885) ⑧ 〔II期 ⑱〕
三個の死 (Три смерти, 1859) ⑧
爾の隣 (Устпишь огонь——не потушищь, 1885) ⑧
大人と小児 ⑧

空太鼓（Работник Емельян и пустой барабан, 1886） ⑧
悪魔のたくらみ（Вражье лепко, а Божье крепко, 1886） ⑧
『余り不廉い？』（Дорого стоит） ⑧
三個の教訓（Три притчи, 1895） ⑧
下僕の生涯（Хозяин и работник, 1894-95） ⑨
ズラテ市の珈琲店（Суратская кафейня） ⑨㉕
人道主義（Так что же нам делать?, 1885；英国「自由時代出版社」発行の Leo Tolstoy's What shall we do ? ed. by A. C. F. and I. F. M. より訳） ⑫
二人巡礼（Два старика, 1885） ⑭
神の教子（Крестиик, 1886） ⑭
長恨（Крейцерова соната, 1890） ⑱
復活（Воскресение, 1899） ⑳　　熊狩 ㉕
大悪魔小悪魔／愛の勝利（Сказка об Иване-дураке и его двух братьях：Семене-воине и Тарасе-брюхане и немой сестре Малане, и о старом двяволе и трех чертенятах, 1885） ㉕〔II期 ⑮1〕
富の力（Ильяс, 1886） ㉕　　世捨人（Три старца, 1886） ㉕
親子三代（Зерно с куриное яйцо, 1886） ㉕〔II期 ⑭8〕
唯六尺（Много ли человеку земли иужно, 1886） ㉕
トルストイの教訓及び其の自叙伝 ㉖
想神録（トルストイが「如何に『神』を理解せしかを……日記，私翰，手帳，未完の原稿，及び此の種の幾多の書冊より抜粋せるもの」） ㉜
簡易聖書（Краткое изложение Евангелия 英国「同胞主義出版社」及び「ウォルター，スコット株式会社」発行の Gospel in brief, 1896 よりの訳） ㊱〔II期 ⑭5〕
性欲論（Послесловие к《Крейцеровой сонате》, 1889-90 ほか，「ウラヂミル・チェルトコフがトルストイの著作から性欲に関した問題をば集録した書」の訳） ㊺〔II期 ⑮2〕
青年時代（Юность, 1855-57） ㊼

バリモント，コンスタンチン・ドミートリエヴィチ Константин Дмитриевич Бальмонт (1867-1942)
夜の叫（Крик в ночи） ㊶　　嫉妬（Ревность） ㊽

プーシキン，アレキサンドル・セルゲーヴィチ Александр Сергеевич Пущкин (1799-1837)
雪吹（Метель, 1830『ベールキン物語』に収録） ㉒

黒人（Арап Петра Великого, 1827） ㉒
海少女（翻案） ㉒

北欧文学編

アンデルセン，ハンス・クリスチャン Hans Christion Andersen (1805-75)
子供に話して聞かせるお話集（Eventyr, fortalte fφr Bφrn ; お話と物語集 Eventyr og Historier, 1835-72 ; 英訳 Fairy Tales） ㊿㊶㊷㊸㊹㊵㊶㊷㊸㊹
イプセン，ヘンリク Henrik Ibsen (1828-1906)
人形のすまゐ（Et dukkehjem, 1879） ㊾
蘇生の日（Naar vi dφde vaagner, 1899） ㊺
建築師（Bygmester Solness, 1892） ㊻
ヘダ・カブラア／鏑木秀子（Hedda Gabler, 1890） ㊼㊾
ジョン・ガフリエル・ボルクマン（John Gabriel Borkman, 1896 ; 独訳より訳） ㊽
人民の敵（En folkefiende, 1882 ; ウイルヘルム・ランゲの独訳，アイン・フォルクス・ファインドより訳） ㊺
幽霊（Gengangere, 1881 ; 独訳 Gespenster よりの訳） ㊻

英米文学編

アーヴィング，ワシントン Washington Irving (1783-1859)
三人姫（Three beautiful Princesses, "The Alhambra", 1832） ㉔
アーノルド，マシュー Matthew Arnold (1822-88)
父子の決闘（Sohrab and Rustum, 1853） ㉞
エッヂワース，マライア Maria Edgeworth (1767～1849)
小山羊の歌 ㉕
エマソン，ラルフ・ウォルドー Ralph Waldo Emerson (1803-82)
恵馬遜傑作集（Nature, 1836 ; The American Scholar, 1837 ; Self-reliance 1841 ; Compensation, 1842） ㉓
処世論／エマーソン論文集（The conduct of life, 1860） ⑦⑧
エマーソン論文集（Essays, 1841-4） ㉑
オレル，マックス Max O'Rell (Léon Paul Blouet) (1848-1903)
ジョンブル（John Bull and his Island, 1883） ㉔
シェイクスピア，ウイリアム William Shakespeare (1564-1616)
ヴエニスの商人（Merchant of Venis, 1596-7） ㊾⑧b

はむれつと／ハムレット (Hamlet, 1601-1) ㉜㉟
悲劇オセロ／オセロー (Othello, 1604) ㊾㉒
ロミオとジュリエット (Romeo and Juliet, 1594-5) ㉞
シェリー，パーシ・ビィシェ Percy Bysshe Shelley (1792-1822)
シェレーの詩 ㊾
含羞草 (Sensitive plant, 1820) ㉛
ジョンソン，サミュエル Samuel Johnson (1709-84)
ラセラス王子物語 (The history of Rasselas, prince of Abyssinia, 1759) ㉞
スウィフト，ジョナサン Jonathan Swift (1667-1745)
〔ガリヴァー旅行記〕(Travels into several remote nations of the world by Lemuel Gulliver, 1726) ㊽㊻㊸㉚㉓㉚
スコット，ウォルター Walter Scott (1771-1832)
アイバンホー (Ivanhoe, 1819) ㉖
スチーヴンソン，ロバート・ルイス Robert Louis Stevenson (1850-94)
新亜剌比亜物語 (New Arabian night, 1882) ㉓
ディケンス，チャールス Charles Dickens (1812-70)
蘆分小舟 (The life and adventures of Nicholas Nickleby, 1838-9) ㉘
クリスマス・カロル (A christmas carol, 1843) ㉙
小桜新吉 (Oliver Twist, 1838) ㉜
デッケンス物語 (Oliver Twist ; David Copperfield, 1848-50 ; Great expectations, 1860-1) ㉝
テニソン，アルフレッド Alfred Tennyson (1809-92)
女子大学 (The princess, 1847) ㊶
イーノック アーデン (Enoch Arden, 1864) ㉔
デフォー，ダニエル Daniel Defoe (？1660-1731)
〔ロビンソン・クルーソー〕(The life and strange surprising adventures of Robinson Crusoe, 1719) ㉗㊸㉚㉒㉙㉑㉙㉘
ドイル，コナン Sir Arthur Conan Doyle (1859-1930)
おもひ妻 (Around the redlamp) ㉒
窓の顔 ㉑
バイロン，ジョージ・ゴードン George Gordon Byron (1788-1824)
パリシナ (Parisina, 1816) ㉗　海賊 (The corsair, 1814) ㉘
天魔の怨 (Cain ; a mistery, 1821) ㉖　マゼッパ (Mazeppa, 1819) ㉙
バイロン詩集 ㉕

ハーディ，トーマス　Thomas Hardy (1840-1928)
テス (Tess of the D'Urbervilles, 1891) ⑬④
バーネット，フランセス・エリザ　Frances Eliza Burnett (1849-1924)
小公子 (Little lord Fauntleroy, 1886) ⑪⑩⑪⑤
小公女 (A little princess, 1888) ⑪⑦
バニヤン，ジョン　John Bunyan (1628-1688)
天路歴程 (The Pilgrim's progress from this world to that which is to come, 1678. '84.) ⑧④
聖戦 (The holy war, 1682) ⑬①
バーンス，ロバート　Robertt Burns (1759-96)
バーンスの詩 ⑦⓪
フランクリン，ベンジャミン　Benjamin Franklin (1706-1790)
〔フランクリン自伝〕(Autobiography, 1818) ⑪②⑪⑥
ポー，エドガー・アラン　Edgar Allan Poe (1809-1849)
黒猫物語 (The black cat) ⑤②
陥穽と振子 (The pit and the pendulum, 1843) ⑤②
赤死病の仮面 (The masque of the red death) ⑤②
黄金虫 (The gold-bug, 1843) ⑨①
ホーソーン，ナサニエル　Nathanial Hawthorne (1804-64)
泉の幻影 ⑤② 峡の宿 ⑤②
ツワイストールド・テールス (Twice-told tales, 1837) ⑦②
伝記物語 (Biographical stories, 1842. の緒言と Benjamin West) ⑨②
マーク・トウェイン　Mark Twain (Samuel Langhorne Clements) (1835-1910)
アダムの日記 ⑧⑨
ミラー，ヒュー (スコットランド生れ，1803-1856)
鑿石処にての第一日 ⑤②
ミルトン，ジョン　John Milton (1608-74)
失楽園 (Paradise lost, 1667, book IV) ⑨⑦
ラム，チャールズ　Charles Lamb (1775-1834)
〔シェイクスピア物語〕(Tales from shakespeare, 1807) ヴェニスの商人 ⑦⑤ 皇子ハムレット ⑧⓪ 沙翁物語十種 ⑧⑦ オセロ ⑨⑧ シェークスピーア物語 ⑩⑪ ロメオとジュリエト ⑪⑧ ハムレット物語 ⑫⑥ ハムレット ⑫⑦
リットン　Edward George Earle Lytton Bulwer-Lytton (1803-73)

魔法修業者 ⑨⓪

ロングフェロー，ヘンリー・ワーズワース Henry Wadsworth Longfellow (1807-82)

乙女の操 (Evangeleline, 1847) ⑦①

そ の 他

ヴァッサーマン，ヤーコプ Jacob Wassermann (1873-1934)

黄金杯 (Sara Marcolm) ㉟

クレーゲル Timm Kröger (1844-1918)

ソクラテエスの死 (Sokrates Tod) ㉟

シェーファー，ウィルヘルム Wilhelm Schäfer (1868-1952)

父 (Der Vater) ㉟

シェンキエヴィチ，ヘンリック Henryk Sienkiewicz (1846-1916)

燈台守 (Laternik, 1881) ⑩　きずの痕 (Quo vadis, 1896) ㊾

少音楽家 (Janko muzykant, 1879) ㊾　ぜうすの判決 ㊾

シュトュッケン Eduard Stucken (1865-1936)

飛行機 (Myrrha) ㊹

スーヴェストル Émile Souvestre (1806-54)

哲学者日記 (Un philosophe sous les toits, 1850) ㊷

デーメル，リヒァルト Richard Dehmel (1863-1920)

顔 (Das Gesicht) ㉟

ドーデ，アルフオンス Alphonse Daudet (1840-97)

二人楽師 ⑩　戦後 ⑩

バルザック，オノレ・ド Honoré de Balzac (1799-1850)

心の通路 ⑩

ヒッペル Hildegard von Hippel

山彦 (Die Geschichte einer Liebe) ㉟

ホルツ，Arno Holg (1863-1929)，シュラーフ Johannes Schlaf (1862-1941)

わかれ (Ein Abschied) ㉟

モーパッサン，ギイ・ド Guy de Maupassant (1850-1893)

月夜 ⑩　鐘の音 ⑩　負債 ⑩　月かげ ⑩

ラーゲルレェヴ Selma Lagerlöf (1858-1940)

牧師 (Der Prediger) ㉟

ルスト，アンナ・クロアッサン Anna Croissant-Rust (1860-1943)

いつの日か君帰ります (Der treue Johnie) ㉟

マイクロフィルム版

明治期翻訳文学書全集　目録 (Ⅳ)

——付　明治翻訳文学再考

ナダ書房

森田思軒翻訳作品目録（翻訳関連文献を含む）

＊印は思軒訳と推定されるもの
発行日の次の［　］内は訳文に付された「思軒」以外の署名
柳田『移入』＝柳田泉『西洋文学の移入』（春秋社、一九七四年）を参照
柳田『研究』＝柳田泉『明治初期翻訳文学の研究』（春秋社、一九六一年）を参照

明治19（一八八六）年

＊10月　「印度太子舎摩の物語」『郵便報知新聞』（10月12日－20日）［笠山樵客］
　　原作不詳［柳田『研究』「森田思軒という」］

明治20（一八八七）年

1月　「金驢譚」『郵便報知新聞』（1月18日－2月2日）［不語軒主人］
　　アプレイアス（希）『黄金の驢馬』
＊3月　「英国士官の物語」『郵便報知新聞』（3月1日－3日）［無署名］
　　原作者不詳［柳田『移入』「思軒か抱一庵か」］
3月　「佛、曼二学士の譚」『郵便報知新聞』（3月26日－5月10日）［紅芍園主人］
　　ヴェルヌ（仏）『ベガムズ・フォーチュン』
5月　「天外異譚」『郵便報知新聞』（5月26日－7月23日）［大塊生］
　　ヴェルヌ（仏）『ヘクトール・セルヴァダック』
5月　『一読／一驚　世界一大奇聞』（大阪　三谷平助）

［既出　「印度太子舎摩の物語」（19年10月）、「金驢譚」（20年1月）、「英国士官の物語」（20年3月）を含む］

8月　「煙波の裏」『郵便報知新聞』（8月26日－9月14日）［独醒子］
　　ヴェルヌ（仏）『封鎖破り』
＊8月　「貧福」『郵便報知新聞』（8月6日－12日）［薔薇園主人］
　　原作不詳
9月　「盲目使者」『郵便報知新聞』（9月16日－12月30日）［羊角山人］
　　ヴェルヌ（仏）『ミシェル・ストロゴフ』
9月　『鉄世界』紅芍園主人訳　森田思軒刪潤（集成社）
　　［既出　「佛、曼二学士の譚」（20年3月）の改題本］
10月　『才子／妙案　天外奇談』東條種家編（大阪　大庭和助、［出版日記載なし］）
　　［既出　「印度太子舎摩の物語」（19年10月）、「佛、曼二学士の譚」（20年3月）、「金驢譚」（20年1月）、「英国士官物語」（20年3月）、「貧福」（20年8月）を含む］
10月　「翻訳の心得」『国民之友』（21日）

明治21（一八八八）年

1月　「夢中夢」『郵便報知新聞』（1月2日－1月25日）［覚後庵主］
　　原作不詳
1月　「大東号航海日記」『国民之友』（1月24日－4月20日）
　　ヴェルヌ（仏）『浮べる都府』
2月　「大氷塊」『郵便報知新聞』（2月7日－4月18日）［静廬外史］
　　ヴェルヌ（仏）『毛皮の国』

4月　『各国／才子　寄合演説』村上真助　編集（村上真助、15日［印刷］）
［既出「金驢譚」（20年1月）、「貧福」（20年8月）、「印度／太子　亜非利加奇譚」（19年10月）を含む］
4月　「幻影」『郵便報知新聞』（4月27日－7月19日）［笠峯居士］
原作不詳
5月　「後序」『諷世／嘲俗　繋思談』尾崎庸夫（集成社、21日）
5月　『瞽使者』羊角山人訳　森田思軒刪述・発行（報知社、15日）
［既出「盲目使者」（20年9月）の改題本。後篇は24年11月2日発行］
6月　「随見録」『国民之友』（6月1日－10月19日）
ユゴー（仏）『随見録』中の一話
7月　「定数」『郵便報知新聞』（7月31日－8月22日）［蕉陰散史］
原作不詳
7月　『希臘／異聞　金驢譚』絵入教育改良小説　森田思軒訳（文泉堂）
［既出　20年1月、5月］
9月　「炭坑秘事」『郵便報知新聞』（9月4日－10月28日）［紅芍園主人］
ヴェルヌ（仏）『洞窟の子』
11月　「女旅客」『郵便報知新聞』（11月25日－28日）［臥禅居士］
原作不詳
11月　「右足」『郵便報知新聞』（11月29日－30日）［臥禅居士］
原作不詳
12月　「密封書」『郵便報知新聞』（12月1日－4日）［臥禅居士］
原作不詳

12月　「元日」『郵便報知新聞』（12月8日－11日）［臥禅居士］
　　原作不詳
12月　「猫一」『郵便報知新聞』（12月12日－15日）［臥禅居士］
　　原作不詳
12月　「倫敦辻馬車」『郵便報知新聞』（12月18日－23日）［臥禅居士］
　　原作不詳
12月　「時計獄」『郵便報知新聞』（12月25日－27日）［臥禅居士］
　　原作不詳

明治22（一八八九）年

1月　「探偵ユーベル」『国民之友』（1月1日－3月2日）
　　ユゴー（仏）『随見録』中の一話
1月　「破茶碗」『新小説』（1月5日－2月25日）
　　ツェッケ（独）
　　『破茶碗』思軒居士訳（須藤光暉（同好会）発行［刊行月日記載なし］）
　　［既出『新小説』掲載の「破茶碗」（22年1月）の合綴版］
＊1月　「探征隊」『郵便報知新聞』（1月2日－3月30日）［西澗生］
　　ヴェルヌ（仏）『グラント船長の子等』［柳田『研究』「これは明らかに思軒である」］
3月　「大叛魁」『新小説』（3月15日－11月30日）
　　ヴェルヌ（仏）『蒸気の家』
4月　「西文小品　旅館の夕」『郵便報知新聞』（4月5日）
　　アーヴィング（米）『スケッチ・ブック』中「幽霊新郎」の序

4月　「幽霊新郎」『郵便報知新聞』（4月10日－21日）
　　アーヴィング（米）『スケッチ・ブック』中
4月　「代言人」『郵便報知新聞』（4月30日－5月2日）［臥禅居士］
　　原作不詳
5月　「狼声」『郵便報知新聞』（5月4日－8日）［臥禅居士］
　　原作不詳
5月　「一大奇術」『郵便報知新聞』（5月11日）［臥禅居士］
　　原作不詳
5月　「西文小品　伊太利の囚人」『国民之友』（5月11日－6月12日）
　　ディケンズ（英）『アンコマーシャル・トラヴェラー』中
5月　「まちがひ」『郵便報知新聞』（5月23日－24日）［臥禅居士］
　　原作不詳
5月　「是はソモ」『郵便報知新聞』（5月25日－26日）［臥禅居士］
　　原作不詳
6月　「偶語　巴里探偵の話」『郵便報知新聞』（6月1日－2日）［悠哉庵］
　　原作不詳
6月　『探偵ユーベル』森田思軒訳（民友社、19日）
　　［既出　21年1月］
6月　「月珠」『郵便報知新聞』（6月28日－10月6日）［省庵居士］
　　コリンズ（英）『ムーン・ストーン』
9月　「叙」『夜と朝』（益田克徳訳述、速記法研究会）

［同書は明治26年10月、博文館より訂正再版発行］

10月　「月珠の続稿に引す」『郵便報知新聞』（10月29日）

10月　「月珠」『郵便報知新聞』（10月29日－11月10日）
　　コリンズ（英）『ムーン・ストーン』

12月　「毛家荘秘事」『新小説』（12月8日－23年6月10日）
　　原作不詳

明治23（一八九〇）年

1月　「新年」『郵便報知新聞』（1月1日－4日）
　　スーヴェストル（仏）『巴里屋根裏の哲学者』中

1月　「クラウド」『国民之友』（1月3日－2月13日）
　　ユゴー（仏）『クロード・グー』

3月　「ルヰフヒリップ王の出奔」『少年文範』上編（少年園、7日）
　　［既出「随見録」（21年6月）の冒頭第一章］

3月　「財（かね）の行くへ」（第二）『郵便報知新聞』（3月31日－5月17日）
　　原作不詳［柳田『移入』「森田思軒」とありフランスの項に分類］

4月　［無題］『浮城物語』（矢野文雄著、報知社、4月16日）
　　［『浮城物語』の巻頭に寄せた序文。ヴェルヌに触れる］

＊8月　「庶武の凶報」『郵便報知新聞』（8月12日－16日）［蕉陰散史］
　　原作不詳［柳田『移入』「森田氏か」］

8月　「昼寝」『郵便報知新聞』（8月18日－20日）［悾々斎］
　　ホーソン（米）「デイヴィッド・スワン」

9月　『大叛魁』（春陽堂）
［既出　22年3月。『新小説』に掲載されたものの合綴本］
10月　「大東号航海日記」『国民小説（第一）』（民友社）
［既出　21年1月］

明治24（一八九一）年

1月　「歳尽」『都の花』（4日）
スーヴェストル（仏）『巴里屋根裏の哲学者』
1月　「偶書　訳本『白衣婦人』に題す」『郵便報知新聞』（15日）
3月　「偶書　再版探偵ユーベルに題す」『郵便報知新聞』（30日）
4月　「西文小品　旅行の説」『郵便報知新聞　報知叢話』（5日）
ベーコン（英）『随想集』中
4月　「西文小品　費の説」『郵便報知新聞　報知叢話』（19日）
ベーコン（英）『随想集』中
4月　「昼寝」『今世名家文鈔』（民友社、8日）
［既出　23年1月］
10月　『探偵ユーベル及クラウド』森田思軒訳（民友社、3日）
［既出　23年8月］
10月　「偶書『探偵ユーベル及クラウド』の首に書す」『郵便報知新聞』（11日）
10月　「伊太利の囚人」『第二国民小説』（民友社、10日）
［既出　22年5月］
11月　「偶書　『小公子』を読む」『郵便報知新聞』（15日）

＊　『魔術』（日吉堂）［不語軒主人］
　　［柳田『移入』「森田思軒？」。「金驢譚」で同名を使用］

明治25（一八九二）年

1月　「自信」『国民之友』（3日）［『移入』は「雑・未詳」の項に分類］
1月　「懐旧」『国民之友』（1月13日－10月23日）
　　ユゴー（仏）『ビュグ・ジャルガル』
4月　『替使者』羊角山人訳述　訳者兼発行人　森田文蔵（長島書房発兌、15日）
　　［既出　21年5月（二冊本を一冊にまとめて三版として発行）］
4月　「西文小品　観物師の函」『文学』（4月20－5月20）
　　ホーソン（米）『ファンシーズ・ショウ・ボックス』
5月　『金満家』（日吉堂）
　　［既出　「貧福」（20年8月、森田思軒の署名）、「印度／太子　亜非利加奇譚」（19年10月）を含む］
11月　「用達会社」『国民之友』（11月3日－12月3日）
　　ホーソン（米）『ザ・インテリジェンス・オフィス』
12月　「訳本『罪と罰』」『国会』（12月11日）
12月　「滑稽氏」『国民之友』（13日）
　　エンゲル（独）
12月　『懐旧』（民友社、16日）
　　［既出　25年1月］
12月　「不思議の後家」『国民之友』（23日）
　　エンゲル（独）

明治26（一八九三）年

1月　「隔簾影」『国会』（1月3日－7月14日）
　　ブラッドン（英）『オードレイ夫人の秘密』
1月　「一シリング銀貨の履歴」『国民之友』（3日）
　　アディソン（英）「一シリング銀貨の冒険」
1月　「肥大紳士」『国民之友』（1月13日、23日）
　　アーヴィング（米）「ザ・スタウト・ジェントルマン」
2月　「千人会」『国民之友』（2月3日－4月3日）
　　エッジワース（英）「ザ・ロッタリー」
6月　「用達会社」『第三国民小説』（民友社、1日）
　　［既出、25年11月］
7月　「入雲異譚」『日本之少年』（7月1日－27年12月25日）
　　ヴェルヌ（仏）『不思議の島』
9月　「白蓮庵雑話　にはか盲」『国会』（9月1日－3日）
　　原作不詳［柳田『移入』「フランス物か」］

明治27（一八九四）年

1月　「無名氏」『国会』（1月5日－8月22日）
　　ヴェルヌ（仏）『ア・ファミリー・ウイズアウト・ネイム』
4月　「千人会」『第四国民小説』（民友社）
　　［既出、26年2月］
12月　「寛政中の世界環航者」『国民之友』（12月23日－28年3月20日）

［翻訳か否か不詳］

明治28（一八九五）年

2月　「紀元前の著名なる航海者」『太陽』［柳田『研究』］
［翻訳か否か未詳］

4月　「海賊」『国会』（4月16日－6月6日）
原作不詳［柳田『移入』イギリスに分類］

5月　「亜歴セルカーク」『太陽』（5月5日、6月5日）
原作不詳［『ロビンソン・クルーソー』の原型となったアレクサンダー・セルカークの話。リチャード・スティールの『ザ・イングリッシュマン』（一八七三年）所載の物語による］

明治29（一八九六）年

1月　「秘密書類」『名家談叢』5号附録（1月20日）
ポー（米）『盗まれた手紙』

2月　「間一髪」『太陽』（5日）
ポー（米）『陥穽と振り子』

3月　「冒険／奇談　十五少年」『少年世界』（3月1日－10月15日）
ヴェルヌ（仏）『二年間の学校休暇』

4月　「寛政中の世界環航者」『第七国民小説』（民友社、1日）
［既出、27年12月］

5月　「小公子の翻訳者若松賤子君」『女学雑誌』（25日）

8月　「牢帰り」『家庭雑誌』（10日）
ディケンズ（英）『ピクウィック・ペイパーズ』中

8月　「死刑前の六時間」『国民之友』（8月15日－30年2月13日）
　　ユゴー（仏）『死刑囚最後の日』
12月　『十五少年』森田思軒訳（博文館、18日）
　　［既出　29年3月］

明治30（一八九七）年

1月　「一月一日」『新小説』（1日）
　　スーヴェストル（仏）『巴里屋根裏の哲学者』中
1月　『間一髪』思軒居士訳（袖珍小説第二編、博文館、5日）
　　［既出　「間一髪」（29年2月）、「亜歴山セルカーク」（28年5月）を収録］
8月　「羅馬人叢話」『新小説』
　　原作不詳［柳田『移入』はイタリアに分類］
10月　「作家苦心談　思軒氏が翻訳論」『新著月刊』（3日）
11月　『小／説　列国変局志』肝付兼行訳（春陽堂、4日）
　　ピー・コロムほか三名（英）［肝付兼行の訳とあるも実際は思軒の訳］
　　［11月14日思軒・森田文蔵死去。以後の作品は死後出版］
12月　「歳尽」『明治小説文庫　第一編』（博文館）
　　［既出　24年1月］

明治31（一八九八）年

5月　『頼山陽及其時代』拾弐文豪、第一一巻（民友社）
6月　『ユーゴー小品』森田思軒重訳（民友社、4日）
　　［既出「随見録」「探偵ユーベル」「クラウド」「死刑前の六時間」の4篇を収める］

9月　『無名氏』森田思軒訳（春陽堂、11日）
［既出　27年1月］

明治37（一九〇四）年

10月　『瞽使者』前・後編二冊　思軒居士訳（国民書院、21日、後編11月19日）
［既出　21年5月報知社より出版された同書の5版として出版］

明治39（一九〇六）年

5月　「森田思軒氏と其原稿」『文章世界』（15日）
［巻頭の写真集に思軒の「牢帰り」（29年8月）の原稿写真を掲載］

9月　「翻訳の苦心」『唾玉集』（春陽堂）
［30年10月「作家苦心談」改題］

明治40（一九〇七）年

5月　『思軒全集』巻一（堺屋石割書店、1日）
［収録作品は、「随見録」「探偵ユーベル」「クラウド」「懐旧」「死刑前の六時間」「大東号航海日記」「大叛魁」「破茶碗」「用達会社」「千人会」「間一髪」の11編。のち金尾文淵堂へ版権移動。同全集は巻一で中絶］

明治45（一九一二）年

5月　『瞽使者　南心中』（新富座、プログラム）
［思軒訳の『瞽使者』が新富座で上演された時のプログラム。4幕もの。鏡花の「南心中」（3幕）ほかとの同時上演］

大正15（一九二六）年

2月　『死刑前の六時間』（東京堂、10日）

［「クラウド」、「死刑前の六時間」、「探偵ユーベル」を収録。木村毅の「解題」（二六頁）付］

昭和3（一九二八）年
3月　「十五少年」『少年文学集』現代日本文学全集33（改造社、1日）

昭和4（一九二九）年
3月　「十五少年」『森田思軒　黒岩涙香』明治大正文学全集　第八巻（春陽堂、15日）
［白石實三解説。冒頭に「懐旧」の原稿の写しを掲載］

昭和13（一九三八）年
10月　『十五少年』（岩波文庫、1日）
［豊島与志雄「解説」。一九八八年「第3刷」発行］

昭和31（一九五六）年
6月　「森田思軒」『近代文学研究叢書』第三巻（昭和女子大学光葉会、10日）
［「著作年表」を含む］

昭和45（一九七〇）年
2月　「十五少年」『明治少年文学集』明治文学全集95（筑摩書房、20日）

昭和52（一九七七）年
11月　「十五少年」『若松賤子　森田思軒　桜井鷗村集』日本児童文学大系2（ほるぷ社、20日）

昭和56（一九八一）年
4月　『根岸派文学集』明治文学全集26（筑摩書房、20日）
［「翻訳の心得」「［青年文学会講演］」「『小公子』を読む」ほか収録。手塚昌行編「年譜」を併載］

収録書目録

凡例

一、第Ⅳ期は、国立国会図書館未所蔵の英米の明治期翻訳文学書を中心に編集した。これで、第Ⅰ期から第Ⅳ期までの収録図書を検索すれば、明治期の翻訳文学書は、ほぼ網羅されることになる。なお、ここでの遺漏は、明治三十年代以降の仏独の翻訳文学で、これは第Ⅴ期として刊行する予定である。

一、収録書は「西欧詩の移入」と「続・英米文学編」に分け、配列は原則として、刊行年代順とする。

三、書誌事項中〈　〉内の引用は原則として、本分の冒頭をもってした。(引用文中、変体仮名は現代表記に改め、ルビは大半省略した。)末尾の記号は上が国会図書館請求番号、下がマイクロフィルム版の収録リール並びに齣番号である。番号の下に(左)とあるは、左開きの本であることを示す。定価は〔　〕内に示した。奥広は奥付広告の略。

四、索引は、原著者索引を作成し、ここに収録した作品を一覧しておいた。

I　西欧詩の移入

【明治17年】

①

翻刻 **新体詩歌**　竹内隆信編輯兼原版主　小室屈山校閲　（五月）山梨　内藤伝右衛門翻刻　四冊　18cm　㈠序（小室屈山）2＋緒言（竹内節）1＋目次＋16丁、㈡目次1＋13丁、㈢序（坂部雨軒）1＋目次1＋13丁、㈣序（柳田斗墨）1＋目次1＋14丁〔収録は巻一のみ、8銭〕　R 1-1

〈おさらばさらばいざさらば。再び会はぬ暇乞ひ／栄誉に長く別るべし。人の習は皆都て／利運の端の芽出しなば。八重に花咲き花盛り／位に位重りて。栄耀栄華を極むれば／愚な胸に思ふ様。運命強く望みかない／天にも登る龍なりと。悦びいさむをろかさよ〉（ウルビー）

巻一所収の西欧詩――ヘンリー四世（シェイクスピア、外山正一訳）、ハムレット（シェイクスピア、井上哲次郎訳）、ウルゼー（シェイクスピア、外山正一訳）ほか

②

新体詩鈔〔新体詩抄の再版〕　外山正一・矢田部良吉・井上哲次郎撰　（十二月）東京　井上哲次郎・丸家善七出版〔初版　明治十五年八月〕　R 1-24

木版和装　23cm　序（井上・矢田部・外山）7＋凡例1＋目次1＋53＋跋1丁

〈ながらふべきか但し又　ながらふべきに非るか／爰が思案のしどころぞ　運命いかにつたなきも／これに堪ふるが大丈夫か〉（ハムレット、矢田部良吉訳）

〈死ぬが増か生くるが増か　思案をするハこゝぞかし／つたなき運の情なく　うきめからきめ重なるも／堪え忍ぶが男児ぞよ〉（ハムレット、外山正一訳）

所収の西欧詩――兵士帰郷の詩（ブルームフィールド、外山、山訳）、英国海軍の詩（キャンベル、矢田部尚今訳）、軽騎隊進撃ノ詩（テニソン、、山訳）、墳上感懐の詩（グレー、尚今訳）、人生の詩

（ロングフェロー、、山訳）、玉の緒の歌（ロングフェロー、井上巽軒訳）、船将の詩（テニソン、尚今訳）、悲歌（キングスレー、、山訳）、ウルゼー（シェイクスピア、、山訳）、春の詩（ドレアン、尚今訳）、児童の詩（ロングフェロー、尚今訳）、ヘンリー四世（シェイクスピア、、山訳）、ハムレット（尚今訳）、ハムレット（、山訳）

【明治19年】

③ **青萍詩存** 末松謙澄著 （八月）東京 小林義則（文学社）出版 R 1-92
木版和装 23cm 題辞3＋序2＋凡例1＋24＋跋（依田百川）1／読1丁
グレーの「瑩上感懐詩」の漢訳所収

【明治20年】

④ **新体詩歌** 竹内隆信編輯 小室屈山校閲 （二月）東京 高橋平三郎出版 R 1-129
12cm 序（小室）3＋緒言1＋目次2＋97＋跋2p
内容――〔第一集〕顕理四世を読める／ハムレット／玉の緒の歌／ウルゼー 〔第二集〕カムフヘル氏英国海軍の詩／シャードレアン氏春の歌／西詩和訳（坪井正五郎） 〔第三集〕テニソン氏軽騎隊進撃の詩／題秋・西詩和訳（望月秋太郎）／ロングフェロー氏人生の詩／ロングフェロー氏児童の詩 〔第四集〕虞礼氏墳上感懐の詩／西詩和訳・ブレックハート作（大竹美馬） 〔第五集〕チャールス、キングスレー氏悲歌

⑤ 偶評 **明治新体詩歌選** 佐藤雄治編 （四月）大阪 津田市松出版 R 1-185
16cm 題字（大庭景陽）3＋緒言1＋目次7＋215p 挿画5葉
内容・構成は①『翻刻／新体詩歌』と同じ。マイクロフィルム版には、原本保存上判読不能個所があり。

所収の西欧詩――西詩和訳(坪井正五郎訳)、児童の歌(ロングフェロー、尚今訳)、悲歌(キングスレー、、山訳)、高僧ウルゼーの詩(シェイクスピア、、山訳)、春の歌(ドレアン、尚今訳)、玉の緒の歌(ロングフェロー、巽軒訳)、英国海軍の詩(キャンベル、尚今訳)、墳上感懐の詩(グレー、尚今訳)、兵士帰郷の詩(ブルームフィールド、、山訳)、船将の詩(テニソン、尚今訳)、軽騎隊進撃の詩(テニソン、、山訳)、ヘンリー第四世(シェイクスピア、、山訳)、ハムレット(シェイクスピア、尚今訳)、ホーヘンリンデン戦争ノ詩(キャンベル、山陰樵夫訳)、人生の詩(ロングフェロー、、山訳) この他に創作詩ありて、計73編収録

⑥ 詩文 **英語解釈** 山田研一著・出版 (五月)東京 加藤鎮吉(開新堂)出版 18cm 序3＋69＋奥行2＋英文28p〔30銭〕 R 1-314

〈日ハ沈ミツ、倫田ニ 雪ハ烈シク降リ積リ／住家ヲ出ルモノモナシ 流レモ速キ「イーサー」ノ 冬ノ空ナルソノ暗サ〉(キャンベル「波蘭ノ首府「ワーソー」ノ没落」)

他にジョンソン、スペンサー、ラム、ミル、シェイクスピア、マコーレー、ベーコンの詩句訳解

【明治25年】

⑦ サンダーユニヲン **第四読本詩集訳解** 鈴木重孝訳 (十月)東京 金刺源次発行 19cm 目録4＋168＋奥広4p R 1-371

【明治26年】

⑧ 増訂 **英国七大家詩文集訳注** 香取春介訳 (上)一月、増訂三版三三年二月、(下)二七年四月)東京 金刺源次(芳流堂)発行 二冊19cm (上)緒言1＋170＋奥広20p〔アヂソン、スコット、ラム〕(下)緒言1＋193＋奥広10p〔キャンベル、マコーレー、テニソン、サッカレー〕 R 2-1 103

〈丁抹ノガートルード女王ハムレット王不意ノ崩御ニ因リ寡婦トナリ給ヒ王ノ崩御后未タ六旬ヲ閲セサルニ王ノ骨肉クローヂャスト婚儀ヲ結ビ給ヒタリ〉(ラム「ハムレット」)

【明治27年】

⑨

英詩和訳——一名ユーニオン第四読本詩訳　越山平三訳　工藤精一閲　(一月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　15cm　例言2＋目次6＋259p〔10銭〕寸珍百種(38)　R 2-213

〈此時若きヒヤワサは　すべての鳥の云ふことを／能く聞き分くる其上に　鳥の名前や秘密をも／皆な探り知ることを得て　夏には鳥が如何にして／其ねぐらをば造るかを　冬には鳥が如何にして／其身体をば防ぐかを　其胸中に会得しぬ〉(ロングフェロー「ヒヤワサの山猟」)

⑩

欧米名家詩集　大和田建樹訳　(上)一月、(中)二月、(下)三月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　三冊19cm　(上)自叙2＋目次4＋198＋奥広10p、(中)目次4＋192＋奥広4p、(下)目次4＋208＋奥広32p〔各20銭〕国民文庫(1)(2)(3)　R 3-1 113 217

〈リンデンの野に日は落ちて　しづかに暮るゝ雪の色／アイサー川の水ひとり　闇を破りてひゞくなり〉(キャンベル「ホーヘンリンデン」)

〈苔むす岩に座を占めて　下ゆく水をながめつゝ　心やしなふ其折も／又は人なくあるじなき森の下草ふみわけて　静けさ探る其折も／野飼の鹿につれられて　高嶺にのぼり谷におり　瀧のおときく其折も／なほ独には非ずかし　言葉かはして打ちかたる　自然の友こそいつも身に／されど競争衝突の　さわぎ絶えせぬ人界に　身は置きながら幸福の／光を共に受けがたき　貧苦あまたの世の中に　遊ぶ我こそたゞひとり／栄花の春も追ひ来ねば　きのふの友は今日の敵　死すとて吊らふ人もなし／世にすてられて忘られて　のこる我身は唯こゝに　是こそまことの独な

れ〉（バイロン「独」）

【明治29年】

⑪ 解訳 **英国七大傑作集** 第三巻 新井清彦訳 （七月）京都 河合卯之助（文港堂）発行
19cm 105＋奥広6p〔キャンベル・マコーレー収録〕 R 3-344
〈夏のゆふべの晴景色 弓なすみそら燦煥（キラ〳〵）と／輝く星をつらねてぞ 丘より丘に亘るとき／意（コヽロ）ある目は程たふき 日のごとひかる頂の／雲に交る彼の山に 惹るゝ事ぞ奈ならむ〉（キャンベル「希望之快楽」より）

⑫ **英文評釈** 坪内雄蔵・増田藤之助講述 （無刊記）東京専門学校蔵版
21cm （坪内）251p、（増田）361p R 4-1
〈農夫アランと共に賤が屋に／ヰリアムとドラと。ヰリアムはアランが子にて／ドラは其が姪なりき。彼れしば〳〵ふたりをながめて／しば〳〵思ひけらく「我れ彼等をばめをとゝせん」と〉（テニソン「ドラ女物語」坪内訳）
〈夕鐘陰々日の暮れ去るを告ぐ／帰牛は吼へつゝ遅々として野辺をたどり／耕夫は労に疲かれて徐ろに家に向ふ／天地冥黯唯だ吾れ独り在り〉（グレー「悲歌」増田訳）
収録詩人――クーパー、テニソン、アヂソン、ブライアント、グレー、バーンズ、エマソンほか

【明治30年】

⑬ **英独詩文研鑽** 高橋五郎講注 （七月）東京 関貢米（増子屋書店）発行
三冊19cm ㈠目次1＋告1＋169p、㈡目次1＋155p、㈢目次1＋120p 口絵12葉 R 5-1-98-195
収録詩人――バイロン、ポープ、テニソン、エマソン、ワーズワース、カーラル、グレーほか

⑭ **愛吟** 内村鑑三選訳 （七月、七版三八年一〇月）東京 福永文之助（警醒社書店）発行

15cm　自序3＋目次4＋98＋英文27p〔15銭〕　R5-268

〈登る月に星かくれ　金(こがね)の如きそのひかり　後所此所(あちらこちら)に影撒きて　青き野原の上に輝る／斯くも静けき宵の間に　小森の陰に独(ひとり)寝て　夢にも遇わぬ婀娜神(あなかみ)の　接吻(すくり)に触れしエンディミオン〉（ロングフェロー「エンディミオン」）

収録詩人――他にテニソン、ベン・ジョンソン、ゲーテ、カーライル、ブライアントほか

⑮ **あーさー王英雄物語**　テニソン作　高橋五郎講述（九月、再版三一年九月）東京　関貢米（増子屋書店）発行　R5-341

19cm（左開）34＋40p〔20銭〕

【明治31年】

⑯ **チャイルドハロールド江湖漂泛録**　バイロン作　高橋五郎講述　（九月）東京　関貢米（増子屋書店）発行　R5-383

19cm　英文40＋69p〔25銭〕

⑰ **英文学短篇詩集評釈**　高橋五郎講注　（一〇月）東京　関貢米（増子屋書店）発行　R5-444

19cm　60p〔20銭〕

収録詩人――グレー、ワーズワース、トムソン、ヤング、ロジャース、キャンベル、カムエンズ

⑱ **和訳詳解英文傑作集**　井上歌郎著　（一一月）東京　中村宗次郎（東京英語学会）発行　R6-1

19cm（左開）　自序1＋目次3＋105＋付録17＋奥広12p〔20銭〕英語学自習全書(11)

〈汝も亦た航進せよ我が国の船航進せよ　強固且つ偉大なる共和国よ。種々の恐懼あるにも拘はらず将来に干して種々の希望を存するに拘はらず　慈恵は絶へず汝の運命に掛り居り　絶えず恩恵を享け居れり〉（ロングフェロー「国の船」）

他にアジソン、シモンズ、ディケンズ、ゴールドスミス、アーヴィング、フランクリンなど収録

⑲ **最近英文傑作集注釈** 井上十吉著 （一〇月）東京 河出静一郎（成美堂書店）発行 R 6-76
22cm（左開） 英文136＋訳注194p 口絵1葉〔80銭〕
〈比談ハ余即チRouenノ屠牛者タル下賤ノBeroldノ外何人モ語ル能ハズ 海上ニ乗リ出シタルハ実ニ王家ノ陪従タリシ 然レトモ比談ハ余ノ外何人モ語ル能ハズ〉（ロセッティ The White Ship）

【明治34年】

⑳ **英詩評釈 紅紫爛熳** 関貢米編 （五月）東京 山本鐐蔵（岡崎屋書店）発行 R 6-247
23cm（左開） 目次2＋127p 口絵1葉〔中学英文臨時増刊〕
〈夜に入りて猶打つゞく 餐宴の声たかしベルヂアムの首府 集ふ美人勇士の顔に 無数の燈火閃き渡りて 酣楽万人の心をうちぬ、／うち鳴らす新婚の鐘の音に たとへん如く人の心も浮き立ちぬ、さて何事か、黙れ！静まれ！聞け！ 吊鐘陰に籠りて響く音す！〉（バイロン「戦争の前夜」）
ほかに、ユゴー、ワーズワース、キャンベル、シェリー、ブラウニングなど収録

【明治35年】

㉑ **はな** 川上瀧弥・森広著 （一月、増補訂正三版二六年六月）東京 芳野兵作（裳華房）発行 R 6-329
23cm 三版緒言4＋緒言4＋ロングフェローのFlower 3＋目次6＋165＋批評14＋はなことば32＋奥広32p 彩色図13葉〔1円50銭〕
ワーズワース、バーンズ、ロングフェロー、ミルトンなど花にちなむ詩を多く引用する

㉒ **英米詩歌集** 山縣五十雄訳注 （三月）東京 内田正義（言文社）・山縣操発行

19cm　はしがき2＋目次2＋52＋奥広8＋注釈32＋英文36＋目次1ｐ〔25銭〕英文学研究(3)　R 7-1
〈リンデンの上に日は落ちて、踏みにじられぬ白雪は、血に汚されて横はる。アイサー河はとく流れ、暗さは冬にさも似たり。〉(キャンベル「ホーヘンリンデンの戦」)
ほかに、カーライル、ロングフェロー、ワーズワース、バイロン、テニソン、スコットなど収録

㉓
文学叢書 英詩文評釈　坪内雄蔵著　(六月)東京　高田早苗(東京専門学校出版部)発行
22cm　文学叢書発行の趣意2＋はしがき2＋目次4＋599＋ハムレット翻訳51ｐ〔1円60銭〕　R 7-73
〈牧場も杜も流水も　下界も森羅の万象も／霊(く)しき光につゝまれて　我には見えし時ありき、／たとへば夢裡に見る如く、清く尊く、あざやかに。〉(ワーズワース「幼時を憶うて不死を知るの歌」)

㉔
英文の友 号外 自然の心　国木田独歩著　(六月、再版七月)東京　小川寅松(小川尚栄堂)発行
19cm(左開)　大詩人ヲーズヲース4＋英文37＋注釈48＋奥広5ｐ　口絵1葉〔13銭〕　R 8-1
〈(大意)余は数々のルーシーグレーの事を聞き、又た野を歩む時、朝まだき此友なき童女を見たることもありし。此童女は全く一人にて遊び仲間とては無く、広々としたる荒野に住みたり。然れど最早此童女を見ること能はずなりぬ。〉(ワーズワース「ルーシー・グレー」)

【明治36年】

㉕
泰西国歌　英語青年社編輯・発行　(二月)東京　R 8-54
15cm(左開)　序1＋目次3＋138＋奥広3ｐ
バーンズ、キップリング、ゴールドスミス、キャンベル、キーツ、テニソン、ハイネなど収録

㉖
英詩研究　中巻　山縣五十雄注釈　(一一月)東京　内田正義(言文社)発行　R 9-1
19cm　中巻を発行するにつきて1＋目次2＋288＋奥広8ｐ〔50銭〕

〈橇の鈴を聞け、橇の銀声の鈴を聞け彼等鈴の好音は何等多量の欣喜を預示するぞ、如何に彼等鈴は夜の寒気にチンチンリンリンと響くぞ、而して一天に散布せる星は純情の喜悦を以て閃くかと思はる〉(ポー「鈴声」)

〈落日の西山に傾く頃 Hohenlinden の原野は白雪一面に降り積り、Iser の急流は冬の暗夜に弁ずべくもあらざりき〉(キャンベル「ホーヘンリンデン」)

㉗ **英詩研究**〔上中下合本〕 山縣五十雄注釈 (三七年七月)東京 内田正義(言文社)発行
18cm 緒言2+目次6+872p R 9-150

サッカレー、アーノルド、ワーズワス、ロングフェロー、ポー、キャンベル、シェリーなど収録

㉘ **いざさらば** 千葉紅東著 (一〇月)東京 長井庄吉(太平洋館)発行
19cm 序(小島烏水、河井酔茗)8+序1+目次1+284+奥広2p(135~138p欠)挿画4葉 R 10-1

〈あゝ甘美なるこの村よ、／かくの如愉快(ごとたのしみ)多き遊戯の連続(つづき)もて／労働を怡(たのし)ましめたるこの村よ。／これ等の怡楽(たのしみ)多き感化をば、汝が小屋の囲周に坌湧せしめけんこの村よ。〉(ゴールドスミス「荒村行」)

㉙ **Enoch Arden** テニソン作 M. Uno 注釈 (一一月、四版四三年四月)東京 大橋省吾(英学新報社)発行
15cm(左開) 緒言4+小伝3+英文(イノックアーデン)67+緒言2+英文(ドラ)14+注29+奥広10p 口絵1葉 R 8-131

㉚ **Heroic Ballads** 桜井彦一郎著・発行 (一二月)東京 英文新誌社発行
16cm(左開) 目次1+102p 口絵(テニソン)1葉〔20銭〕 R 8-200

キャンベル、テニソン、ブラウニング、バーンズ、バイロンなどの詩を収録

㉛ **スコット湖上之佳人詳解**　岡村愛蔵訳　（一二月、合本再版三九年二月）東京　三省堂発売
19cm（左開）　緒言4＋二版序2＋(上)128＋(下)113p〔55銭〕　R 8-256
〈蘇格蘭の琴よ。其琴はSt. Fillan's springの辺に鬱蒼として繁茂せる枝の垂れたる楡樹の上に長らく朽ち亡び懸つて居た。絶間々々に吹き来る微風に音楽の声を発するのみ。〉

【明治37年】

㉜ **英文学叢誌**　第一輯　東京文科大学英文学会編纂　（二月）東京　立田義元（文会堂書店）発行
19cm　序詞8＋目次2＋165＋付録6p〔55銭〕　R 10-157
〈暮れ果てゝ、わびしくも、あらしの皐に一人。峯に聴く風の音、岩を下る早瀬。雨凌ぐ軒端もなく、風吹く皐に一人。〉（オシアン「セルマの歌」夏目金之助訳）
ほかに　ブラウニング（上田敏）、ロセッティ（高田知一郎）、テニソン（若月保治）、ポー（小野竹三）、シェリー（小山内薫）、バイロン（皆川正禧）など訳を収録。

㉝ **薄もみぢ**　小野竹三編　（一一月）東京　山縣操（内外出版協会）発行
19cm　題辞1枚＋はしがき2＋序1＋目次2＋46p〔20銭〕対訳英米名家詩抄(1)　R 10-252
〈頭髪美はしき夕べの天使！／今し日は山に憩へば／汝が愛の炬火を点けよ——／光まばゆき冠いたゞき／吾等が夕べの床に笑め！／愛する人にも。かくて汝れ／み空の青き帳曳くとき／汝が露そゝげ——ふさはしの眠りに／はしき眼閉づる花毎に。〉（ブレイク「夕づゝに」）

【明治38年】

㉞ **三人の歌女**　若月保治著　（二月）東京　山縣操（内外出版協会）発行
19cm（左開）　はしがき1＋目次1＋74p〔25銭〕対訳英米名家詩抄(2)　R 8-384
〈自然の歌、人のいましめ。／あらき烏の叫より／美はしき音の鶯と／聞くや無限の調の数／人

の歩みの始まれば。／ぬすみ鳥の語るを聞きて／燃ゆる情の恋ぞさむれば／えらむにさわぐ胸の思。＼（G・メレディス「三人の歌女」）

ほかに、テニソン、ブレイク、ホーソン、ロセッテイ、ワーズワース、キーツなどの詩収録。

㉟

テニソンの詩　入江花錦訳　（六月）東京　大月隆（文学同志会）発行

20cm　序詩1＋序（佐藤旭望、松盧主人正彦、紫雲、紫蕨）6＋序詩4＋三井先生に3＋目次2＋210＋奥広9p〔60銭〕

R 10-285

＼崖また崖の裂けし罅／黄染め清き真砂をば／磨きて流るゝさゝ流／傍に岸を横這へる／狭き埠頭場の周囲には／赤き瓦の家の簇＼（「エノック・アーデン」）

㊱

西吟新訳　小原無絃訳　（一〇月）東京　吉田正太郎（本郷書院）発行

19cm　序1＋目次2＋154＋奥広10p〔30銭〕

R 11-1

＼まらうどよ。曽ても聞きつ。／今もまた聞くぞうれしき。／おゝ汝れを鳥とや呼ばむ。／たゞよへる声とや呼ばむ。＼（ワーズワース「郭公に与ふ」）

＼照子の身上聞きしことあり　東雲の野をわれ過ぎて　はしなくも逢ひもしたりき。寂しげにひとり行けるを。／友ひとり。照子はもたず。はてしらぬ沼池に棲みぬ。人の世におひ立ち出でしなつかしのものゝ、極みや。＼（ワーズワース「ルーシー、グレー」）

ほかに、スコット、フレッチャー、ヒーマンス夫人、キャンベル、バイロンなどの詩収録

㊲

キイツの詩　田山花袋訳　（一〇月）東京　平山勝熊（隆文館）発行

16cm　例言2＋目次3＋キーツの小伝15＋144＋奥広8p〔50銭〕

R 11-90

＼美しイサベラ、悲しイサベラ、／ロオレンゾオ、若々し、恋の虜。／二人こそ胸打騒ぎ、悶なくて／対ひ居られね、ひとつ家にぞ。／互に打添ひ、嬉しと思ふも、敢て座らじ、同じ食卓。／さな

り、同じ屋根の下得も眠らじよ。／しかすがに互に夢、互に涙。＼（「恋の花壺」）

㊳

ロセッチの詩　小原無絃訳　（一〇月）東京　川岡東一（昌平堂川岡書店）発行　18cm　献辞1＋目次1＋ロセッチの小伝2＋110＋奥広4p　口絵（肖像）1葉〔30銭〕　R11－181

＼薔薇花とろけて、白銀燃ゆる／色なつかしき　天つ御空を／春あけぼのゝ　朝戸出はやう／暁の女神の　飛ぶを見たりや。／似たりな我妹、ちぎりし人の／わが雄姿を　うち見上げつゝ、／さと顔あからめ　眼匂へるよ。＼（「ちぎり」）

㊴

ふる郷集　入江花錦著　（一二月）東京　大月隆（文学同志会）発行　13cm　献辞1＋テニソン原詩1＋目次3＋ひとこと2＋139＋奥広8p〔20銭〕　R11－246

＼農夫アランはウイルヤム／ドラの二人と諸共に／賤が伏屋に棲いける／ウイルヤム、渠の養育児／ドラ女は渠の姪なりき。＼（テニソン「ドラ女」）

ほかに、キャンベル「アルリン公の嬢」、ミルトン「パラダイス、ロスト」抄録。

【明治39年】

㊵

西詩愛吟集　小原無絃訳　（一月）東京　福岡新三（福岡書店）・岡村庄兵衛（岡村書店）発行　15cm　序（与謝野寛）3＋目次4＋193p　口絵1葉〔25銭〕　R11－329

＼われ率て揚れ、／雲の彼方にわれ率て揚れ。／あはれ、雲雀よ、汝が歌つよし。／われ率て揚れ／雲の彼方にわれ率て揚れ。／歌ひ、歌へよ、／九天遠く鳴りぞ響かむ。／われ率て揚れ、／天上汝れがよしと思へる／聖き御国にわれを導け。＼（ワーズワース「雲雀に与ふ」）

ほかに、ロングフェロー、プロクター、コウルリッジ、シェリー、テニソンなどの詩収録。

㊶

虹のかげ　小原無絃訳　（二月）東京　山縣操（内外出版協会）発行　19cm　序1＋目次2＋50＋奥広2＋英文37＋英文目次1p　口絵2葉〔30銭〕対訳英米名家詩抄(3)　R11－437

〈胸より下は　麦に小隠れ／黄金(こがね)の光り　あびし姿は、／輝やく接吻(すゝり)　身に得て立てる／照る日の神の　恋女(こひめ)さながら。〉（フード「路得(るつ)」）

ほかに、キングスレー、コウルリッジ、バイロン、テニソン、バーンズなど。

R 12－1

⑫

花の詩　小原無絃訳　（三月）東京　吉田正太郎（本郷書院）発行　19cm　題詩1＋序1＋テニソン英詩1＋夕千鳥の君に2＋目次6＋134＋低唱41＋花語集15＋花問答11＋奥広11p　彩色口絵4葉〔50銭〕

〈ルーミンの花咲く谷を／行く水のさやぎ静かや。／露おもみ、白百合泣いて／ゆらぐかな、風のまに〳〵。〉（コウルリッジ「百合花」）

ほかに、ヒーマンス夫人、ゲーテ、シェリー、ロセッティ、ユゴー、グレー、バイロンなど。

R 12－126

⑬

海の詩　小原無絃訳　（四月）東京　富田能次（文陽堂）発行　13cm　序6＋目次4＋150＋奥広2p　彩色口絵2葉〔35銭〕

〈海の辺の王国にて　いと〳〵古き昔のこと／アンナベル、リーとし言はゞ　君等も知られん一人の少女住みたり。／この乙女恋ひ恋はるゝより　ほかの思ひとてはなく住みけり。／海の辺のこの王国にて　われも妹も童児なりき。〉（ポー「アンナベル、リー」）

ほかに、ハイネ、ロングフェロー、シェイクスピア、バイロン、ロセッティなど。

R 12－216

⑭

あやめ草　あやめ会（代表野口米次郎）著　（六月）東京　今津隆治（如山堂書店）発行　22cm　発刊の辞4＋目次2＋92＋奥広10＋英詩21＋英詩目次1p　口絵3葉〔60銭〕

日英米詩人の合同詩集。日本人は岩野泡鳴、蒲原有明、児玉花外、上田敏らが、英詩はシモンズ、ノグチ、ピーボデー、イェーツ、タッブらが寄稿。（あやめ会詩集第一）

⑮

対訳評注英詩の栞　浦口文治著　（九月）東京　大橋省吾（英学新詩社）発行

16cm　序(坪内雄蔵、岸本能武太)4＋序3＋目次4＋212p(肖像7枚含む)〔45銭〕　R12-291

〈日はかたむきて　リンデンの／村はしろたへ　雪きよし。／水勢はやき　イーザアの／冬の流の　影くらし。／光景一変　リンデンの／夜半の金鼓(キンコ)　ひゞきつゝ／よみの焔をよびおこし／あたりのやみを　破りけり。〉(キャンベル「ホーヘンリンデン」)

〈汝とのぼらん　雲わけて、／なが歌をゝし揚雲雀(アゲヒバリ)。／なれとのぼらん　雲わけて、／雲井の空もなが歌に／ひゞきてともに　歌ふなり。／我みちびきて　あがれかし／ながしたひゆく　其里(ソノサト)に〉(ワーズワース「雲雀に寄す」)

ほかに、ロングフェロー、テニソン、ブライアント、バーンズ、シェイクスピアなど収録。

㊻

西詩の薫　西村酔夢著　(一〇月)東京　篠崎純吉(参文舎)発行　R13-1

19cm　序1＋目次5＋285＋跋言1p〔50銭〕

〈わが髪は白し、されど年老いたる故にあらず、／また一夜の中に／白くなりたるにもあらず、／卒爾(そつじ)たる憂懼(ゆうく)の為めにしかくなりたる人のごと。／わが四肢は萎(しぼ)めり、されど苦役の為めにあらず、／たゞ忌むべき安息をもて害はれぬ。これ、わが四肢は牢屋(ひとや)の俘囚(とりこ)となりつればなり。〉(バイロン「シヨンの囚人」)

ほかに、バーンズ、コウルリッジ、シェリー、キーツ、ロングフェローなど収録

㊼

豊旗雲　あやめ会(代表野口米次郎)著　(一二月)東京　戸田直秀(左久良書房)発行　R13-152

22cm　目次2＋56＋奥付1＋英詩32p　口絵2葉〔42銭〕

日英米詩人の第二合同詩集。日本人は上田敏、高安月郊、岩野泡鳴、小山内薫、河井酔名、蒲原有明らが、英詩はノグチ、シモンズ、ハウスマン、プトナムらが寄稿。(あやめ会詩集第二)

【明治40年】

㊽ **ベニスの商人担保の肉**　シェイクスピア原作　富樫蟠神著　（七月）東京　松岡寅男磨（有明堂）発行　13cm　序（イーストレーキ）1＋自序4＋田口松圃氏に謝す2＋66p〔15銭〕　R13-207

〈猶太人なるシャイロック、ベニスの市に寄寓して　高利貸なる営業に、鉅万の富を作りけり。／貪慾飽くなき振舞は、衆人の怨恨の目標となり、中にも豪商アントニオ、荐りに彼が非を鳴らす。〉

㊾ **英詩評釈**　戸沢姑射著　（五月、再版八月）東京　服部喜太郎（求光閣書店）発行　22cm　序2＋106＋奥広6p〔20銭〕　R10-410

〈入相の鐘鳴り渡りて、牛群の唸りつゝ、徐ろに野面を迂廻り行くあり、農夫の疲れたる脚もて家路をさして辿り行くも、見えしが、やがて四辺は暗に包まれて残るものは予一人となれり〉（グレー'Elegy in a Country Churchyard'）

ほかに、テニソン、ロセッティ収録。

【明治41年】

㊿ **有明集**　蒲原有明著　（一月）東京　西本波太（易風社）発行　19cm　献辞1＋目次5＋223＋著書目録1p　著書肖像1葉〔75銭〕　R13-249

〈真昼時とぞなりにける、あるかなきかの／軟風もいぶき絶えぬる日盛や、／野のかたを見やればひとつ鐘のかげ、／うねりつづける生垣の囲ひの隙を／軒低き鄙の屋白くかつ照りつ、／壁を背に盲の漢子凭りかかり、／その面をば振りかへし日にぞあてたる。〉（ロセッティ「真昼」）

訳詩は、ロセッティとブレイクを収録。

(51) **英米百家詩選**　宮森麻太郎・小林安太郎訳注　（七月）東京　亀井忠一（三省堂書店）発行　19cm（左開）　緒言2＋目次8＋421p〔60銭〕　R14-1

〈樵夫よ、彼の古木を残し置け。／一枝にだも触るゝこと勿れ。／青年の時其の樹蔭は余を蔽ひき。／余は今之を保護せんと欲す。／祖先は手づから／茅屋に近く之を植え給へり。〉（モリス「樵夫よ彼の古木を残し置け」）

ほかに、ペイン、プロクター、シェリー、エマソン、ロセッティ、テニソン、バイロンなど。

【明治42年】

⑫ **英米詩歌集**　吉田幾次郎（英語界編輯局）編輯　（一月）東京　田中岩次郎（有楽社）発行　19cm（左開）　目次3＋序1＋100p　口絵1葉〔20銭〕英文英語叢書(11)　R 14－223

〈我と共に上れ、我と共に雲の上まで上れ、／雲雀よ。汝の歌は強大なるが故に、／我と共に上れ、／歌ひ歌ひ　歌ひつゝ／汝の近くに反響する雲と空気と共に、／我を挙げよ汝の意に適する／場所を見出すまで我を導け、〉（ワーズワース「雲雀に与ふ」）

ほかに、キャンベル、テニソン、バーンズ、ロングフェロー、フードなど収録

⑬ **注訳近世英文学**　高橋五郎編　（四月）東京　三浦理（有朋堂書店）発行　22cm（左開）　小引1＋目次2＋345p〔1円20銭〕　R 14－288

〈さらば、いざ、さらば。わが故郷（ふるさと）の岸辺ぞ／青波の上（へ）に　うすれ行け。／夜の風、幽（かす）けく呻めき、白波たけび、／鷗は叫ぶ。彼方、大海（おおうみ）の上（へ）に／沈む日の、その行く方に、われ等も急げ、／いで、大日（おほひ）にも、いまし、わが故郷にも、／少時（しばし）、別れん。いざ、寝ねよかし。／わが故郷。〉（バイロン「チャイルド、ハロイド告別の歌」馬場孤蝶訳）

〈昔、物憂き　夜中　なりき、／弱く　疲れて　物思ひ、／あまた　珍奇の　古書を開らき、／忘れし、学に　のぞむ　時――〉（ポー「大鴉」岩野泡鳴訳）

ほかに、ワーズワース、キーツ、ディケンズ、テニソン、トウェイン、キップリングなど。

【明治44年】

⑭ **将軍の恋**　ロングフェロー作　牧田勝訳　(六月)東京　宮辺富次郎(建文社)発行　R 13-371
18cm　序(島村抱月)4＋自序4＋目次2＋252＋略伝22＋注14＋奥広2ｐ　口絵2巻〔60銭〕
〈『ふる殖民』のころほひに／清教徒の国プリモスの／装飾(あや)なくいとゞかんさべる／館の室をあちこちと／脚胖うちはき襲着(かさねき)て／コルドバ皮の靴をふみ／清教徒の隊長の／スタンディシュは厳めしく／と行きかくゆき大股に。〉

⑮ **須因頓氏英文学詳解**　岡村愛蔵訳注　(一〇月、三版一二月)東京　鹿島長次郎(興文社)発行　R 15-294
19cm(左開)　緒言3＋目次5＋(上)534＋(下)547ｐ　肖像23葉〔1円50銭〕
〈可愛のAuburnよ。草原中の最も愛すべき村よ。健康と豊饒が辛労する所の農夫を慰め。破顔微笑の春は一番早く此地に来り。去らんとして未だ去らざる夏の炎暑は逡巡として此地に止まり。〉(ゴールドスミス'The Deserted Village')
ほかに、シェイクスピア、ミルトン、バーク、ワーズワース、コウルリッジ、アーヴィング、バイロン、シェリー、ブライアント、カーライル、ホーソン、ディケンズなど。

II　続・英米文学編

【明治8年】

⑯ **智氏家訓**　チェスターフィールド著　永峰秀樹訳　(二月)東京　種玉堂発兌　R16-132-81

三冊　木版和装23cm　(上)査斯徳費耳土公伝2＋目次2＋24丁、(中)46丁、(下)38丁

〈凡ソ人慎ンテ放心ナルベカラズ放心(ウッカリスルヒト)ハ世人ノ嫌フ処ニシテ自然友ヲ得ル少ナキモノナリ放心ニ二種アリ　一ハ事物ノ感動過甚ニシテ心意身ニ添ハサルモノ　一ハ甚ク怯懦(オクビョウ)ニシテ事ニ会シ手足ノ措ク所ヲ得サル若キモナリ〉

【明治12年】

⑰ 訳意 **天路歴程**　バニヤン著　佐藤喜峰編輯　(一一月)東京　十字屋発売　R16-122

木版和装23cm　題辞(小川義綏、中村敬宇)4＋緒言1＋序1＋173丁

〈我此世の曠野を行不計(ふとふと)一ツの穴あるところにいたり其処に偃臥(ふし)て睡りしかバ一ツの夢をみたり〉

〈此書ハ明治九年七一雑報第十五号ヨリ年ヲ追テ訳出セルヲ輯メテ編ヲナス〉(緒言)

【明治13年】

⑱ **春風情話**　スコット著　橘顕三(坪内逍遥)訳　(四月)東京　中島精一出版　R16-305

19cm　序5＋附言4＋目次2＋口絵4＋104p〔35銭〕

〈聞道(ききならく)、往昔(そのかみ)「蘇格蘭(スコットランド)」州の東、「魯志安(ロシアン)」の山陰なる要衝の地に、「烏林(レベンスウード)」と云ふ一箇の堅城あり、これが城主の名ハ、同じく「烏林」と呼て、遠き上つ世よりその系統綿々として断えず、家門富み栄えて、平彪武(ヘイヒューム)、素因遁(スサントン)、道暗(ダウグラス)、なんと呼ばるゝ当国の名高き豪族と、累世秦晋(しんしん)

の縁(よしみ)を結び、権勢肩を並ぶるものなく、世に知られたる門閥なり〉

【明治15年】

⑲ **良政府談** モア著　井上勤訳　(二月)東京　望月誠(恩誠堂)出版
19cm　164p〔60銭〕　R 16-370
〈英国顕理(ヘンリー)第八世ハ戦ヲ好マス其徳ヲ布ク厚ク大国ニ王タルベキノ君ナリ　平和ヲ以テ名アル加(カ)斯遅爾(スチル)地名ノ某公ト偶々邦家ノ大事ニ関シ争議ヲ生ス〉

【明治19年】

⑳ **王子羅西拉斯伝記** ジョンソン著　草野宜隆訳・出版(上)三月、(下)四月)東京　野口愛(奎文堂)発売
二冊　18cm　(上)110p、(下)116p〔各30銭〕　R 17-160
〈凡そ人として漫に虚望を抱き逸想自ら楽み芳年の志願ハ歳月に随ひて必ず成就し今日に求むる所は明日輒く満足すべしと期するものハ宜しく王子ラセラスの伝記を鑑むへし〉

㉑ **蘇国恢復忠孝美談** 篠野乙次郎著編　(九月)東京　早瀬清(正札屋)出版
19cm　緒言(南柯亭夢覚)・口絵・目次8＋155＋奥広3p〔30銭〕　R 17-121
〈抑も蘇格蘭の北部高陸(ハイランド)と云る国ハ北氷洋に近きを以て寒気最も厳酷して山脈連り東西凡そ百里に満ち嶮岨云ん方なしと　斯る土地とハ云つれど諸侯民情自然欧羅巴州の風俗に慣れ当時少しく進歩(すすみ)封建制度に赴きしと〉

㉒ **天路歴程** バニヤン著　W・J・ホワイト訳　(刊行月不詳)倫敦聖教書類会社発行
19cm　332p　挿画12葉　R 17-207
〈我れ現世の曠野(あれの)を辿り行き、只(と)ある洞穴の辺に憩ひぬる間に、眠気催ほしつ、打臥せし、仮寝

の夢に、一箇の人、身に襤褸（らんる）を纏ひ、手に一巻の書を携え、背に重荷を負ひ、己が家宅を背けて佇立（たゝずむ）を見る〉

(63) **再版天路歴程**　バニヤン著　W・J・ホワイト訳　（二二年四月序）倫敦聖教書類会社発行
19cm　英文序2＋再版序（ハッバート）4＋目次4＋337＋広告4p　肖像1＋挿画14葉　R18-1
聖書の詩句を頭注とし、章題・挿画を改める。本文は初版とわずかに異なる。

(64) **三版天路歴程**　バニヤン著　W・J・ホワイト訳　（二六年一二月）東京　基督教書類会社発行
19cm　英文序2＋序（ハッバート、高橋五郎）8＋目次4＋342＋広告33p　肖像1＋挿画14葉　R18-198
仮名遣いなどで、再版とは細部で異なる。

【明治20年】

(65) **経国亀鑑**　一名チャタム伯ウヰリヤムピット伝　マコーレー著　土岐僙補訳　永山近彰訂正（二月）東京　長尾景弼（博聞本社）出版
19cm　序（田口卯吉）4＋凡例2＋緒言3＋448＋跋（永山）2＋正誤表2p〔1円30銭〕　R19-1
〈之ヲ聞ク常ニ機械ヲ用ユル者ハ其身体機官ノ一部ヲ傷害セサル者ナシ　故ヲ以テ研師ハ肺労ニテ死シ織工ハ生理ノ発育ヲ捐シ鍛冶ハ黝暗ノ眼晴トナル如キ世多ク其人ヲ賭ル所ナリ〉

(66) **脚本ハ仏国世界ハ日本当世二人女壻**　シェイクスピア原作　ジュップレー仏訳　長田秋涛原訳　依田百川訳編
川尻宝岑校訂　（三月）東京　前田圓（鳳文館）発行
二冊　木版和装23cm　㈯序（鴛梁居士、末松謙澄、鴻斉居士）8＋凡例1＋41丁、㈦66丁　R19-238 305
〈〔百姓〕一寸物が御尋申たうございます。エアノ招魂社へハどう参テ宜ございましょう。〔巡査〕一町程往ツてチット曲て真直に往バ。直に招魂社の脇へ出るワイ〉

【明治21年】

⑰ 激浪濯血**金鉄腸**　サウジー著　城慶度訳　(三月)東京　内藤加我発行
19cm　自序4＋目録2＋(上)78＋(下)85p　肖像1葉　R 19-375
〈子ルソン名はホラチオ　西暦千七百五十八年九月廿九日を以て英国のノーフォク県のバーハム、トオプ村に生る　父は同村の支配人にて講談の家に住す〉

⑱ 英国水師提督公爵**子ルソン将軍**　サウジー著　城慶度訳　(四〇年九月十版)東京　鈴木種次郎(修文館)発行
19cm　自序4＋目録2＋(上)78＋(下)85p　R 20-1
⑰の改題本、内題・尾題・目録は「激浪濯血金鉄腸」。

⑲ 絶世奇談**魯敏孫漂流記**　デフォー著　井上勤訳　坂部訓正校訂　(五月)東京　長尾景弼(博聞本社)発行
20cm　序(依田百川)10＋382＋漂流記著者ノ伝28　挿画14葉　R 20-90
十六年十一月序刊〔第Ⅰ期㉒所収〕の訂正再版本。異版を示すと、野村銀次郎出版(二十六年十月内務省許可、二十九年二月再版、三十年七月五版)、岡村庄兵衛(岡村書店)出版(四十一年三月譲受出版、四十四年三月増刷出版)がある。内容は⑲と同じ。

⑳ **夏木立**　山田美妙著　(八月)東京　原亮三郎(金港堂)発行
19cm　まえがき2＋目録1＋134p　挿画3葉〔30銭〕　R 20-320
〈馬(ば)あじにあハ成程圧(あツ)ぴあすが鑑定したとほり美しい。唇の薄色ハ腮(あご)や鼻の下の白いので、愈(いよ〳〵)目に立ち、眼の中の潤沢(うるをい)ハ球の動くまゝます〳〵人を悩ませる。〉(シェイクスピア「籠の俘囚」)
ほかに翻訳は「骨ハ独逸肉ハ美妙花の茨、茨の花」あり。

⑦1
幽霊（ゆうれい）　シェイクスピア作　井上勤訳　（十一月、再版二三年一月）東京　久野木信善発行
19cm　序（浮浪人）4＋53p　口絵1葉〔50銭〕　R20-397
本文は『文明奇談幽霊との対話』（第Ⅰ期㉞所収）と同一。内務省納本・国会図書館蔵本『幽霊との対話』には墨書で「明治二十年十二月二日版権免許」とあり、初版発行が「二十一年十一月一六日」とあるが、他に初版所蔵の確認がない。再版を参考に収録する。

⑦2
昆太利物語（コンタリニー）　ビーコンズフィールド著　福地源一郎・塚原靖訳　（十一月、四版二十九年十月）東京　栗本長質（一二三館）発行
22cm　はしがき4＋前編目録2＋154＋後編目録2＋122＋奥広20p　口絵1葉〔25銭〕　R21-184
〈予は姓名を昆太利（コンタリニー）、布令民（フレミング）といふ　予が父は巴倫（男）の爵にて姓を布令民と呼る、予が家は原来撒遜（サクソン）の貴族中最も旧家の聞えある家柄なりしが予の父の代に至り仏国政府の意見に反対する事ありて数十年以前に故国を去り夫より諸国を巡歴して後北方の朝廷に仕へたり〉

【明治22年】

⑦3
注釈克来貌公小伝直訳　マコーレイ著　田原徹訳　（六月）東京　神戸甲子二郎（顔玉堂）発行
19cm　凡例1＋165p　R21-159
〈我等ハ亜墨利加ニ於テ西班牙ノ政治ノ史記ハ欧羅巴ノ凡テノ国民ニマテ左様親シク知ラレテアルノニ東洋ニ於テ我国自国人（英人ヲ指ス）ノ大事業ハ我等自身ノ中デスラ纔カノ興味ヲ起スコトノ其レヲ常ニ奇異ナリト考ヘタリ〉

⑦4
具来侮伝講義　マコーレイ著・安井二郎講述　（十二月）東京　加藤鎮吉（開新堂）発行
19cm　凡例1＋184＋奥広16p〔40銭〕　R21-247
〈吾輩ハ常ニ怪メリ　西班人ノ亜米利加ニ施行セル政治ノ事歴ハ欧州各人ノ膾炙シテアリナガラ

我ガ英人ガ東洋ニ於テ成シタル大事業ハ我英国人中デスラ左程注意ヲ促スモノナキコトヲ〉

⑮ 勤勉立志 **富蘭克林自叙伝** フランクリン著 望月興三郎訳 (十二月、二版二十四年十月)大阪 青木恒三郎(嵩山堂)発行 R 21-352

19cm 序(竹越与三郎)4+原序4+小引2+目次2+176p

〈卑賤の家に生れ、貧困なる生活の間に成長せしが、幸に天の祐助に頼て豊富を致し、名を世界に知られ、晩年に至る迄、能く景福を保つの身と成りたる、予の経歴を知らまほしく思ふ、子孫の為に自伝を叙さん〉

⑯ 勤勉立志 **富蘭克林自叙伝** フランクリン著 望月興三郎著 (三十年十二月)東京 青木恒三郎発行 R 22-1

23cm 序(竹越与三郎)3+原序3+小引1+目次2+135+奥広16p

⑮の第五版・改版。

【明治23年】

⑰ 直訳 **わーれん、へすちんぐす伝** マコーレイ著 藤井政景訳 吉見鋼太郎校 (二月)東京 戸田直秀発行 細川芳之助(細川書店)発行 R 22-88

19cm 緒言2+170p

〈吾人ハ若シモ此書史ヲ精密ニ検考スルコトノ替リニ吾人ガ「ヘスチングス」氏ノ行状及ビ性質ニ付テ吾人自身ノ見解ヲ必要ニ迅速而シテ不充分ナル方法ニ於テ吾人ガ与ヘル可ク企ルナラバ〉

⑱ **夜と朝** 第十冊 リットン著 益田克徳訳 若林玵蔵速記 (三月)東京 速記法研究会発行 R 22-180

19cm 455~499p 挿画2葉

第Ⅰ期⑲収録本の初版。分冊の第十冊目を参考に収録。

⑲ **小説叢竹** 餐庭篁村著 (十二月、四版二十四年一月)東京 和田篤太郎(春陽堂)発行

18cm　150＋131＋114＋142p　R22-210

〈世にハ誇るまじき事を誇る者あり　又傷むまじき事を傷む者あり　傍より見れバ笑ふに堪へたれど其身になりてハ夫も道楽の一つなるべし〉（ポー「目鏡」）

〈欲、人間になくて恊はぬ性情の一なれど有過てハとんだ厄介の物となるなり　爪に火を点す油町通りに佐平治といふ男あり　又兵衛といふ者と二人組合ひて一軒の店を出し励み合て稼ぐうち又兵衛ハ病死したり〉（ディケンズ「影法師」）

⑧0

世界百傑伝　第八編　北村三郎著　（十二月）東京　野口竹次郎編輯・発行（博文館）発行　19cm　序（大東義徹）2＋目次6＋356p　口絵（シェイクスピア）1葉　R23-1

〈伊太利パツアに豪家あり　バプチスタと云ふ　バプチスタの長女に、カセリン悍女と呼へるものありけり　此女は性来悍悪にして気随なるより、人皆な綽号して悍女々々と呼びたり、是を以て何人も敢て此婦人と結婚せんと欲するものなし〉（ラム「婚姻奇談」）

本書は英雄、政事家、小説家、詩人、兵家十二名の伝記を載せ、詩人の項にダンテ、シェイクスピアが収められている。「婚姻奇談」はラムよりの訳。

【明治24年】

⑧1

今世名家文鈔　（四月、四版二十七年四月）東京　垣田純朗（民友社）発行　19cm　例言2＋目録3＋229＋奥広15p〔20銭〕　R23-190

〈世の中の出来事の来りて我々の生涯の運命を左右するもの其数日に百千のみならず、然れども我々が之を認め得るは唯た其の表面に顕れ実際に結果を生ずる一半のみ　其来りて幾んど己の上に付着せんとして遂に付着せず其まゝに消えゆくの出来事は又た夥し〉（ホーソン「昼寝」森田思軒訳）

翻訳はほかに、E・アーノルドの詩「仏陀の教誨」「十字架の影」（高橋五郎訳）あり

㉒ **チャーレスディッケンス少年英国史** 前田伝五郎訳 （六月）東京 山田竹次郎（桜屋書籍店）発行 18cm 自序3＋目次1＋116p R23-319

〈若シモ汝ハ世界ノ地図ヲ見ルナラバ汝ハ東半球ノ一偶ノ上ノ左方ニ於テ海中ニ横ル処ノ二個ノ島ヲ見ルデアロウ、彼等ガ「英蘭土蘇蘭土」愛耳蘭土デ在ル。〉

㉓ **小説春廼家漫筆** 坪内逍遥著 （九月、再版十月）東京 和田篤太郎（春陽堂）発行 23cm 序2＋195p R24-1

〈我等文本（がんぽん）の門を叩きし上清童子の仙骨無ければ又スペクテートルの夢枕に立ちしシルリングの洒落あるにもあらず 本来の薄ぺら其身貴からざれば半生の経歴に花も実もあらむ筈なきを所望せらるればとて表だちての身の上話し嗚呼（おこ）の限（かぎり）〉（アディソン「一円紙幣の履歴ばなし」）

【明治26年】

㉔ **痘痕伝七郎（あばたでんしちろう）** 一名花の深山木 シェイクスピア原作 条野伝平訳 （二月）東京 大橋新太郎（博文館）発行 23cm 彩色口絵1葉＋序2＋172＋奥広6p 挿画1葉 R24-103

〈今を去る四十年の昔嘉永五子年の事かとよ 幕府旗下の士にて大目附より宗門改を兼勤為す田沢美作守と言るあり 和漢の学問に長じ営中にて字引美作と云れたる人なり〉（オセローの翻案）

㉕ **支那哲学者欧州巡遊通信** ゴールドスミス著 渋江保訳 （五月）東京 大橋新太郎（博文館）発行 二冊 16cm (上)例言2＋目次4＋198＋奥広12p、(下)目次2＋170＋伝記23＋奥広5p〔各20銭〕寸珍百種(28)(29) R24-200-312

〈発端 支那哲学者林氏の性行 本月十三日付、手形入の御状相達し、R氏D氏宛金四百七十八

磅十志の手形、并にS氏宛金二百八十五磅の手形共正に落手仕候。〉

⑧⑥ **第三国民小説** 垣田純朗編集・発行 (六月、三版二十七年五月)東京 民友社発行 R 25-1

19cm 目録1+300+奥広15p〔15銭〕

〈其の鼻のうへに一双の不可思議なる眼鏡を掛け其の耳のうしろに一管のペンを挿みて粛然とせる一個の人物首都の事務所の一隅に机に凭りて端座せり〉(ホーソン「用達会社」森田思軒訳)

〈けふきのふ巣立せし二羽の雛鳥が世帯を持ちたりとも、家政の術に不案内なること、我等に過たるはよもあるまじ。〉(ディケンズ「雛嫁」若松賤子訳)

目次—霜柱(餐庭篁村)、用達会社、吾亡妻(宮崎三昧)、明月(原抱一庵)、老人物語(山路愛山翻案)、巨人石(遅塚麗水)、村落小説(宮崎湖処子)、宿魂鏡(北村透谷)、夏の夜がたり(徳富蘆花翻案)、雛嫁、女丈夫(森鷗外)、謎の夢(福地桜痴)

⑧⑦ **文明の弊及其救治** カーペンター著 (七月)東京 垣田純朗(民友社)発行 R 25-163

15cm 序3+目次1+132+奥広17p〔12銭〕平民叢書(5)

〈吾人が現住する特異なる社会の状態、之を文明といふ。文明、名は即ち美也、されど是れ必ずしも総ての点に於て望ましき状態にあらず。〉

【明治27年】

⑧⑧ **理想的国家** モア著 萩原絹涯訳 (二月)東京 大橋新太郎(博文館)発行 R 25-244

19cm 凡例2+目次2+172+奥広8p〔12銭〕社会文庫(3)

〈飾るに所在徳操を以てして一大国君たるに愧ぢざる英王ヘンリー八世は、最も沈静なるカスチル皇チャールスに対し、鮮なからざる影響ある事件を有して憂慮する処ありしかば、そを商議せん為に之が使節として余をフランダーに派遣しぬ。〉

⑧⑨ ロビンソンクルーソー絶島漂流記　デフォー著　高橋雄峯訳　(上)(中)三月、(下)四月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　三冊　(上)口絵1＋例言2＋目次3＋180p、(中)目次3＋169p、(下)目次2＋140p〔各15銭〕　R25-340 437 528

第Ⅰ期(137)に三十年十月合本版を収録したが、本書はその初版分冊本。

【明治30年】

⑨⑩ 大探検(だいたんけん)　ハッガード著　菊地幽芳訳　(二月、三版三十二年六月)大阪　大淵渉(駸々堂)発行　21cm　緒言2＋244p(口絵欠)　R26-1

〈文筆に拙なき五十五才の余が自ら筆を取りて余の小歴史を書記さんとするは我ながら怪しとする処なり　余は少年の時より亜非利加植民地にて商業に従事せしが爾来余の経歴し来りしは商業と獣猟と戦争と鉱山業となり〉

⑨① 小説列国変局史　一名世界大戦史　森田思軒訳　(十一月)東京　和田篤太郎(春陽堂)発行　23cm　題辞(彰仁親王)1葉＋小引3＋総評(曽我祐準)5＋凡例2＋目次5＋470＋正誤5p　R26-127

〈昨夜遅くより、当地に一条の風説流布せり。曰くブルガリア国君フェルヂナンド公、国都ソフィアより南、約四十マイルのサマコフと呼べる一鉱山市府に於いて、兇徒のために狙撃せられたり〉本書の訳者は、肝付兼行とあるが、訂正再版に実際の訳者が思軒であることを明かしている。著者は「英国海軍少将ピィ、コロム氏。陸軍砲兵大佐ゼェ、エフ、モレリス氏。海軍大佐エフ、エヌ、モオド氏の三武官及びアルチバルド、フォルベス氏等の四文士が共議立案して、逐次倫敦のブラックエンドホワイト雑誌に登載」(凡例)したもの。

⑨② 小説列国変局志　森田思軒訳　(三十一年四月訂正再版)東京　和田篤太郎(春陽堂)発行　23cm　題辞1葉＋小引3＋総評5＋凡例2＋目次10＋470p〔70銭〕　R26-392

〈本書四十一章迄は、其文章に森田思軒氏を大に労せり。而して第四十二章以下は水上玄洋氏の佐訳の労に資れるもの多し。〉（凡例）
マイクロフィルム版には、表紙から本文第一ページ目までと奥付のみを収録。

【明治31年】

⑬ 人間社会（ヒューマンインターコース） ハマートン著　占部百太郎訳・発行　（十月）東京　開拓社発行　R 27-1
19cm　読者に告白す1＋目次1＋小伝4＋222＋正誤1p〔30銭〕
〈人間の交際は、之を種々の方法に依りて、論じ得べきが中に、其の社交を司どる、自然の法則を説明するに、科学的方法を以て、せんとする者のあるべし。〉

⑭ 英名家散文注釈　井上十吉著　（十月、再版十二月）東京　河出静一郎（成美堂書店）発行　R 44-1
22cm（左開）　86＋68＋74p
〈些少ニテモ文学ニ関係スル人々ハ文学ハ人ニ無限ノ恩恵ヲ与ヘ又印刷物ニ非常ノ功労ヲ有スト泛論シ且ツ文学ノ研究ヲ嗜ミ読書ヲ好ムハ価ヲ付クルコトヲ得サル賜トシテ賞讃スルコト今日ノ流行ナリ〉（ハリソン Choice of Books）
ほかに、スコット、ド・クィンシー、ミットフォード、ドイル、ロングフェローなどの注釈あり

【明治32年】

⑮ ふらんくりん自叙伝直訳注解　松尾豊文訳　㊤四月序、訂正十版四十四年三月、㊦三十三年十一月、六版四十二年九月）東京　金刺源次（芳流堂）発行　R 27-119-233
二冊　19cm　㊤自序に代えて2＋215p、㊦自序に代えて2＋286＋奥広64p〔25銭、30銭〕
〈私ハ私ノ先祖ノ如何ナル小キ逸話ヲモ得ル事ニ於テ常ニ愉快ヲ持ッタ〉
第Ⅰ期㉘は、国会図書館が下巻のみの所蔵だったため、ここに後刷だが上下揃えて再掲する。

⑯ **無人島大王**　ロビンソン漂流記　デフォー著　巌谷小波編　渡部審也画　（五月、再版三十三年三月）東京　大橋新太郎（博文館）発行
22cm　解題2＋84p〔7銭〕世界お伽噺(5)
〈今から三百年ほど前の事で、英吉利のヨークと云ふ処に、ロビンソン、クルーソーと云ふ人が在りました。〉
R 27-416

⑰ **美文散文清風明月**　高松茅村編　（八月、訂正再版九月）東京　岩崎鉄次郎（大学館）発行
19cm　序2＋目次4＋322＋奥広10p〔30銭〕名家文庫(2)
〈ゆかりの色の朝日影。寂しき空にぞ立ちのぼる〳〵。頃しも花のかんばせや紅深きアドニスは、千里の駒に鞭ちて、朝日の影をくる〳〵。狩こそ好める業なりけれ、恋は一生の禁物とかや。〉（シェイクスピア「夏草」島崎藤村訳）
R 28-61

⑱ **大人国**　ガリバア島廻下編　デフォー著　巌谷小波編　筒井年峰画　（十二月、六版三十八年七月）東京　大橋新太郎（博文館）発行
23cm　解題2＋64＋家庭と児童12＋奥広4p〔8銭〕世界お伽噺(12)
〈扨てカリヴアは、小人島から帰りまして、暫時は故郷に居りましたが、根が航海の好きな男、而も小人島の島廻りでは、不思議な事や珍しい事が、沢山御在ましたので、面白くて〳〵耐りません。〉
R 28-233

【明治33年】

⑲ **英文評釈**　浅野馮虚著　（六月）東京　佐藤儀助（新声社）発行
23cm　序2＋107p〔20銭〕
〈グラナダの市が里人（ムーア）の手を離れてより後、しばしが程は折々西班牙国王の皇后に宛てらるゝの
R 28-1

栄を担ひしが、断間なき地震の激げしくて之が為めには、多くの家は倒れ、ムーアの古塔も底より揺がされしかば、何れも色を失ひて草々に退き玉ひき〉(アーヴィング「古城の薔薇花」)
〈身老境に入りて青春の燃ゆるが如き感情を失ひ去りたるもの、さては徒らに巧言媚美、心に一点の誠なき淫楽の空気に染みたるものは、恋愛の物語に嘲笑の意をもらし、熱誠なる情話をば唯だ詩人小説家の空想に出でたりとなすもの比々皆然り〉(アーヴィング「断腸記」)

【明治34年】

(100)
荒磯　ドイル著　山縣五十雄訳　(十一月)東京　内田正義(言文社)・山縣操(内外出版協会)発行
19cm　はしがき2＋読者諸君へ2＋83＋奥広8＋33p　肖像1葉〔20銭〕英文学研究(2)　R 28-277
〈一千八百六十七年の三月四日、余は生年二十五歳なりし時、久しく心を悩まし思を苦めたる後、得たる所を我覚え帳に記して曰く〉

【明治35年】

(101)
恋しき妻　高野巽編輯　(二月、六版三月)東京　長井庄吉(上田屋書店)発行
20cm(左開)　序1＋目次1＋66＋注釈16＋広奥6p〔15銭〕英文愛読叢書(2)　R 44-121
〈大意　今より大凡そ二十年か或は今少し以前の事なりしが母を失ひたる一少女が平常読書を好み昼は以て職となし夜は読みし書よりして種々の空想を起し、か其の為め視力を害し眼をいためしより其の夏は読書を中止されて、少女が解し得る書物なき叔父の家に遣られ夏の永き日を送ること、なりぬ〉(H. W. Moody 'A Child's Letter to the Husband')

(102)
白衣婦人(びゃくいのふじん)　コリンズ著　菊地幽芳訳　(三月、同月再版)大阪　大淵浪(駸々堂)発行
22cm　彩色口絵1葉＋302p〔60銭〕　R 28-336
ほかに、レナルズ、ウェルズの注釈収録。

〈丁度七月の終りの日であつた、自分は倫敦の生活に手傷を負ふて、健康も害され、元気も剝がれ、お負に金といふものにさへ見離されたので、来る秋を半田村の母の許に逼塞して暮さうと決心したのである。〉

103 **クリスマス、カロル** ディケンズ著　浅野和三郎訳　(四月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行　19cm　緒言7＋目次1＋270p〔40銭〕　R 29-1

〈丸屋の死亡――これがそも〳〵この物語の発端である、事実極めて明確、之につきて、何等の疑を挿むべき余地がない、埋葬の登録にはお寺の坊様も、書記も、葬式係も、それから喪主も皆調印した、酢九郎次も調印した〉

104 **アリバヽと四十の盗賊** 河島敬蔵注釈　(五月)大阪　浜本伊三郎(明昇堂)発行　19cm(左開)　緒言2＋英文49＋注釈44p　口絵2葉〔20銭〕英文学叢書(1)　R 44-170

ほかに、ラムの「ハムレット」収録。

105 **英文の友第二巻三美人** 国木田独歩注釈　(六月、三版七月)東京　小川寅松(尚栄堂)発行　19cm(左開)　目次1＋梗概4＋英文93＋17p＋奥広4p　口絵1葉〔13銭〕　R 44-224

H. A. Rudall, E. H. Heren, J. S. Flecher の作品収録。

106 **人生之快楽** ラボック著　本田信教訳　(六月)東京　原亮一郎(金港堂)発行　19cm　序(水城学人、沢柳政太郎)12＋自序2＋例言2＋目録3＋418p〔60銭〕英文学叢書(2)　R 29-146

〈生命は大なる賜なり。吾人是非を判断することを得る年齢に達すれば、自ら問ふて言はん、吾人生存の主なる目的は何ぞやと。〉

107 **日本と朝鮮** カーペンター著　河島敬蔵注釈　(七月)大阪　浜本伊三郎(明昇堂)発行

⑩⑧
19cm（左開）　緒言2＋英文66＋注釈41＋奥広9p〔20銭〕英文学叢書(2)　R 44-288

処世要訓　ヘルプス著　本田増次郎訳　（七月）東京　大橋省吾（文武堂）発行
19cm　小引4＋緒言14＋目次2＋176＋付録47＋奥広8p〔30銭〕　R 30-1

＼実務的知慧の人心に於けるは、恰も引力の物質界に於けるが如く、事物を結合排置して各々その処を得しめ、各自相依り相持つてその職を尽さしむ。／
付録はベーコンの論文五編収録。

⑩⑨
フランクリン自叙伝講義　松島剛・星野久成講述　（九月）東京　長井庄吉（上田屋書店）発行
19cm（左開）　モーレイの緒言2＋184＋奥広4p　R 44-352

＼余は余が祖先の逸事を如何に小なりともそれを集むることを楽しみとなした。汝が英国に余と共に居りたる時余が親戚の遺書類の中に為したる調査と其目的にて為したる旅行とを記臆して居るだらう。／

⑪⓪
英文の友第六巻不思議のあばらや　ドイル著　高野巽編輯　（十一月）東京　小川寅松（尚栄堂）発行
19cm（左開）　英文47＋注解11＋28＋奥広9p〔20銭〕　R 44-450

＼此の八年間、友人ホームスと共に探偵方法を研究し従事したる七十有余種の事件に就いて、余が覚えの手帳を一見せば悲惨なる事件あり、滑稽なるあり、珍らしきあり、而かも一として平凡のもの非ず。／

⑪①
狼（おほかみ）太郎　キップリング著　中島孤島編　（十二月、三版三六年二月）東京　坂本嘉治馬（冨山房）発行
22cm　彩色口絵1葉＋序（逍遙）1＋目次1＋94p〔12銭〕少年世界文学(2)　R 30-129

＼むかし〳〵、或山奥に夫婦の狼が住んで居りました。正直な、良い狼でしたから、其のお山の

法度をよう守つて、仲間のものにもかはゆがられて居りました。〉

【明治36年】

⑫ 英文訳注 **奇々怪々** エドワーズ著　浅野和三郎訳　(一月)東京　田村奈良吉(東京堂)発行
19cm　緒言4＋114＋奥広8＋英文64p〔30銭〕　R 30-182
〈爰に説き出でんとする物語は、今を去ること、九年と十年との中間(あひだ)に起れる事であります。セバストポルの城はこの春早々落城、巴理(ばり)の平和はこの三月以来締結され、吾人の魯西亜帝国に於ける商業上の関係も、近来に至つて、漸く復活されたと申す時分の事です〉(「奇々怪々」)
ほかに、A・ルーイス「鞄の間違」収録。

⑬ **質素倹約の話** ゴールドスミス著　加藤眠柳訳　(一月)東京　山縣操(内外出版協会)発行
19cm　はしがき2＋目録5＋182＋奥広8p〔35銭〕家庭夜話(2)　R 30-286
〈世には生涯独身でありながら、頻りに人口の増減を説いてゐる人がある。また妻を娶つた正直な人で、黙つて一大家族を成してゐる者がある。〉

⑭ **社会観** カーライル著　西川光太郎訳注　(二月)東京　岩瀬寧津(東文館)発行
19cm　発刊の辞1＋緒言3＋目録2＋90＋奥広6＋英文44p　肖像1葉〔25銭〕英文学研究叢書(2)　R 30-390
〈英国の状態は、此世界に嘗て発現せし最も不祥なる現象の一なると同時に、最も奇怪なるもの、一と称せらる。〉

⑮ **聖人か盗賊か** リットン著　原抱一庵訳　(三月、(下)五月、三版七月)東京　滝川民治郎(今古堂書店)発行
二冊23cm　(上)献辞1＋挿絵1＋序40＋緒言6＋目次2＋208p、(下)献辞1＋本書後篇発祥の折に2

＋挿絵1＋序30＋緒言6＋目次2＋185＋跋4＋新聞雑誌の批評12ｐ〔40銭、45銭〕 R 31-1 136

〈渠！　渠は齢の頃三十六七歳にもや、軀は繊く姿は嫋かなり、然れども四肢恰好せり、光沢ある茶褐色の長き頭髪は肩を打ち背に垂れ、ヤヽ突出でたる高尚き前額は真白に滑かにして大理石にも似たり、而して渠が一躰の様子の深沈なる殆んど神秘に属するものあり〉

⑯ **仁慈博愛の話**　ストー著　志津野又郎訳　堺利彦編　（三月）東京　山縣操（内外出版協会）発行　19cm　はしがき2＋目録3＋199＋奥広8ｐ〔35銭〕家庭夜話(3)　R 31-265

〈アメリカ合衆国の南方諸州と北方諸州との丁度真中程にあるケンタッキー州のピイ町で、頃は二月の或寒き日の昼から、奇麗に飾られた或家の食堂で、二人の紳士が葡萄酒を飲みながら何やら熱心に相談して居る。〉

⑰ **英文短編小説傑作集**　古屋貞光編輯・発行　（五月）東京　英語青年社発行　16cm（左開）　目次1＋141＋奥広13ｐ〔25銭〕　R 45-1

ポー、ホーソン、スティヴンソン、ドイル、バリー、ハーディの作品注釈。

⑱ **英文訳注浮世之旅**　フルード著　戸沢姑射訳　（五月）東京　田村奈良吉（英学新報社）発行　19cm　緒言4＋86＋奥広12＋英文46ｐ〔25銭〕　R 31-376

〈往ぬる年、予は何処よりともなく、はた何処へともなく、汽車にて旅し廻りしことありき、予は二等室にありしが、列車は走ること既に久しく、尚ほ前途に若干の行程を控えける時、或夜の事なり、思はず列車は、或停車場の側軌上に入りて、我等が旅は中止せられぬ〉

フルード作「浮世之旅」「猫の哲学」収録。

⑲ **小説泰西奇文**　原抱一庵訳　（九月）東京　相見磐（知新館）発行　23cm　序（華巌学人、学海居士、涙香陳人、大久保逍遙、小梅饗庭、江戸川不知庵）6＋目次1

＋206＋奥広4p〔35銭〕

〈新聞通信員の身に取りて、秘密を雑へたる血腥さき事件を、筆に鬼気を含ませて、書き立つるほど愉しきことあるなし〉（トウェイン「該撒惨殺事件」）ほかに、トウェイン「紳士」「助言」、ストロング「造人術」、ドイル「無政府党と一夜」「稀有の裁判」「無音の瀑」、エッヂワース「愛禽」、モーパッサン「大頓挫」「女探偵」「再び女探偵」を収録。

R 32-1

⑫⓪

黒馬物語（くろうまものがたり） シュウェル著　本田増次郎訳注　（九月、三版三十九年十一月）東京　山縣操（内該出版協会）発行

19cm　彩色口絵1葉＋緒言5＋目次6＋352＋奥広2p　挿画4葉〔50銭〕

〈私がまだよく覚えて居る最初の場所は、水底までよく見えるほど、清潔（きれい）に澄み透つた池のある大きな奇麗な牧場でございます。〉

R 32-116

⑫①

英国学校生活　ヒューズ著　岡本九皐・村山具政訳・発行　（一〇月、㊦三十七年四月）東京　九皐社発行

二冊19cm　㊤序（タッカー）2＋緒言2＋凡例2＋目次1＋278＋奥広7p、㊦緒言（村山）4＋目次1＋191＋奥広7p　挿絵3葉〔㊦35銭〕

〈抑（そも）ブラウン家の一門が、サッカレーやドイル等の彩筆で、近頃世に顕れたのは、今や大学へ入らんとする青年諸君の能く記憶する処で、大分遅まきながら、既にそれ相当の声誉を博したが〉

R 32-307 458

⑫②

The Pickwick Papers　ディケンズ著　上條辰蔵注釈　（十月）東京　長井庄吉（太平洋館）発行

20cm（左開）　口絵1葉＋115＋緒言3＋注釈268＋奥広14p〔80銭〕

R 45-85

⑫③

金色王　ホーソン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　（十二月、十七版大正三年八月）東京　亀井忠

一（三省堂書店）発行
口絵1葉＋叢書序3＋緒言3＋122＋奥広19p　青年英文学叢書(1)　R 45-290
＜其昔、大層金持ちで、其上に王様の、味陀須と云ふ人があつた。して此王に一人の幼い娘があつたが、其娘のことを聞いたことのあるのは唯私ばかり＞

⑫④ **ヴィカー、オブ、ウェークフィールド詳解**　上巻　イーストレーキ・喜内芳樹著　（十二月、再版四十二年六月）東京　金刺源次（芳流堂）発行
19cm（左開）　例言三則1＋目次1＋187＋奥広31p　R 45-369
＜結婚をして多勢の小供をまふけ之を育て上げた正直の人は何時までも独身で居て口にのみ人口増加の必要を嘖々する人よりも国家に貢献する所大なりとの意見を私は常に抱いた＞

【明治37年】

⑫⑤ 軍事小説 **老将物語**　ドイル著　佐藤紅緑訳　（七月）東京　原亮一郎（金港堂書籍株式会社）発行
23cm　凡例1＋110＋奥広2p　彩色口絵1葉〔20銭〕　R 33-1
＜兎に角余は諸君に感謝する、君等が恁（こう）して此の敗残の老夫を親切にして呉れるので実に嬉しく思ふ。けれどもだ、君等が単に君等の前で卵餅（おむれつ）を肴にチビチビ飲つてる半白髭（ごましほひげ）の老朽（をいぼれ）軍人の昔話を御情で聞いてやるのだなぞと思ては了見違といふものだぜ＞

⑫⑥ 英和対訳 **希臘勇士譚**　巻一　キングスレー著　皆川正禧訳　（十一月、再版三十八年二月）東京　山縣操（内外出版協会）発行
22cm　献辞1＋キングスレー伝6＋原序11＋84＋注釈9＋奥広2p〔30銭〕　R 33-63
＜今はむかし、遠き〳〵希臘（ヘラス）てふ国のアルゴスと云へる美はしき山里にアクリシアス、プレタスと呼べる双子（ふたご）の王子おわしけり。＞

⑫⑦ **理想郷**　モリス著　堺枯川訳・発行　（十二月）東京　平民社発行　R 33-126
23cm　肖像1＋モリス小伝1＋38＋奥広2p〔5銭〕平民文庫五銭本
〈或夜、倫敦に於ける社会主義同盟の集会所で盛な論戦が始まつた。〉

⑫⑧ **理想郷**　モリス著　堺利彦訳　（大正九年四月）東京　北原鉄雄（アルス）発行　R 33-150
16cm　はしがき4＋目次4＋136＋奥広5p

⑫⑦と同一訳だが、第一章を省略し、本文中に検閲のための抹消文字あり。ほかに、ベラミーの「百年後の社会」〔第II期㊳〕所収。

【明治38年】

⑫⑧b **英文学研究**　山縣五十雄訳注　（六月）東京　山縣操（内外出版協会）発行
19cm　㈠はしがき2＋39＋㈡はしがき2＋読者諸君へ2＋43＋㈢はしがき2＋目次2＋52＋㈣はしがき2＋67＋㈤読者諸君へ2＋33＋㈥読者諸君へ2＋トウェーン論38＋11＋英文182＋サッカレーの小伝6＋注釈117p　サッカレー肖像1葉
収録内容――㈠サッカレー「白梅嬢」〔I㊴〕、㈡ドイル「荒磯」〔IV㉚〕、㈢「英米詩歌集」〔IV㉒〕、㈣ポー「宝ほり」〔II㉛〕、㈤ディケンズ「婿選び」〔II㊶〕、㈥トウェイン「該撤殺害」〔II㉝〕の合冊本

⑫⑨ **冒険小説百難旅行**　スティヴンソン著　渋江保訳　（七月）東京　岩崎鉄次郎（大学館）発行　R 33-231
15cm　小引2＋目次7＋280＋奥広8p〔20銭〕
〈予が、まだ十七歳の少年の時であつた、一昨年の暮には母に別れ、今又父を失つて、あはれ果敢なき孤独の身となり、此の上は独立独行前途の方向を立てなければならないといふ一段になつたが、幸ひボヘミア王国には聊か縁故もあつたゆゑ、同地へ移転て一と工夫することに決し〉

⑬⓪ **ハムレット**　沙翁全集㈠　戸沢姑射訳　（九月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行　22cm　全集序6＋評伝17＋序4＋解題10＋引3＋目次3＋296＋奥付1p　口絵3葉〔85銭〕　R 49-1

〈ベルナルド　誰ぢや／フランシスコ　其訊問は此方より、停れ、お名乗あれ／ベル「国王万歳」（定例の合言葉）／フラン　ベルナルド殿でムりましたか／ベル　いかにも／フラン　よう時を違へず御出下されました／ベル　今十二時の鐘を打ちしところ、イザ寝（やす）みやれフランシスコ〉

⑬① **ロメオ、エンド、ヂュリエット**　沙翁全集㈡　戸沢姑射訳　（十二月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行　22cm　序5＋「ロメオ、エンド、ヂュリエット」に就て34＋245＋奥付2　挿画2葉〔80銭〕　R 49-180

〈サムソン　コレ、グレゴリー、決して人の風下には立つまいな／グレゴリー　左様〳〵、それこそ端下者と笑はれう／サム　いや、さしたる事でなくとも、腹が立つたら用捨なく扱かうという事／グレ　いかにも劃棘枳殻（いばらからたち）へ首を突込んだら、一生懸命に抜くが宜いわさ〉

【明治39年】

⑬② **ヴェニスの商人**　沙翁全集㈢　浅野馮虚訳　（二月、訂正四版七月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行　22cm　序15＋三版序1＋「ヴェニスの商人」に就きて39＋240＋奥広4p　挿画3葉〔80銭〕　R 49-330

〈アントニオ　この日頃結ぼれがちのわが心、その理由は己も知らぬ。これには己も呆れはて、又卿達（おんみたち）も呆れるとや。さるにても怪しきはこの気鬱症〉

⑬③ **名家尺牘集**　英語青年社編輯　（三月）東京　三浦理（有朋堂書店）発行　15cm（左開）　130＋奥広14p〔10銭〕Ten Sen Library no. V　R 46-1

カーライル、ハクスレー、ラム、ドイル、キップリング、ラスキンなどの書翰文の訳注

〈拝啓　孰れの書物が最も生の文体に影響を及ぼしたるか　又孰れの書物が生の常に愛読する処なるやに就きて重ねて御質問に預り、その手束は過る七日間机筐の中に横はり居り、これを思へば愈その答案の困難なるを覚へ候。生が愛誦する所の書物は各自生の文章に影響し、過去五十年の間間断なく読み来りたる快心の書は一々これを想起するを得ざる所に候。然れど生の文体に於て長所と思はるゝ所は主としてバイロン及びスコットより習得したるものに候。〉（ラスキン）

⑬④

オセロ　沙翁全集㈣　戸沢姑射訳　（五月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行
22cm　序2＋オセロの悲劇解説45＋268＋奥広4p　挿画5葉　R 50-1
〈ロデリゴー　云はれな〳〵、某が財布の紐の締括を、貴殿の自由に任すも何故、知りつゝ、素知らぬ振は、御不親切と申すもの／イアゴー　決して〳〵左様ではないが、よも弁解を聞いては呉れまい、若し夢にだにこんな事を、此身共が知て居たなら、それこそ如何なる憎悪でも〉

⑬⑤

はゝ心　ストレットン著　ブレストン訳　（五月）東京　ブレスウェイト（基督教書類会社）発行
15cm　目次1＋111＋奥広2p　R 33-385
〈ルツ、メッドウエーの住家は半破壊か、つた小屋なので、古い〳〵草葺の屋根には一面に青苔や景天草が生て居ます。〉

⑬⑥

探偵奇談　ドイル著　英語青年社　（十一月）東京　三浦理（有朋堂書店）発行
15cm（左開）　英文164＋注釈34p〔20銭〕Ten Sen Library no. VII　R 46-77

⑬⑦

伝記物語　ホーソン著　吉田潔訳注　（十一月、増訂五版四十三年四月）東京　金刺源次（芳流堂）発行
19cm　序2＋増訂序2＋目次1＋124＋奥広6＋62p〔35銭〕　R 34-1

〈エドワード、テムプルは八九歳であッた頃眼病に罹ッた。余程の重症で、それに眼は生来弱かッたので、医者は少年が全く盲目になりはすまいかと多少恐怖を抱くに至ッた。〉

(138) **リア王**　沙翁全集(五)　戸沢姑射訳　(十一月、三版四十年二月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行
22cm　一言2＋リア王の悲劇解説48＋277＋奥広4p　挿画4葉〔85銭〕　R 50-170
〈ケント伯　国王殿下には、コーンウォール公よりも、アルバニイ公を、御寵愛あらせらるゝやうに、御見受申しましたが、／グロスター伯　いかにも従来(これまで)は、其様に見受け申しました。然るに此度、御領国御配分の御模様にては、何れの公爵を、取分(とりわき)御寵愛あるとも申されませぬ。〉

【明治40年】

(139) **銀行盗賊**　ドイル著　佐川春水訳　(四月、五版十月)東京　宮辺富次郎(建文館)発行
19cm　小序1＋小伝6＋53＋奥付1＋英文29＋注釈165＋世評6p〔50銭〕　R 34-106
〈去年の秋であつた。一日友人の本間樵麓を訪問(たづね)ると、生憎来客中。客は可なりの年輩、でつぷり肥つた赫顔の、髪は燃ゆるばかりに紅い。〉

(140) **から騒ぎ**　沙翁全集(六)　戸沢姑射訳　(四月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行
22cm　序3＋マッチ、アドー、アバウト、ナッシング解説35＋231＋奥広4p〔85銭〕　R 50-343
〈レオナト　此書面の趣では、アラゴンの太守ドン・ペドロー様には、今夜此メッシナへ御着(ごちやく)との事。／使者　最早追つ付(つけ)御着なされましよう。私へ御書面を下されたのが、遂此先三里足らずの処でムりました。〉

(141) **思軒全集**　巻一　森田思軒著　(五月、再版七月)東京　金尾種次郎(文淵堂)発行
22cm　肖像1葉＋思軒文の巻端に書す(森鷗外)4＋序(徳富蘇峰、幸田露伴)6＋例言1＋目次1

＋673＋奥広10ｐ〔1円70銭〕
収録内容――ユゴー「随見録」〔II⑨⑨〕「探偵ユーベル」〔II⑧⑤〕「クラウド」〔II⑨⓪〕「懐旧」〔II⑨②〕「死刑前の六時間」〔II⑨⑨〕、ヴェルヌ「大東号航海日記」〔II⑧⑧〕「大叛魁」、ツェッケ「破茶碗」、ホーソン「用達会社」〔Ⅳ⑧⑥〕、エッヂワース「千人会」〔I⑫③〕、ポー「間一髪」〔II②②〕。
本集成の既収録作品は〔　〕内に示した。未収録は仏独文学だが、左に引用す。
〈土着兵(セポイ)叛乱の巨魁の一人たる世子段徳範(ダントーバント)通称……孟買府の管内に入り込めるよし　若し之れを殺し或は生ながら差出す者は二千磅(一万円)の賞を与ふべし」是れ一千八百六十七年三月六日の夕アウランガバトの住民が読める所の告文なりき〉(ヴェルヌ「大叛魁」)
〈ナポールは実にカンニスの湾頭に在る一小村に過きず　然れどもナポールの名はプロウェンスの一州を通じて善く知られり〉(ツェッケ「破茶碗」)

R 34-246

⑭②
出世暦　フランクリン著　菅野徳助・奈良次郎訳注　(五月)　東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15㎝(左開)　肖像1葉＋叢書序3＋緒言2＋91＋奥広7ｐ〔15銭〕青年英文学叢書(7)
〈我敬愛する読者――我輩は、著述家の身に取つて己が著述の勿体らしく外の著述家先生達に引用されて居るほど悦ばしい事はないと聞いて居ります。〉

R 46-180

⑭③
クリートの迷宮　ボールドウィン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(六月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行
15㎝(左開)　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋目次1＋116＋奥広7ｐ〔15銭〕青年英文学叢書(9)
〈(さて由来は)クリート島の王マイノスが亜善士に戦さを仕掛けたのである〉(クリートの迷宮)
〈アルケーディアと云ふ、希臘の空麗かな処に、一人の王と妃とがあつて、其の間には子供が無かった。〉(アタランタ姫物語)

R 46-236

⑭④
英文 **哄笑十八番**　熊本謙二郎訳注　（七月）東京　三浦理（有朋堂書店）発行
19cm（左開）　口絵1葉＋序1＋目次2＋此書を読むとき1＋162＋奥広2p〔30銭〕　R 46-305
〈B氏の耕地は面積が三十六エイカあつて、一切の遣り方は厳正に学理に従ふのである。何に限らず物を作らうとするには必ず書物を調べてから取掛る。〉（トウェイン「素人百姓」）
ほかに、オーレル「大合戦」「イギリスかたぎ」、テイラー「令嬢独語」、ジェローム「目移り」、オールドリッチ「ゴライアス」、トウェイン「くわせもの」など十八編収録。

⑭⑤
シーザー　沙翁全集(七)　戸沢姑射訳　（八月）東京　宮川保全（大日本図書株式会社）発行
22cm　序5＋ジュリアス・シーザーの悲劇解説43＋242＋奥付2p〔90銭〕　R 51-1
〈フラビアス　往ね〳〵怠惰者共（なまけものども）、とつと、帰宅（かへ）れ、休日（ものび）でもあることか、職人の身で平日に、職々の道具も持たず出歩くは、御法度（はつと）と知らぬかヤイ、コリヤ其方は何職ぢや。〉

⑭⑥
新世界浦島物語　アーヴィング著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　（九月）東京　亀井忠一（三省堂書店）発行
15cm（左開）　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋141＋奥広9p〔15銭〕青年英文学叢書(12)　R 46-394
〈ハドソン河の流れを溯つたことのある人は必ずカーツキル山を覚えて居らう。此山はアッパラシヤン連山の支脈であつて河流の西に当つて見え、隆々聳え立つて高き峯を成し、其の辺り一帯の地方に君臨して居るのである。〉

【明治41年】

⑭⑦
表裏百面 **人生の真相**　ジェローム著　波多野烏峰訳　（一月、再版二月）東京　増田義一（実業之日本社）発行
19cm　はしがき2＋目次8＋327＋奥広20p〔40銭〕　R 35-1

〈赤地の之れに遊ばしては如何です。お年のお格好から申しても、ハイ之れが一番よくお似合ひでございませう』頸の骨と腰の骨とは、全く滅失しない迄も、既に骨としての存在は、到底認識することが出来無い迄、軟化した四十前後の番頭。〉

(148) 英和対訳近世名家小品　深沢由次郎訳注　英語青年社編　(二月)東京　三浦理(有朋堂書店)発行　19cm(左開)　目次1＋凡例1＋178＋奥広13p〔30銭〕　R 47-1

〈『先生、御婦人が見えました……御婦人が』。書生は医師を揺り起しつゝ囁けり。医師は今見し夢の夢なるを全く信じ得ず、最愛のローズが自ら訪ね来しものならむと思ひつゝ、矢庭に身を起し。『どんな婦人だ。どれ、何処に?』〉(ディケンズ「黒頭巾」)

ほかに、オレル「婦人漫言」、ラインハート「我欺他欺」、ダービー「タシュメイカー氏の歯抜機械」、ディケンズ「酔漢の最期」など収録。

(149) 御意のまゝ　沙翁全集(八)　浅野馮虚訳　(五月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行　22cm　序4＋『御意のまゝ』解説29＋264＋訳文拾遺8＋奥広4p〔90銭〕　R 51-152

〈オルランド　自分の記臆によれば確しか斯うぢやと思ふネ、アダム——亡父上は、その遺言の中に、私の分としてざッと千両許の正金しかお譲与りなされぬ。そして今卿の申した通り、精々大事に依むぞと、私の薫陶方一切を兄者人にお任せになられたのぢや。〉

(150) 問一髪　熊本謙二郎訳注　英語青年社編　(六月、再版6月)東京　三浦理(有朋堂書店)発行　19cm(左開)　序1＋目録1＋此書を読むとき1＋138＋注釈44＋奥広14p〔35銭〕　R 47-105

〈タレンタム公とは栄爵を授つたる後の名、昔から朋輩は矢張マクドナルドと元の名を呼んで居る。見れば将軍ブーブー立腹の体で、スコットランド人特有の顔を顰めた所は実に可怖ない。〉(ドイル「叙勲顚末」)

ほかに、ドイル「折衝秘聞」、オーピー「みなし子」を収録

(151) **驢馬物語**　上野露村訳　山縣五十雄校注　(九月)東京　内田正一(東西社)発行
19cm(左開)　緒言1＋90＋奥広2p〔20銭〕　R 47-211
〈人と云ふ哀れなものは、驢馬程もの知りと思はれないて、だから、この物語の読者たる君だつて、多分、火曜日毎に僕等の田舎町に市が開かれて、而して其処に、野菜だの、牛酪だの、玉子だの、乾酪だの、果物だの其の他色々のうまい物が売られてるつてことも御存じなしだらうよ。〉

(152) **行違ひ物語**　沙翁全集(九)　戸沢姑射訳　(十月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行
22cm　序4＋行違ひ物語解説27＋150＋奥広6〔75銭〕　R 51-311
〈エヂオン　此上は一命の御沙汰を蒙り、死んで此身の苦患(くげん)を免れたうござりまする／太守　アイヤ、サイラキュースの商人(あきうど)、其上の弁解(もうしひらき)は無用ぢやぞや、いかに申しても国法を曲ぐる事は相成らぬ、よう聞きやれ、〉

(153) **ベーコン論説集**　高橋五郎訳　(十一月)東京　鶴田久作(玄黄社)発行
19cm　肖像1葉＋評伝5＋告示6＋410p〔1円20銭〕　R 35-183
〈『真理とは何ぞや』と〔総督〕ピラトは諧謔を弄して〔基督に〕問へり、而して之が答えを持たずして下りぬ。〉(真理を論ず)

(154) **天路歴程**　バニヤン著　池亨吉訳　(十一月)東京　プレスウエート(基督教書類会社)発行
19cm　目次3＋天路歴程由来並緒言8＋374＋訳文自跋3p　彩色挿画5葉、(続)緒言1＋目次2＋281＋奥広2p　彩色挿画3葉　R 36-1
〈浮世の曠野を渡り行きて、唯或る洞穴の辺りに休らひ、暫し身を横たへて眠る程に、一(ひ)とつの

夢見てけり。〉

〈之れを翻訳するは、事頗る至難に属す。然りと雖ども国既に其の二つを得たり。一つは中村敬宇先生を後楯として佐藤喜峯氏の手に完うせられ、一は日本人某氏を助手としてホワイト氏の労に成れり。前者は我が初代の信徒を益したること益だ多かるべく、後者は現に六版を重ねて広く江湖に迎へらる。〉（訳文自跋）

【明治42年】

(155) クリスマス奇談 **旅の恥** トロロプ著　佐川春水訳注　（一月、四版四十四年三月）東京　大橋新太郎（博文館）発行

19cm（左開）　原著者小伝（UN生）1＋214＋奥広9p〔35銭〕世界英語叢書(2)　R 47-262

〈千八百七十某年のクリスマスの寒気と云へば、誰しも覚えているだらう。但し年代の点（ところ）は此位にして精くは明かさぬ事にしよう。〉

(156) **第二十世紀予想論**　ウェルズ著　吉村大次郎訳　（三月）東京　磯辺保次（大日本文明協会）発行

22cm　序（浮田和民）11＋目次2＋270＋奥付4p〔非売品〕　R 36-353

〈本書の目的は、現在社会の諸勢力が今後、如何様に変遷し発展すべきかということを、不完全ながら、聊か予想するにあり。〉

(157) 対照注釈 **ドイル探偵譚**　岡村愛蔵訳注　（四月）東京　亀井忠一（三省堂書店）発行

19cm　目録1＋ドイル6＋120＋奥付1＋注釈58＋英文73＋口絵1＋目次1p〔40銭〕　R 37-1

〈今日此頃、僕は余りホームズ君に面会するの機を得なかつた。僕は先頃妻を迎へ、一家を為したれば、自然ホームズ君との往来も疎遠となつた。〉（女優イレネー・アドラア）

ほかに、「ボスコーム、ヴァレーの惨劇」を収録。

(158) 鬼臭先生 **衣裳哲学** カーライル著 土井晩翠訳 (四月、三版五月)東京 宮川保全(大日本図書株式会社)発行

22cm 肖像1葉+例言4+目次4+438+正誤表1+奥広6p〔1円30銭〕 R 37-139

〈現代文化の進歩は誠に偉大である。多少の効化を奏して科学の松明振り翳されしこと巳に五千年を超し、特に今日煌々の光は恐らく前に比類なく、之に加ふるに無数の行燈無数の燐寸之より点火して四方に耀き、自然界人工界を併せて殆と照さぬ隈が無い〉

(159) 改訂 **英雄論** カーライル著 土井晩翠訳 (五月)東京 山本鐐蔵(岡崎屋書店)発行

19cm 肖像1葉+改訂新版ノ序1+例言3+目次1+374+略注9+小伝5+奥広6p〔50銭〕 R 38-1

〈偉人世上に出現の状は如何、其世界史上に於ける形跡は如何、世人彼に関して何を思ひしか、彼果して何の功績を挙げしか、——要するに英雄及英雄の遭遇と成業、即我所謂英雄崇拝及人界の偉績——如上の問題に関して、茲に少く講説する所あらんとす。〉

(160) **からたち花** 深沢由次郎訳注 (六月)東京 大橋新太郎(博文館)発行

19cm(左開) はしがき1+目録1+凡例1+186+奥広9p〔35銭〕世界英語叢書(4) R 47-379

〈その昔、怪奇なる夢、狂人の妄想の実際の人事に現はれしてふ頃の事なりき、両個の人の定めの時刻、定めの場所に相会せるありき。〉(ホーソン「神おろし」)

〈番頭は深く他の事に気を奪られて居る様子で一寸頭を揚げたが又俯向いて、彫刻でもして居るやうにねちらねちらと帳簿に記入をして居る。『お唯さんお前今夜は大変お急ぎじゃないか』五六分経ッて番頭は斯う云ッた計りである。〉(ディケンズ「倫敦の質屋」)

ほかに、トウェイン「失恋者に答ふ」「口寄せ」、ダラス「真夜中の家」、H・ジェイムス「三浦花子」、オレル「婦人観」「婚姻寸評」など十一編を収録

(161) らすきん氏読書論　小林一郎訳　(七月)東京　辻本卯蔵(弘道館)発行　R 38-206
22cm　肖像1葉＋序2＋151＋奥広2p〔50銭〕
〈最初に御詫を申上げなければならぬのは、今より御話することの題目が頗る曖昧なることである。固より一国を治める王様のことを御話する積りでも無し、又金銀財宝について述べる考へでも無い〉(王の宝庫)

(162) 米国作家短篇小説集　宮地竹峰訳補　(七月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行　R 38-290
19cm　目次1＋206＋奥広24p〔40銭〕
〈冒険小説にあらず、写実小説にあらず、世界各国を舞台とせる物語の中より面白きふしぐ〳〵を集めたるものは是れ也。牡丹、薔薇の媚はなくとも、野に咲く百合の自然の趣きはあるべし〉(はしがき)　十一編の小説収録、原作不祥。

(163) 新訳フェマス物語　ホールドウィン著　織戸正満訳注　(八月、四版四十三年九月)東京　鶴岡五郎(日進堂書店)発行　R 39-1
19cm　序4＋目次5＋219＋奥広6p〔35銭〕
〈昔英国に、アルフレッドと呼ばれたる聰明、善良なる国王があつた。凡そ今日までに、彼ほど多く彼の祖国の為に尽くした人とては無く、今日世界の人は、彼をば、アルフレッド大王と呼び倣してゐる。〉

(164) 緑玉冠　ドイル著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　(八月、四版四十四年十月)東京　亀井忠一(三省堂書店)発行　R 47-482
15cm(左開)　肖像1葉＋叢書序3＋183＋奥広20p〔15銭〕青年英文学叢書(17)
〈『オイ君』と、余は或朝宿の出窓の中に立つて、通りを見下ろして居る時に、云つた、『狂人(きちがい)が

此方へ遣つて来るぞ　近親の者が、唯独り出してよこすなどは可哀想だ。』〉

⑯5 **十二夜**　沙翁全集(十)　浅野馮虚訳　(十一月)東京　宮川保全(大日本図書株式会社)発行　22cm　序3＋十二夜解説28＋256＋奥広6p〔90銭〕　R 51-409

〈公爵　恋する身に音楽が糧ならば続いて奏べよ、腹ふくるゝ迄聴いて、聴き飽いて、この心臓の飢が癒るまで所望であるぞ。〉

⑯6 **正義之鐘**　横地良吉訳注　(十一月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　19cm(左開)　はしがき1＋目次2＋191＋奥広9p〔35銭〕英語世界叢書(5)　R 48-1

〈磨者のホワングハ生まれつき慾張りであつた、どんな人でもホワングよりも金の好きな者は無い、人々が一所に集つて金持ちの事でも話すと、ホワングはいつでも『俺はあの人を能く知つてますぜ、あの人たあ長いこと付き合つてたんで、極く懇意なんで』と云ふのが、お定りの文句であつた。〉(ゴールドスミス「大欲は無欲に似たり」)

ほかに、デフォー「ロビンソン、クルーソー」、アンデルセン「皇帝の新衣」など収録。

⑯7 **伏魔殿**　附玉手箱　鬼島熊之助訳注　(十二月)東京　大橋新太郎(博文館)発行　19cm(左開)　小序1＋小伝1＋200＋奥広9p〔35銭〕英語世界叢書(6)　R 48-107

〈多芸多能な人で知られたボヘミア国の太子フロリズルの君は(嘗て)英京倫敦に家居せられし間、愛嬌あるその挙動と思慮あるその慈心とに依つて上下貴賤の別なく皆人の欣慕する所となつた〉(スティヴンソン「伏魔殿(原名自殺倶楽部)」)

ほかに、ホーソンの「玉手箱」所収。

【明治43年】

⑯8 **続一幕物**　森鷗外訳　(一月)東京　西本波太(易風社)発行

22cm　406＋出典1＋奥付1p

〈大尉　サロメ女王の今夜美しく見える事はどうだ。／舎人　それよりあの月を御覧なさい。変に見えるではありませんか。塚穴(つかあな)の中から出て来た女子(をなご)のやうな。死んだ女子のやうな。何んだか死んだ者がゐはせぬかと見廻してゐるやうではありませんか。〉(ワイルド「サメロ」)

ほかに、メーテルリンク「奇蹟」、ストリンドベリ「債鬼」など六編収録。

R 39-123

⑯⑨

英文小品鈔　熊本謙二郎訳注　(六月)東京　三浦理(有朋堂書店)発行

19cm(左開)　序1＋目次1＋此書を読むとき1＋144p〔25銭〕

〈『おのれ残忍酷薄、頑迷不霊、編執固陋、沙婆塞げの生蕃め。』之れは僕が或日の午後、大伯父の雪痴翁を心の中で罵つた言葉である。僕は其鼻つ先へ握り拳を突き付け、突き付け、之れだけ罵罵して遣った、尤も復の中だけでの事である。〉(ポー「正月が三つあつたら」)

ほかに、ジェローム「北條の叔父貴」、トウェイン「更に又名誉を得たり」など七編収録。

R 48-217

⑰⓪

各国滑稽小説　第一編　佐々木邦訳　(三月)東京　山縣文夫(内外出版協会)発行

19cm　はしがき1＋目次1＋227＋奥広37p　トウェイン肖像1葉〔50銭〕

〈二十七の時、私はサンフランシスコの或る鉱業仲買人の手代で、株式取引の一切にかけては一廉(かど)の巧者であつた。私は真正の一人ぽつち、自分の才覚と信用の外には何一つ頼にするものもなかつたが、しかし此持つて生まれた資本の有難さで、私の足は先づ〳〵成功の要路に向いてゐたから、私は前途を楽しんで満足してゐた。〉(トウェイン「千万円」)

ほかに、ステプニヤク「銭」、アミチス「変物」など八編収録。

R 40-1

⑰①

【明治44年】

著聞五十譚　ボールドウィン著　吉田潔訳注　(四月)東京　金棘源次(芳流堂)発行

19cm　序2＋凡例2＋目次4＋224＋奥広6p　口絵1葉〔40銭〕　R 40-141

〈今より数年前のこと英吉利に賢くて良い王様があッた其名をアルフレッドと云ッた。此王様ほど本国の為に尽力した人は他にないので、世界中の人びとは、今に此王様をばアルフレッド大王と云うて居る。〉

⑫

漂流物語ロビンソン・クルーソー　デフォー著　高橋五郎・加藤教栄訳　（五月、再版九月）東京　富田熊次（文陽堂）発行

19cm　口絵1葉＋序（横井時敬）＋例言2＋ロビンソン・クルソオ（森林太郎）16＋目次9＋468＋奥広34p　挿図5葉（50銭）　R 40-265

〈余は千九百三十二年英国のヨーク町に生れた、父は素と独逸の者で、始めヒユルに移民して来たのであつたが、商売をやつて多少の資産を作り、後商を廃めてヨークへ移り其処で余の母と結婚したのであつた。〉

⑬

のらくら三人男　ジェローム著　浦瀬白雨訳　（五月、再版九月）東京　山縣操（内外出版協会）発行

19cm　序言2＋原著者に就いて2＋441＋奥広6p　口絵1葉　R 41-1

〈同勢四名――ジョージ、ウイリアム・サミュエル・ハリス、我輩、及びモントモレンシー。僕等は煙草を吹かしながら、近頃大変悪くなつたと云ふやうな話をして、室内に団居（まとゐ）して居た。〉

⑭

歴史物語　ボールドウィン著　菅野徳助・奈倉次郎訳注　（五月）東京　亀井忠一（三省堂書店）発行

15cm（左開）　口絵1葉＋叢書序3＋緒言2＋目次1＋127＋奥広19p〔15銭〕　青年英文学叢書⑳　R 48-296

〈多年の昔し、英克蘭にアルフレッドと呼ばれた賢明有徳の王が有つた。（して）此王程其の国の

為めに尽した人は外に無かつた、で、今日では世界中の人びと皆彼をアルフレッド大王と称へて居る。〉

(175) **森林生活**　ソロー著　水島耕一郎訳　(七月、九版大正二年九月)東京　河野源(成光堂書店)発行　19cm　序文(山縣五十雄)9＋序4＋凡例1＋目録2＋556＋奥広17p　口絵欠〔1円20銭〕　R 41-233

〈余は以下の頁、或は寧ろその大体を書いたころ、マサチューセッツ州、コンコードの、ワルデン池畔に、自ら家を造り、たゞ我双手を役して活計を立てつゝ、四方一哩の間には一軒の隣家もない森林中に、孤独の生活を送つてゐた。其間二年と二ケ月。而して今や余は文明社会の寄遇者である。〉

(176) **訳選スケッチブック**　アーヴィング著　中村徳助訳　(十一月)東京　魚住嘉三郎(魚住書店)・山崎暁三郎(国華堂書店)発行　19cm　はしがき1＋197p　口絵1葉　挿画3葉(35銭)　R 42-1

〈晩餐(ゆうげ)とゝのへ待つ人は。今宵(こよい)ぞまた〳〵冷(ひ)えきりて。身を横ふると吾は知る。昨夜(よべ)は吾こそ其人を。部屋に伴ひ行きにけむ。今宵はグレースティールが。其の寝所(ふしど)をぞしつらひき。〉(幽霊聟)

【明治45年】

(177) **リヤ王**　シェイクスピア著　坪内逍遥訳　(四月、再版五月)東京　荒川信賢(早稲田大学出版部)・坂本嘉治馬(冨山房)発行　19cm　彩色口絵1葉＋緒言14＋登場人物3＋274p〔1円35銭、再版1円50銭〕　R 43-1

〈ケント　王はコオンヲールどのよりもアルバニー公爵を一段御贔屓(ごひいき)かと存じてをつたに。／グロー　始終そのやうにも見えてをりましたが、王国御分配の今日となつては、何(どち)らを最も御尊重

やら分かりませぬ。〉

⑱ **売文集**　堺枯川編　（五月）東京　高島大圓（丙午出版社）発行　R 42-108
19cm　口絵1葉＋売文社の位置1葉＋序14＋目次10＋562＋奥広14p（1円）
〈一八八〇年代の八月の晴れたる日の午後、独逸萊茵河（ライン）の辺なる、レマーゲンの或旅館（ホテル）の庭に於ける戸外食卓（ガアデンレストラント）。〉（ショウ「喜劇／谷川の水」堺枯川訳）
ほかに、翻訳は「クレンクビュ」（フランス、大杉栄訳）、「告白」（ゴーリキー、荒畑寒村訳）収録。

⑲ **獄中記**　ワイルド著　本間久雄訳　（七月）東京　佐藤義亮（新潮社）発行　R 43-153
口絵1葉＋序4＋204＋奥広2p〔45銭〕
〈ことのおこりは一昨年の霜月の初めであつた。人生といふ大きな流れは、今の自分と、かやうに隔つた月日との間にも流れて居る。……苦難は一種の長い瞬間である。それは四季に依て分ち得るものでなく、吾等はたゞそのさま〴〵な心持ちを筆に止め、而もそれらもろ〳〵の心持ちの転廻を記録し得るのみである。〉

⑳ **恩寵溢るゝの記**　バニヤン著　松本雲舟訳　（七月）東京　福永文之助（警醒社書店）発行　R 43-264
22cm　肖像1葉＋口絵2葉＋緒言5＋目次2＋序7＋バンヤン伝40＋273＋奥広4p〔1円〕
〈わが霊魂（たましひ）になしたまへる神の仁恵（めぐみ）の働きを茲に語らんとするに当りて、先づ第一、私の家柄について一言申述べて、それから私の育てられた方法に及ぶも悪くはあるまい。〉

原著者及び原著索引

英米文学編

アーヴィング Washington Irving (1783-1859)
Sketch Book 英国に於ける田舎の生活 ⑱／古城の薔薇花 ⑨⑨／断腸記 ⑨⑨／選訳スケッチブック ⑰⑥／Westminster Abbey ⑤⑤
Rip Van Winkle 新世界浦島物語 ⑭⑥
バッサイックの瀧 ⑩
アディソン Joseph Addison (1672-1719)
ミルザーノ夢想／誇識／ヒルパーノ恋愛／霊魂不滅問答ニ向ヘルケートヲ ⑧
Dissection of a Bean's Head 伊達男の頭脳の解剖 ⑫㉓
Dissection of a Coquette's Heart 媚婦が心臓の解剖 ⑫㉓
Exercise of the Fan 扇子の使用法 ⑫㉓
Education ⑱
人の世のわづらひ／マアザの幻／妖精 ㉜
Sir Roger de Coverley (*Spectator*) ⑤⑤
一円紙幣の履歴ばなし ⑧③
アーノルド Sir Edwin Arnold (1832-1904)
A Discourse of Buddha 仏陀の教誨 ⑧①
The Shadow of the Cross 十字架の影 ⑧①
ウェルズ Herbert George Wells (1866-1946)
The War of the Worlds ⑩①
第二十世紀予想論 ⑮⑥
エッジワース Maria Edgeworth (1767-1849)
名曲「愛禽」 ⑪⑨
The Lottery in "Popular Tales" 千人会 ⑭①
エドワーズ Amelia B. Edwards
The Four-Fifteen Express 奇々怪々 ⑪②
エマソン Ralph Waldo Emerson (1803-82)
Compensation, 1942. 報償論 ⑫⑤③／因果応報論 ⑤⑤

Self-Reliance, 1941. 独立独行論 ⑬
Apology 弁解 ㊶／解嘲 ㊺
Mountain and Squirrel 山と栗鼠との争論 ㊶
The Problem ㊺
エリオット George Eliot (1819-80)
Battle Song 戦闘の歌 ㉝
Romola, 1863. ㊺
オシアン
セルマの歌／カリックスウラの詩 ㉜
オーピー Amelia Opie (1769-1853)
The Orphan Boy みなし子 ㊿
カーペンター Edward Carpenter (1844-1929)
Civilisation : lts Cause and Cure 文明の弊及其救治 ㊼
カーペンター Chapin Howard Carpenter (1835-87)
日本と朝鮮 ㊼
カモエンズ Luis de Camoens (ポルトガル、1524-80)
The Lusiad ルシアットの一段 ⑬／喜望峯の神霊 ⑬
Adamaster, the Spirit of the Cape 岬の神霊 ⑰
カーライル Thomas Carlyle (1795-1881)
On Heroes, Hero-Worship and the Heroic in History 英雄崇拝 ⑫／改訂 英雄論 ㊾
Sartor Resartus 衣裳哲学 ㊽
To-day 今日 ㉒
Three Lurid Pictures (in *French Revolution,* 1837.) 三大怪人物 ㊸／凄愴タル画幅 ㊺
Past and Present, 1943. 社会観 ⑭
キーツ John Keats (1795-1821)
キイツの詩〔「野菊の歌へる」ほか23編の訳詩〕 ㊲
On the Grasshopper and Cricket 促織と蟋蟀の歌 ㊻
A Chill Evening 寒き夕暮 ㊻
The Eve of St. Agnes アグネス菩薩の逮夜 ㊸
キップリング Rudyard Kipling (1865-1936)
Lispeth リスペス ㊸
The Jungle Books 狼太郎 ⑪
キャンベル Thomas Campbell (1777-1844)

Ye Mariners of England ㉕㉚／英国海軍の詩 ②④⑤／汝英国ノ水兵 ⑧／爾等英国の水兵 ㊵

Hohenlinden ホーヘンリンデン ⑧㉕㉖㉗㊺／ホーヘンリンデンの戦 ㉒／ホーヘンリンデン戦争の詩 ⑤⑥⑩⑪

The Pleasures of Hope 蠱惑ヲ供スルモノハ距離ナリ、衰ヘザル希望 ⑧／与蠱惑者是距離 ⑪

The Soldier's Dream 兵士の夢 ⑧⑩㉗㊷

To the Rainbow 虹に与ふ ⑬⑰⑳㊱

Lord Ullin's Daughter 羽林姫⑩／アルリン公の娘 ㉒／アルリン公の嬢 ㊴／ユーリン公の姫 ㊻

To the Evening Star 夕星に寄する歌 ㊻

A Thought Suggested by the New Year 新年の感懐 ㊷

キングスレー Charles Kingsley (1819-75)

Three Fishers 悲歌 ②④⑤／三人の漁夫 ⑩㉒④⑤①

ディーの砂道 ⑩

清やかに冷やかに ⑩

The Heroes or Greek Fairy Tales for my Children 希臘勇士譚 ㉖

クーパー William Cowper (1731-1800)

John Gilpin キリアム、クウパルの戯作歌 ⑫㉓

On the Receipt of my Mother Picture out of Norfolk 母の肖像を贈られし時 ⑩／亡き母の画像を得て ⑫㊺

冬朝の散歩 ⑩

クレア John Clare (1793-1864)

My Early Home 幼児の住家 ㉝

グレイ Thomas Gray (1716-71)

Elegy Written in a Country Churchyard, 1750 墳上感懐の詩 ②④⑤㊾／塋上感懐 ③／野寺の庭 ⑩／田舎の墓地にて詠める悲歌 ⑫㊺

Ode on the Spring ⑬⑰

The Progress of Poesy (in *Odes,* 1757.) ㊺

コリンズ Wilkie Collins (1824-89)

The Woman in White 白衣婦人 ㉒

クローリー George Croly (1780-1860)

Leonidas ㉚

ゴールドスミス Oliver Goldsmith (1728-74)

The Deserted Village, 1770. 荒村 ⑩／荒村行 ㉘㊺
The Vicar of Wakefield, 1766. ヴィカー、オヴ、ウェークフィールド ⑱㉔／質素倹約の話 ⑬
Whang, the Miller 大欲は無欲に似たり ㊻
Citizen of the World, Letters from a Chinese Philosopher 支那哲学者欧州巡遊通信 ㉟

コウルリッジ Samuel Taylor Coleridge (1772-1834)
家を離れて/敗蘭 ⑩
Love 恋 ⑩㊻㊺
歌 ㊵
Epitaph on an Infant 児の碑名二編 ㊶
The Rose 花薔薇 ㊶
Kubla Khan クブラ汗 ㊶
Morning Hymn to Mont Blanc モンブランの暁の讃歌 ㊻㊺
The Ancient Mariner 老水夫 ㊻
Passage from Christabel ㊺

サウジー Robert Southey (1774-1843)
帰家／宿屋の下女／蜂 ⑩
The Life of Nelson ネルソン伝 ⑬／激浪濯血金鉄腸 ㊼／英国水師提督ネルソン将軍 ㊽
In the Library 書斎の主 ㊶
正月元日 ㊷

サッカレー William Makepeace Thackeray (1811-63)
和音洞裡ノ大佐ニューカム／仁ト滑稽／善ノ外何物モ語ラルヘカラス ⑧
Rebecca Is in Presence of the Enemy レベッカ敵の面前に立つ ㊸
De Finibus (in *Roundabout Papers,* 1863) ㊺

シェイクスピア William Shakespeare (1564-1616)
Henry IV ヘンリー四世 ①②④⑤
Venus and Adonis 夏草 ㊼
Comedy of Errors 行違ひ物語 ㊷
The Rape of Lucrece 籠の俘囚 ⑩
Romeo and Juliet ロメオ、エンド、ジュリエット ⑬
Merchant of Venice 担保の肉 ㊽／法庭審問の場 ㊺／ヴェニスの商人 ㉜

Much Ado about Nothing から騒ぎ ⑭⓪
Julius Caesar ジュリヤス・シーザーの埋葬 ⑤⑤／ジュリヤス・シーザー ⑭⑤
As You Like It 御意のまゝ ⑭⑨
Twelfth Night 十二夜 ⑯⑤
Hamlet ハムレット ①②④⑤②③⑬⓪／丁抹ノ王子ハムレット ⑧⑩④／幽霊 ⑦①
Othello 痘痕伝七郎 ⑧④／オセロ ⑬④
King Lear 当世二人女婿 ⑥⑥／リヤ王 ⑬⑧⑰⑦
Macbeth マクベス ②③
Henry VIII ウルゼー ①④⑤
婚姻奇談 （ラム） ⑧⓪
人生七期 ①⓪
Winter ②⑤
Under the Greenwood Tree アーデンの歌 ④⑤

ジェイムズ Henry James (1843-1916)
Daisy Miller 三浦花子 ⑯⓪

シェリー Percy Bysshe Shelly (1792-1822)
To a Skylark, 1820. 告天子 ①⓪／雲雀に与ふ ②⓪／雲雀に呈する辞 ②⑥②⑦／雲雀の歌 ④⑥／雲雀の詩 ⑤⑤
The Cloud, 1820. ①⓪／雲を詠ず ②⓪
魑魅之歌 ③②
The Dawn しのゝめ ③③
Autumn——A Dirge 秋 ③③
Dirge for the Year 年に ③③
A Song 冬の眺め ③③
Threnos 哀哭の歌 ③④
An Ariette for Music 六絃琴に合して歌ふ手弱女に寄す ④⓪
Mutability 無常 ④①
Ode to the West Wind, 1819. 西風の頌 ④⑥
A Lament 悲しみ ④⑥
To Night 夜の神に寄す ④⑥
Defence of Poetry, 1840. ⑤⑤

ジェローム Jerome Klapka Jerome (1859-1927)
On Vanity and Vanities 虚栄心 ⑤③

On the Art of Making up One's Mind　目移り　㊹
Idle Thoughts of an Idle Fellow　人生の真相　㊼
Uncle Rodger　北条の叔父貴　㊾
Three Men in a Boat　のらくら三人男　㊿
シムズ　William Gilmore Simms (1806-70)
Heart Essential to Genius　誠衷は才智の要素　⑱
シュウェル　Anna Sewell (1820-78)
Black Beauty　黒馬物語　⑳
ショー　George Bernard Shaw (1856-1950)
Widowers' Houses　喜劇 谷川の水　㊽
ジョンソン　Samuel Johnson (1709-84)
The History of Rasselas, Prince of Abyssinia, 1759.　王子羅西拉斯伝記　㊵
Cowley and His Contemporaries (in *Lives of the English Poets,* 1779-81)　㊺
The Vanity of Human Wishes, 1749.　軍人的野心ノ虚栄　㊺
スウィフト　Jonathan Swift (1667-1745)
Travels into Several Remote Nations of the World by Lemuel Gulliver, 1726.　飛ぶ島 (Voyage to Laputa)　㊺／大人国　㊽
スコット　Sir Walter Scott (1771-1832)
The Lady of the Lake　湖辺の淑女　⑧／湖上美人　⑩／湖上之佳人　㉛
Lochinvar　若きロキンヴァ　⑧／ロヒンバール　㉒
ヘブリュー娘の歌　⑧
リチャード王、ニュービヤ人、及び刺客　⑧
眠れる兵士　⑩
The Lay of the Last Minstrel　ミンストレルの残光　⑬
手弱女のほこり　㊱
The Love of Country　愛国の情　㊺／愛国人　㊶
The Christian Knight and the Saracen Cavalier (in *Talisman.* 1825)　㊺
The Bride of Lammermoor　春風情話　㊽
スティヴンソン　Robert Louis Stevenson (1850-94)
舟のゆくへ　⑩
風　⑩

縁外縁 ㉜
How They Stopped the "Run" ⑰
A Little Joke ⑰
百難旅行 *Kidnapped* ㉙
伏魔殿 *Suicide Club* ⑯⑦
ストー Harriet Elizabeth Beecher Stowe (1811-96)
Uncle Tom's Cabin, 1852. ⑯
ストレットン Hesba Stretton (1832-1911)
No Place like Home はゝ心 ㉟
ソロー Henry David Thoreau (1817-1862)
Walden, or Life in the Woods, 1854. 森林生活 ⑰⑤
ダーウィン Erasmus Darwin (1731-1802)
The Power of Steam 機器を詠ず ⑬⑰
ターナー Charles Tennyson Turner (1808-79)
Letty's Globe れてぃーの地球儀 ㉝
ディケンズ Charles Dickens (1812-70)
青蔦 10
A Child's History of England, 1854. 少年英国史 ⑱㉜
A Christmas Carol, 1843. クリスマス・カロル ㊸㊺⑩③／影法師 ⑦⑨
David Copperfield, 1849-50. 雛嫁 ㊻
The Pickwick Papers, 1836-7. ㉒
The Black Veil 黒頭巾 ⑭⑧
The Drunkard's Death 酔漢の最期 ⑭⑧
The Pawnbroker's Shop 倫敦の質屋 ⑯⑩
ディズレイリー Benjamin Disraeli (Beaconsfield) (1804-81)
Contarini Fleming, 1832. 昆太利物語 ⑦②
チェスターフィールド Philip Dormer Stanhope Chesterfield (1694-1773)
Letters 智氏家訓 ㊺⑥
テニソン Alfred Tennyson (1809-92)
Charge of the Light Brigade, 1854. 軽騎隊進撃の詩②④⑤㉚㊶㊷
The Revenge, 1880. 船将の詩 ②㉚
Enoch Arden イノック、アーデン ⑧㉙㉟
子供と子鳥 ⑩

勇士の妻 ⑩
The Lady of Shalott, 1832. シャロットの妖姫 ⑫㉓
The Voyage 船たび ⑫㉒
Dora, 1842. ドラ女物語 ⑫㉓㊴
The Coming of Arthur アーサー王来れり ⑬⑮
The Passing of Arthur アーサル王去れり ⑬⑮
The Brook 小河 ㉒／小川 ㊺
無辺 ㉜
The Eagle 鷲 ㉝㊵
戦の場ゆ ㊵
チソーナス ㊵
The Minnie and Winnie 二人の姫御子 ㊶
West Wind 西風 ㊻
The Lord of Burleigh, 1842 ㊾
The Last Night of the Year 除夜 ㊷
Ode in the Death of the Duke of Wellington, 1852. ウェリント公を輓す ㊸
Ulysses, 1842. ㊺
Locksley Hall, 1842. ㊺

デフォー Daniel Defoe (? 1660-1731)
The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe, 1719. 絶世奇談魯敏孫漂流記 ㊾／ロビンソンクルーソー絶島漂流記 ㊾／無人島大王ロビンソン漂流記 ㊻／ロビンソン・クルーソー ⑯⑥／漂流物語ロビンソンクルーソー ⑰②

ドイル Sir Arthur Conan Doyle (1859-1930)
The Adventures of Sherlock Holmes, 1892. 不思議のあばらや ㊹ ⑪⓪／探偵奇談 ⑬⑥／ドイル探偵譚 ⑮⑦／緑玉冠 ⑯④
荒磯 ⑩⓪
The Third Generation (in *Round the Red Lamp*) ⑪⑦
無政府党と一夜／稀有の裁判／無音の瀑 ⑪⑨
The Exploits of Brigadier Gerald 老将物語 ⑫⑤
銀行盗賊 ⑬⑨
How the Brigadier Won his Medal 叙勲顛末 ⑮⓪
A Foreign Office Romace 折衝秘聞 ⑮⓪

ド・クインシー Thomas De Quincey (1785-1859)

On the Knocking at the Gate in Macbeth ㊺
A Dream Fugue ㊺
The Palimpsest of the Human Brain ㊹
トムソン James Thomson (1700-48)
Hymn on the Season 四季に与ふる頌 ⑬⑰⑳
The Traveller Lost in the Snow 雪路に迷へる旅人 ⑳
Rule Britannia ㉚
ドライデン John Dryden (1631-1700)
Alexander's Feast, 1697. アレクサンドルの盛宴 ⑫㉓㊺
ドライトン Michael Drayton (1563-1631)
The Battle of Agincourt ㉚
ドラマンド William Drummond (1585-1649)
To the Nightingale 鶯に与ふ ⑳
ドレアン Charles d'Orléans
Sur le Printemps 春の詩 ②④⑤
トレンチ Frederic Herbert Trench (1865-1923)
A Holy Thing 聖きもの ㉝
トロロプ Anthony Trollope (1815-82)
Christmas at Thompson Hall クリスマス奇談 旅の恥 ㊺
バイロン George Gordon Byron, 6th Baron (1788-1824)
独／羅馬の夜／希臘／アルプスの嵐 ⑩
Childe Harold, 1812 チャイルド・ハロルド江湖漂泛録 ⑬⑯／チャイルドハロルド巡遊記 ㊸
The Eve of Battle 戦争の前夜 ⑳
The Ocean 大洋 ㉒／大洋に寄す ㊶
The Eve of Waterloo ㉚
コリンスの園 ㉜
物言はず ㊱
I Saw Thee Weep いましが泣くを ㊶
The Prisoner of Chillon, 1916. シヨンの囚人 ㊻㊺
My Soul Is Dark わが魂暗し ㊻
Remembrance 紀念 ㊻
ハッガード Sir Henry Rider Haggard (1856-1925)
大探検 ㊿
パトモア Coventry Kersey Dighton Patmore (1823-96)

An Evening Scene　夕べの景色　㉝
ハーディ　Thomas Hardy　(1840-1928)
Incident in the Life of Mr. George Crookhill (in *Life's Little Ironies*, 1894)　⑰
バニヤン　John Bunyan (1628-88)
森の鳥　⑩
Pilgrim's Progress, 1687.　意訳天路歴程　㊼／天路歴程　㊺㊷㊸㊹㊾
Grace Abounding to the Chief of Sinners, 1666.　恩寵溢るゝの記　⑱⓪
ハマートン　Philip Gilbert Hamerton.
Human Intercourse　人間社会　㉝
ハリソン　Frederic Harrison (1831-1923)
Choice of Books　㉞
バーンズ　Robert Burns (1759-96)
The Mother's Dream　母の夢　⑩㉝
夢　⑩
For a' That, And a' That　⑫㊺／とにかくに　㊺
John Anderson, my Jo　いとしき人よ我夫よ　㉒
Bannockburn　バノックバーン　㉚㊺
To Mary in Heaven　天なるメリーに寄す　㊱
Chloris　クロリス　㊱
A Red, Red Rose　君はそれ　㊵／紅き紅薔薇　㊻
Farewell　さらばよ　㊶
The Cotter's Saturday Night　田舎家の土曜の夜　㊻㊺
Pleasure　快楽　㊻
Honest Poverty　正貧　㊷
To a Mountain Daisy　㊺
ビカースタッフ　Issac Bickerstaffe (c.1736-c.1812)
嗚呼希望　Hope　⑳
ヒーマンズ　Felicia Dorothea Hemans (1793-1835)
Casabianca　カサビアンカ　⑩／少年カサビアンカ　㉒㉗㉚㊶
海の宝　⑩
The Graves of a Household　一家の墓　㉒
貴女と小児　㊱
童の歎　㊱／知りそめし嘆　⑩

The Sunbeam　日光　㊶
ヒューズ　Thomas Hughes (1822-96)
Tom Brown's School Days, 1857.　英国学校生活　⑫①
フード　Thomas Hood (1799-1845)
今はの床／思ひぞ出づる　⑩
Ruth　路得　㊶
Domestic Asides ; or Truth in Parenthesis　交際上の蔭言　㊷
ブッシュネル　Horave Bushnell (1802-76)
The True Hero　真正の英傑　⑱
ブライアント　William Cullen Bryant (1794-1878)
彌生／黄菫花　⑩
To a Waterfowl, 1815.　水鳥　⑩／水鳥に寄す　⑫㉒㊺㊶
Thanatopsis, 1811.　死観　㉝㊺
The Planting of the Appletree　㊺
ブラウニング　Robert Browning (1812-89)
Mesmerism　以心伝心　⑬／催眠術　㊸
郷を懐ふ　⑳
Incident of the French Camp　㉗㉚／仏軍営の一椿事　⑳／仏陣中の奇事　㉒／仏軍陣営中の佳話　㊶
秋の教　㉜
ブラウニング夫人　Elizabeth Barrett Browning (1806-61)
死美人／白鳥の巣　⑩
ありし日　㊵
Change upon Change　転又変　㊶
To Mary Russell Mitford　メリー、ラツセル、ミットフォード女史に呈す　㊶
The Cry of the Children　児等の叫び　㊶
フランクリン　Benjamin Franklin (1706-1790)
Autobiography, 1818　フランクリン伝　⑬⑱㊺／勤勉立志富蘭克林自叙伝　㉕㉖／ふらんくりん自叙伝直訳注解　㉕／フランクリン自叙伝講義　⑩
Poor Richard's Almanac　出世暦　㊷
ブルース　Michael Bruce (1746-67)
杜鵑に寄す　Ode to the Cuckoo　㉒
フルード　James Anthony Froude (1818～94)

浮世之旅　A Siding at a Railway Station ⑱
猫の哲学　The Cat's Pilgrimage ⑱
ブルームフィールド　Robert Bloomfield
兵士帰郷の詩　Soldier's Home ②⑤
ブレイク　William Blake (1757-1827)
反響の野 ⑩
To the Evening Star　夕づゝに ㉝
Reeds of Innocence 無心の蘆 ㊶
蝿 ㊿
The Tiger　虎 51
プロクター　Adelaid Ann Procter (1825-64)
疑心 ⑨
死の王 ㊵
A Doubting Heart 51
プロクター　Bryan Waller Procter (1787-1874)
A Petition to Time　時に訴ふ 51
ベーコン　Francis Bacon (1561-1626)
Of Studies　学問につきて ⑫㉓／学問の解 ㊺
ベーコン論説集 ⑬
Of Friendship　友誼論 ㊺
ベザント　Sir Walter Besant (1836-1901)
No Other Way　一筋道 ㊸
ベラミー　Edward Bellamy (1850-98)
Looking Backward. 1888　百年後の社会 ⑫⑧
ヘリック　Robert Herrick (1591-1674)
失たる乳児 ⑩
To Blossoms　惜花 ⑳
To Daffodils　だっふぉでいる ㉝／水仙花に与ふ ㊱
朝露滋き桜草に与ふ ㊱
ヘルプス　Sir Arthur Helps (1813-75)
Essays Written in the Intervals of Business　処世要訓 ⑩⑧
ポー　Edgar Allan Poe (1809-49)
The Bells, 1849.　鈴声 ㉖㉗
エレオノラ ㉜
The Raven, 1845.　大鴉 ㊸

目鏡 ⑲
Three Sundays in a Week ⑰／正月が三つ有つたら ⑲
The Black Cat, 1845. ⑰
The Pit and the Pendulum, 1843. 間一髪 ⑭
ホーソン Nathaniel Hawthorne (1804-64)
David Swan (in *Twice-Told Tales*, 1837) ⑰／過ぎゆく禍福 ⑤③／昼寝 ⑧①
Scarlet Letter, 1850. ⑤⑤
The Intelligence Office 用達会社 ⑧⑥⑭①
The Golden Touch (in *A Wonder-Book*, 1852) 金色王 ⑫③
Biographical Stories, 1842. 伝記物語 ⑬⑦
The Hollow of the Three Hills 神おろし ⑯⑩
Paradise of Children 玉手箱 ⑯⑦
ホイッティア John Greenleaf Whittier (1807-92)
The Barefoot Boy (*in Panorama*, 1856) 徒歩せる子 ④⑥／跣足の童児 ⑤①
ホッグ James Hogg (1770-1835)
The Skylark 雲雀 ③③
ポープ Alexander Pope (1688-1744)
隠遁の歌 ⑨
わが望 ①⓪
The Essay on Criticism, 1711. 詩文批評論 ①③①⑦
Essay on Man, 1733-4. ⑤⑤
ボールドウィン James Baldwin
Labyrinth of Crete クリートの迷宮 ⑭③
The Story of Atalanta アタランタ姫物語 ⑭③
Fifty Famous Stories 新訳フェマス物語／著聞五十譚 ⑰①／歴史物語 ⑰④
マーク・トウェイン Mark Twain (1835-1910)
A Ghost Story 怪談 ⑤③
The Killing of Julius Caesar 該撒惨殺事件 ①①⑨
紳士／助言 ①①⑨
Rev. Henry Ward Beecher's Farm ビイチャー和尚の耕地 ①④④
A Deception くわせもの ①④④
Answer to the Discarded Lover 失恋者に答ふ ⑯⑩

Among the Spirits　口寄せ　⑯⓪
More Distinction　更に又名誉を得たり　⑯⑨
千万円　⑰⓪
マコーレイ　Thomas Babington Macaulay, 1st Baron Macaulay (1800-59)
Warren Hastings. 1841.　ワーレン、ヘスチングスノ弾劾　⑧⑪／直訳わーれん、へすちんぐす伝　⑦⑦
第十七世紀田舎神士／ホラシーアス／雅典ノ勢力　⑧⑪
Puritans (in *Milton ; an Essay*, 1825)　⑤⑤
経国亀鑑、一名チャタム伯ウヰリヤムピット伝　⑥⑤
Lord Clive. 1840.　注釈 克来貌公小伝直訳　⑦③／具来侮伝講義　⑦④
マッケイ　Charles Mackay (1814-89)
君と我と　⑨
夏の雨　⑩
ミルトン　John Milton (1608-74)
呪咀の焔　*Paradise Lost*. 1667.　③⑨
L'Allegro　快活の人　⑤⑤
Le Penseroso　沈鬱の人　⑤⑤
Areopagitica, 1644.　検閲を経ざる図書出版の自由に対する演説　⑤⑤
メレディス　George Meredith (1828-1909)
The Three Singers to Young Blood　三人の歌女　③④
モア　Sir Thomas More (1478-1535)
Utopia 良政府談　⑤⑨／理想的国家　⑧⑧
我花園／静けき夜半／夏の残花／晩鐘　②⓪
モリス　Sir Lewis Morris (1833-1907)
The Ode of Perfect Years　①⑨
モリス　William Morris (1834-96)
Woodman, Spare That Tree！　樵夫よ彼の古木を残し置け！　⑤①
News from Nowhere, 1891.　理想郷　⑫⑦⑫⑧
ヤング　Edward Young (1683-1765)
夜の想　*Night Thoughts*　①⑦
ラインハート　Mary Roberts Rinehart (1876-1958)
我歟他歟　His Other Self　⑭⑧
ラスキン　John Ruskin (1819-1900)
王の宝庫　Of King's Treasuries　⑯①

女王の園　Of Queen's Garden　⑯

ラボック　Sir John Lubbock　(1834-1913)

人生之快楽　*Pleasure of Life*, 1887-9.　⑯

ラム　Charles Lamb　(1775-1834)

楽しき心　⑩

The Old Familiar Faces (in *Blank Verse*, 1798)　昔馴染　⑤

Dissertation on Roast Pig (in *Essays of Elia*)　⑤

リットン　Edward George Earle Lytton Bulwer-Lytton　(1803-73)

Night and Morning, 1841.　夜と朝　⑦

Eugene Aram, 1832.　聖人か盗賊か　⑮

ロジャーズ　Rogers

To the Butterfly　蝶に与ふ　⑬⑰⑳

A Wish　望み　㉒

ロセッティ　Dante Gabriel Rossetti　(1828-82)

The White Ship　⑲

海のきわみ　㉜

妹が眠　㉜

The Summer Is Ended　ゆく夏　㉝

ロセッチの詩　㊳　(秋と裏　The Staff and Scrip／父の御園　My Father's Close／木の葉　The Leaf／いまわの別離　A Death-Parting／三つのかげ　Three Shadows／さらばよ　Adieu／美人　Beauty／続随子　The Woodspurge／ちぎり　Plighted Promise／閃光　Sudden Light)

Sister Helen　㊾／姉上ヘレン　㊳

真昼／聖燈　㊿

The Honeysuckle 金銀花　㊳／忍冬　⑤

ロングフェロー　Henry Wadsworth Longfellow　(1807-82)

A Psalm of Life (in *Voice of the Night*. 1839) 玉の緒の歌　②④⑤／人生の詩　②④⑤㉒／人生の讃歌　㊺／人生の詩　⑤

Children　児童の詩　②④⑤

The Song of Hiawatha, 1855.　ヒヤワサの山猟　⑨

たそがれ　⑩

The Village Blacksmith (in *Ballads and Other Poems*, 1842) 村の鍛治　⑩㉒㊺

The Bridge　橋　⑩㊺

わがよむ歌／明けすてし窓 ⑩
エンディミオン ⑭
The Ship of State 国の船 ⑱
The Moonlight 月光 ㊵
征矢と歌／二月の夕 ㊵
The Wreck of the Hesperus ヘスペラス号の難波 ㊶
The Light of Stars 星の光 ㊺
Excelsior エキセルショール ㊺
Daybreak あけぼの ㊻
Song of the Bell 鐘の歌 ㊶
The Old Clock on the Stairs 階段の上なる古時計 ㊷
Courtship of Miles Standish. 1858. 将軍の恋 ㊹
Kéramos 陶器 ㊺
The Notary of Périgueux ㊹
ワイルド Oscar Wilde (1854-1900)
Salomé. 1893. サロメ ㊽
De Profundis. 1905. 獄中記 ㊾
ワーズワース William Wordsworth (1770-1850)
To the Cuckoo 郭公 ⑩／蜀魂に与ふる詩 ⑬⑰⑳／杜鵑に寄す ㉒／郭公に与ふ ㊱／ほととぎす ㊺／郭公に与ふる歌 ㊻
To a Butterfly 蝶に ⑩／蝴蝶に与ふ ⑳
母待つ子／貧女の嘆き／子羊 ⑩
To a Skylark 雲雀に与ふ ⑳㊵㊷／雲雀に寄す ㊺
Lines Written in Early Spring 早春歌 ⑳㉕
The Primrose of the Rock 岩間に咲ける蓮馨草 ⑳
To Sleep 睡眠に与ふ ⑳㊵
We are Seven (in *Lyrical Ballads*) 我等七人 ㉒㉔㊺／我達は七人です ㊶／兄弟七人 ㊱
呼子鳥に ㉓
Ode. Intimations of Immortality from Recollections of Early Childhood ㉓㊺／霊魂の不滅を示す幼児の追憶 ㊸
My Heart Leaps ㉔／紅 ㊱／紅に寄す ㊺
To my Sister 妹に寄す ㉔㊱
Lucy Gray ルーシー・グレイ ㉔㉕㊱
Lines ㉔

Michael ㉔
泉／写真帖に題す／鳩の泉／四月の二朝／あわれ鶯／奇しきは恋の／緑の紅雀 ㊱
The Solitary Reaper 麦苅る少女 ㊱／麦苅処女 ㊻
あはれの少女 ㊵
三月兄弟川の川裾なる橋に凭りて ㊵
カレーの海のほとりに立ちて ㊵
「熟睡」はわが魂 ㊵
Written in March 湖辺春望 ㊺
Daffodils by Ullswater 湖畔の水仙花 ㊺
Stepping Westward 西行 ㊺
Duty 道義 ㊻
The Bucket 桔槔（ハネツルベ） ㊿
Aspirations of Youth 青年の志望 ㊿

その他

アミチス Edmondo de Amicis (1846-1908)
変物 ⑰⓪
アンデルセン Hans Christian Andersen (1805-75)
皇帝の新衣 ⑯⑥
ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe (1749-1832)
紅薔薇 ⑩
Hermann und Dorothea, 1797. ヘルマン、ドロテア奇縁の赤縄 ⑬
ゴーリキー Maksim Corki (1868-1936)
告白（コムフェッション） ⑰⑧
シラー Johann Christoph Friedrich von Schiller (1759-1805)
懐郷 ⑩
アルペン山の獵夫 ⑩
Das Lied von der Clocke 鐘の詩 ⑬
ストリンドベリ Johann August Strindberg (1849-1912)
債鬼 Saml Dram ⑯⑧
ダンテ Dante Alighieri (1265-1321)
Divine Comedy 神劇——地獄篇 ⑬
ハイネ Heinrich Heine (1797-1856)
海に珠あり ⑩

The Lorelei ㉕
フランス Anatole France (1844-1924)
小説クレンクビュ ⑱
ユゴー Victor Marie Hugo (1802-58)
The Flower and the Butterfly 花と蝶 ⑳
恋人に ⑩
メーテルリンク Maurice Maeterlinck (1862-1949)
Das Wunder des heiligen Antonius 奇蹟 ⑯⑧